
泉大津市
男女共同参画に関するアンケート
調査報告書

令和7年6月

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収方法	1
6	調査結果の表示方法	1
7	標本誤差	3
II	調査結果からみる考察と課題	4
1.	男女共同参画にかかわる意識の多様な側面	4
2.	性別役割分担の意識と実態	5
3.	女性と仕事について	6
4.	暴力(ドメスティック・バイオレンス)について	6
III	調査結果	8
1	回答者属性	8
2	男女平等について	21
3	家庭生活について	87
4	労働・社会参加について	115
5	暴力・ハラスメントについて	157
6	泉大津市の取組について	203

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第4次泉大津市男女共同参画推進計画」の策定にあたり、市の実情にあった計画の策定に資する基礎資料を得ることを目的として実施したものです。

2 調査対象

泉大津市在住の満18歳以上の市民から無作為抽出

3 調査期間

令和7年4月22日～令和7年5月10日

4 調査方法

郵送による配布、郵送またはWebによる回答

5 回収方法

配布数	有効回収数	有効回収率
2,000件	708件	35.4%

6 調査結果の表示方法

- ① 「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。
- ② 「MA」は「Multiple Answer（複数回答）」の略で、1つの質問に対して複数の選択肢を提示し、該当するものをすべて選んでもらう形式を指します。複数回答の場合、図中に MA（Multiple Answer=いくつでも）、3LA（3 Limited Answer=3つまで）と記載しています。
- ③ 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
- ④ 不明（無回答）はグラフから除いている場合があります。
- ⑤ 表内において、**上位1位**、**上位2位**には色付けをしています。また、全体と比べて10ポイント以上高い場合には△、10ポイント以上低い場合には▼の記号を付けています。
- ⑥ 母数が少ない場合、分析から除外する場合があります。
- ⑦ 回答が0.0%の項目については、グラフ上の数値表示を省略している場合があります。

本調査において比較対象としている「過去調査」「大阪府調査」「全国調査」の概要は以下の通りです。

■令和2年 泉大津市「男女共同参画に関するアンケート」

調査対象	泉大津市在住の満 20 歳以上の市民から無作為抽出
調査期間	令和 2 年 8 月 1 日～令和 2 年 8 月 14 日
調査方法	郵送による配布・回収
有効回収数（率）	456 件（30.4%）

■令和6年 大阪府「男女共同参画にかかる府民意識調査」

調査対象	大阪府内在住の満 18 歳以上の男女府民
調査期間	令和 6 年 8 月 7 日～8 月 30 日
調査方法	配布は郵送方式、回収は郵送方式及び WEB 方式（回答者による選択）
有効回収数（率）	986 件（32.9%）

■令和6年 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

調査対象	全国 18 歳以上の日本国籍を有する者
調査期間	令和 6 年 9 月 26 日～11 月 3 日
調査方法	郵送法（配布：郵送、回収：郵送又はインターネット回答）
有効回収数（率）	2,673 件（53.5%）

■令和5年 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査」

調査対象	全国 18 歳以上 59 歳以下（令和 5 年 11 月 30 日現在）の男女
調査期間	令和 5 年 11 月 30 日～12 月 24 日
調査方法	郵送留置訪問回収法（希望により郵送回収またはオンライン回答）
有効回収数（率）	2,950 件（59.0%）

7 標本誤差

本調査は標本調査のため、調査結果から母集団を推定することができます。

調査結果の信頼度 95%レベル（同一の調査を 100 回行なった場合 95 回まではこの結果になるであろうという推定）における信頼区間は以下のとおりです。

主な%について求めたのが下表です。

この表から、例えば問「あなたの職業」の質問で女性は「勤め人（正規社員・職員）」に約 20%の人が答えている場合、信頼区間の2分の1幅が 3.9%であるので 100 回調査すると 95 回までは 16.1%から 23.9%の間の答えが得られるということになります。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

ただし
 N = 母集団数
 n = 有効回答数
 P = 母集団の比率 (%)

		母集団数 (N)	有効 回答数 (p)	母集団の比率(P)				
				10% 90%	20% 80%	30% 70%	40% 60%	50%
全体		62,451	708	±2.2	±2.9	±3.4	±3.6	±3.7
性別	女性	33,092	397	±2.9	±3.9	±4.5	±4.8	±4.9
	男性	29,359	303	±3.4	±4.5	±5.1	±5.5	±5.6
性年齢	女性 20歳代以下	5,075	20	±13.1	±17.5	±20.0	±21.4	±21.9
	30歳代	3,795	34	±10.0	±13.4	±15.3	±16.4	±16.7
	40歳代	4,525	45	±8.7	±11.6	±13.3	±14.2	±14.5
	50歳代	6,334	71	±6.9	±9.3	±10.6	±11.3	±11.6
	60歳代	4,165	66	±7.2	±9.6	±11.0	±11.7	±12.0
	70歳以上	9,198	152	±4.7	±6.3	±7.2	±7.7	±7.9
	男性 20歳代以下	4,974	17	±14.2	±19.0	±21.7	±23.3	±23.7
	30歳代	3,834	19	±13.5	±17.9	±20.6	±22.0	±22.4
	40歳代	4,300	35	±9.9	±13.2	±15.1	±16.2	±16.5
	50歳代	6,044	51	±8.2	±10.9	±12.5	±13.4	±13.7
60歳代	3,998	55	±7.9	±10.5	±12.0	±12.9	±13.1	
70歳以上	6,209	120	±5.3	±7.1	±8.1	±8.7	±8.9	

Ⅱ 調査結果からみる考察と課題

1. 男女共同参画にかかわる意識の多様な側面

■ 社会におけるジェンダー不平等感と意識のギャップ

「学校教育では」の項目で「平等である」との回答が 72.7% (P.33) に達する一方、それ以外の分野では「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”と思う人が多数を占めています。特に「政治の場では」(“男性優遇” 80.9% (P.48))、「社会全体では」(“男性優遇” 75.6% (P.22))、「職場の賃金や待遇では」(“男性優遇” 69.9% (P.40))の項目で不平等感を抱いている人が多くなっています。

また、多くの項目で、女性の方が男性よりも“男性優遇”を強く感じています。「家庭生活では」の項目では、女性の 64.0%が“男性優遇”と感じているのに対し、男性は 30.7%にとどまり、33.3ポイントもの大きな意識のギャップが存在します。男性は「平等である」という認識が 50%を超えており、性別によって見え方や感じ方が大きく異なる現状が浮き彫りになっています (P.44)。

【過去調査との比較】

過去調査と比較すると、「法律や制度の上では」(P.23)、「自治会やPTA、祭りなどの地域活動では」(P.31)、「政治の場では」(P.50)、「社会全体では」(P.54)の項目で“男性優遇”と感じる割合が増加しています。ジェンダーにまつわる情報に触れる機会が増えたことにより、ジェンダー問題が可視化、意識化されており、構造的な問題への気づきが市民の間で広がっていることが考えられます。

【大阪府・全国調査との比較】

大阪府・全国調査と比較すると、「法律や制度の上では」(P.24)、「地域の慣習やしきたりでは」(P.28)、「政治の場では」(P.51)といった大きな枠組みに関する項目では、大阪府・全国調査よりも「平等である」と感じる割合が高くなっています。一方、「自治会やPTA、祭りなどの地域活動では」(P.32)、「職場の賃金や待遇では」(P.43)といった身近な項目では、大阪府・全国調査よりも“男性優遇”の割合が高く、日々の生活や職場でより不平等感を抱いている人が多いことがうかがえます。特に「自治会やPTA、祭りなどの地域活動では」の項目における“男性優遇”の割合は、大阪府調査に比べて 20.6ポイント高く、違いが際立っています。また、この不平等感は女性だけが強く感じているのではなく、男性も半数以上が“男性優遇”と感じており、その割合は大阪府調査に比べて 26.8ポイント高くなっています (P.33)。これは、地域活動における男性優遇の構造が、性別を問わず共通の認識となっていることを示しています。

■ ゆれるジェンダー平等意識

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方に対して、“反対”（「反対」「どちらかといえば反対」の合計）と回答した人が 67.2%（P.59）となっており、固定的な性別役割分担意識は薄れつつあります。しかし、その一方で「妻子を養うのは男性の責任である」という考え方には 58.1%が“賛成”（「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計）（P.66）と回答しており、経済的な責任は男性が負うべきという伝統的な価値観も根強く残っていることが示唆されます。

ジェンダー平等に関連する項目では、「希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」（“賛成” 60.5%（P.71））、「同性同士の結婚を認めてよい」（“賛成” 55.7%（P.80））と、新たな家族観やパートナーシップのあり方に対して肯定的な意見が過半数を占めています。ただし同性婚については、女性は“賛成”が 64.5%にのぼるのに対し、男性は 43.9%と約 20 ポイント差があり（P.80）、男女で意識の差が大きくなっています。また、夫婦別姓、同性婚に対する抵抗感が高齢層に強い傾向があり、年代によつての意識の違いもみられます。

【過去調査との比較】

過去調査と比較すると、「男性は仕事、女性は家庭」（P.61）、「女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活したほうがよい」（P.65）、「妻子を養うのは男性の責任である」（P.68）といった固定的な性別役割分担意識に対する“反対”の割合は増加しています。また、「希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」という項目への“賛成”は増加傾向にあり（P.72）、個人の生き方や家族のあり方が着実に多様化・柔軟化していることが考えられます。

【大阪府・全国調査との比較】

大阪府調査と比較すると、「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、男性で“賛成”と回答した割合が大阪府調査に比べて高くなっています（P.62）。女性の回答割合には大きな違いがみられない一方で、男性の意識に差があることがうかがえます。また、「希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」に対しての“賛成”の割合は男女ともに大阪府調査よりも低く（P.73）、府内の他地域と比較して、古くからの考え方や価値観を持つ人の割合が高い可能性が考えられます。

2. 性別役割分担の意識と実態

■ 意識と実態の大きな乖離

家庭における役割分担について、すべての項目で、理想としては「両方同じくらいするのがよい」と回答している人が最も多いものの、理想と現実のギャップがみられます。「生活費をかせぐ」以外のすべての項目で、現実には“女性がしている”（「主に女性がしている」「どちらかといえば女性がしている」の合計）の割合が「両方同じくらいしている」を超えており、家庭における役割が女性に偏っている現状がみられます（P.87～114）。家事・育児の負担が女性に偏っていることは、女性が職業を持つうえでの大きな課題となり、正社員としての就労を希望していてもパート等を選択する女性が多いことにつながっていると考えられます。

3. 女性と仕事について

■ 働き続けることへの障壁

現在雇用されて働く人のうち、「管理職への登用」については 37.4% (P.127) が、「昇進・昇格」については 28.8% (P.124) が「男性の方が優遇されている」と感じており、女性のキャリア形成において依然として見えない壁が存在することがうかがえます。一方で、「仕事の内容」に関しては、20 歳代以下の男性では 36.4% が、30 歳代の男性では 27.8% が「女性の方が優遇されている」と感じており (P.122)、若年男性に女性優遇感が強いことがうかがえます。「育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」についても「女性の方が優遇されている」が 27.3% (P.139) と女性優遇の認識が強く表れていますが、これは育児・介護が女性の役割と認識されていることの裏返しともとれます。

【過去調査との比較】

過去調査と比較すると、「募集・採用」(P.117)、「賃金」(P.120)、「研修の機会や内容」(P.135)、「働き続けやすい環境」(P.138) といった項目で「平等である」の割合が増加し、「男性の方が優遇されている」との認識は減少しています。

また、仕事を辞めずに働き続けるために必要なこととして、男女ともに「妊娠・出産・子育て・介護に理解のある職場環境」が最も多く、次いで女性では「配偶者などの家族の理解や家事、育児などへの参加」、男性では「保育所・学童保育などの子育てサービスの充実」が多くなっています (P.145)。職場環境の整備に加えて、女性は家庭内での協力体制の構築を重視し、男性は子どもを預けられるサービスの充実を重視している傾向がみられます。

4. 暴力 (ドメスティック・バイオレンス) について

■ 暴力に対する認識の違い

「なにを言っても無視し続ける」(P.174)、「友達や身内とのメールや電話のチェックや、付き合いを制限する」(P.183) といった項目について、20 歳代以下で「暴力にあたらない」とする割合が 1 割を超えています。また、「本人の許可なく性的な写真や動画を SNS などに投稿する」について、男性 20 歳代以下で「暴力にあたらない」とする割合が 1 割を超えており (P.186)、若年層においてこれらの行為を容認する傾向がみられます。

【大阪府・全国調査との比較】

大阪府・全国調査と比較すると、「どんな場合でも暴力 (DV) にあたる」と回答した割合が全体的に低い傾向にあります。この傾向は、特に女性でより顕著にみられます (P.162~188)。女性が保守的な価値観を内面化していることにより、パートナーからの支配や精神的な圧力を暴力 (DV) と判断することへの心理的なハードルが高くなっている可能性が考えられます。

また、特に「殴るふりをして、おどす」(P.166)、「なにを言っても無視し続ける (全国調査の項目は『何を言っても長時間無視し続ける』)」(P.175)、「自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する (全国調査の項目は『家計に必要な生活費を渡さない』)」(P.181)、「友達や身内とのメールや電話のチェックや、つきあいを制限する (全国調査の項目は『交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する』『家族や友人との関わりを持たせない』)」(P.184) などの精神的・経済的な暴力にあたる行為で、その傾向が顕著です。地域によって暴力に対する認識の違いがあることがうかがえ、身体的なものに限らない多様な暴力の形態についての理解や啓発を推

進することが重要と考えられます。

■ 深刻な被害実態と相談への壁

配偶者や恋人から暴力を受けた経験がある人（「何度もあった」「1、2度あった」の合計）は27.1%にのぼり、特に女性では32.5%と、3人に1人が被害経験を持っているという実態が示唆されました（P.188）。

さらに、被害経験者のうち66.1%が「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答しており（P.190）、多くの被害者が相談に至っていない実態が明らかになりました。特に男性の被害経験者は82.3%が誰にも相談しておらず（P.191）、男性が相談しにくい社会的な風潮や、相談窓口が主に女性を対象としているというイメージが背景にある可能性も考えられます。

ドメスティック・バイオレンス（DV）や性暴力に関する相談窓口として「警察」の認知度は70.5%と比較的高いものの、その他の専門機関の認知度は5割を下回っており（P.196）、相談したくても相談できない人が生じないように、誰もが安心して相談できる体制の構築と、多様な相談窓口の周知徹底が一層求められます。

ドメスティック・バイオレンス（DV）防止法の“認知度”（「内容も知っている」「言葉を見聞きしたことがある」の合計）は過去調査から引き続き8割を超えていますが、その内訳として「内容も知っている」と回答した人の割合は大きく減少し、「言葉を見聞きしたことがある」という回答が増加しています（P.194）。これは、DVという言葉自体は社会に広く浸透しているものの、DV防止法が持つ具体的な効力や保護の内容についての理解が追いついていないことを示唆していると考えられます。相談体制の構築・周知に加えて、DV被害者がどのような法的保護を受けられるのかといった具体的な支援内容を伝えていくことも重要です。

Ⅲ 調査結果

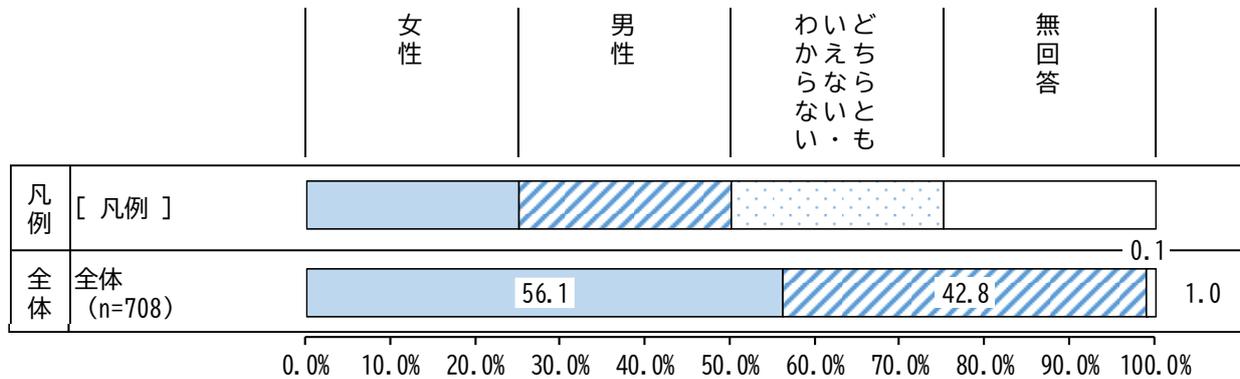
1 回答者属性

F1 あなたの性別は（ご自分で認識している性別をお書きください）

【全体】

- 性別について、「女性」が56.1%で最も多く、次いで「男性」が42.8%、「どちらともいえない・わからない」が0.1%となっています。

【性別】



F2 あなたの年齢は

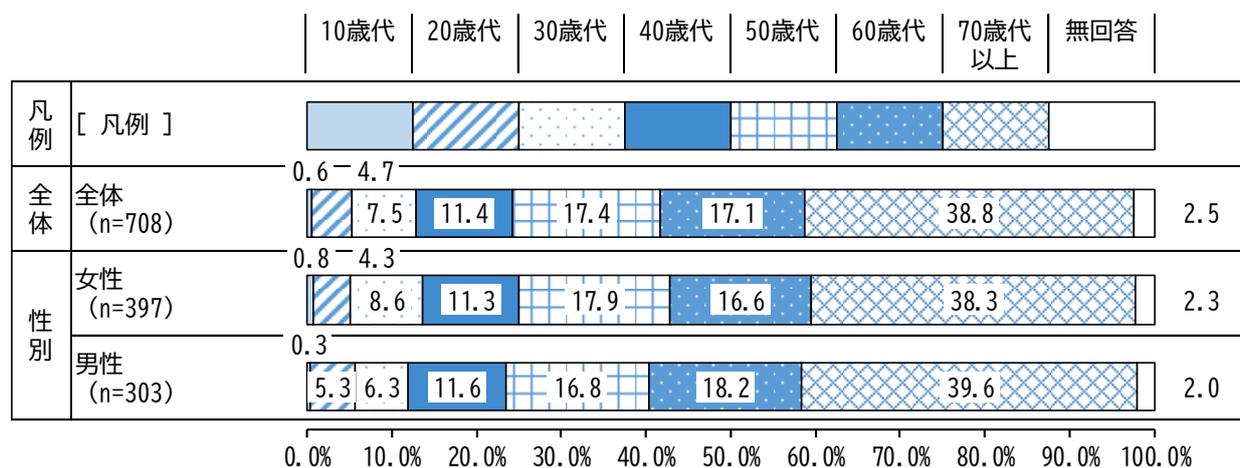
【全体】

- 年齢について、「70歳代以上」が38.8%で最も多く、次いで「50歳代」が17.4%、「60歳代」が17.1%となっています。

【性別】

- 男女とも「70歳代以上」が最も多く、次いで、女性は「50歳代」、男性は「60歳代」が多くなっています。

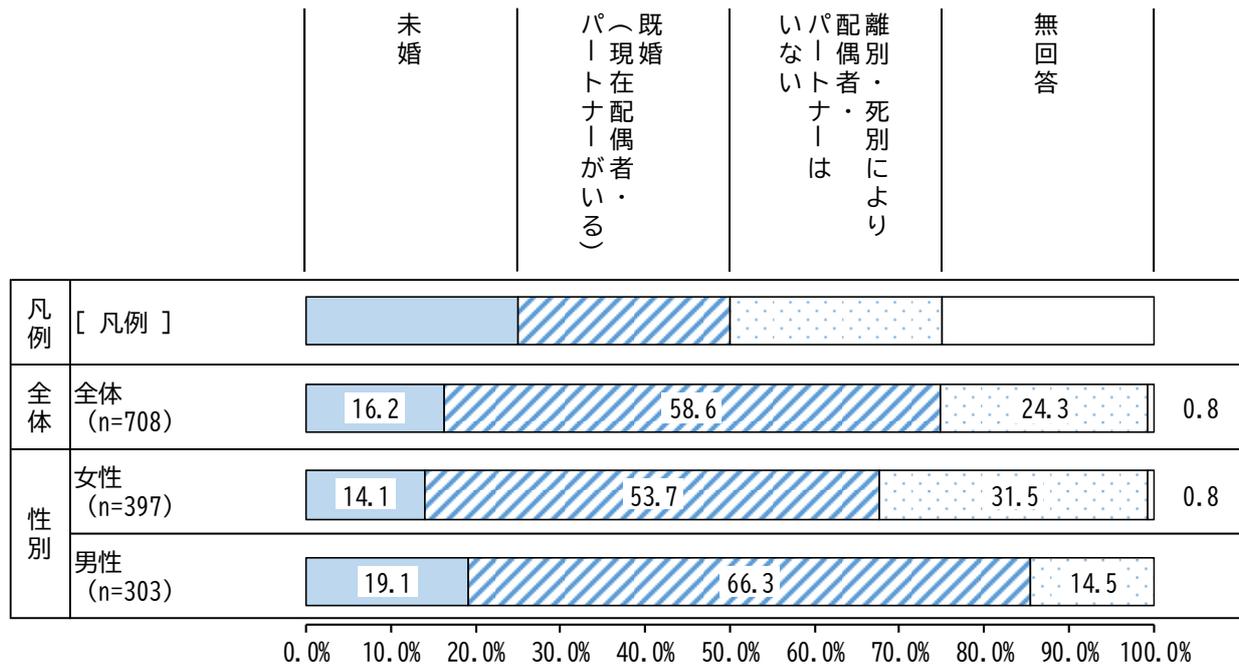
【年齢】

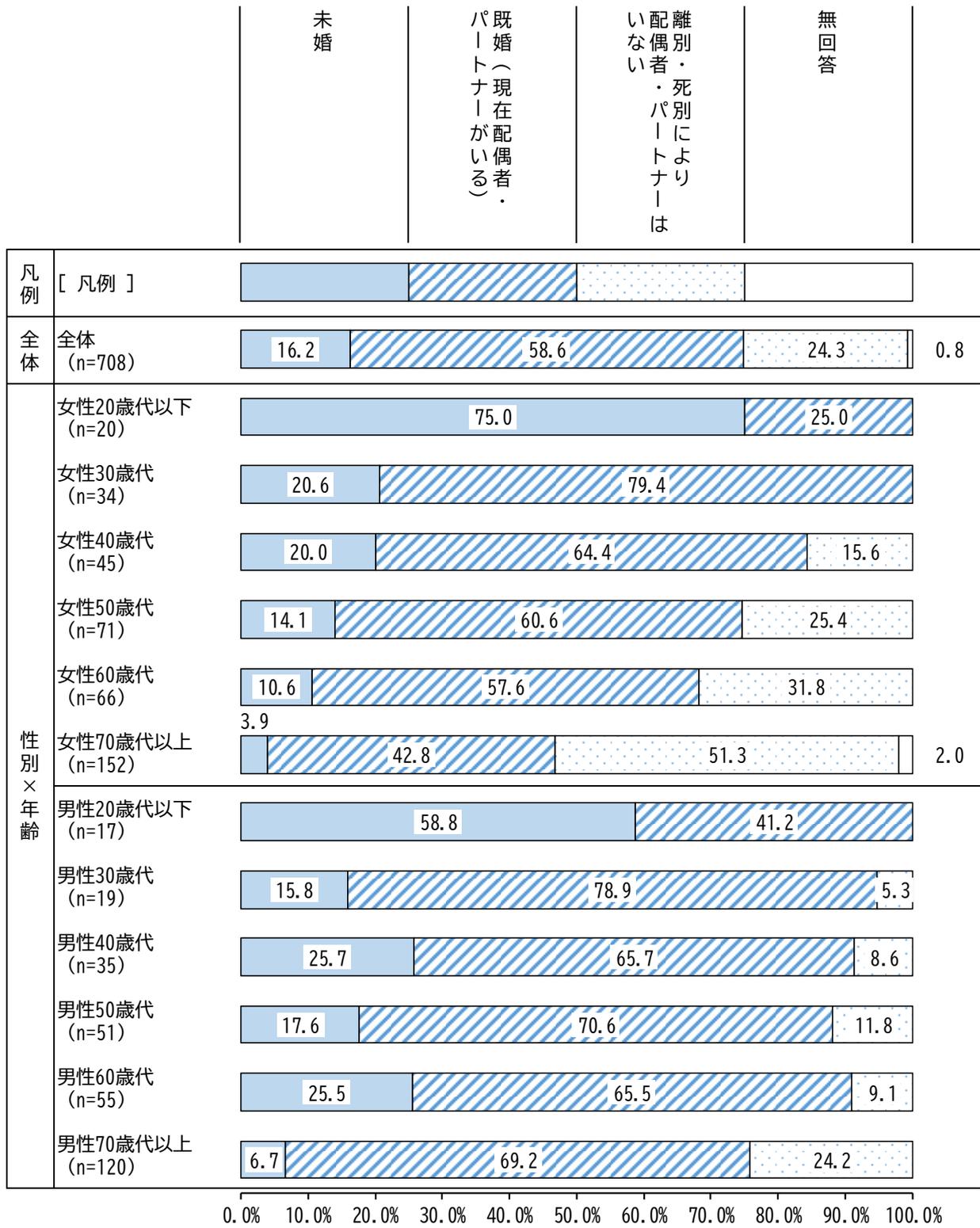


F3 あなたは結婚されていますか（配偶者・パートナーとは夫・妻などで、事実婚の場合も含まれます）（○は1つ）

- 【全体】
- 配偶者の有無について、「既婚（現在配偶者・パートナーがいる）」が58.6%で最も多く、次いで「離別・死別により配偶者・パートナーはいない」が24.3%、「未婚」が16.2%となっています。
- 【性別】
- 女性では、「離別・死別により配偶者・パートナーはいない」が31.5%で、男性の14.5%より17.0ポイント多くなっています。

【配偶者の有無】





F4 あなたと配偶者・パートナーの主なお仕事は

あなたの職業

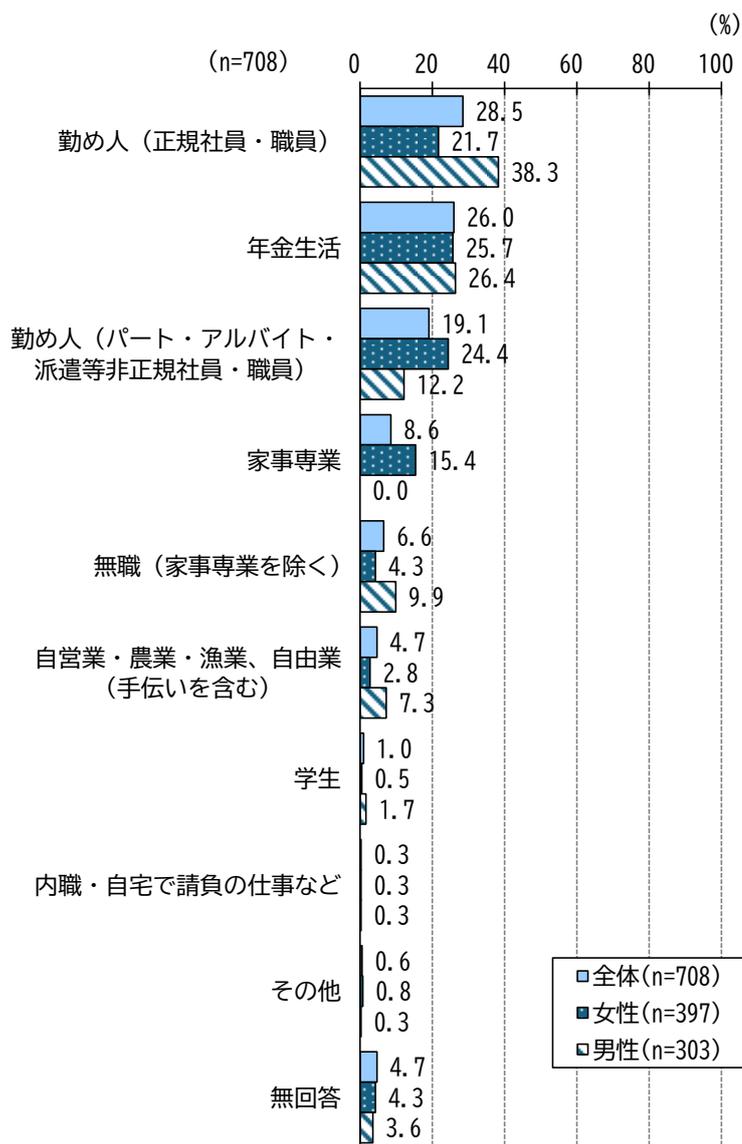
【全体】

- あなたの職業について、「勤め人（正規社員・職員）」が28.5%で最も多く、次いで「年金生活」が26.0%、「勤め人（パート・アルバイト・派遣等非正規社員・職員）」が19.1%となっています。

【性別】

- 女性は男性より「勤め人（パート・アルバイト・派遣等非正規社員・職員）」「家事専業」が10ポイント以上多くなっています。
- 男性では、「勤め人（正規社員・職員）」が38.3%で最も多くなっています。

【あなたの職業】



単位：％

	母数 (n)	あなたの職業										
		勤め人 (正規社員・職員)	アルバイト・派遣等 (非正規社員・職員)	勤め人(パート)	自営業・農業・漁業、 自由業(手伝いを含む)	内職・自宅で 請負の仕事など	家事専業	無職 (家事専業を除く)	学生	年金生活	その他	無回答
全体	708	28.5	19.1	4.7	0.3	8.6	6.6	1.0	26.0	0.6	4.7	
性別×年齢	女性20歳代以下	20	△ 65.0	10.0	-	-	10.0	5.0	10.0	-	-	
	女性30歳代	34	△ 58.8	23.5	-	-	11.8	5.9	-	-	-	
	女性40歳代	45	△ 48.9	26.7	4.4	-	15.6	2.2	-	-	2.2	
	女性50歳代	71	29.6	△ 46.5	2.8	-	16.9	1.4	-	-	1.4	
	女性60歳代	66	▼ 9.1	△ 36.4	4.5	1.5	△ 19.7	3.0	-	21.2	-	4.5
	女性70歳代以上	152	▼ 0.7	▼ 7.9	2.6	-	15.1	6.6	-	△ 57.9	1.3	7.9
	男性20歳代以下	17	△ 58.8	▼ 5.9	5.9	5.9	-	-	△ 23.5	-	-	-
	男性30歳代	19	△ 89.5	▼ 5.3	5.3	-	-	-	-	-	-	-
	男性40歳代	35	△ 74.3	14.3	2.9	-	-	8.6	-	-	-	-
	男性50歳代	51	△ 72.5	▼ 7.8	9.8	-	-	5.9	-	-	2.0	2.0
	男性60歳代	55	34.5	25.5	9.1	-	-	10.9	-	20.0	-	-
	男性70歳代以上	120	▼ 3.3	9.2	6.7	-	-	15.0	-	△ 57.5	-	8.3

配偶者・パートナーの職業

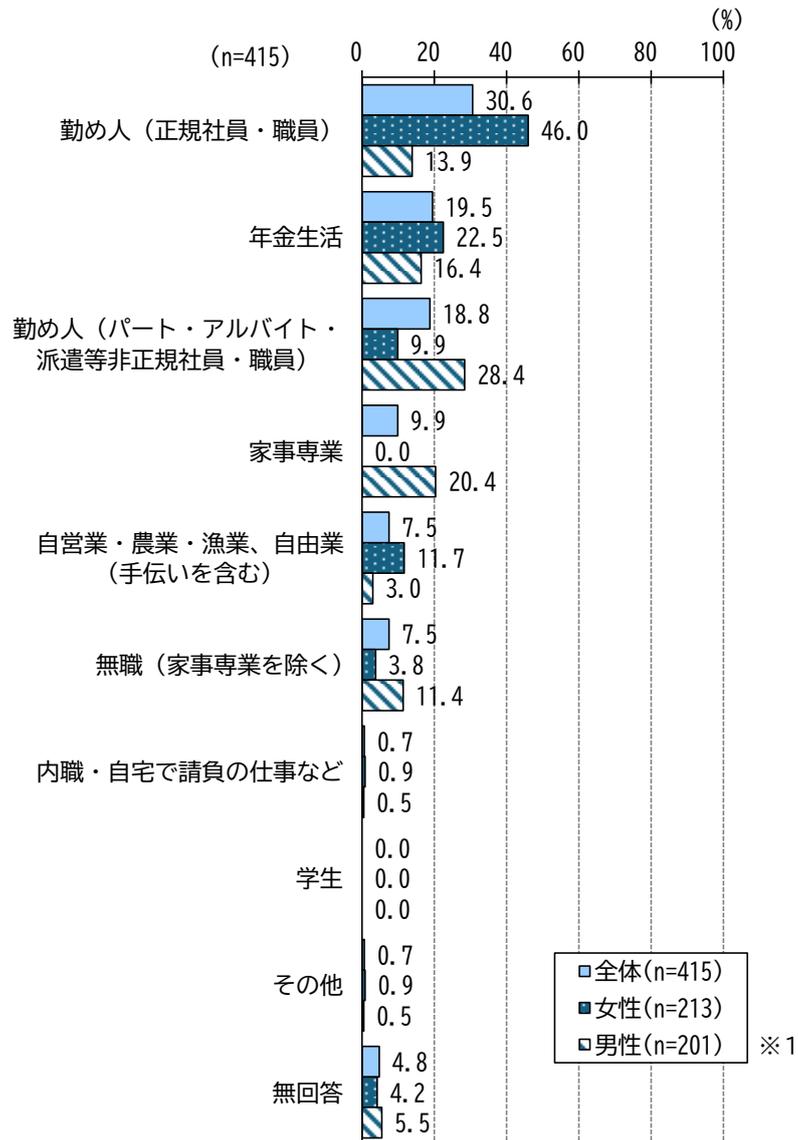
【全体】

- 配偶者・パートナーの職業について、「勤め人（正規社員・職員）」が30.6%で最も多く、次いで「年金生活」が19.5%、「勤め人（パート・アルバイト・派遣等非正規社員・職員）」が18.8%となっています。

【性別】

- 女性では、「勤め人（正規社員・職員）」が46.0%と多くなっています。
- 男性では、「勤め人（パート・アルバイト・派遣等非正規社員・職員）」が28.4%、「家事専業」が20.4%となっています。

【配偶者・パートナーの職業】



※1 本グラフにおける「女性」「男性」は、回答者本人の性別を指します。それぞれの属性ごとに、配偶者・パートナーの職業について回答いただいた結果を集計しています。

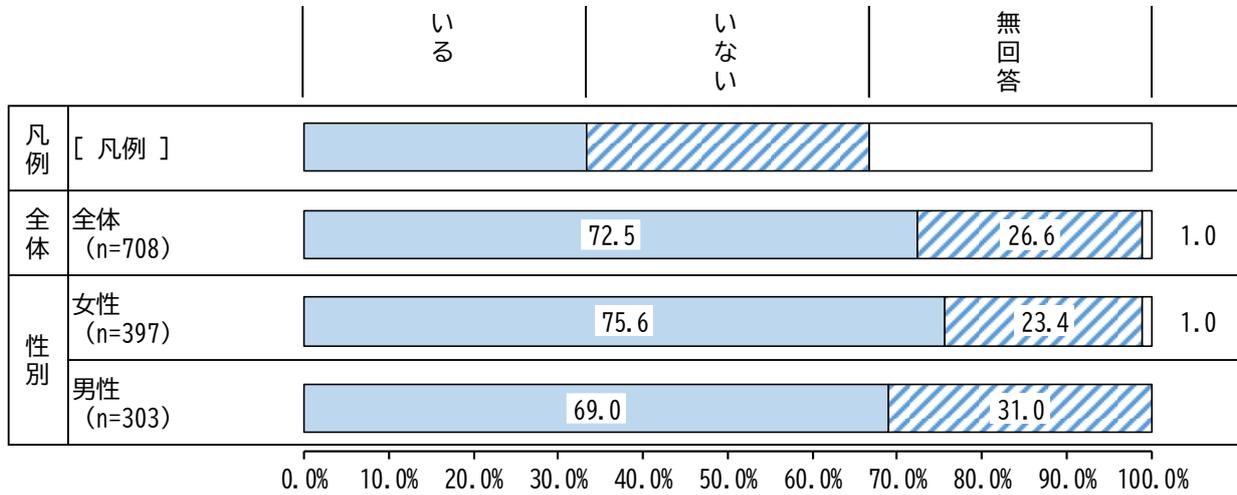
単位：％

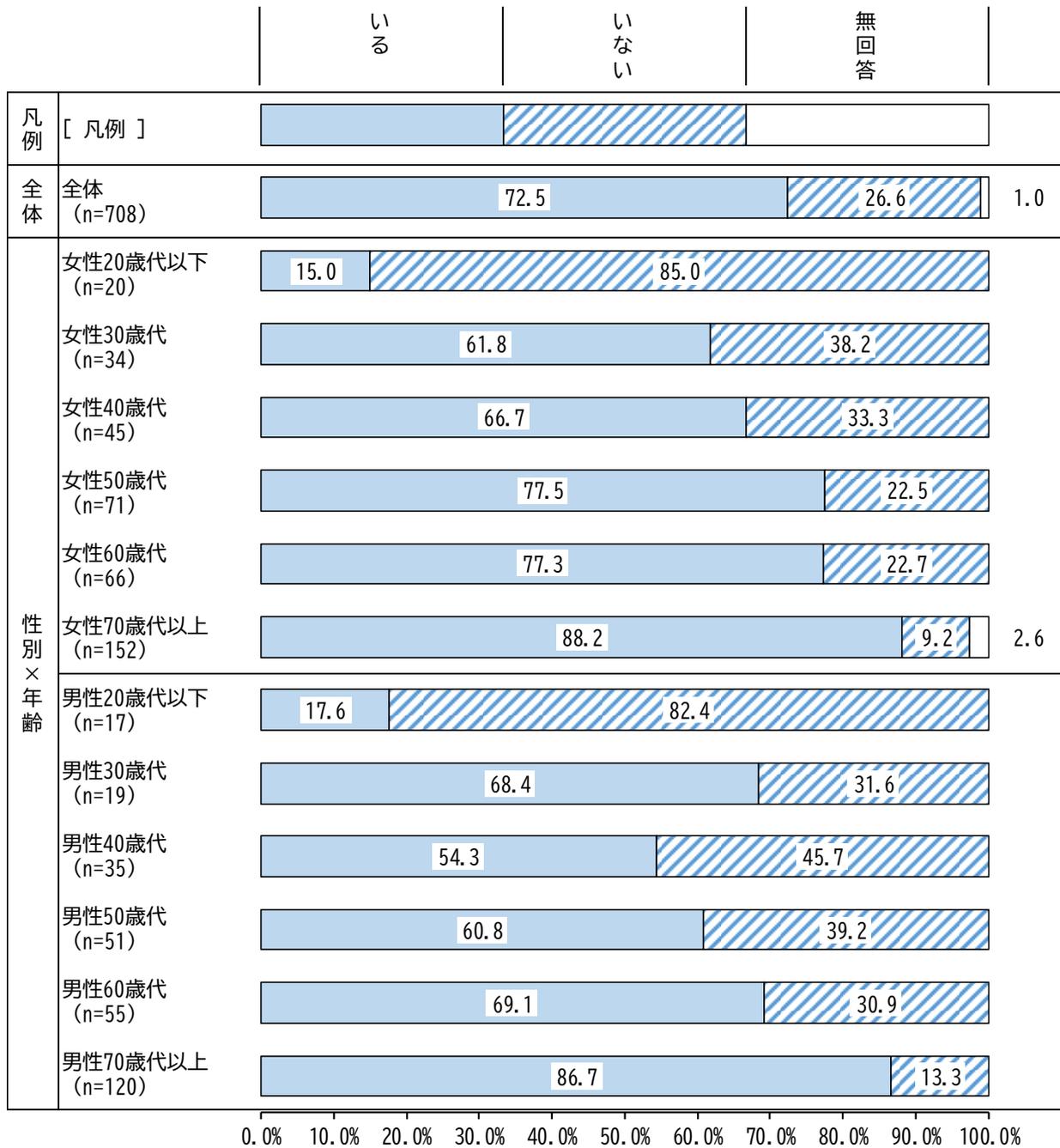
	母数 (n)	配偶者・パートナーの職業										
		勤め人 (正規社員・職員)	アルバイト・派遣等 非正規社員・職員)	勤め人(パート・パートタイム)	自営業・農業・漁業、 自由業(手伝いを含む)	内職・自宅で 請負の仕事など	家事専業	無職 (家事専業を除く)	学生	年金生活	その他	無回答
全体	415	30.6	18.8	7.5	0.7	9.9	7.5	-	19.5	0.7	4.8	
性別×年齢	女性20歳代以下	5	△ 80.0	-	△ 20.0	-	-	-	-	-	-	
	女性30歳代	27	△ 92.6	-	7.4	-	-	-	-	-	-	
	女性40歳代	29	△ 75.9	▼ 6.9	17.2	-	-	-	-	-	-	
	女性50歳代	43	△ 72.1	▼ 7.0	△ 18.6	-	-	-	-	2.3	-	
	女性60歳代	38	23.7	△ 28.9	7.9	-	-	7.9	-	28.9	-	2.6
	女性70歳代以上	65	▼ 4.6	▼ 6.2	7.7	3.1	-	7.7	-	△ 56.9	1.5	12.3
	男性20歳代以下	7	△ 71.4	14.3	-	-	-	14.3	-	-	-	-
	男性30歳代	15	26.7	△ 46.7	-	-	△ 26.7	-	-	-	-	-
	男性40歳代	23	39.1	△ 30.4	-	-	△ 26.1	4.3	-	-	-	-
	男性50歳代	36	▼ 19.4	△ 52.8	2.8	2.8	13.9	5.6	-	-	-	2.8
	男性60歳代	36	▼ 8.3	△ 38.9	2.8	-	△ 33.3	11.1	-	▼ 5.6	-	-
	男性70歳代以上	83	-	9.6	4.8	-	16.9	△ 18.1	-	△ 37.3	1.2	12.0

F5 あなたに子どもはいますか

【全体】
 ○ 子どもの有無について、「いる」が72.5%、「いない」が26.6%となっています。
 【性別】
 ○ 「いる」の割合は、女性で75.6%、男性で69.0%となっています。

【子どもの有無】

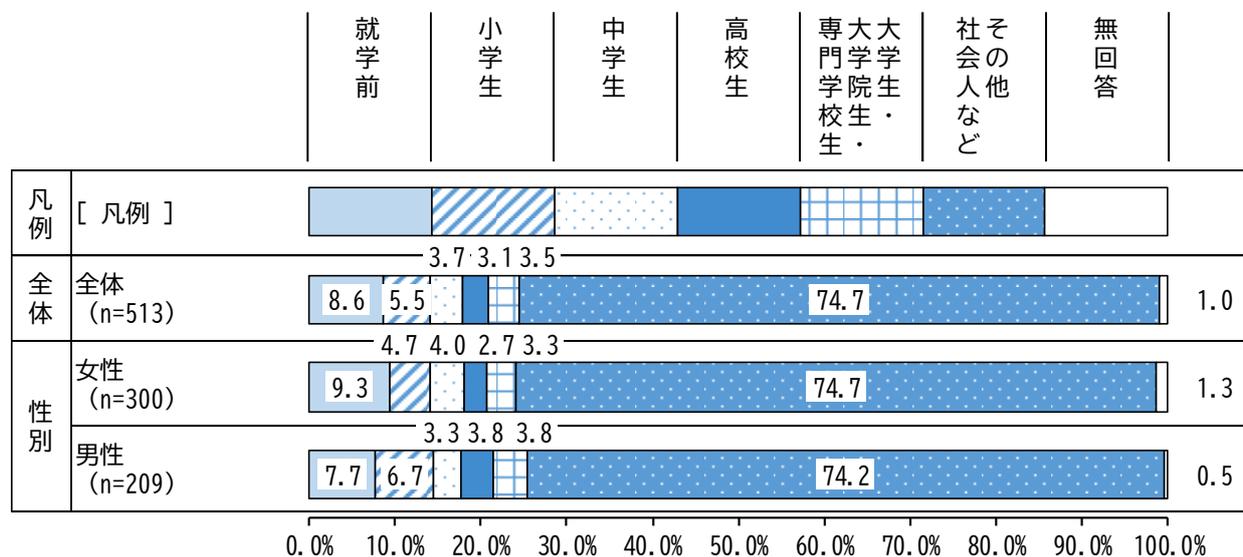


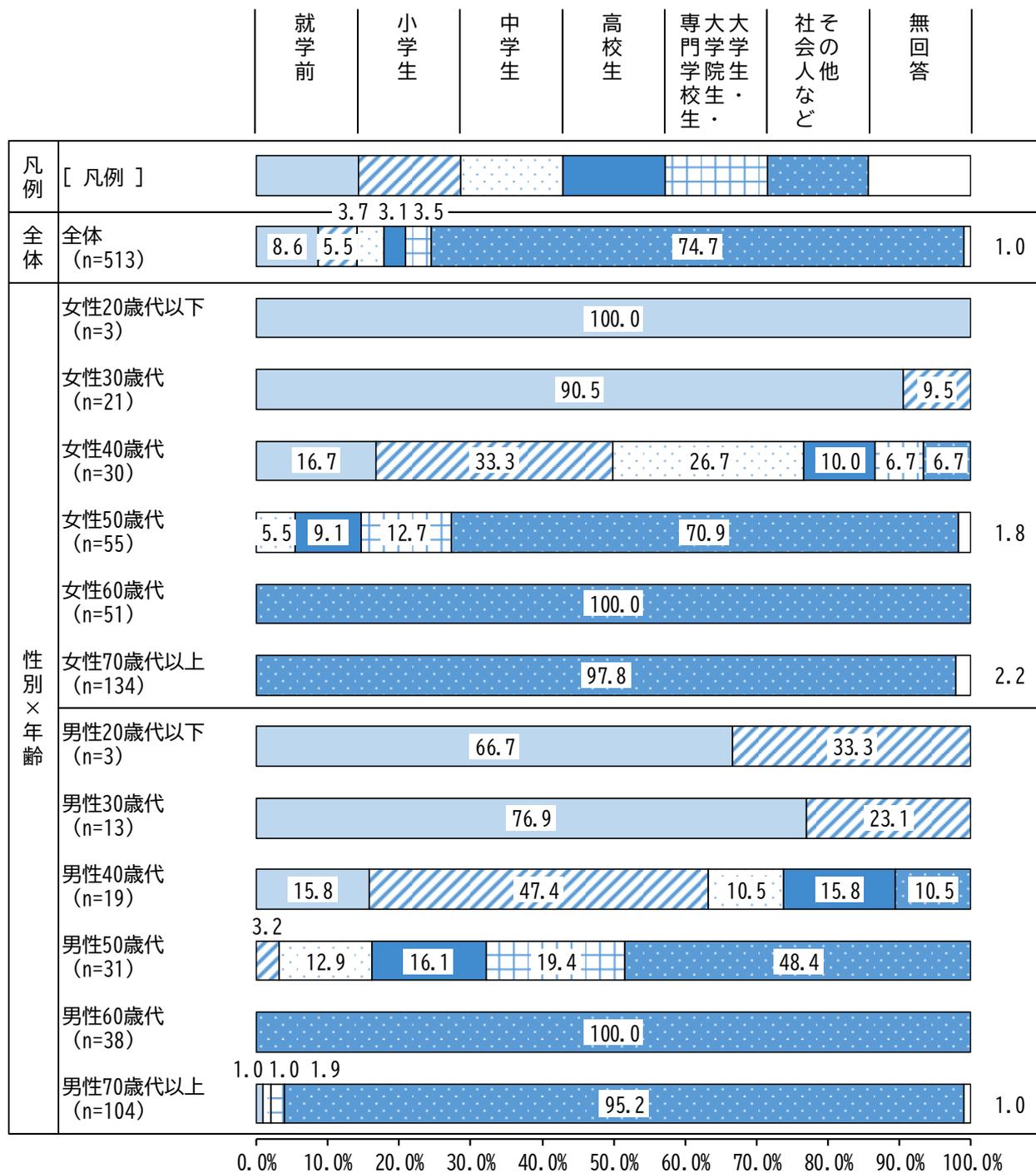


F5-1 いる場合、一番下のお子さんは次のどの年齢層にあたりますか（○は1つ）

- 【全体】
 ○ 一番下の子どもの年齢層について、「その他社会人など」が74.7%で最も多く、次いで「就学前」が8.6%、「小学生」が5.5%となっています。
- 【性別】
 ○ 男女とも、「その他社会人など」が70%以上を占めています。

【一番下の子どもの年齢層】





F6 あなたが同居している家族構成は

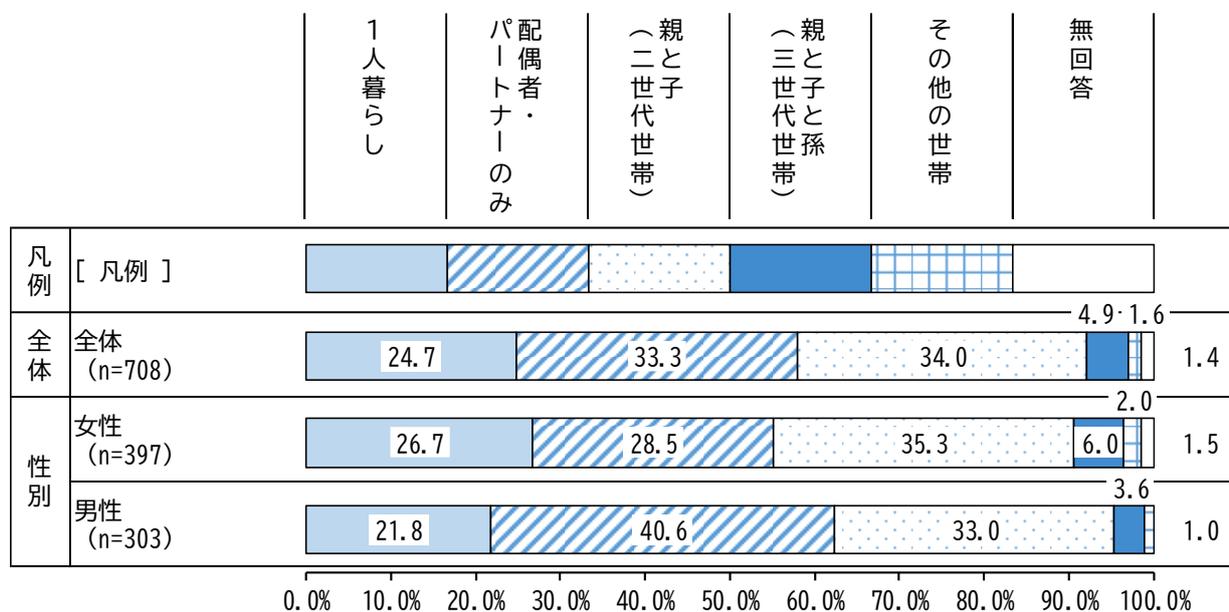
【全体】

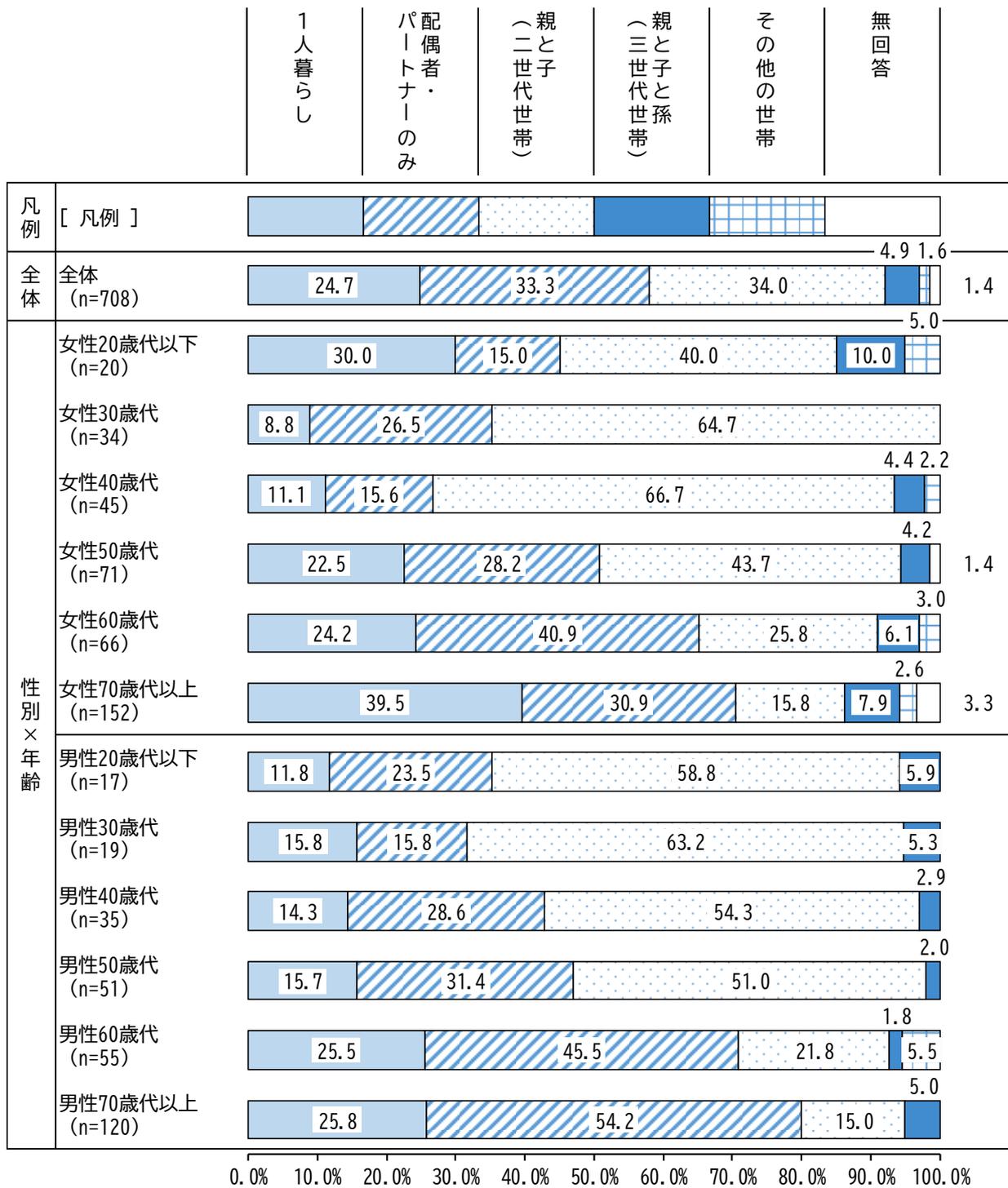
- 家族構成について、「親と子（二世世代世帯）」が34.0%で最も多く、次いで「配偶者・パートナーのみ」が33.3%、「1人暮らし」が24.7%となっています。

【性別】

- 女性は「親と子（二世世代世帯）」、男性は「配偶者・パートナーのみ」が最も多くなっています。

【家族構成】





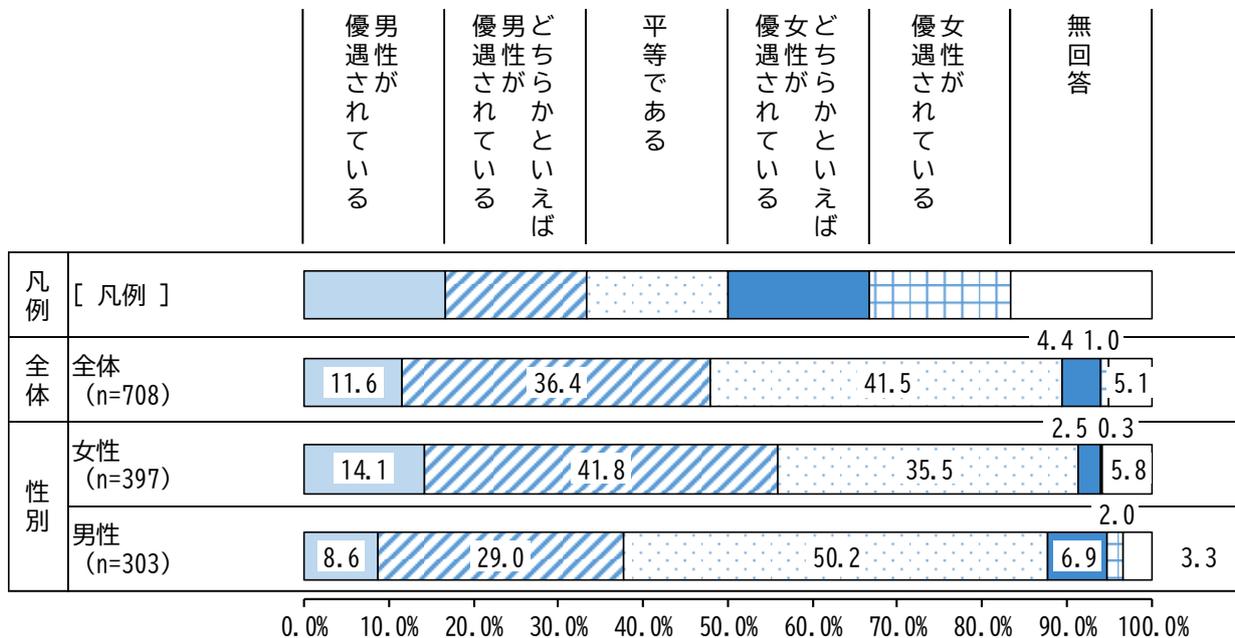
2 男女平等について

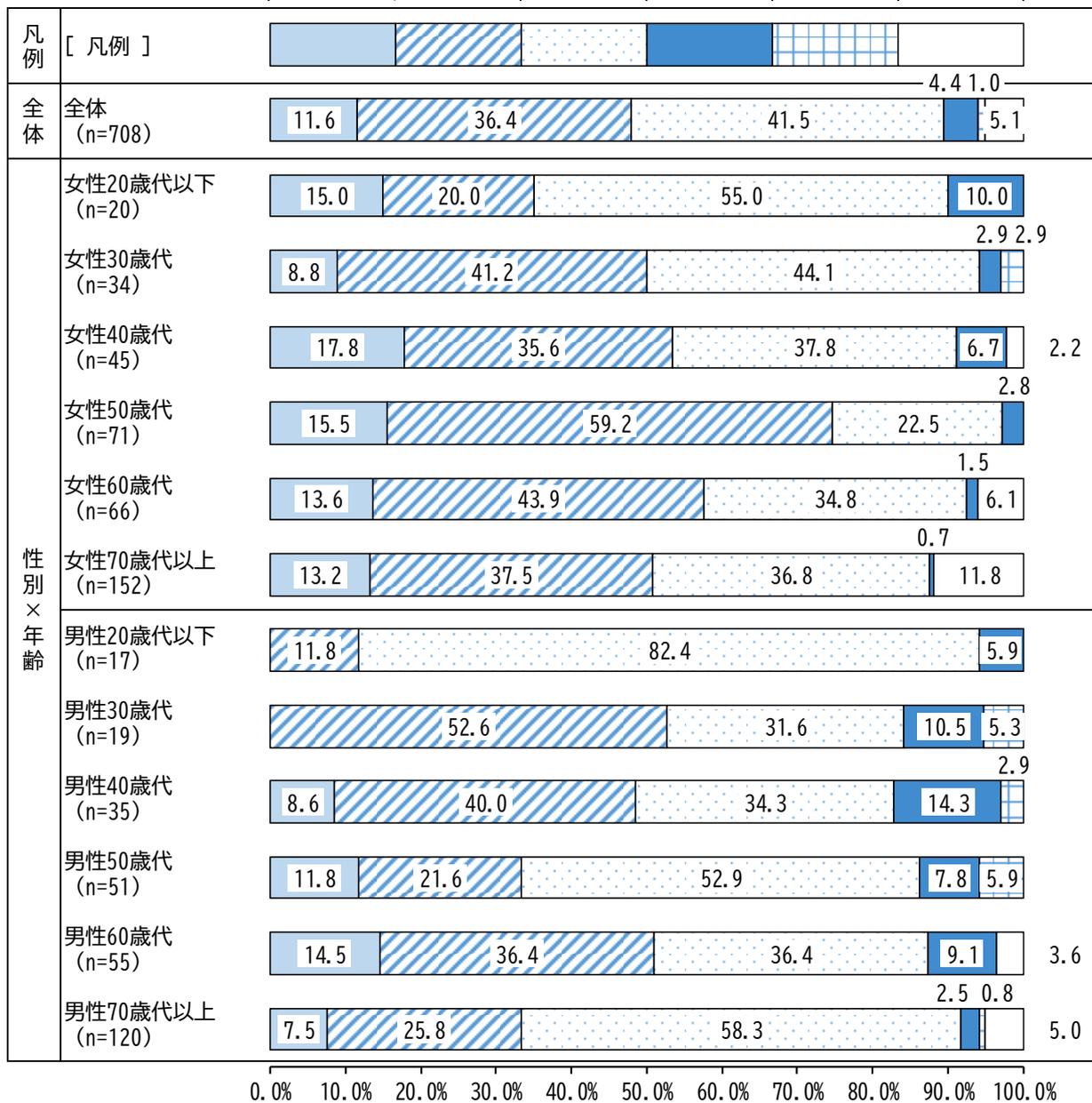
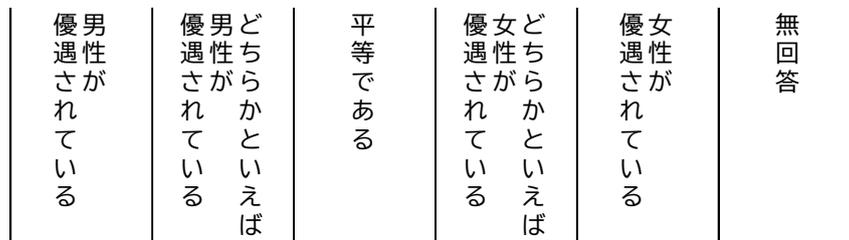
問1 あなたは、現在の社会全般をみたときに、次のような場面で男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑨までのそれぞれに当てはまる番号に○をつけてください。(各項目でそれぞれ○は1つ)

①法律や制度の上では

<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「平等である」が41.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が36.4%、「男性が優遇されている」が11.6%となっています。 ○ 「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は48.0%となっています。「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた“女性優遇”は5.4%となっています。 <p>【性別】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 女性では、“男性優遇”が55.9%で「平等である」よりも多くなっています。 ○ 男性では、「平等である」が50%を超えています。
--

【①法律や制度の上では】





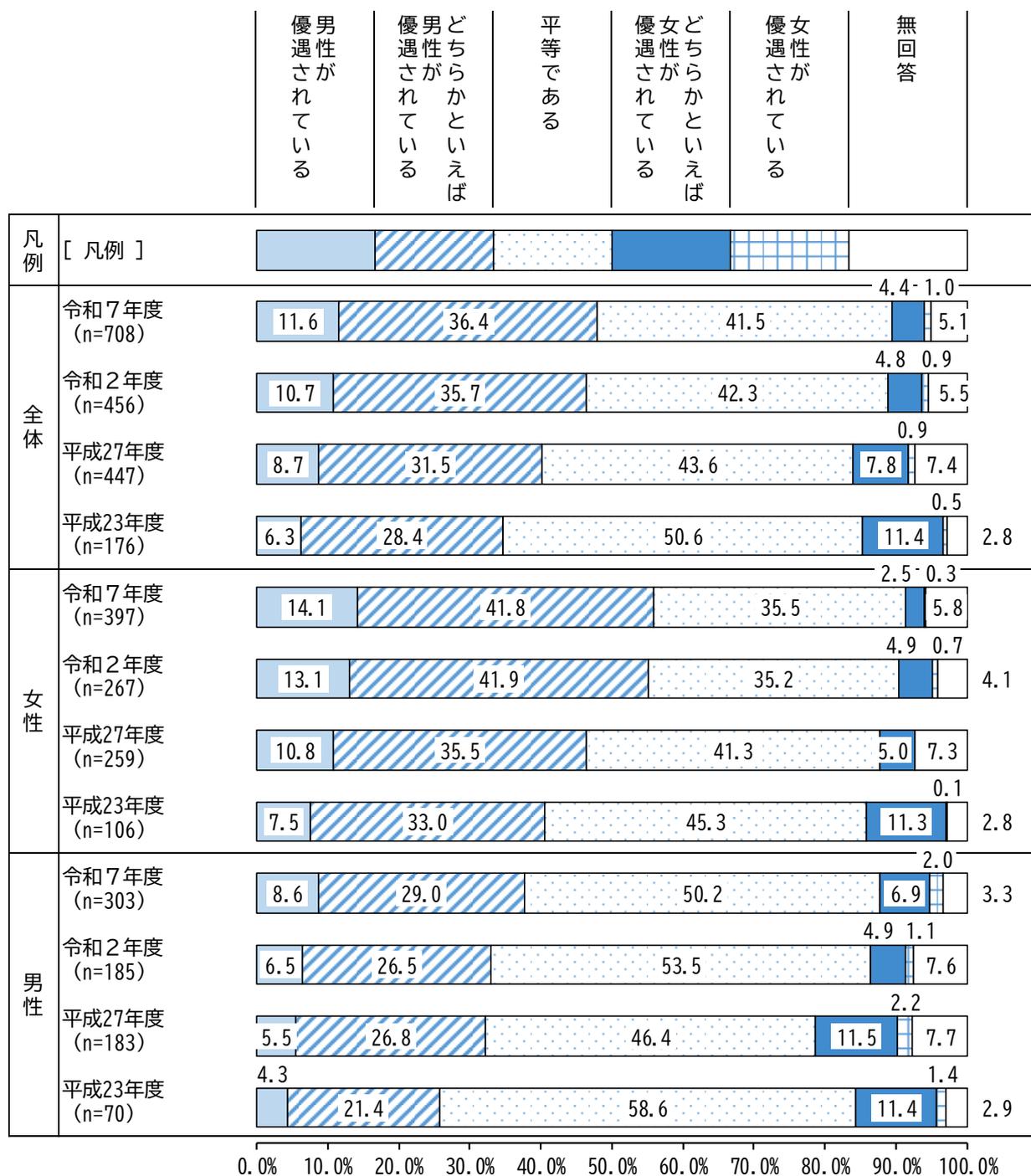
■過去調査との比較

【全体】

- 過去調査と比較すると、平成 23 年度以降“男性優遇”の増加が続き、令和 2 年度以降は“男性優遇”が「平等である」を上回っています。

【性別】

- 女性では、令和 2 年度以降は“男性優遇”が 50% を超えて多くなっています。
- 男性でも“男性優遇”が増加していますが、女性に比べると増加幅は小さくなっています。



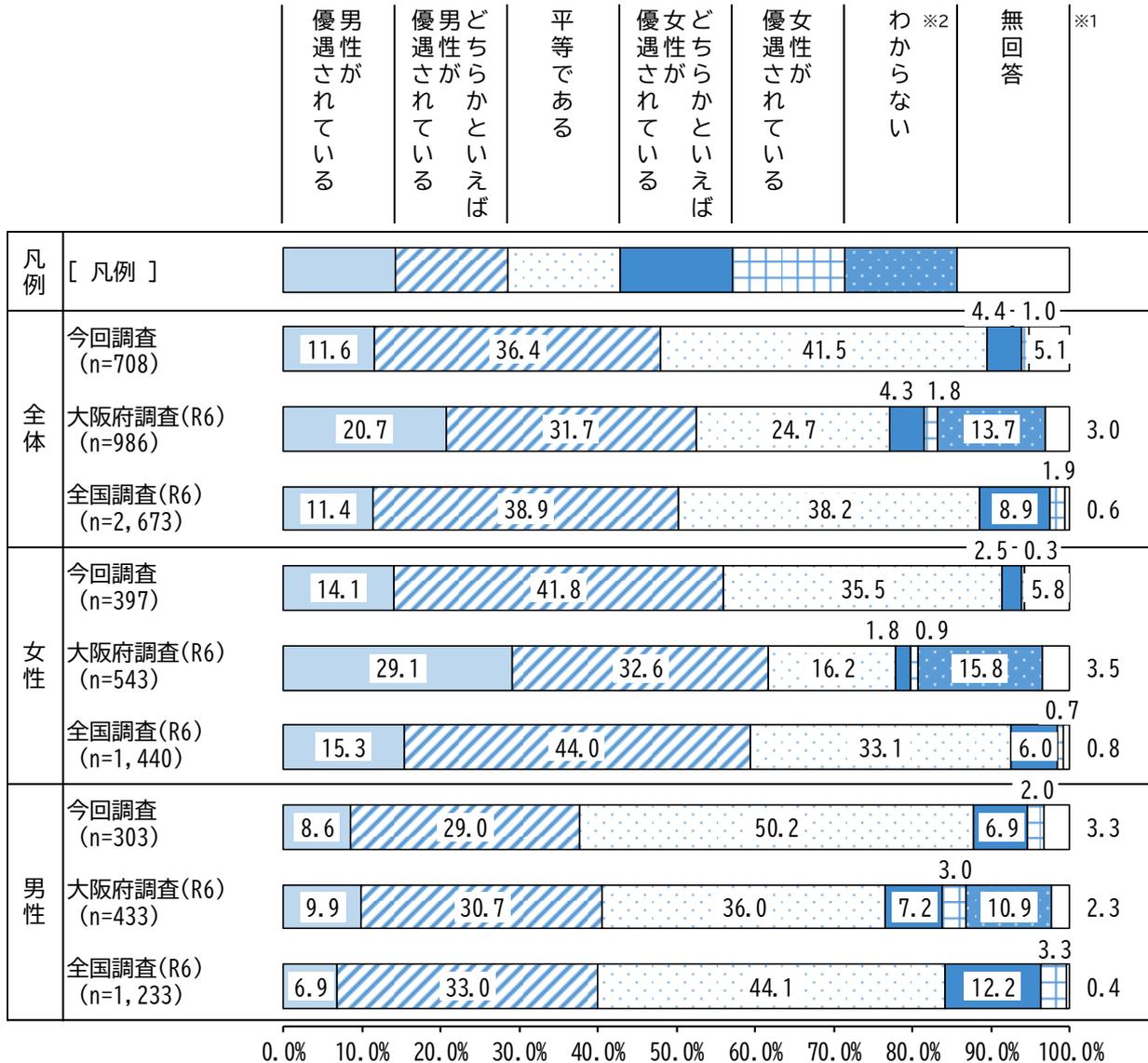
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、今回調査は「平等である」が多くなっています。
- 男性では、大阪府調査では「平等である」より“男性優遇”が多くなっていますが、今回調査では、“男性優遇”より「平等である」が多くなっています。

【全国調査】

- 全国調査と比較すると、今回調査は“女性優遇”が少なく「平等である」が多くなっています。
- 男性では、「平等である」が今回調査 50.2%・全国調査 44.1%と、今回調査が多くなっています。



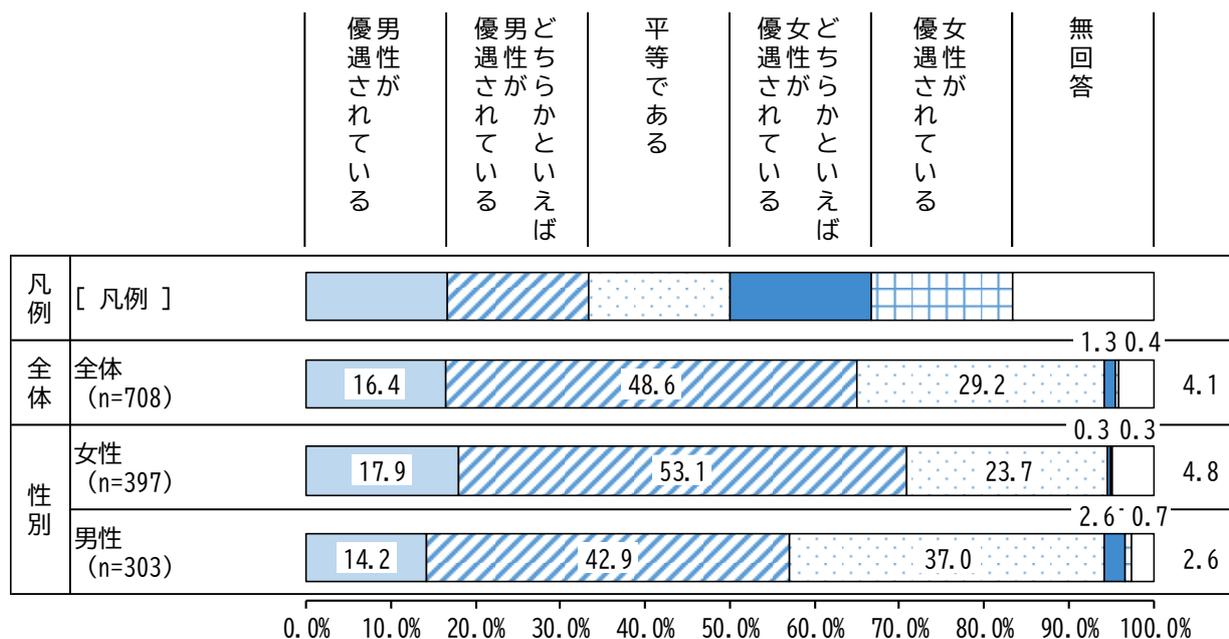
※1 全国調査の選択肢は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」

※2 「わからない」は大阪府調査のみの選択肢

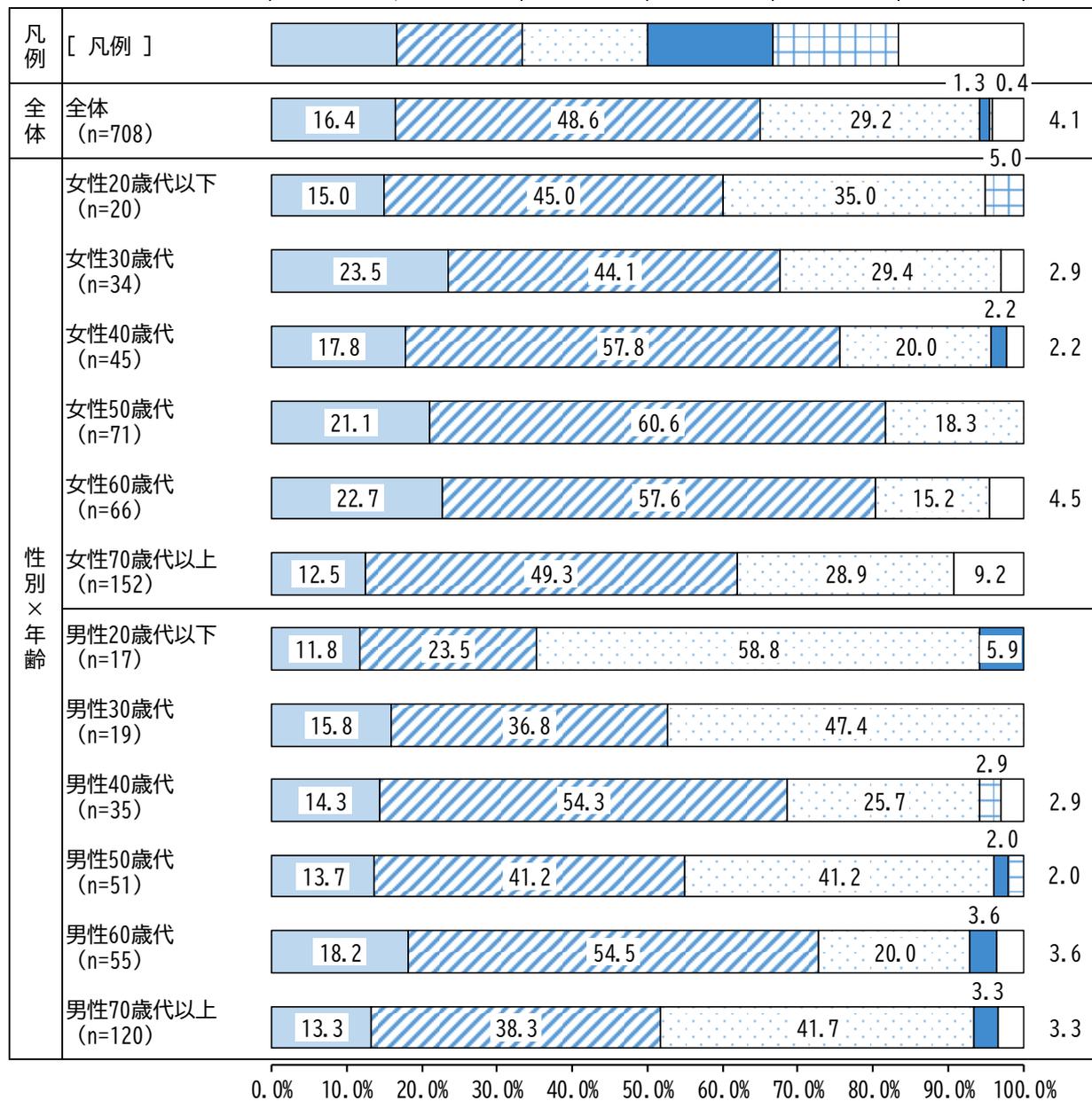
②地域の慣習やしきたりでは

- 【全体】
- 「どちらかといえば男性が優遇されている」が 48.6%で最も多く、次いで「平等である」が 29.2%、「男性が優遇されている」が 16.4%となっています。
 - 「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は 65.0%となっています。「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた“女性優遇”は 1.7%となっています。
- 【性別】
- 女性では、“男性優遇”が 71.0%で、男性の 57.1%より 13.9 ポイント多くなっています。

【②地域の慣習やしきたりでは】



優男性が 優遇されて いる	優男性が 優遇されて いる どちらか といえ ば	平等 である	優女性が 優遇されて いる どちらか といえ ば	優女性が 優遇されて いる	無 回 答
---------------------	---	-----------	---	---------------------	-------------



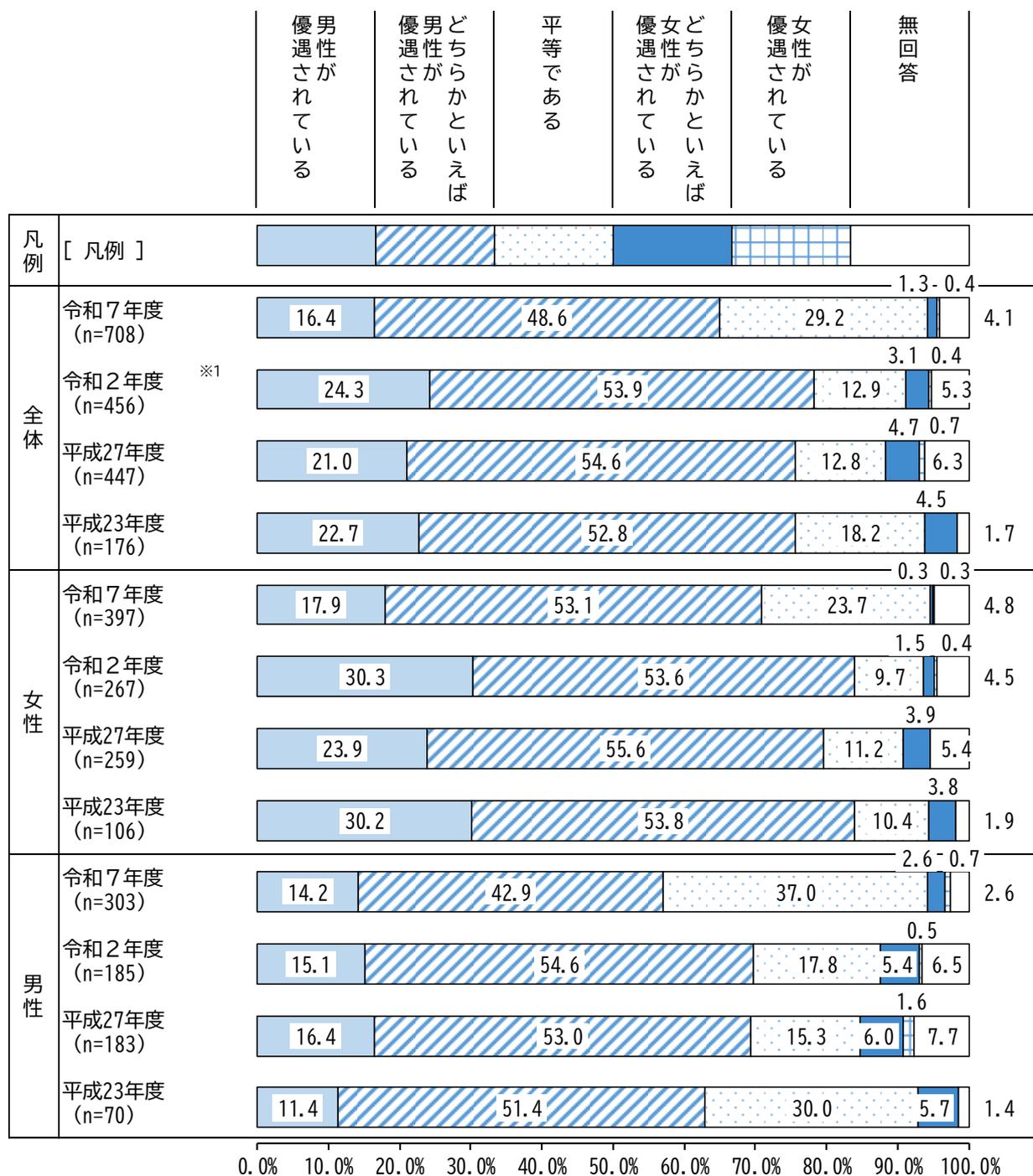
■過去調査との比較

【全体】

- 過去調査（社会や慣習やしきたりでは）と比較すると、今回調査は“男性優遇”が少なく、「平等である」が多くなっています。

【性別】

- 令和7年度は、令和2年度と比べて「平等である」が女性で14.0ポイント、男性で19.2ポイント多くなっています。



※1 過去調査の項目は「社会や慣習やしきたりでは」

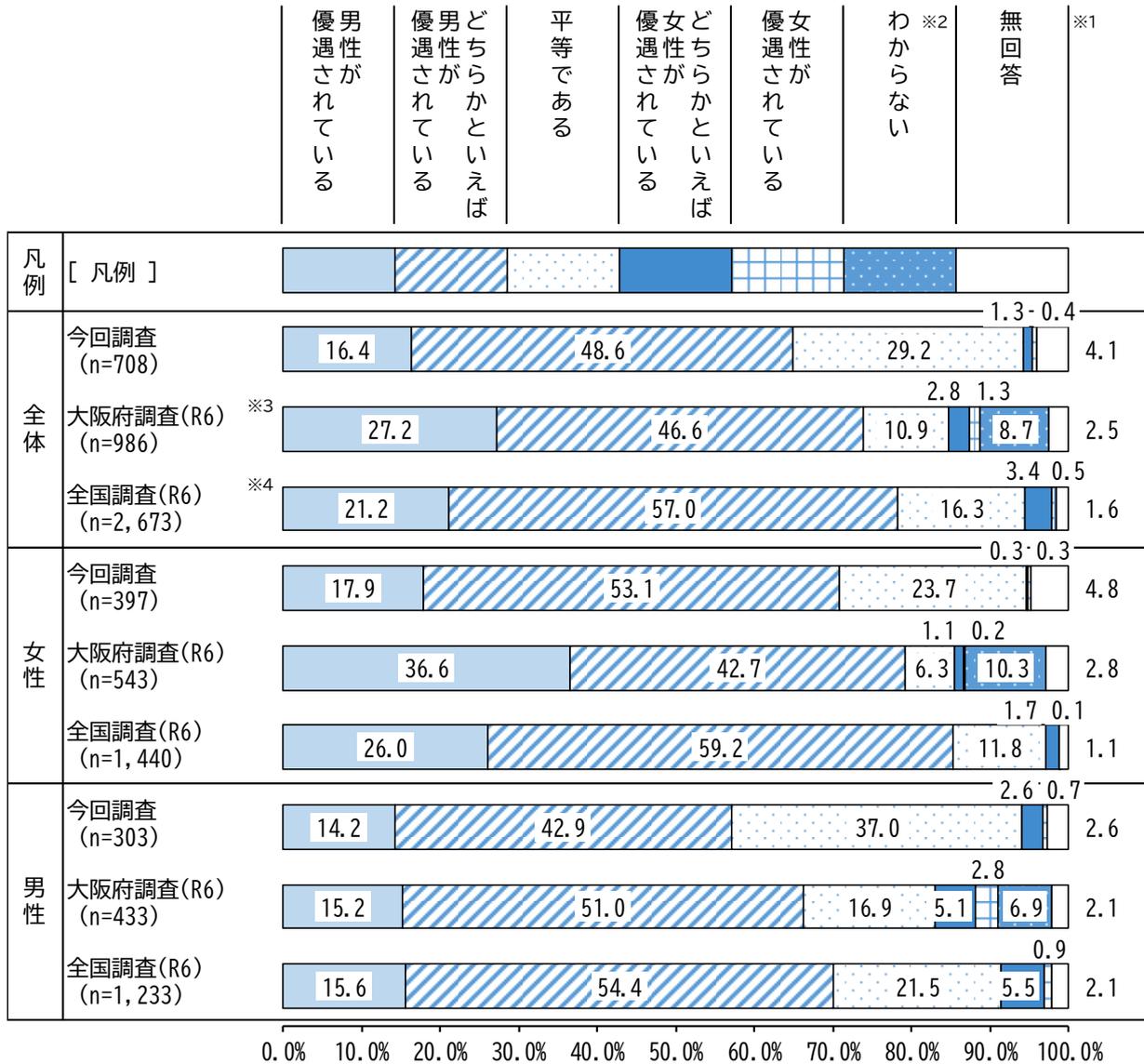
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査（社会通念・慣習・しきたりなどで）と比較すると、今回調査は「平等である」が多くなっています。
- 女性では、今回調査は「男性が優遇されている」が少なく「どちらかといえば男性が優遇されている」が多くなっています。

【全国調査】

- 全国調査（社会通念・地域の慣習・しきたりなどで）と比較すると、今回調査は「平等である」が多くなっています。
- 女性では「男性が優遇されている」、男性では「どちらかといえば男性が優遇されている」が全国調査よりも少なくなっています。



※1 全国調査の選択肢は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」

※2 「わからない」は大阪府調査のみの選択肢

※3 大阪府調査の項目は「社会通念・慣習・しきたりなどで」

※4 全国調査の項目は「社会通念・地域の慣習・しきたりなどで」

③自治会やPTA、祭りなどの地域活動では

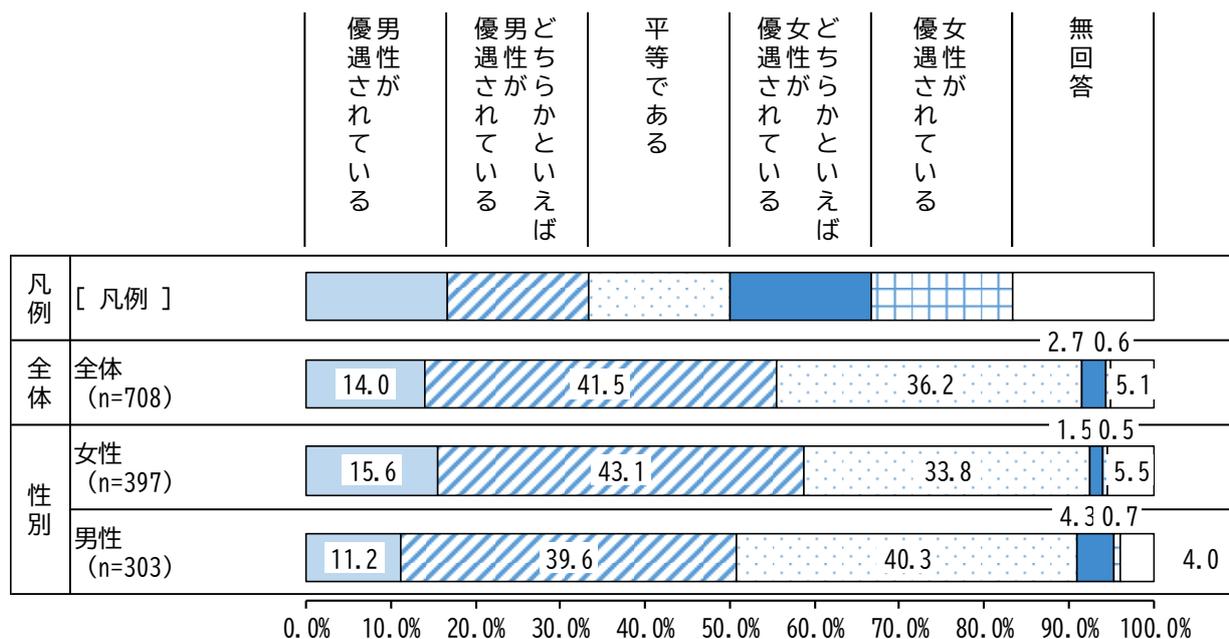
【全体】

- 「どちらかといえば男性が優遇されている」が41.5%で最も多く、次いで「平等である」が36.2%、「男性が優遇されている」が14.0%となっています。
- 「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は55.5%となっています。「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた“女性優遇”は3.3%となっています。

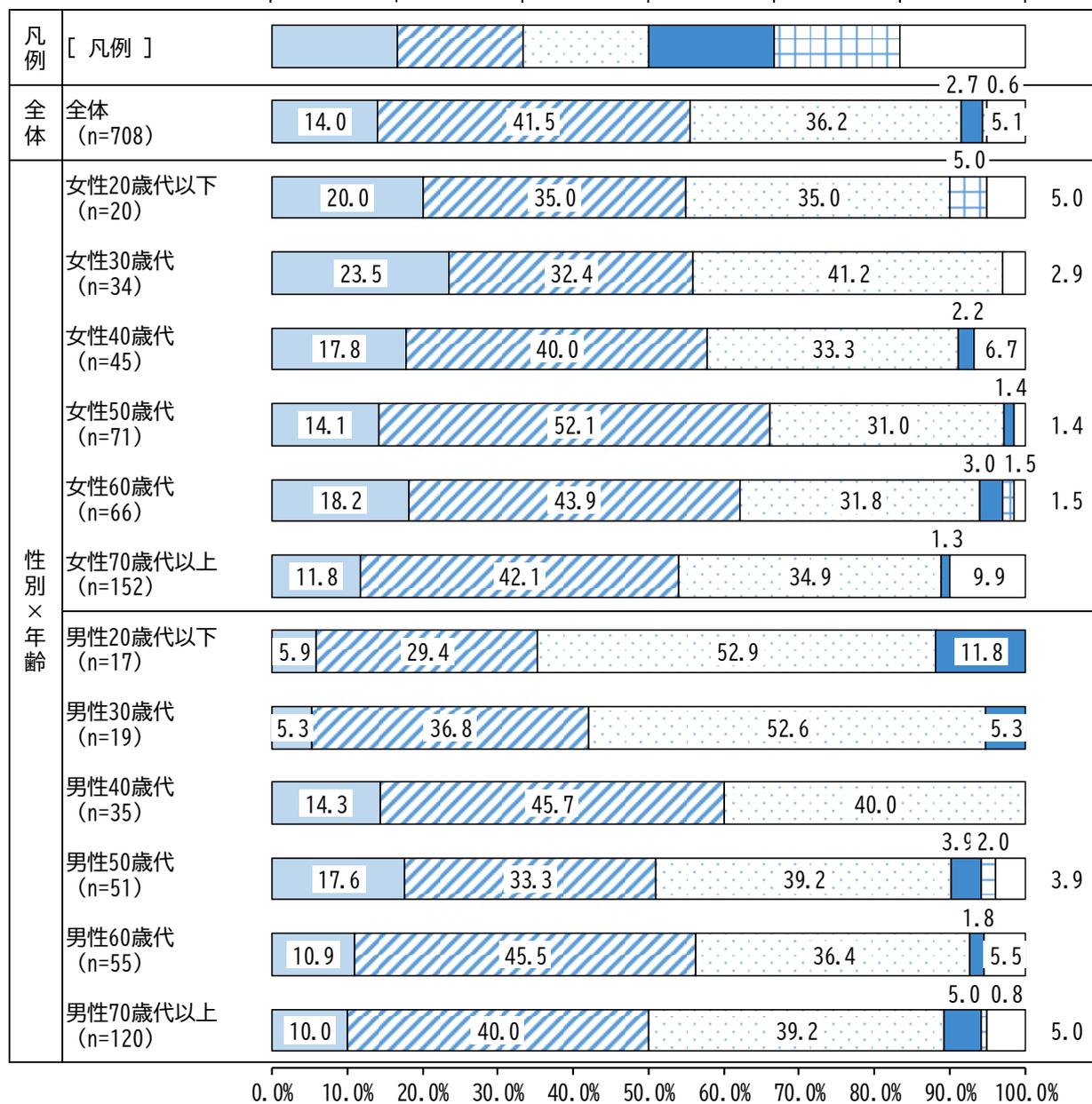
【性別】

- 女性では、“男性優遇”が58.7%で、男性の50.8%より7.9ポイント多くなっています。

【③自治会やPTA、祭りなどの地域活動では】



優男性 遇さが されている	優男性 遇さが されている どちらか といえ ば	平等 である	優女性 遇さが されている どちらか といえ ば	優女性 遇さが されている	無 回 答
---------------------	---	-----------	---	---------------------	-------------



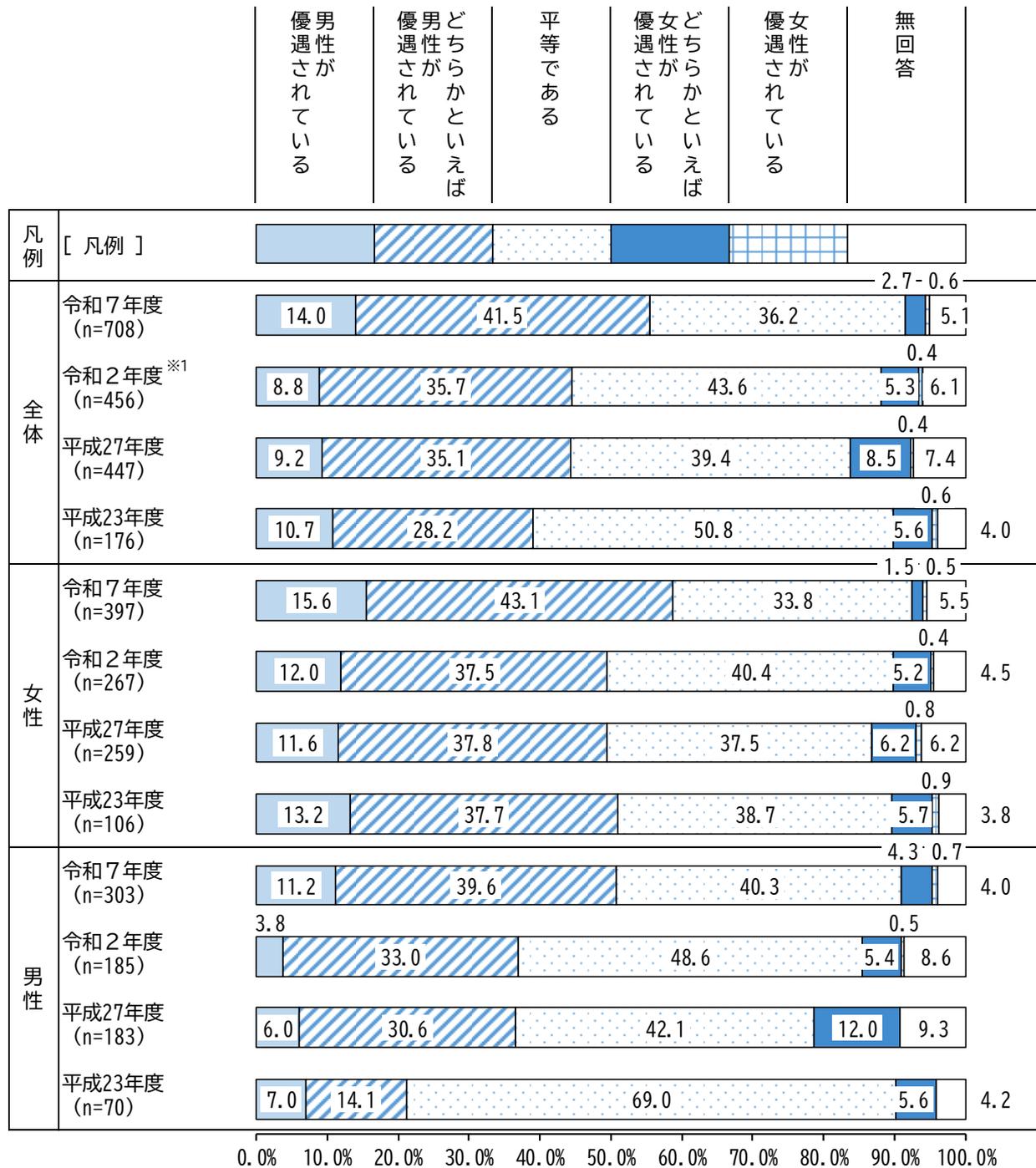
■過去調査との比較

【全体】

○ 過去調査（自治会などの地域活動では）と比較すると、今回調査は“男性優遇”が多くなっています。

【性別】

○ 男性では、過去調査では“男性優遇”よりも「平等である」が多くなっていましたが、令和7年度は「平等である」よりも“男性優遇”が多くなっています。



※1 過去調査の項目は「自治会などの地域活動では」

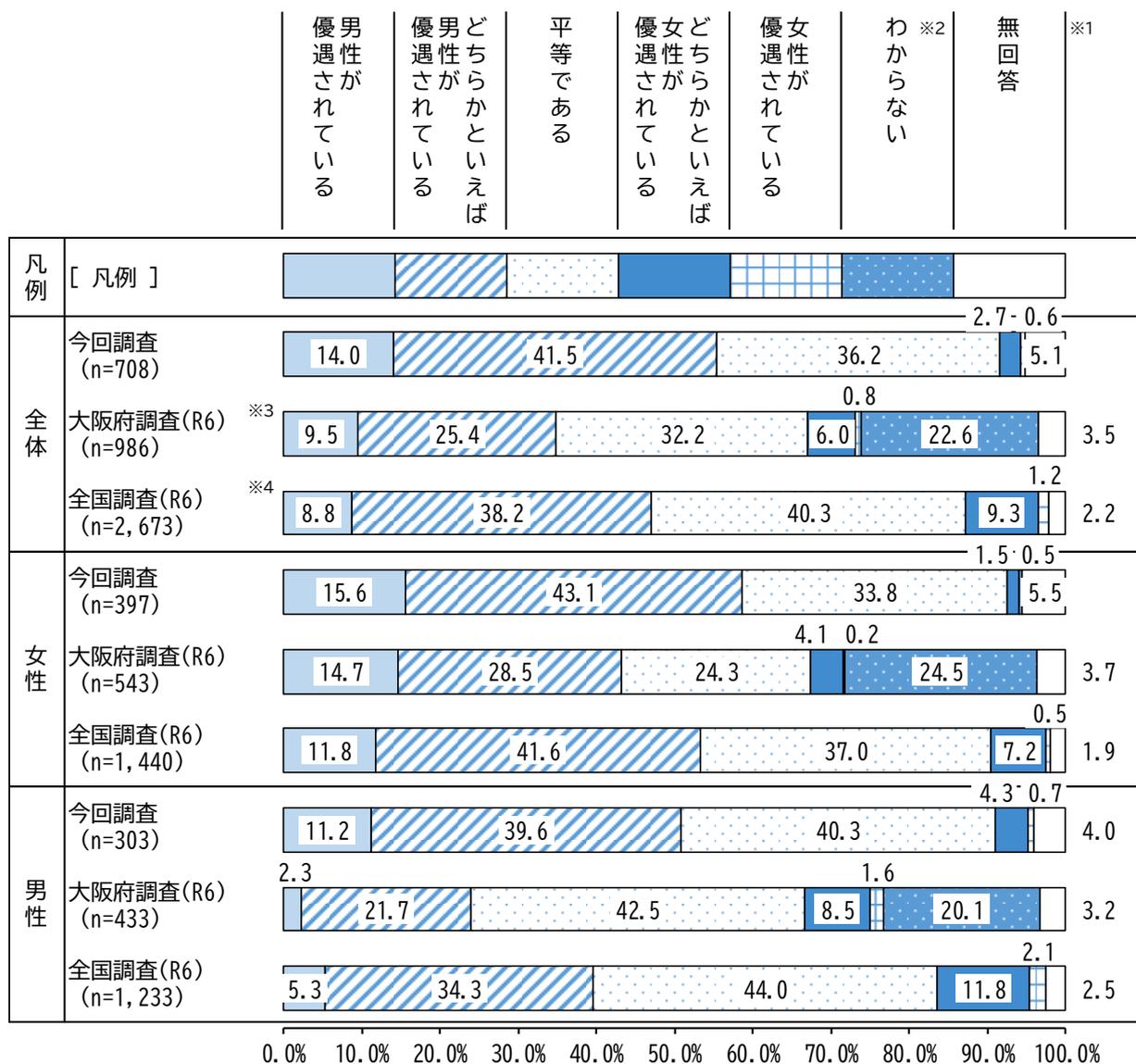
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査（地域活動の場で）と比較すると、「どちらかといえば男性が優遇されている」が多くなっています。
- 大阪府調査では、男性は“男性優遇”より「平等である」が多くなっていますが、今回調査では、男女とも“男性優遇”が多くなっています。

【全国調査】

- 全国調査（自治会やPTAなどの地域活動の場で）と比較すると、今回調査は“女性優遇”が少なく、“男性優遇”が多くなっています。
- 全国調査では、男性は“男性優遇”より「平等である」が多くなっていますが、今回調査では、男女とも“男性優遇”が多くなっています。



- ※1 全国調査の選択肢は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」
- ※2 「わからない」は大阪府調査のみの選択肢
- ※3 大阪府調査の項目は「地域活動(※)の場で ※「地域活動」とは、自治会、PTA、民生委員、NPOやボランティアでの活動などを指します」
- ※4 全国調査の項目は「自治会やPTAなどの地域活動の場で」

④学校教育では

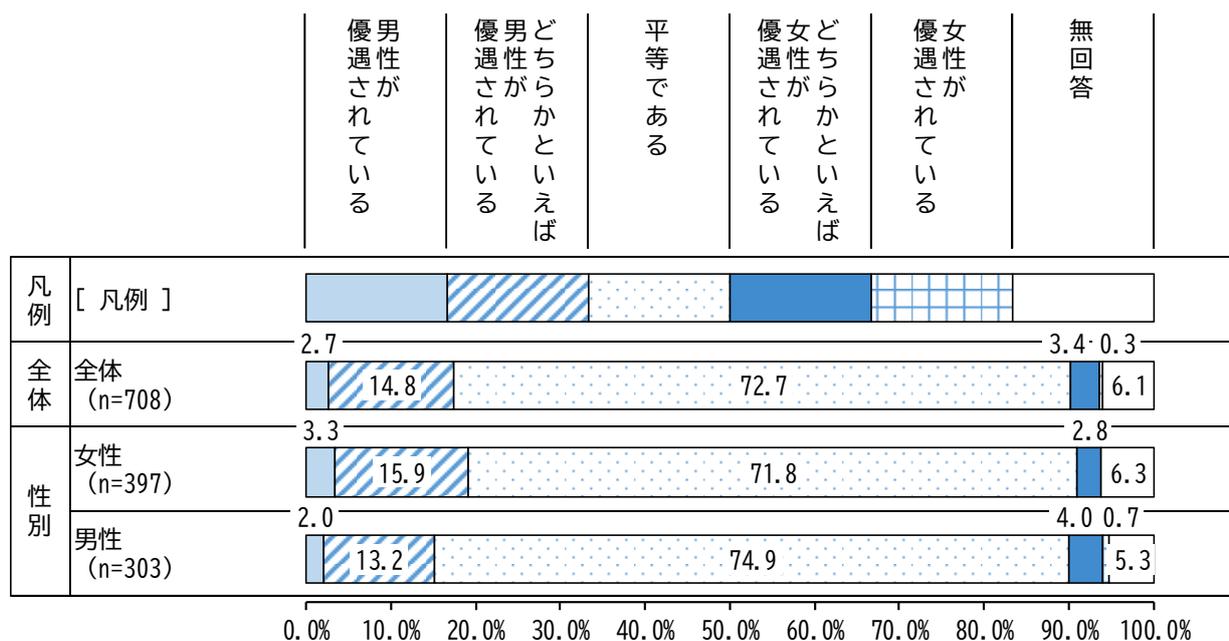
【全体】

- 「平等である」が72.7%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が14.8%、「どちらかといえば女性が優遇されている」が3.4%となっています。
- 「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は17.5%となっています。「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた“女性優遇”は3.7%となっています。

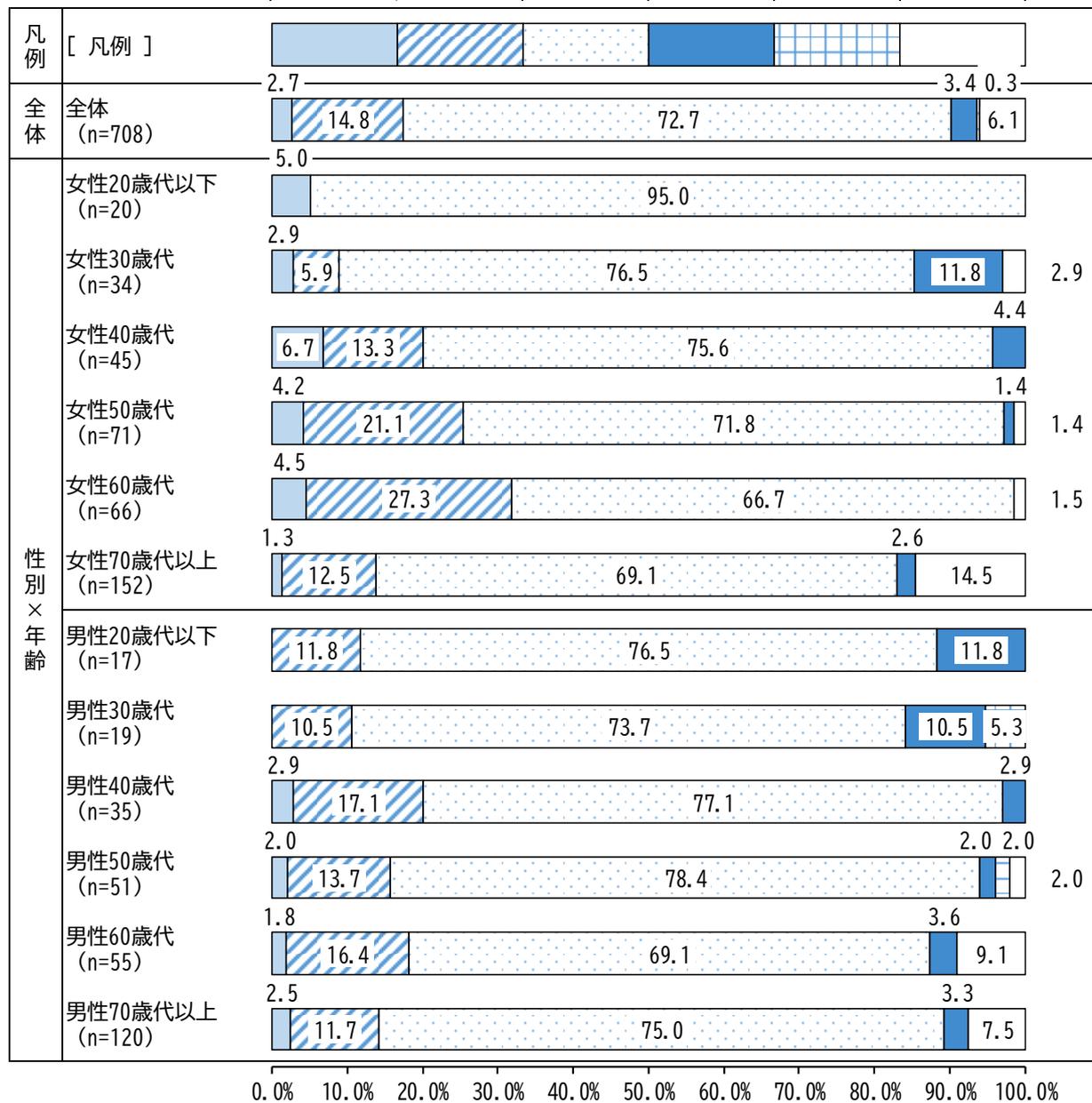
【性別】

- 男女とも「平等である」が70%以上を占めています。

【④学校教育では】



優男性が されている	優男性が されている どちらか といえ ば	平等 である	優女性が されている どちらか といえ ば	優女性が されている	無 回 答
---------------	-----------------------------------	-----------	-----------------------------------	---------------	-------------



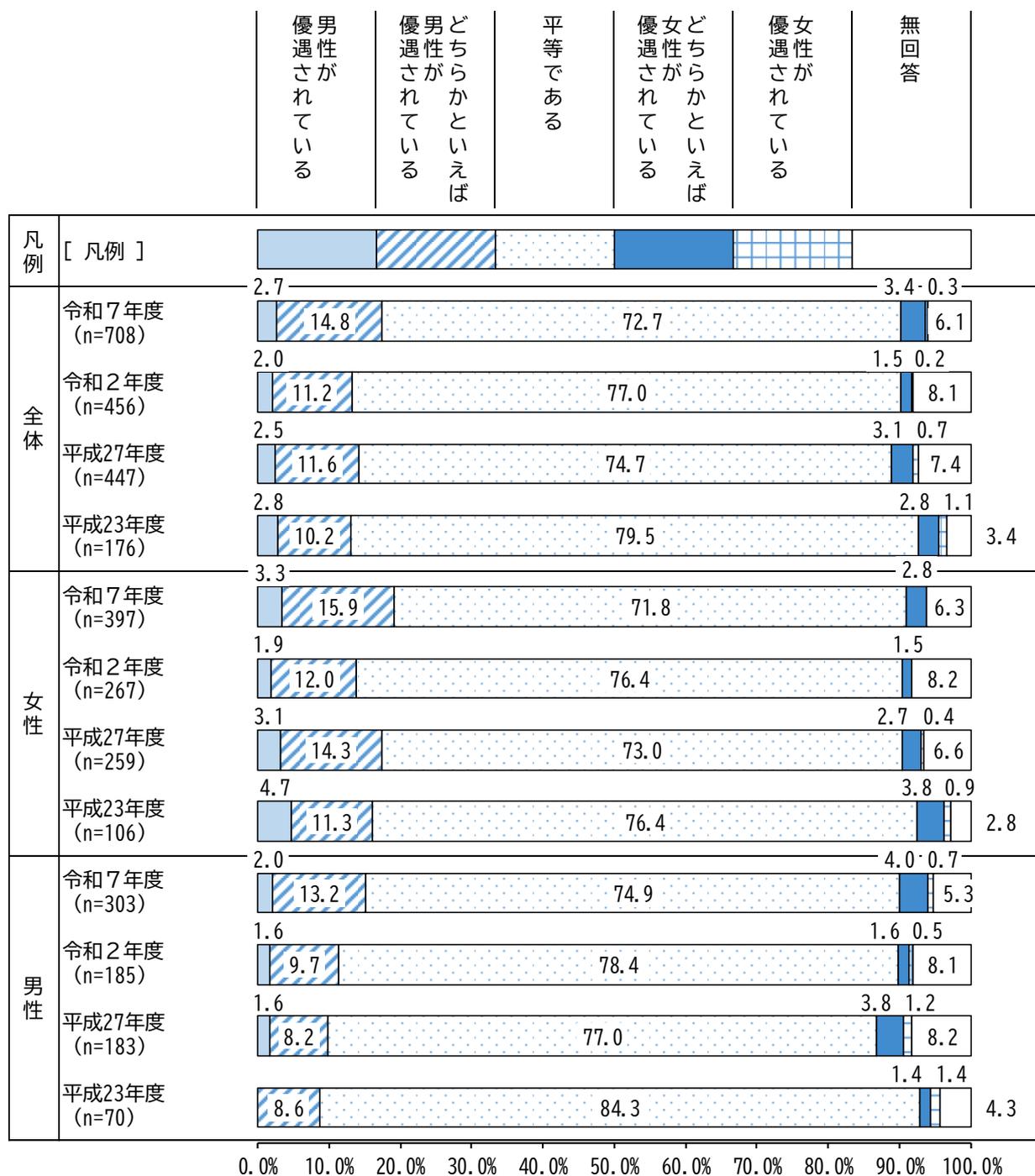
■過去調査との比較

【全体】

○ 過去調査と比較すると、いずれの年度でも「平等である」が70%以上を占めていますが、令和7年度は、平成23年度以降で最も“男性優遇”が多くなっています。

【性別】

○ 男性では、平成23年度には「平等である」が84.3%となっていました、令和7年度では74.9%となっています。



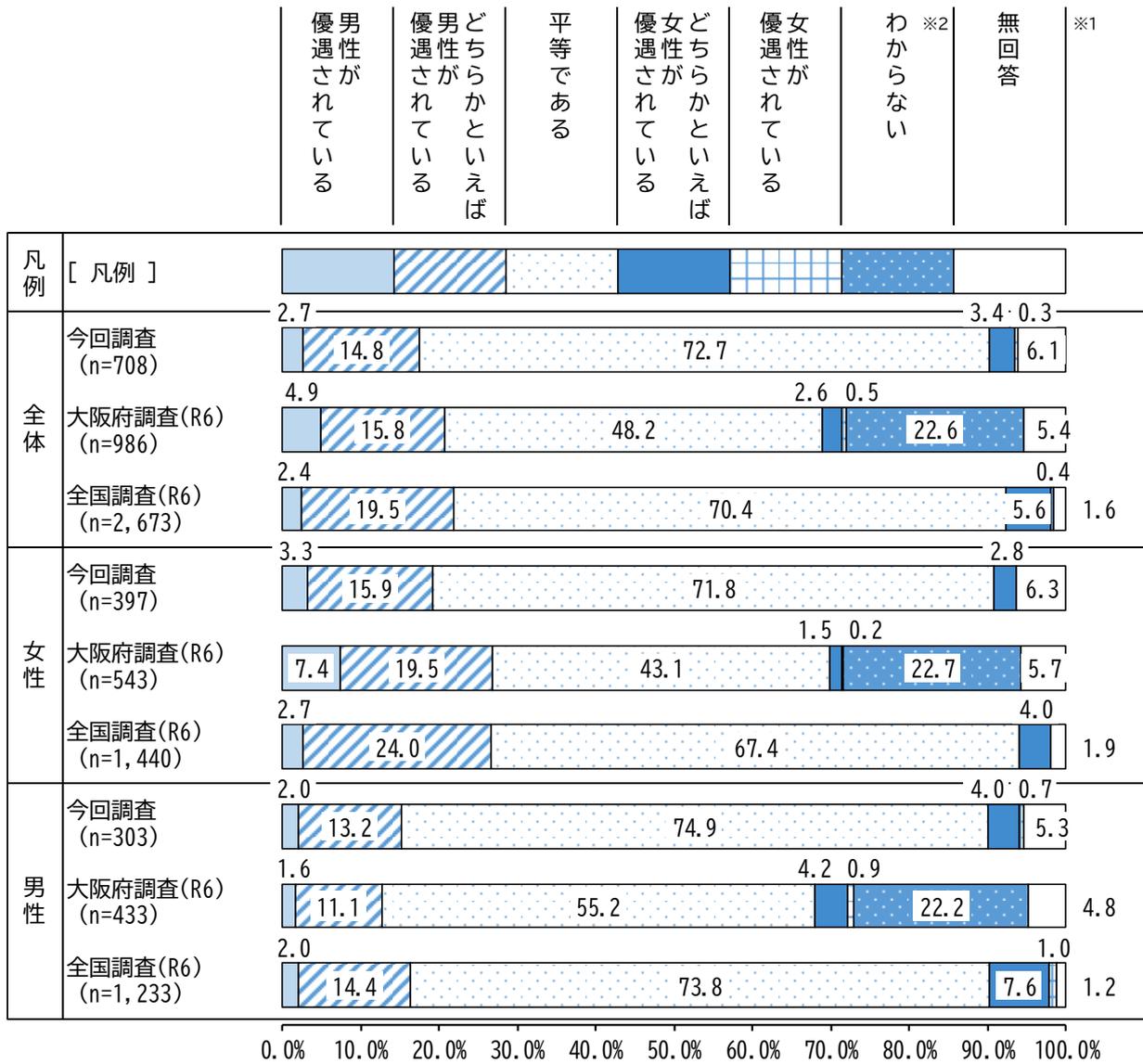
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、今回調査は“男性優遇”が少なく、「平等である」が多くなっています。
- 女性では、大阪府調査より“男性優遇”が少なくなっていますが、男性では大阪府調査より“男性優遇”が多くなっています。

【全国調査】

- 全国調査と比較すると、今回調査のほうがやや“平等である”が多くなっています。
- 男性は全国調査とほぼ同じ傾向ですが、女性は全国調査より“男性優遇”が少なく「平等である」が多くなっています。



※1 全国調査の選択肢は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」

※2 「わからない」は大阪府調査のみの選択肢

⑤雇用の機会や職業の選択では

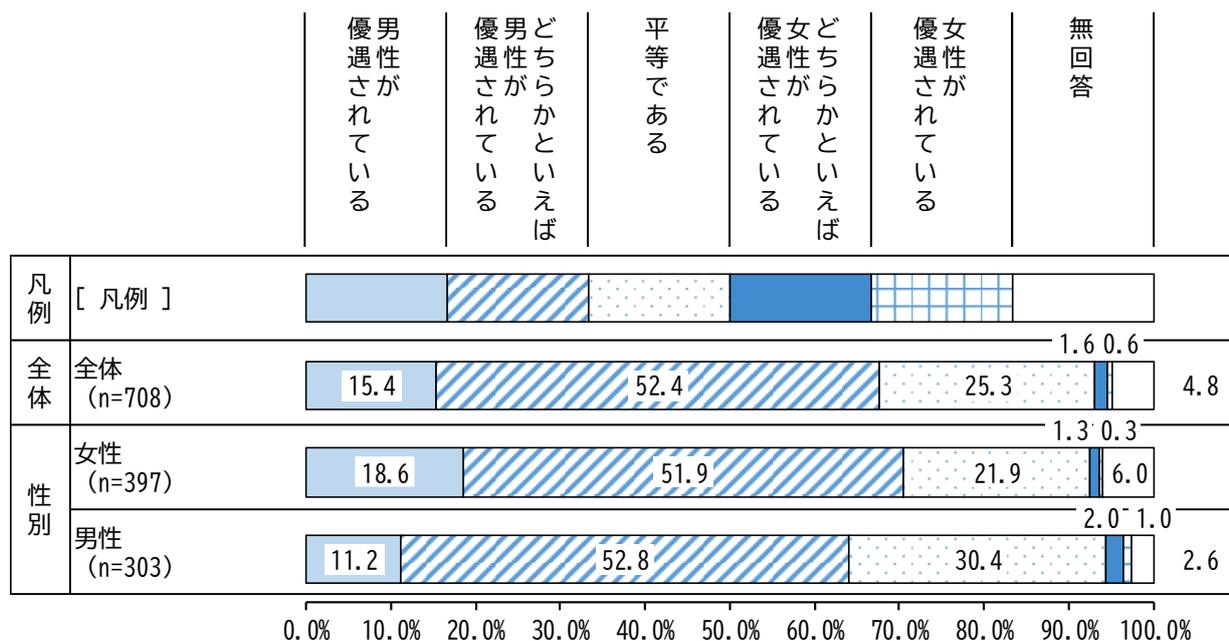
【全体】

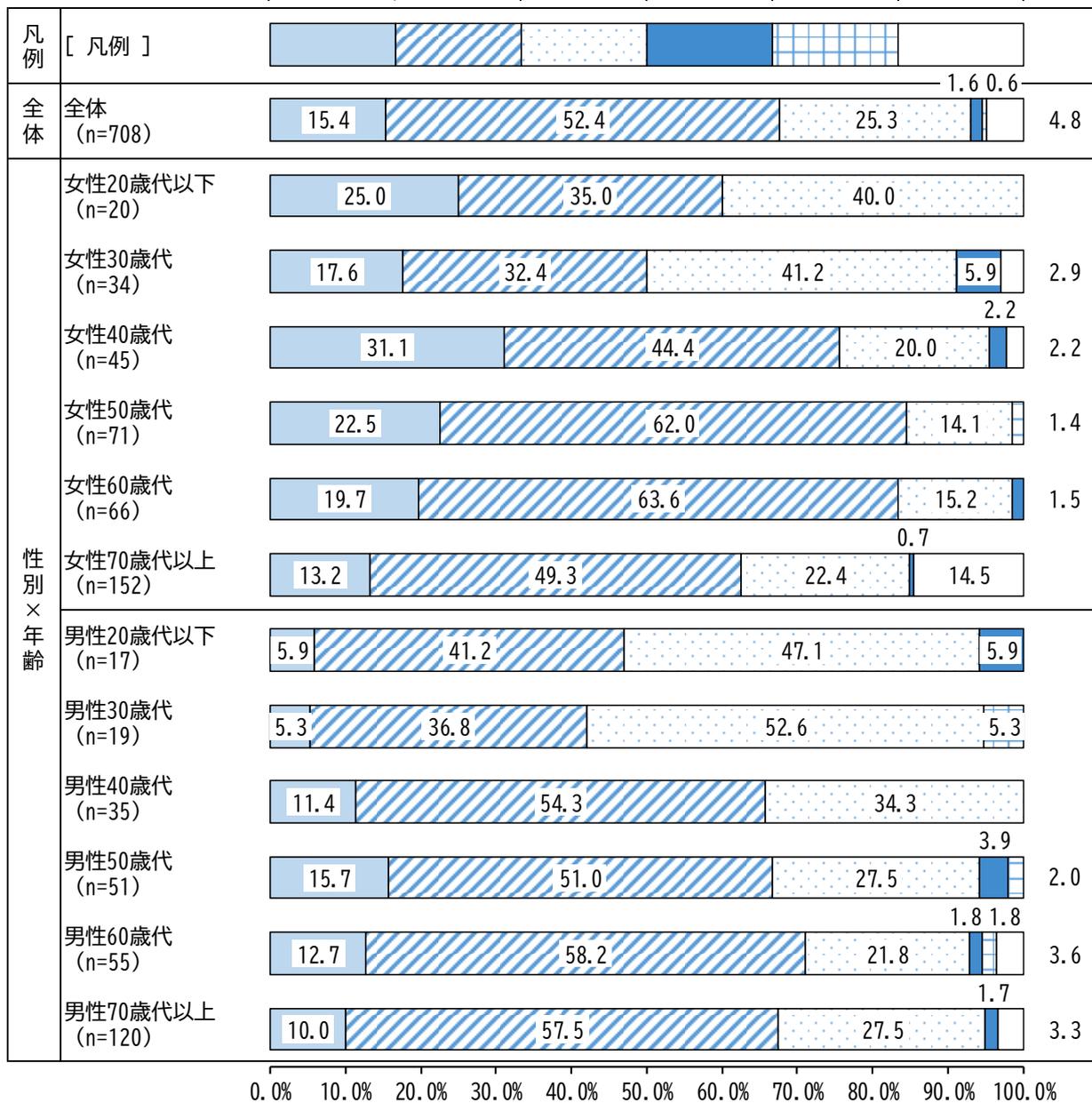
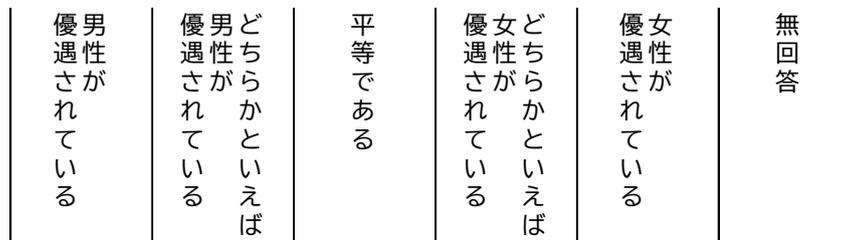
- 「どちらかといえば男性が優遇されている」が 52.4%で最も多く、次いで「平等である」が 25.3%、「男性が優遇されている」が 15.4%となっています。
- 「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は 67.8%となっています。「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた“女性優遇”は 2.2%となっています。

【性別】

- 女性では、“男性優遇”が 70.5%で、男性の 64.0%より 6.5 ポイント多くなっています。

【⑤雇用の機会や職業の選択では】





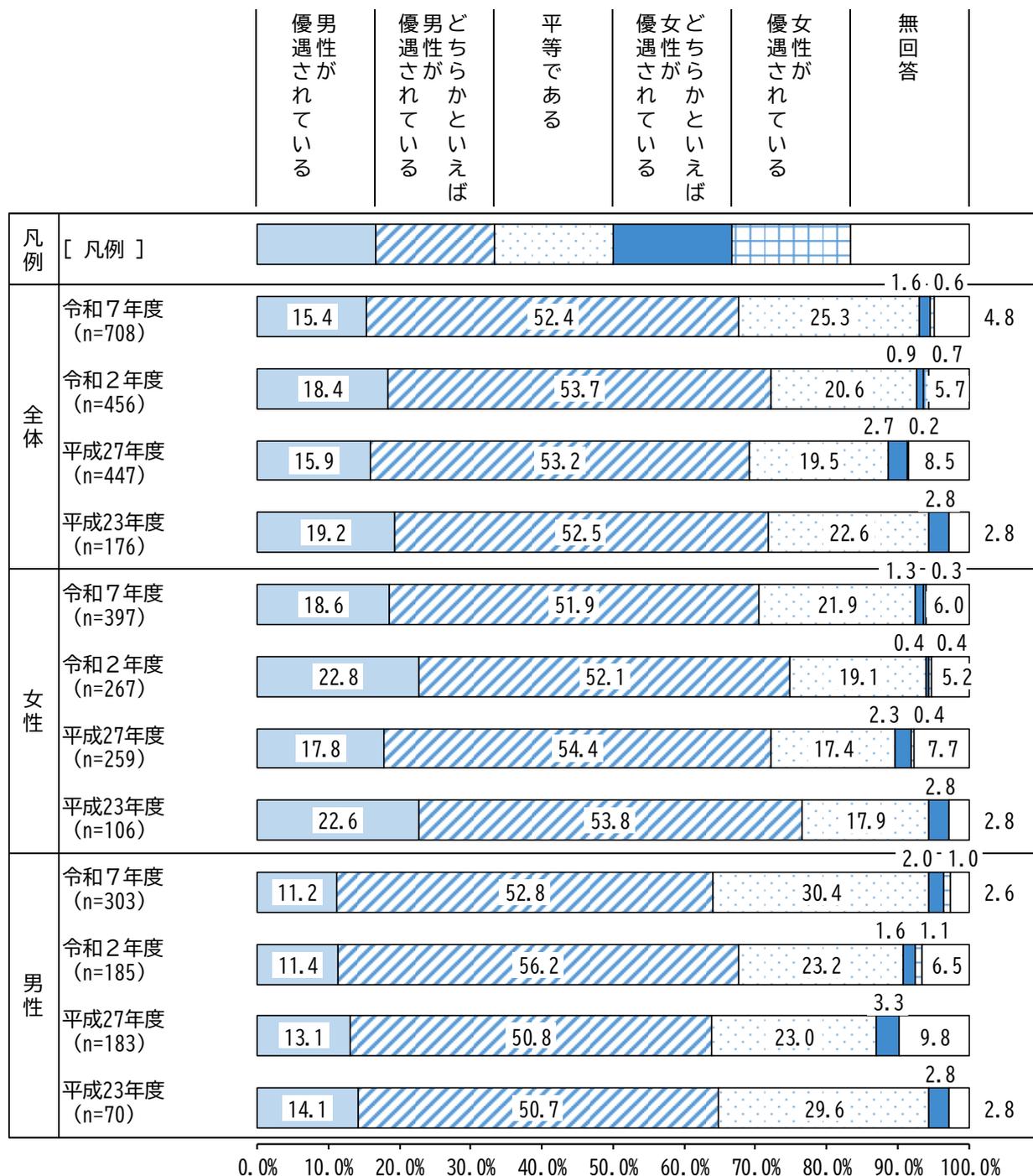
■過去調査との比較

【全体】

○ 過去調査と比較すると、いずれの年度でも“男性優遇”が約70%を占めています。

【性別】

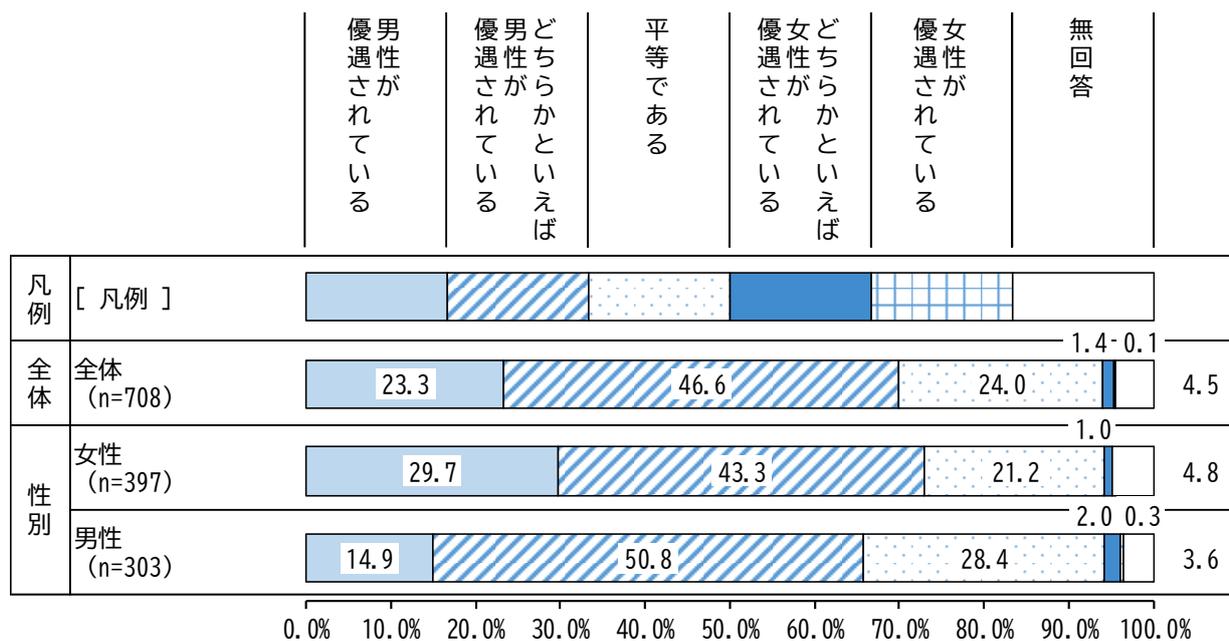
○ 男女とも令和7年度は令和2年度と比べて“男性優遇”は少なくなっています。



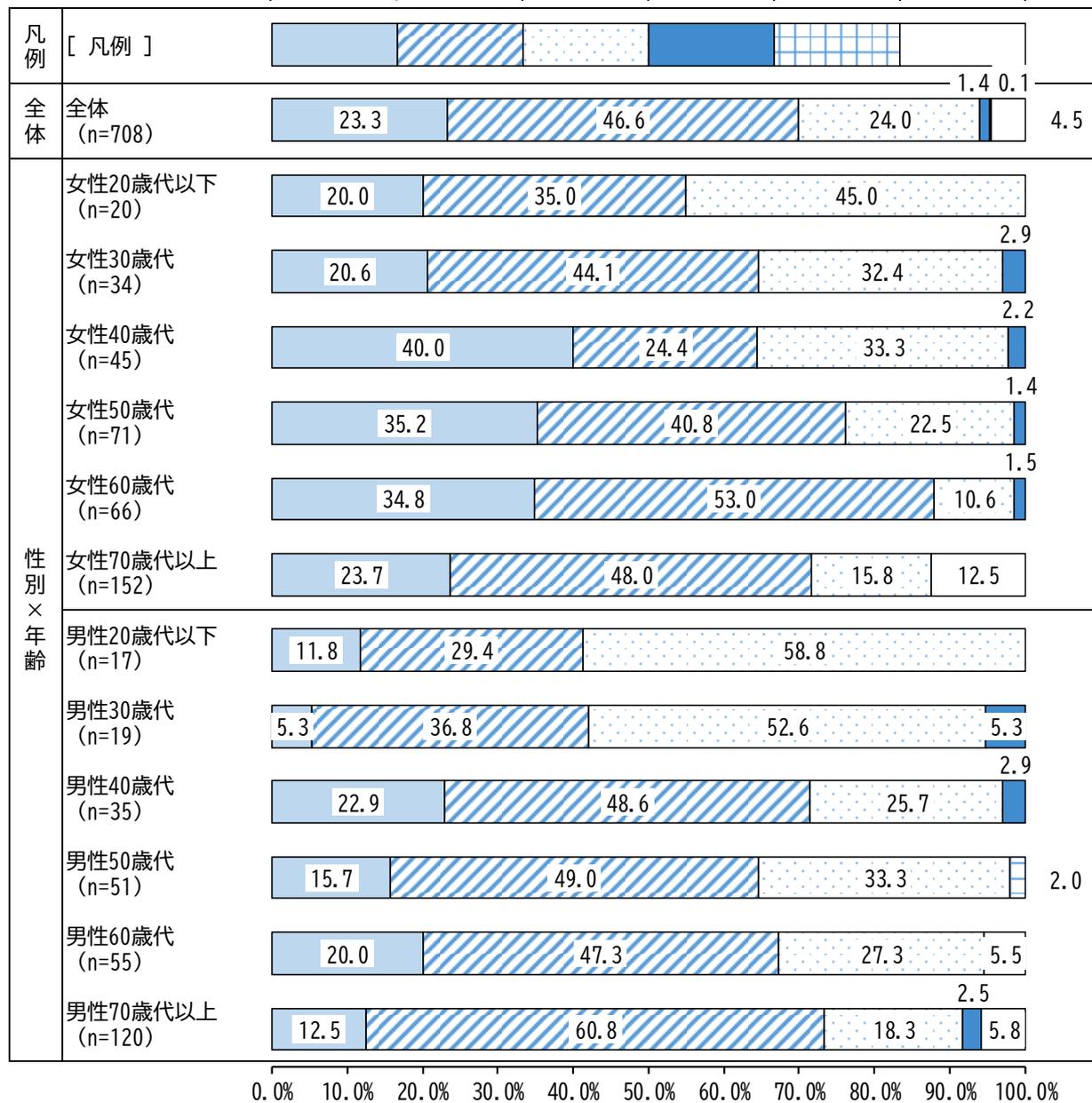
⑥職場の賃金や待遇では

- 【全体】
- 「どちらかといえば男性が優遇されている」が 46.6%で最も多く、次いで「平等である」が 24.0%、「男性が優遇されている」が 23.3%となっています。
 - 「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は69.9%となっています。「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた“女性優遇”は 1.5%となっています。
- 【性別】
- 女性では、“男性優遇”が73.0%で、男性の65.7%より7.3ポイント多くなっています。また、「男性が優遇されている」は女性 29.7%・男性 14.9%で、14.8ポイント差となっています。

【⑥職場の賃金や待遇では】



優男性が されている	優男性が されている どちらか といえば	平等 である	優女性が されている どちらか といえば	優女性が されている	無 回 答
---------------	-------------------------------	-----------	-------------------------------	---------------	-------------



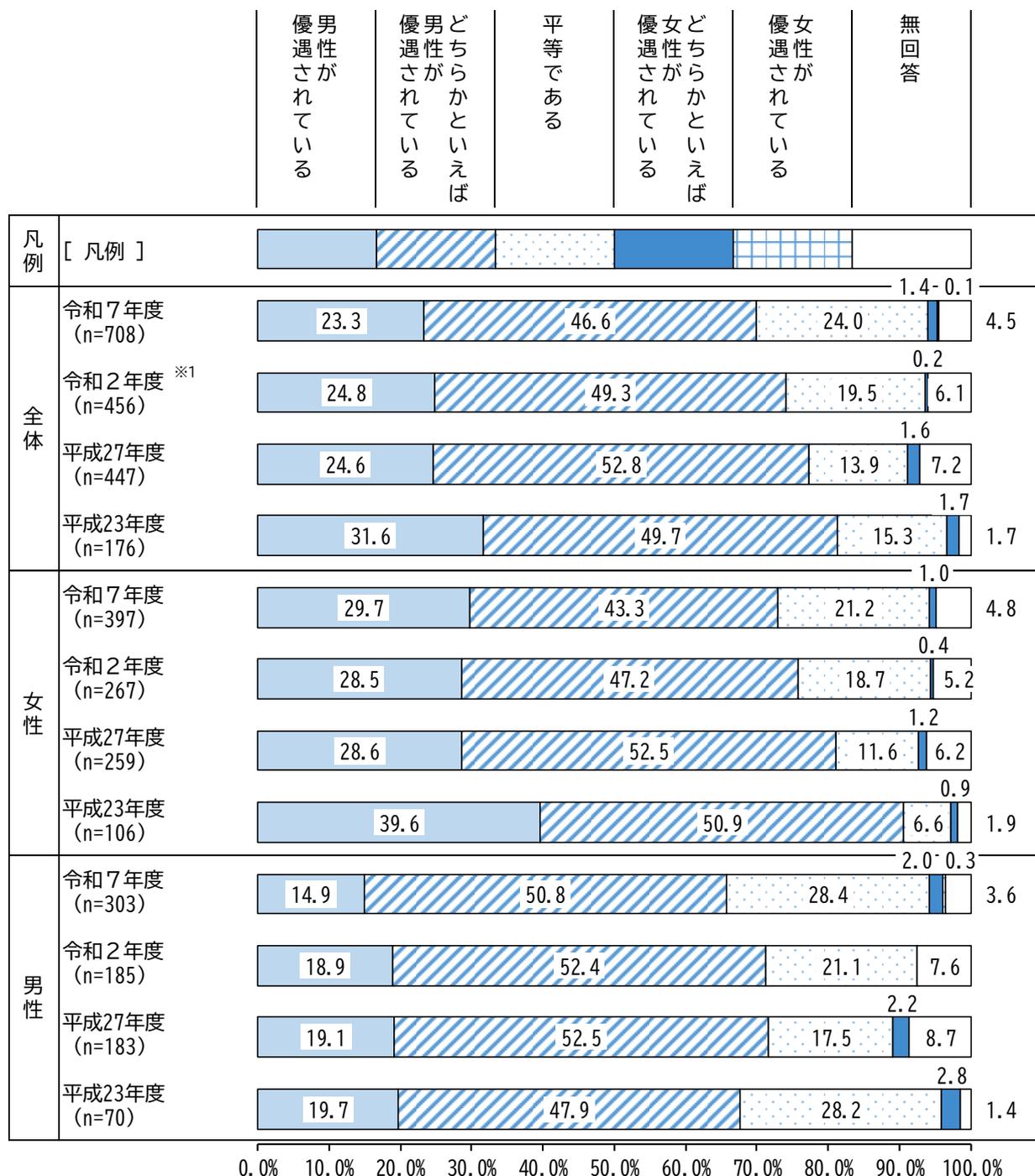
■過去調査との比較

【全体】

○ 過去調査（賃金や待遇では）と比較すると、いずれの年度でも“男性優遇”が多くを占めていますが、その割合は減少してきています。

【性別】

○ 女性の“男性優遇”は平成23年度の90.5%が令和7年度には73.0%となっています。



※1 過去調査の項目は「賃金や待遇では」

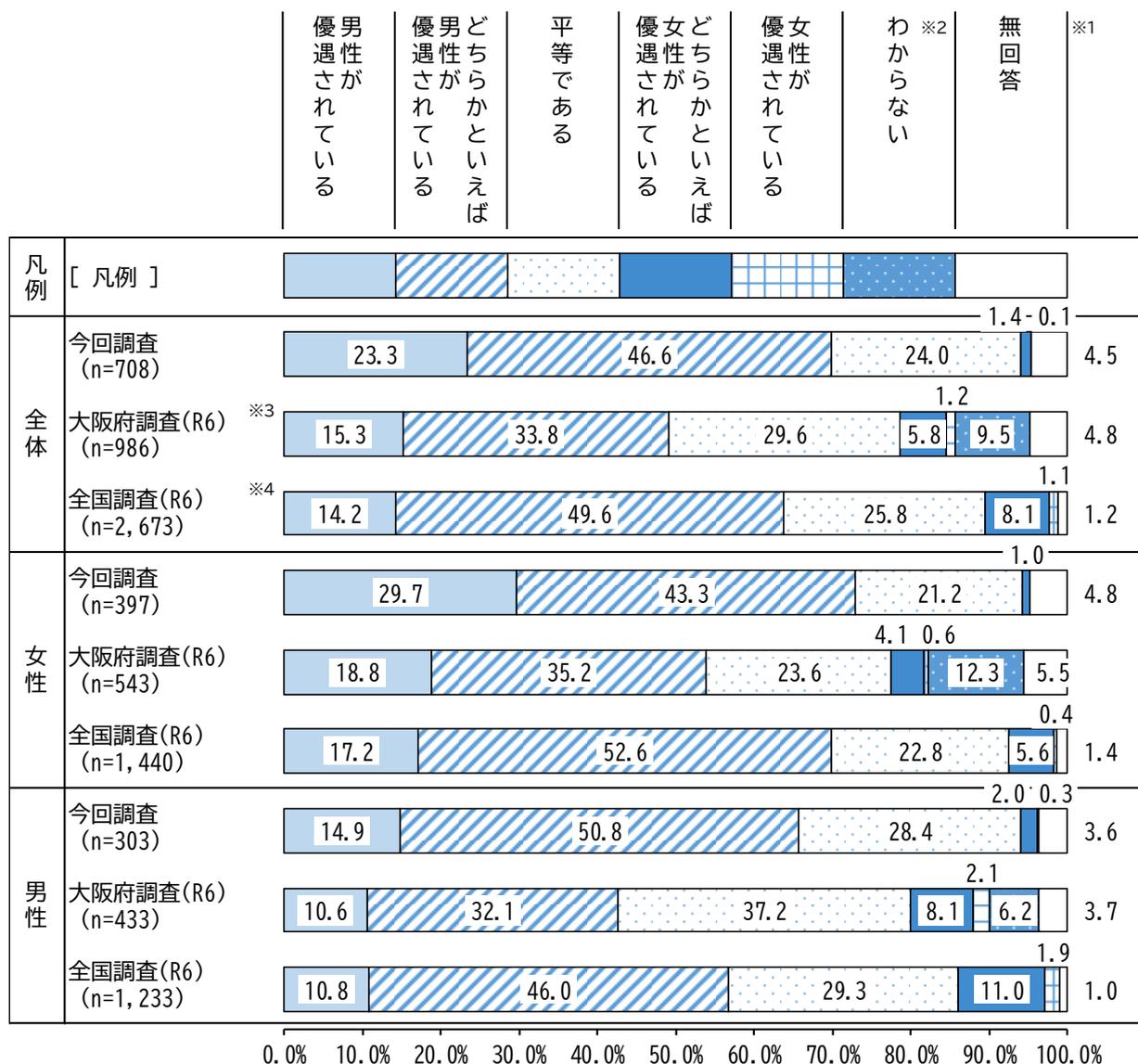
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査（職場の中で）と比較すると、今回調査は「平等である」が少なく、「男性優遇」が多くなっています。
- 男性の“男性優遇”は今回調査 65.7%・大阪府調査 42.7%と、差が大きくなっています。

【全国調査】

- 全国調査（職場で）と比較すると、今回調査は“女性優遇”が少なく、“男性優遇”が多くなっています。
- 男性では、全国調査より約 10 ポイント “男性優遇”が多くなっています。



※1 全国調査の選択肢は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」
 ※2 「わからない」は大阪府調査のみの選択肢
 ※3 大阪府調査の項目は「職場の中で」
 ※4 全国調査の項目は「職場で」

⑦家庭生活では

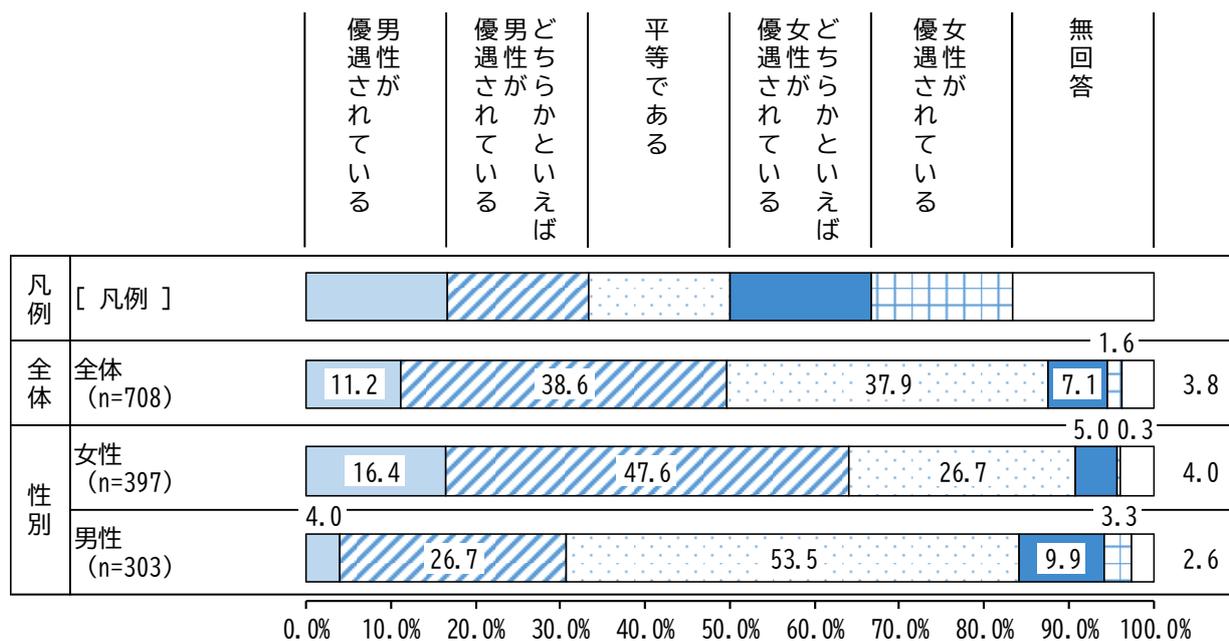
【全体】

- 「どちらかといえば男性が優遇されている」が 38.6%で最も多く、次いで「平等である」が 37.9%、「男性が優遇されている」が 11.2%となっています。
- 「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は49.8%となっています。「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた“女性優遇”は 8.7%となっています。

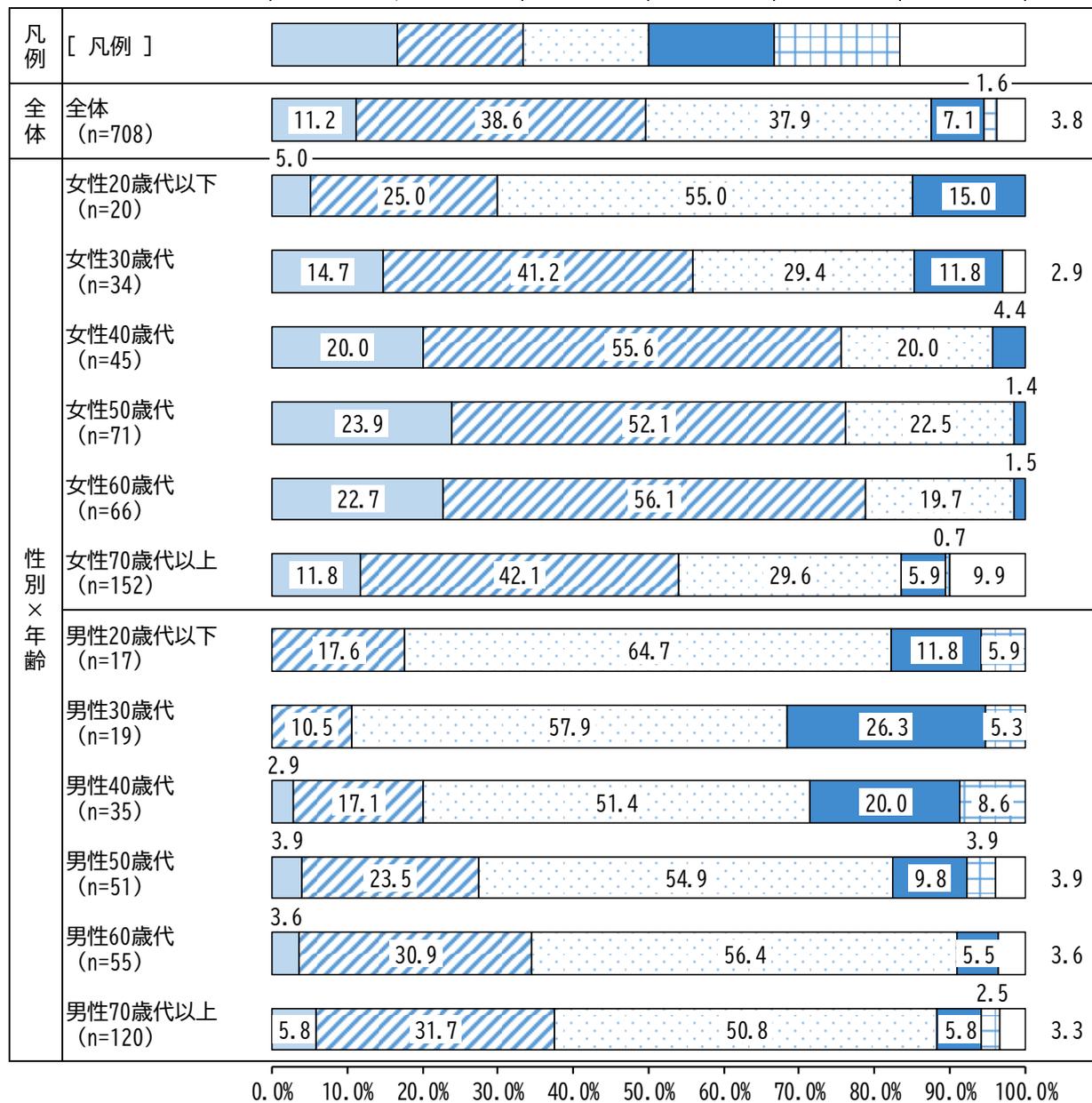
【性別】

- 女性では、“男性優遇”が 64.0%で、男性の 30.7%より 33.3 ポイント多くなっています。
- 男性では、「平等である」が女性より 26.8 ポイント多く、50%を超えています。

【⑦家庭生活では】



優男性が 優遇されて いる	優男性が 優遇されて いる どちらか といえ ば	平等 である	優女性が 優遇されて いる どちらか といえ ば	優女性が 優遇されて いる	無 回 答
---------------------	---	-----------	---	---------------------	-------------



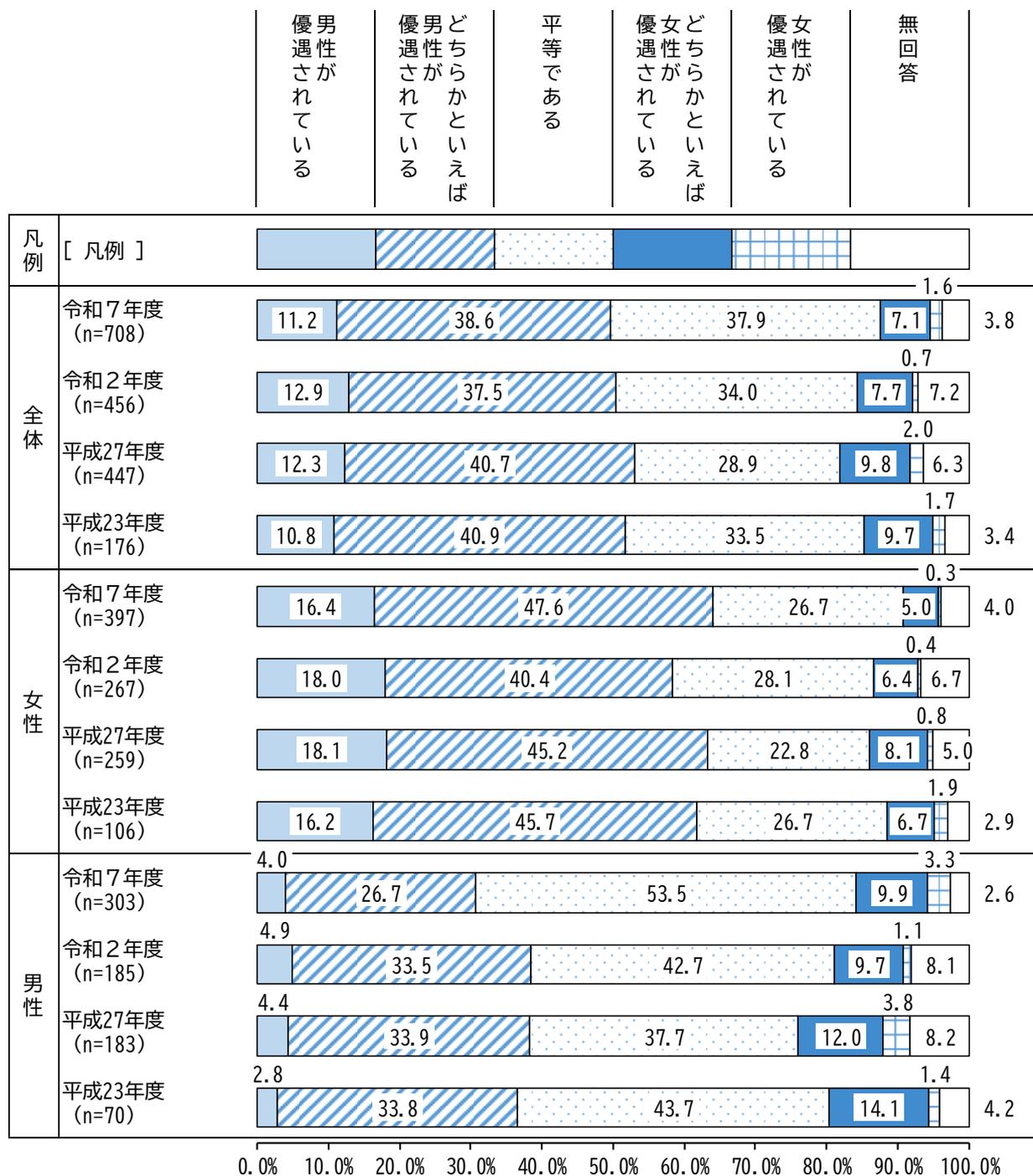
■過去調査との比較

【全体】

○ 過去調査と比較すると、いずれの年度でも“男性優遇”が約50%を占めています。

【性別】

○ 令和7年度の女性は“男性優遇”が令和2年度より多くなっていますが、男性は“男性優遇”が令和2年度より少なくなっています。



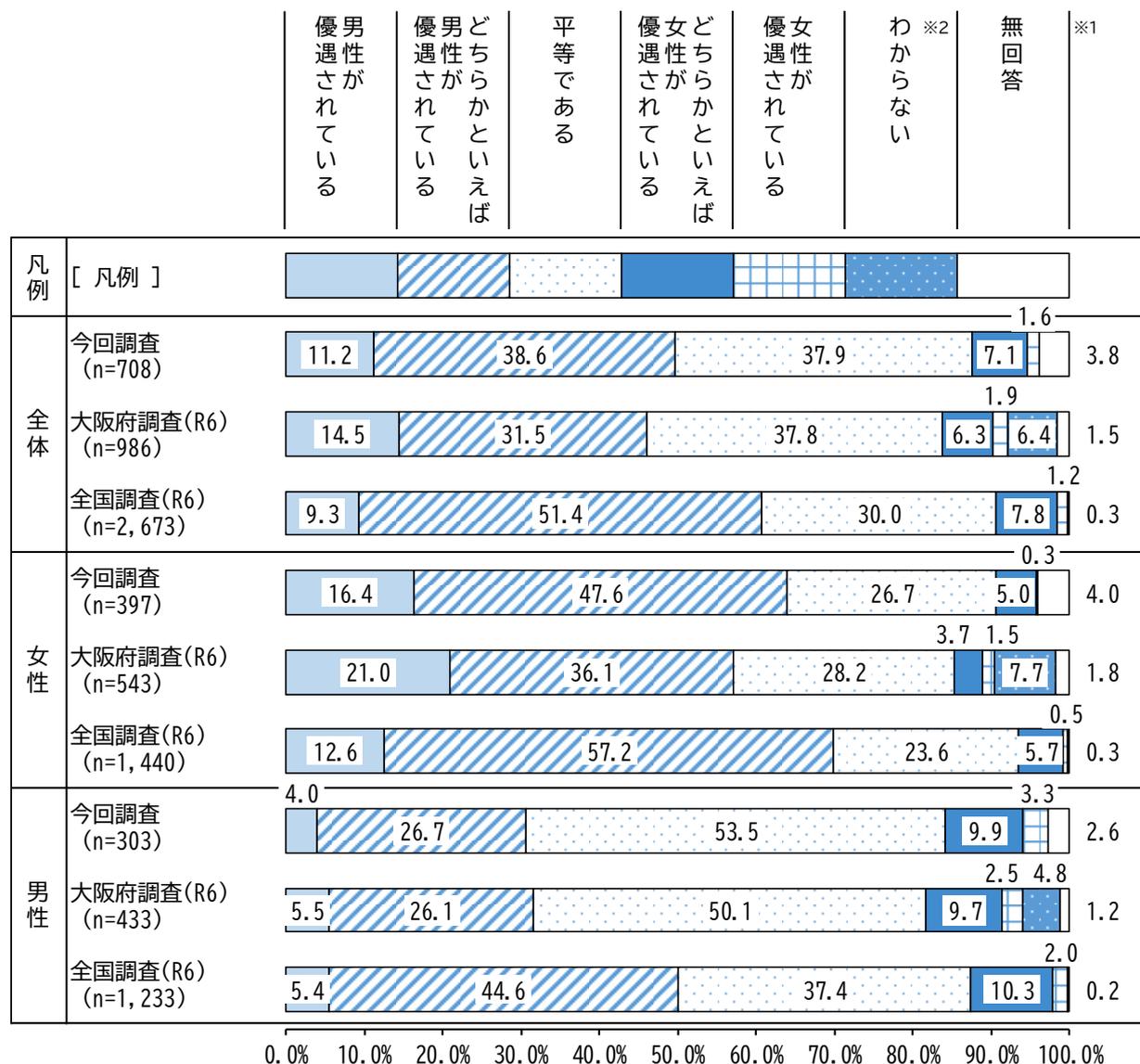
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、今回調査と大阪府調査ともに、女性では“男性優遇”が約60%、男性では「平等である」が約50%を占めています。

【全国調査】

- 全国調査と比較すると、今回調査は“男性優遇”が少なく、「平等である」が多くなっています。
- 今回調査の男性では「平等である」が50%を超えています、全国調査の男性では“男性優遇”が50.0%となっています。



※1 全国調査の選択肢は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」

※2 「わからない」は大阪府調査のみの選択肢

⑧政治の場では

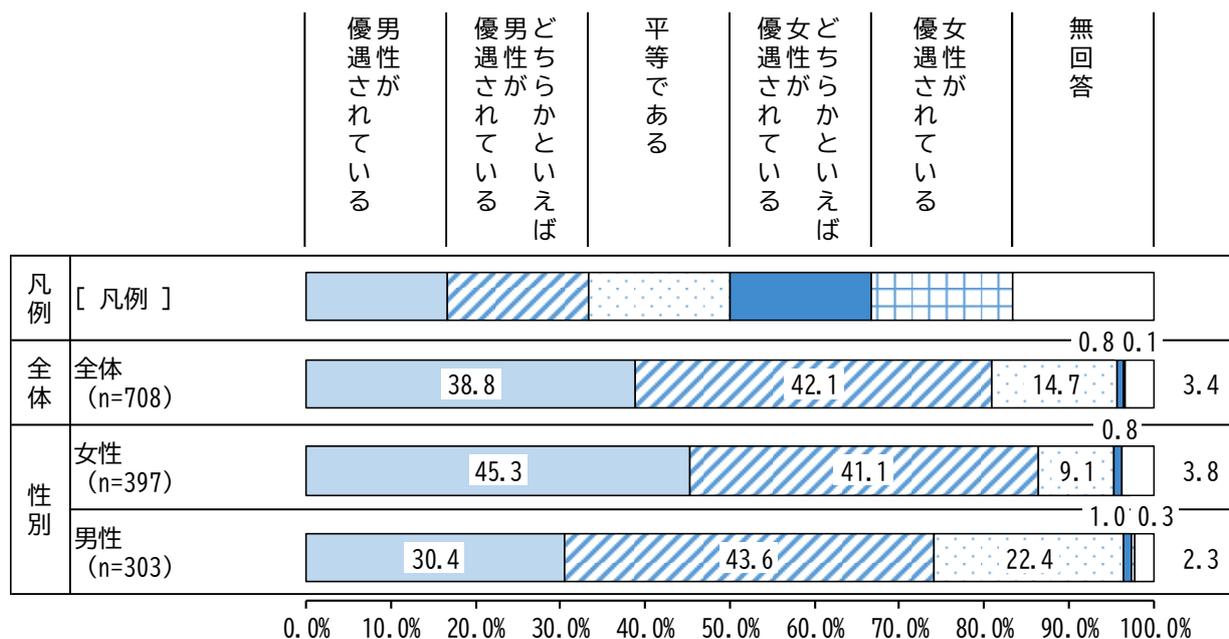
【全体】

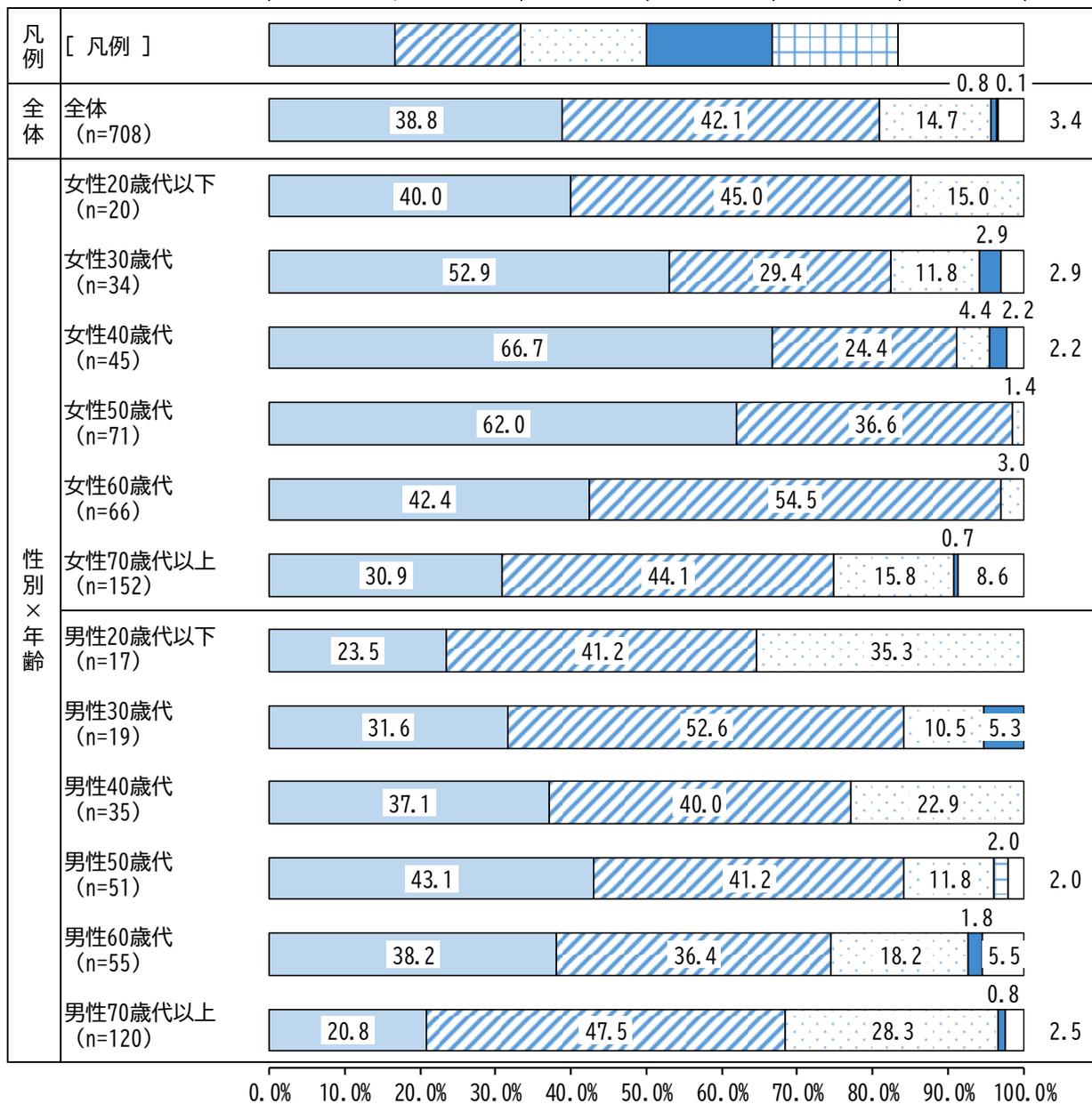
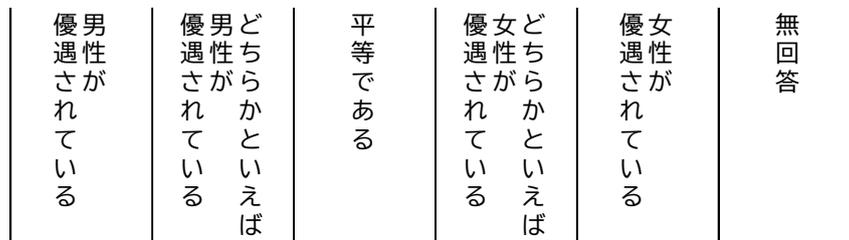
- 「どちらかといえば男性が優遇されている」が42.1%で最も多く、次いで「男性が優遇されている」が38.8%、「平等である」が14.7%となっています。
- 「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は80.9%となっています。「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた“女性優遇”は0.9%となっています。

【性別】

- 女性では、“男性優遇”が86.4%で、男性の74.0%より12.4ポイント多くなっています。

【⑧政治の場では】





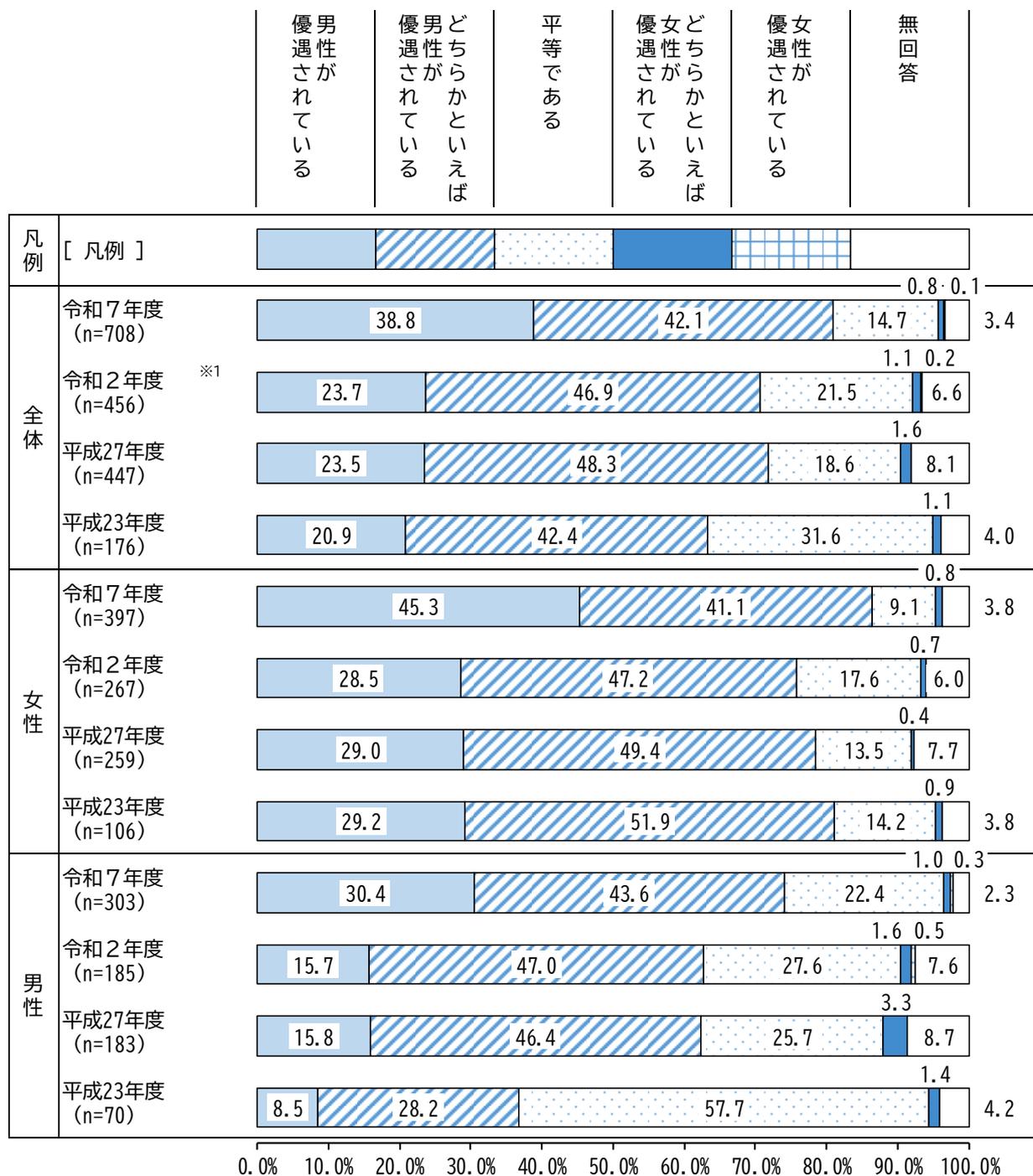
■過去調査との比較

【全体】

○ 過去調査（政治・経済活動の参画では）と比較すると、今回調査は“男性優遇”が多くなっています。

【性別】

○ 男性の“男性優遇”は平成23年度の36.7%が令和7年度には74.0%と多くなっています。



※1 過去調査の項目は「政治・経済活動の参画では」

■大阪府調査・全国調査との比較

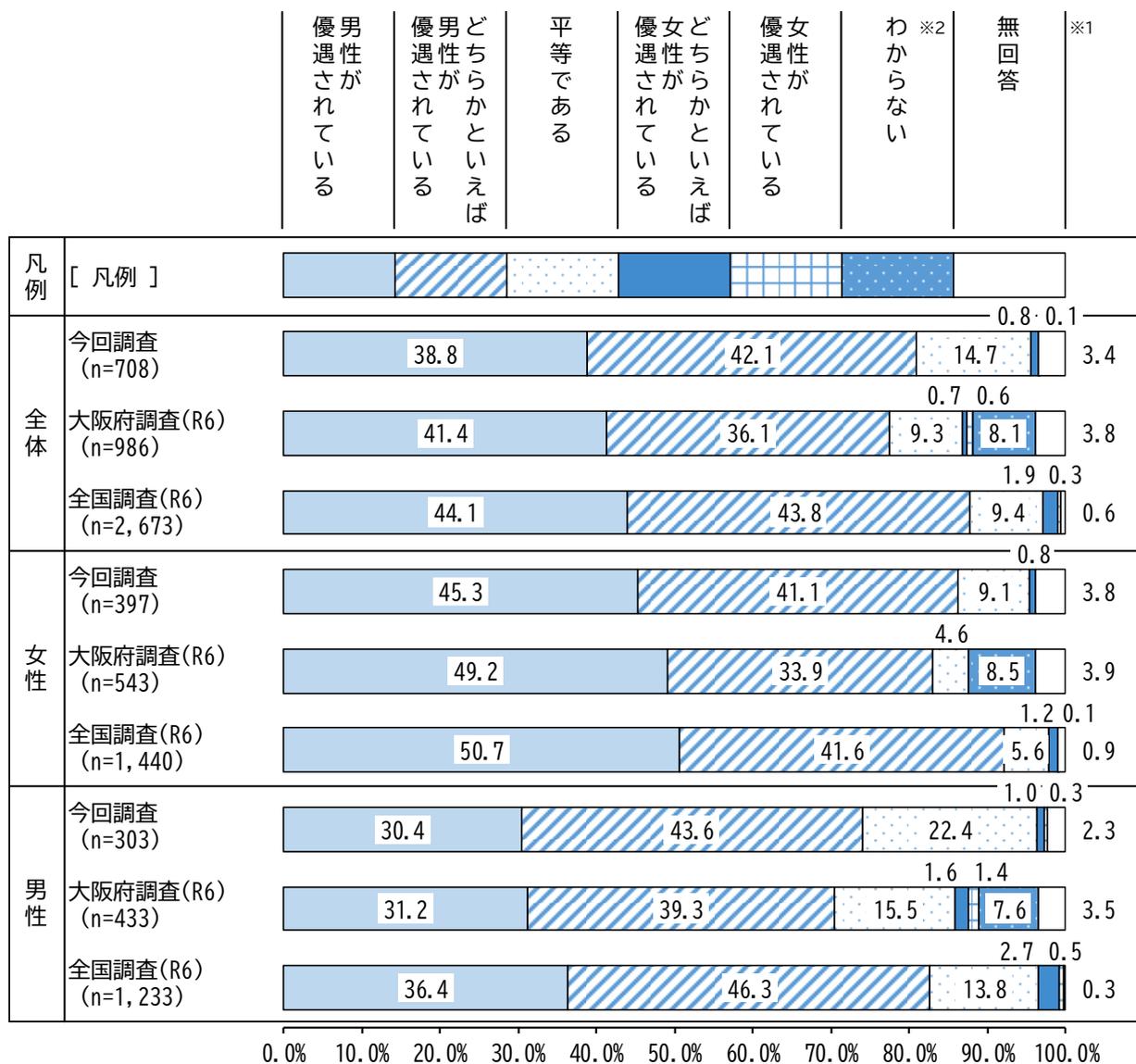
【大阪府調査】

○ 大阪府調査と比較すると、今回調査は「平等である」が多くなっています。

【全国調査】

○ 全国調査と比較すると、今回調査は「平等である」が多くなっています。

○ 男性では、全国調査より約10ポイント「平等である」が多くなっています。



※1 全国調査の選択肢は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」

※2 「わからない」は大阪府調査のみの選択肢

⑨社会全体では

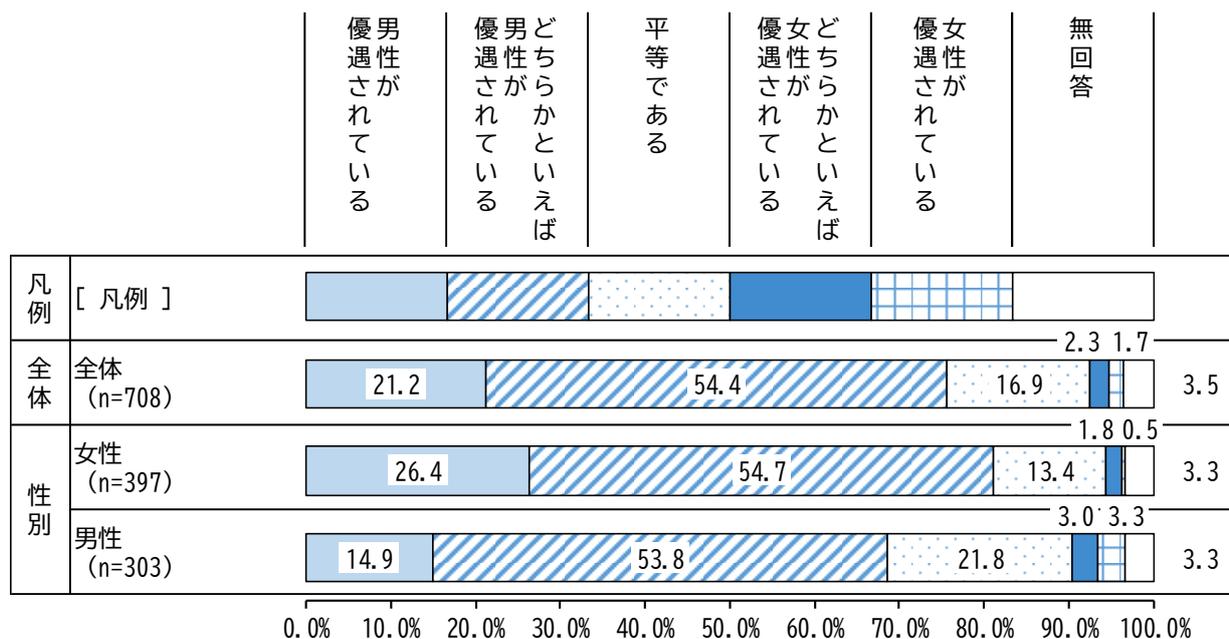
【全体】

- 「どちらかといえば男性が優遇されている」が54.4%で最も多く、次いで「男性が優遇されている」が21.2%、「平等である」が16.9%となっています。
- 「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は75.6%となっています。「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた“女性優遇”は4.0%となっています。

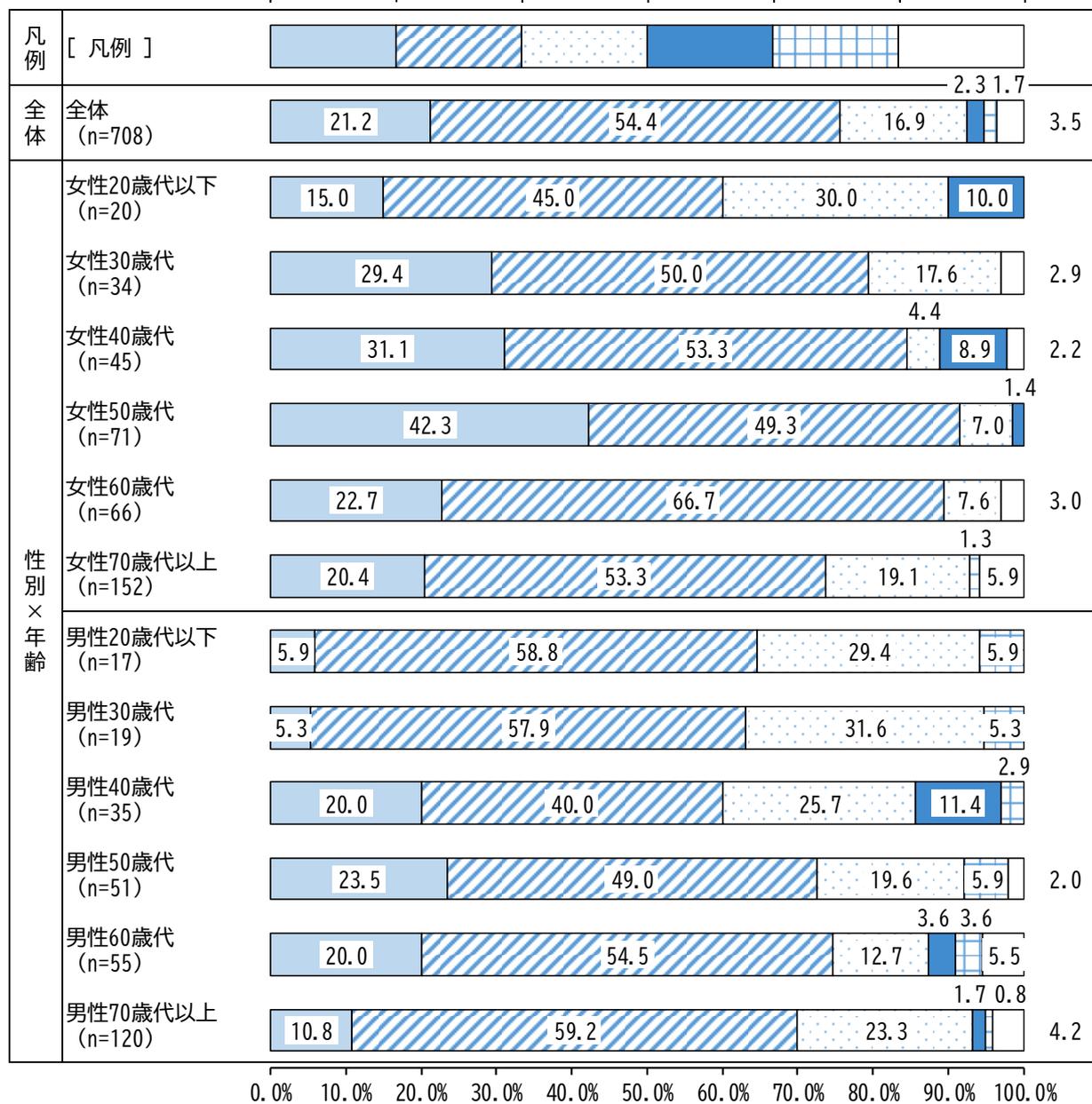
【性別】

- 女性では、“男性優遇”が81.1%で、男性の68.7%より12.4ポイント多くなっています。

【⑨社会全体では】



優男性が 優遇されて いる	優男性が 優遇されて いる どちらか といえ ば	平等で ある	優女性が 優遇されて いる どちらか といえ ば	優女性が 優遇されて いる	無 回 答
---------------------	---	-----------	---	---------------------	-------------



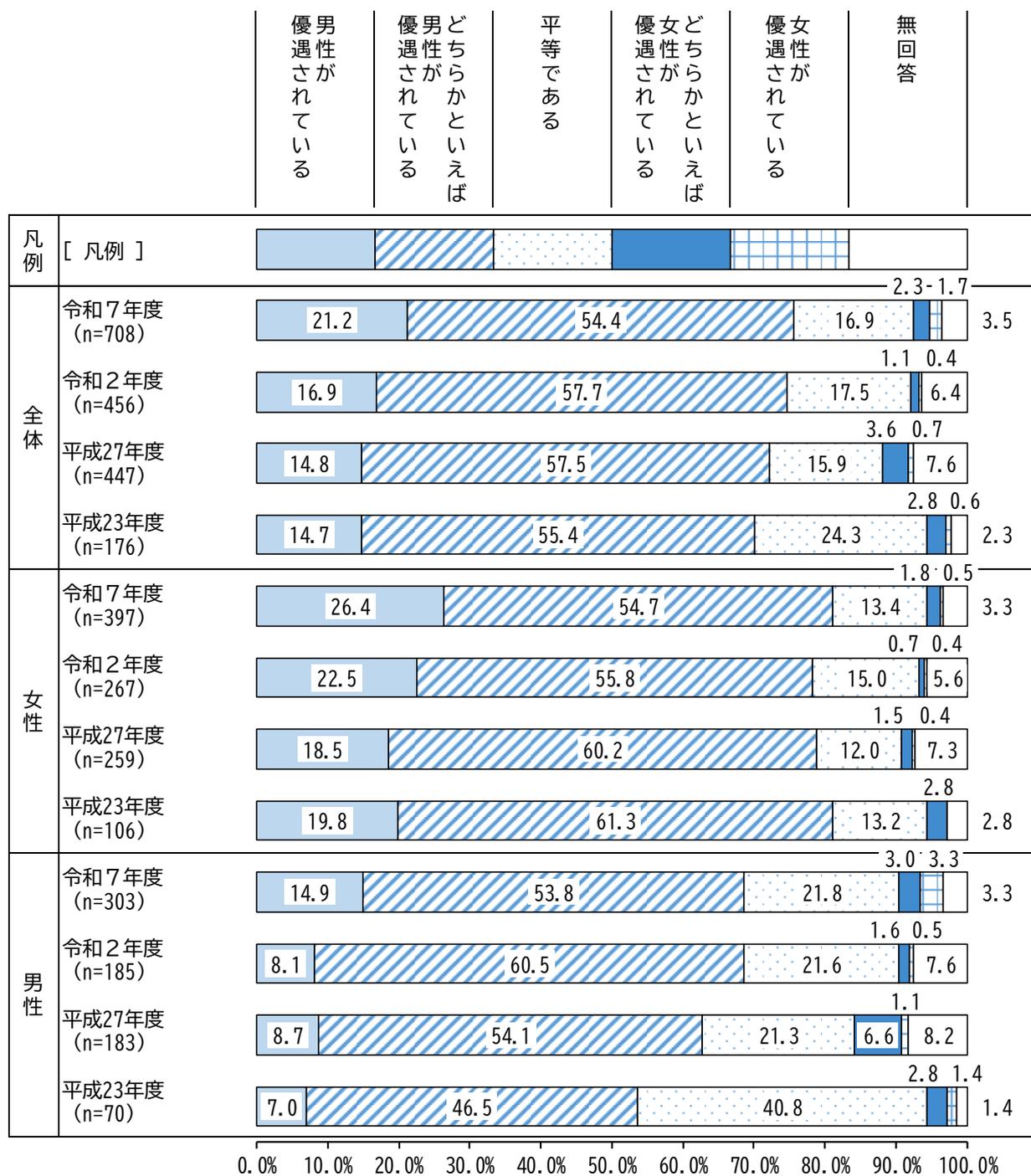
■過去調査との比較

【全体】

○ 過去調査と比較すると、いずれの年度でも“男性優遇”が70%を超えており、割合の増加が続いています。

【性別】

○ 女性では、いずれの年度でも“男性優遇”が約80%を占めています。
 ○ 男性では、平成23年度から令和2年度にかけて“男性優遇”が増加し、令和7年度の“男性優遇”は令和2年度とほぼ同じとなっています。



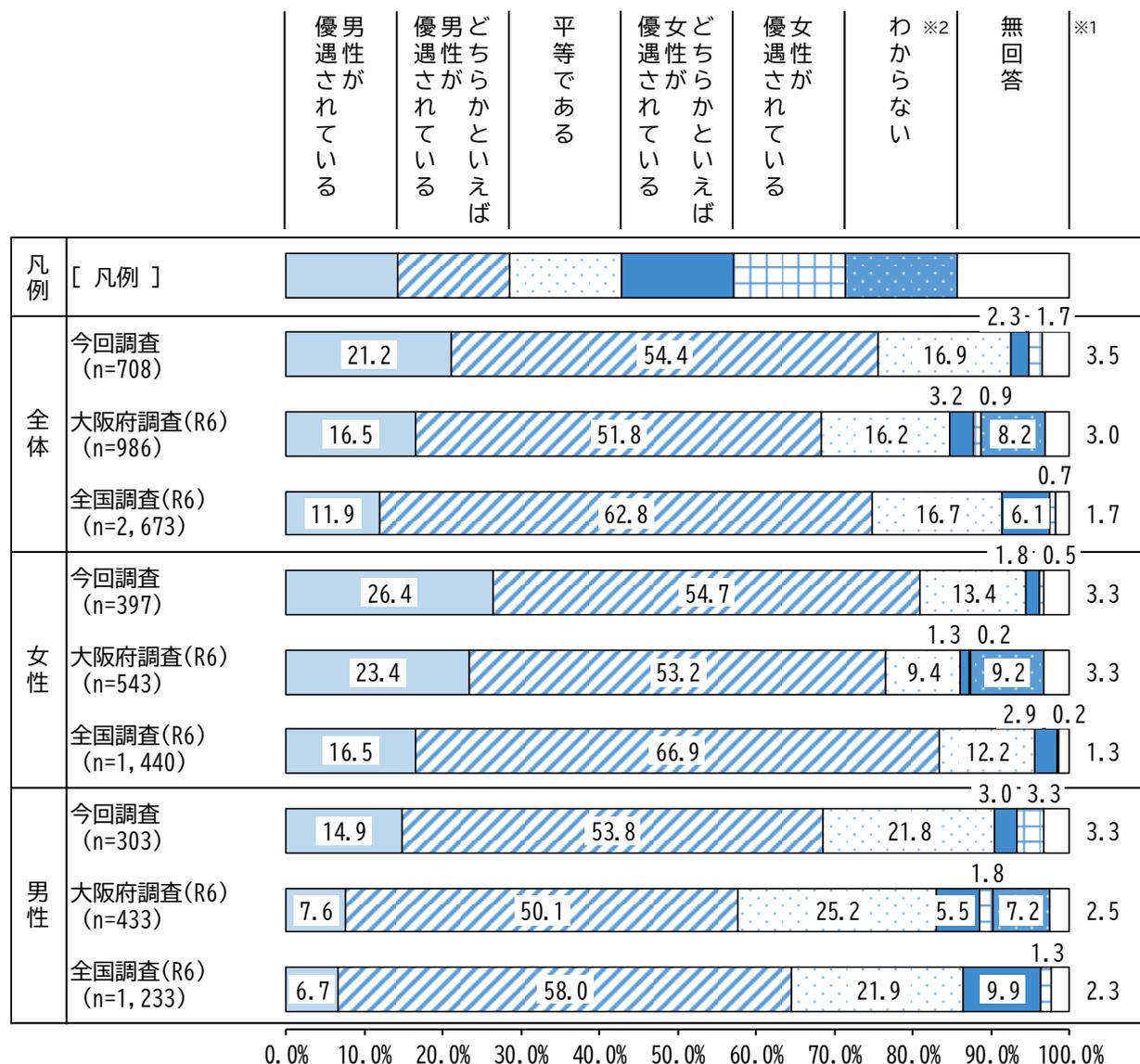
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、男性では大阪府調査より「平等である」が少なく、“男性優遇”が多くなっています。

【全国調査】

- 全国調査と比較すると、今回調査は「どちらかといえば男性が優遇されている」が少なく、「男性が優遇されている」が多くなっています。
- 男女とも全国調査より、「男性が優遇されている」が多く、女性は「どちらかといえば男性が優遇されている」、男性は「どちらかといえば女性が優遇されている」が少なくなっています。



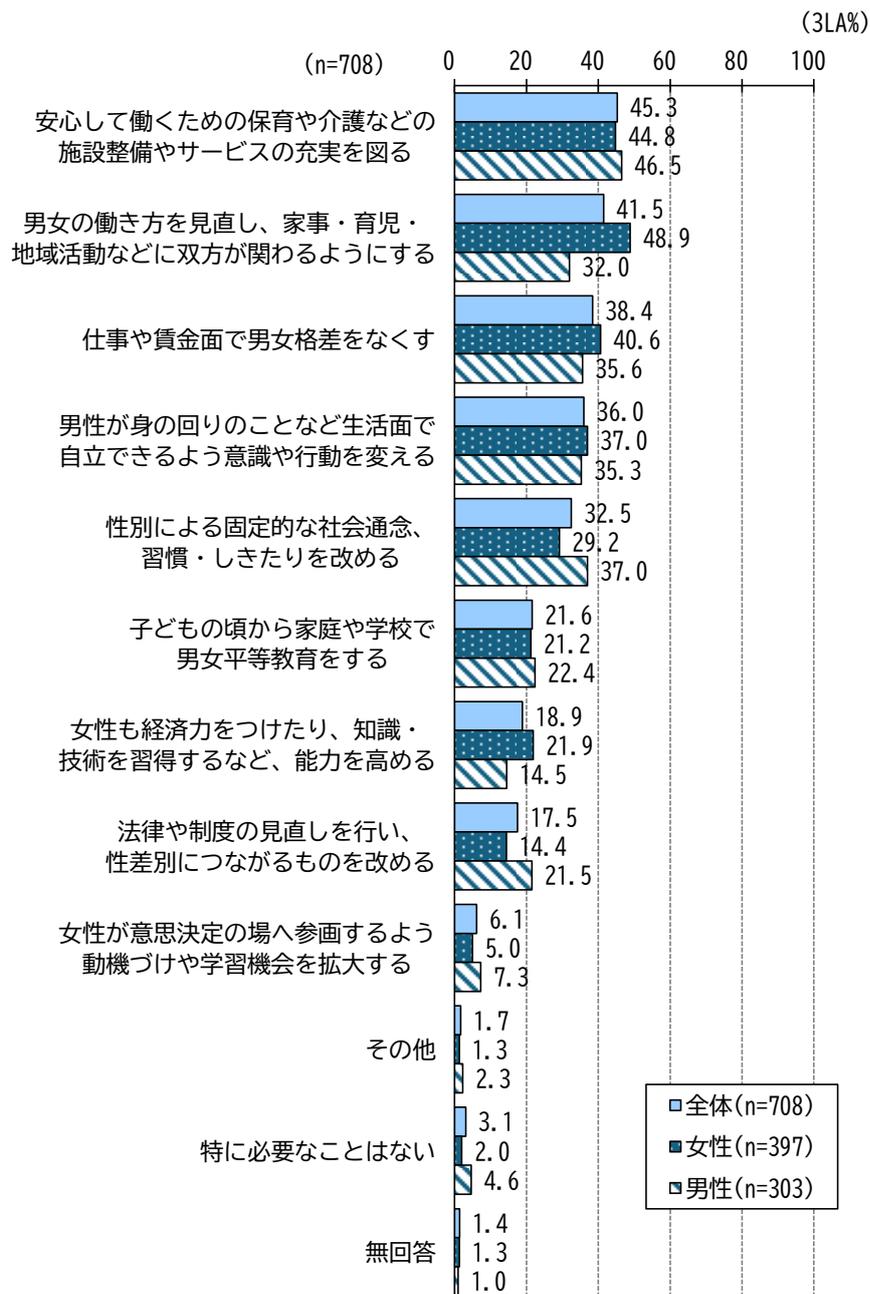
※1 全国調査の選択肢は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」

※2 「わからない」は大阪府調査のみの選択肢

問2 あなたは、今後さらに、だれもが暮らしやすい社会になるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- 【全体】
- 〇 だれもが暮らしやすい社会になるために必要なことについて、「安心して働くための保育や介護などの施設整備やサービスの充実を図る」が45.3%で最も多く、次いで「男女の働き方を見直し、家事・育児・地域活動などに双方が関わるようにする」が41.5%、「仕事や賃金面で男女格差をなくす」が38.4%となっています。
- 【性別】
- 〇 女性は「男女の働き方を見直し、家事・育児・地域活動などに双方が関わるようにする」、男性は「安心して働くための保育や介護などの施設整備やサービスの充実を図る」が最も多くなっています。

【だれもが暮らしやすい社会になるために必要なこと(3LA)】



		母数 (n)	だれもが暮らしやすい社会になるために必要なこと(3LA)																
			性 差 別 に つ な が る も の を 改 め る	法 律 や 制 度 の 見 直 し を 行 い 、 習 慣 ・ し き た り を 改 め る	性 別 に よ る 固 定 的 な 社 会 通 念 、 男 子 の 頃 か ら 家 庭 や 学 校 で 男 女 平 等 教 育 を す る	男 子 の 頃 か ら 家 庭 や 学 校 で 男 女 平 等 教 育 を す る	仕 事 や 賃 金 面 で 男 女 格 差 を な く す	双 方 が 関 わ る よ う に す る	家 事 ・ 育 児 ・ 地 域 活 動 な ど に	男 女 の 働 き 方 を 見 直 し 、 サ ー ビ ス の 充 実 を 図 る	介 護 な ど の 施 設 整 備 や	安 心 し て 働 く た め の 保 育 や	学 習 機 会 を 拡 大 す る	参 画 す る よ う な 機 構 の 設 立	女 性 が 意 思 決 定 の 場 合 に 能 力 を 高 め る	知 識 ・ 技 術 を 習 得 す る な ど	女 性 も 経 済 力 を つ け たり 、 意 識 や 行 動 を 変 え る	生 活 面 で 自 立 で き る よ う な こ と な ど	男 性 が 身 の 回 り の こ と な ど
全体		708	17.5	32.5	21.6	38.4	41.5	45.3	6.1	18.9	36.0	1.7	3.1	1.4					
性別×年齢	女性20歳代以下	20	15.0	35.0	▼ 10.0	△ 70.0	△ 65.0	▼ 25.0	5.0	10.0	▼ 25.0	5.0	-	-					
	女性30歳代	34	11.8	▼ 17.6	26.5	35.3	△ 64.7	44.1	11.8	17.6	44.1	-	-	-					
	女性40歳代	45	15.6	37.8	22.2	37.8	△ 57.8	▼ 31.1	4.4	17.8	35.6	-	-	2.2					
	女性50歳代	71	14.1	35.2	18.3	33.8	△ 54.9	△ 56.3	4.2	15.5	38.0	2.8	-	-					
	女性60歳代	66	19.7	37.9	15.2	36.4	48.5	50.0	6.1	24.2	36.4	1.5	1.5	-					
	女性70歳代以上	152	13.2	▼ 22.4	23.0	42.8	38.8	44.1	3.9	27.6	36.2	0.7	4.6	2.6					
	男性20歳代以下	17	▼ 5.9	35.3	29.4	▼ 23.5	△ 58.8	52.9	11.8	23.5	▼ 11.8	-	5.9	-					
	男性30歳代	19	△ 36.8	31.6	21.1	△ 52.6	47.4	▼ 31.6	10.5	15.8	26.3	-	-	-					
	男性40歳代	35	20.0	37.1	17.1	31.4	▼ 20.0	51.4	2.9	14.3	37.1	8.6	8.6	-					
	男性50歳代	51	23.5	33.3	15.7	▼ 27.5	▼ 23.5	45.1	3.9	11.8	△ 49.0	-	9.8	-					
	男性60歳代	55	△ 30.9	△ 43.6	21.8	45.5	32.7	54.5	7.3	10.9	27.3	1.8	3.6	1.8					
	男性70歳代以上	120	16.7	35.8	27.5	35.8	32.5	43.3	9.2	15.0	38.3	0.8	2.5	1.7					

■過去調査との比較

【全体】

- 過去調査と比較すると、令和7年度は「男女の働き方を見直し、家事・育児・地域活動などに双方が関わるようにする」が過去調査より多くなっています。

【性別】

- 女性では、「性別による固定的な社会通念、習慣・しきたりを改める」が平成27年度、令和2年度では約40%となっていました。令和7年度では29.2%となっています。令和7年度で最も多い「男女の働き方を見直し、家事・育児・地域活動などに双方が関わるようにする」は過去調査より10ポイント以上多くなっています。
- 男性では、平成27年度、令和2年度では「性別による固定的な社会通念、習慣・しきたりを改める」が最も多くなっていますが、令和7年度は「安心して働くための保育や介護などの施設整備やサービスの充実を図る」が最も多くなっています。

単位：％

	母数 (n)	だれもが暮らしやすい社会になるために必要なこと(3LA)												
		性差別や制度の見直しを改める	性別による固定的な社会通念、習慣・しきたりを改める※1	男子どもの頃から家庭や学校で男女平等教育をする	仕事や賃金面で男女格差をなくす	家事・育児・地域活動などに双方が関わるようにする※2	男女の働き方を見直し、サービスなどの充実を図る	介護などの施設整備や安心して働くための保育やサービスなどの充実を図る	学習機会を拡大する※3	女性が意思決定の場へ参画するよう動機づけや能力を高める	知識・技術を習得するなど、女性も経済力をつけたり、意識や行動を変えられるよう	生活面での自立できるような男性が身の回りのことなど	その他	特に必要なことはない
全体	令和7年度	708	17.5	32.5	21.6	38.4	41.5	45.3	6.1	18.9	36.0	1.7	3.1	1.4
	令和2年度	456	20.0	40.8	26.3	35.3	31.1	35.3	12.9	15.4	35.3	1.1	1.5	5.3
	平成27年度	447	17.2	39.1	23.7	36.9	32.9	37.8	8.9	21.9	33.6	1.1	2.2	4.7
	平成23年度	177	11.9	36.2	23.2	32.2	26.6	50.8	8.5	24.3	30.5	2.3	4.0	1.1
女性	令和7年度	397	14.4	29.2	21.2	40.6	48.9	44.8	5.0	21.9	37.0	1.3	2.0	1.3
	令和2年度	267	17.6	38.2	26.2	38.6	32.2	36.7	9.7	16.9	41.2	0.7	1.5	4.1
	平成27年度	259	14.7	38.2	23.6	39.0	34.0	41.3	6.6	23.2	37.1	0.4	0.8	4.2
男性	平成23年度	106	13.2	33.0	25.5	32.1	33.0	52.8	8.5	24.5	33.0	0.9	2.8	1.9
	令和7年度	303	21.5	37.0	22.4	35.6	32.0	46.5	7.3	14.5	35.3	2.3	4.6	1.0
	令和2年度	185	22.2	45.4	26.5	30.8	29.2	33.5	17.8	13.0	27.0	1.6	1.6	7.0
	平成27年度	183	21.3	40.4	24.0	35.0	31.1	31.7	12.0	20.2	29.0	1.6	4.4	5.5
	平成23年度	71	9.9	40.8	19.7	32.4	16.9	47.9	8.5	23.9	26.8	4.2	5.6	-

※1 過去調査では「固定的な社会通念、習慣・しきたりを改める」

※2 過去調査では「男女の働き方を見直し、家事・育児・地域活動などに関わるようにする」

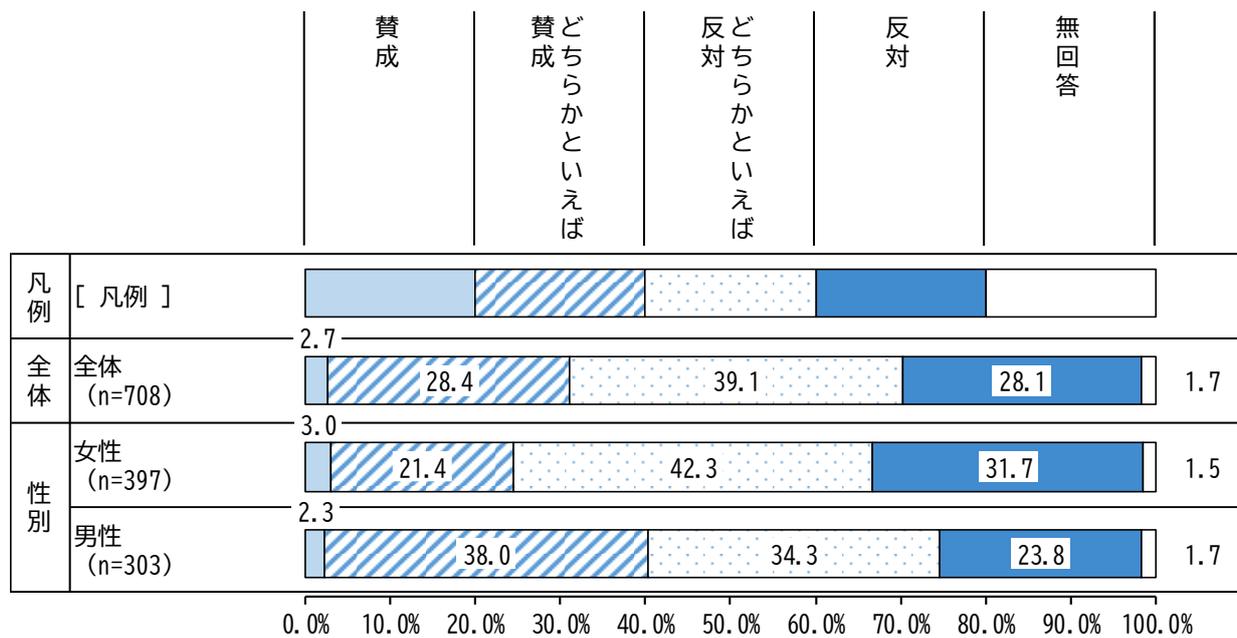
※3 過去調査では「女性のリーダーを養成し、意思決定の場への女性の参画を図る」

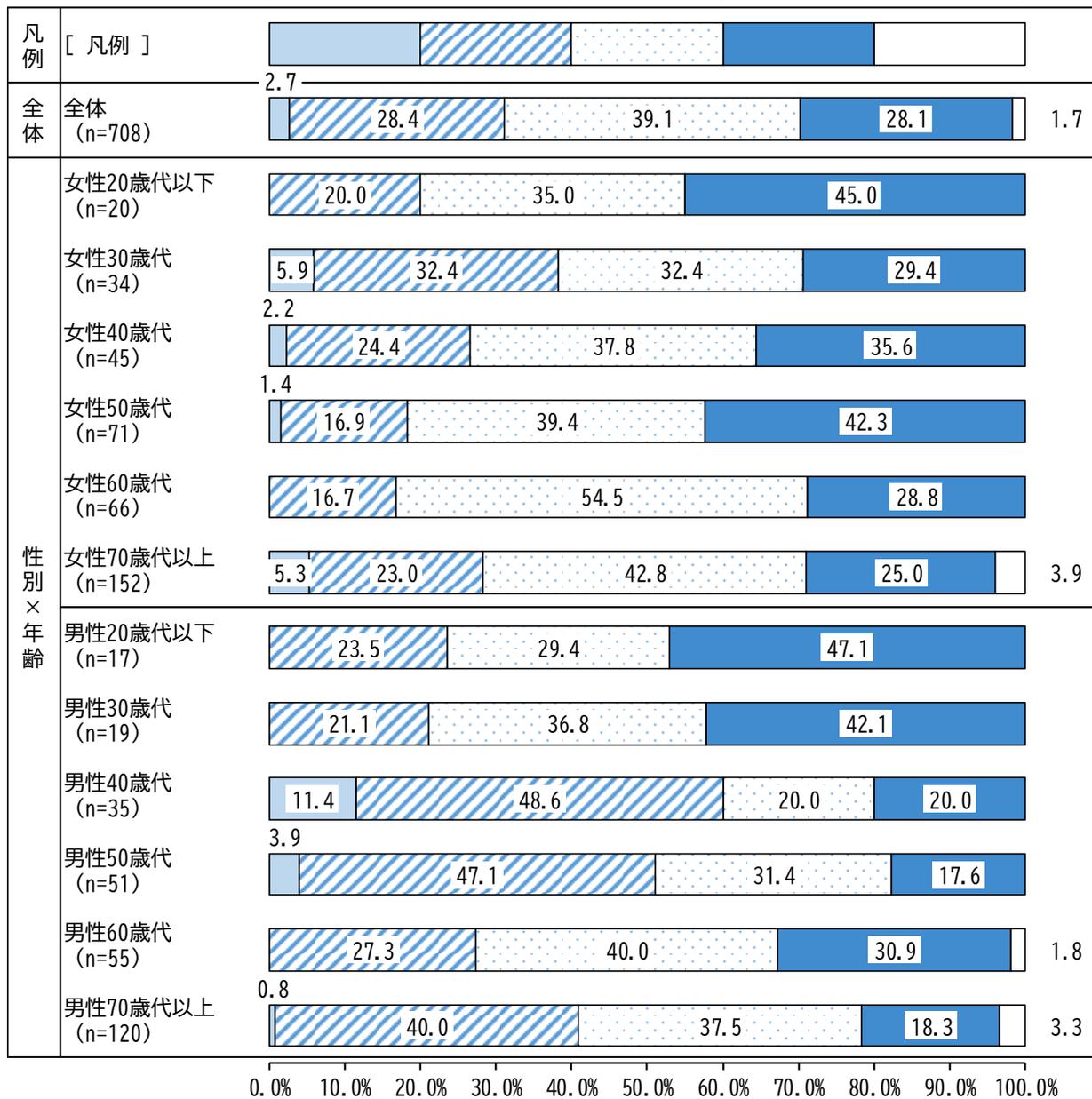
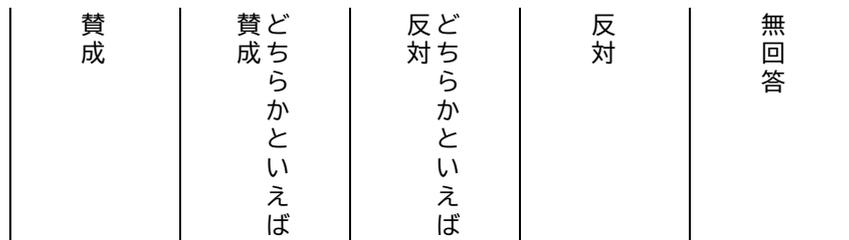
問3 次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。①～⑨までそれぞれについてお答えください。(各項目で○は1つ)

①「男性は仕事、女性は家庭」という考え方

- 【全体】**
- 「どちらかといえば反対」が 39.1%で最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が 28.4%、「反対」が 28.1%となっています。
 - 「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は 31.1%となっています。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた“反対”は 67.2%となっています。
- 【性別】**
- 女性では、“反対”が 74.0%で、男性の 58.1%より 15.9 ポイント多くなっています。

【①「男性は仕事、女性は家庭」という考え方】





■過去調査との比較

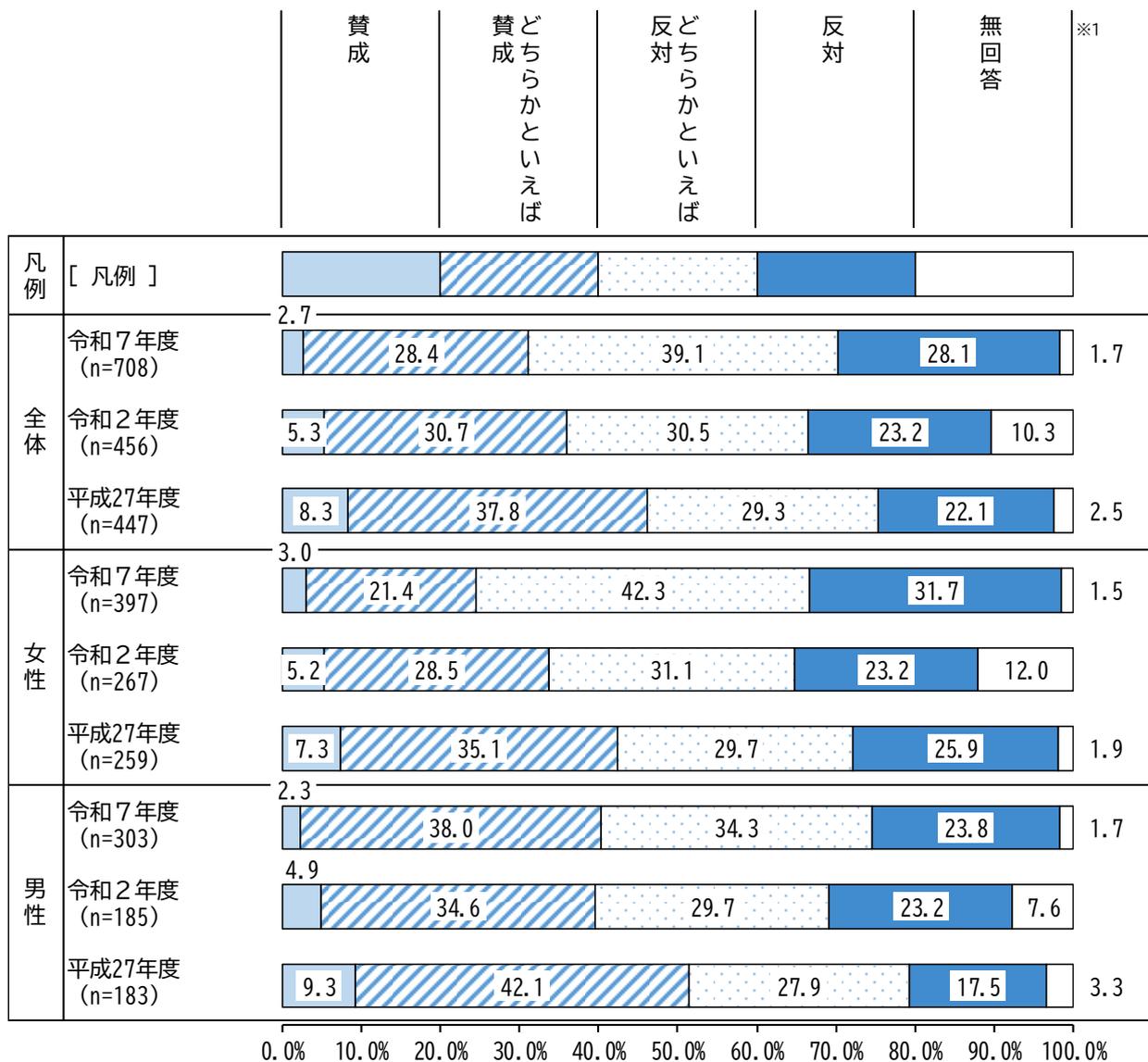
【全体】

○ 過去調査と比較すると、平成27年度以降“賛成”の減少が続き、“反対”が増加しています。

【性別】

○ 女性では“反対”の増加が続き、令和7年度では“反対”が74.0%を占めています。

○ 男性では、平成27年度には“賛成”が“反対”を上回っていましたが、令和2年度以降は“反対”が50%を超えています。



※1 過去調査の選択肢は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」

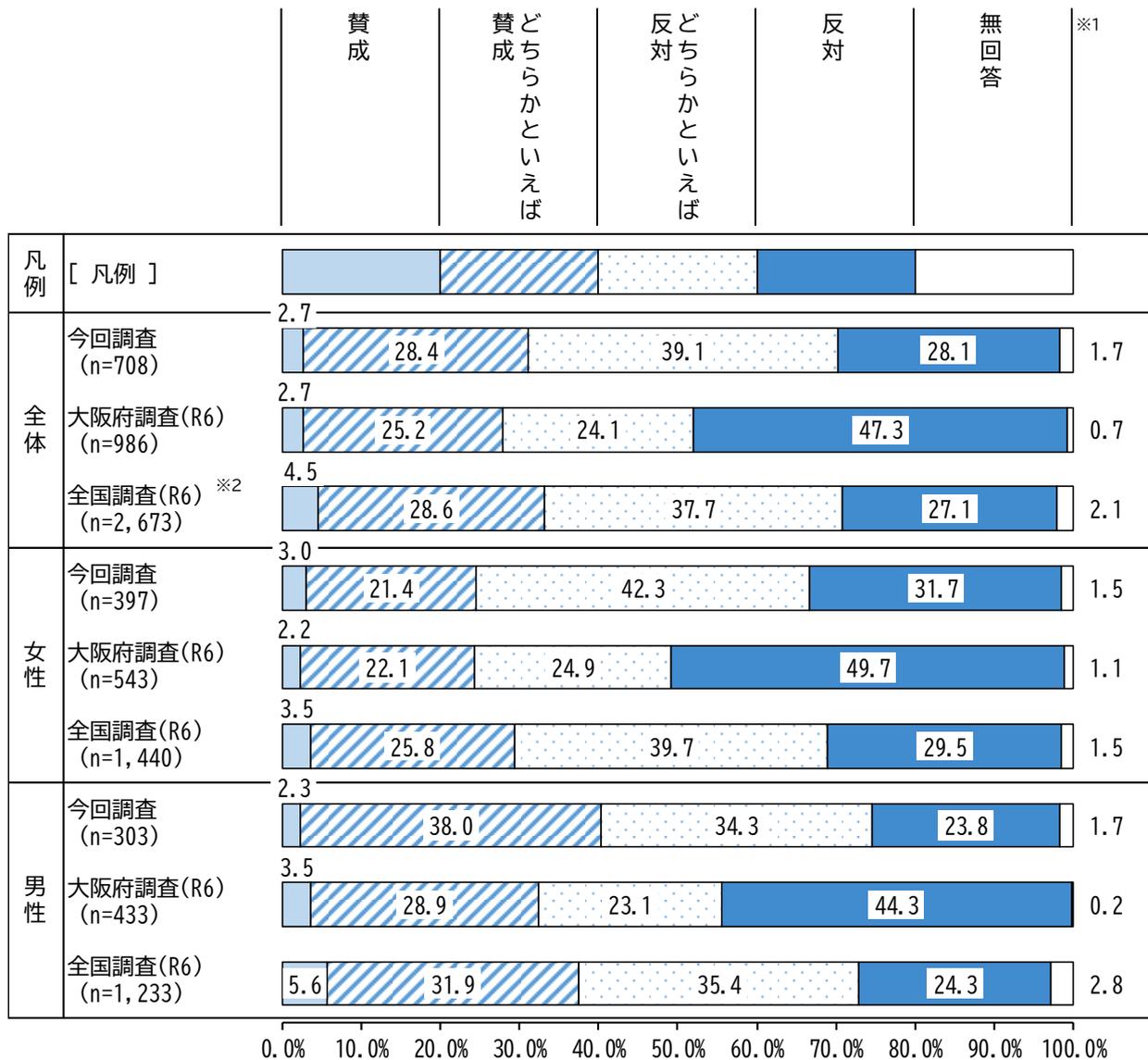
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、今回調査、大阪府調査とも“賛成”が約30%、“反対”が約70%となっています。今回調査では「反対」よりも「どちらかといえば反対」が多くなっていますが、大阪府調査では「どちらかといえばそう思わない」より「そう思わない」が多くなっています。
- 女性では、“賛成”・“反対”の割合に大阪府調査との違いがみられませんが、男性では大阪府調査より“賛成”が多くなっています。

【全国調査】

- 全国調査と比較すると、今回調査、全国調査とも“賛成”が約30%となっています。
- 女性では、全国調査より“反対”が多くなっていますが、男性は全国調査と大きな違いはみられません。



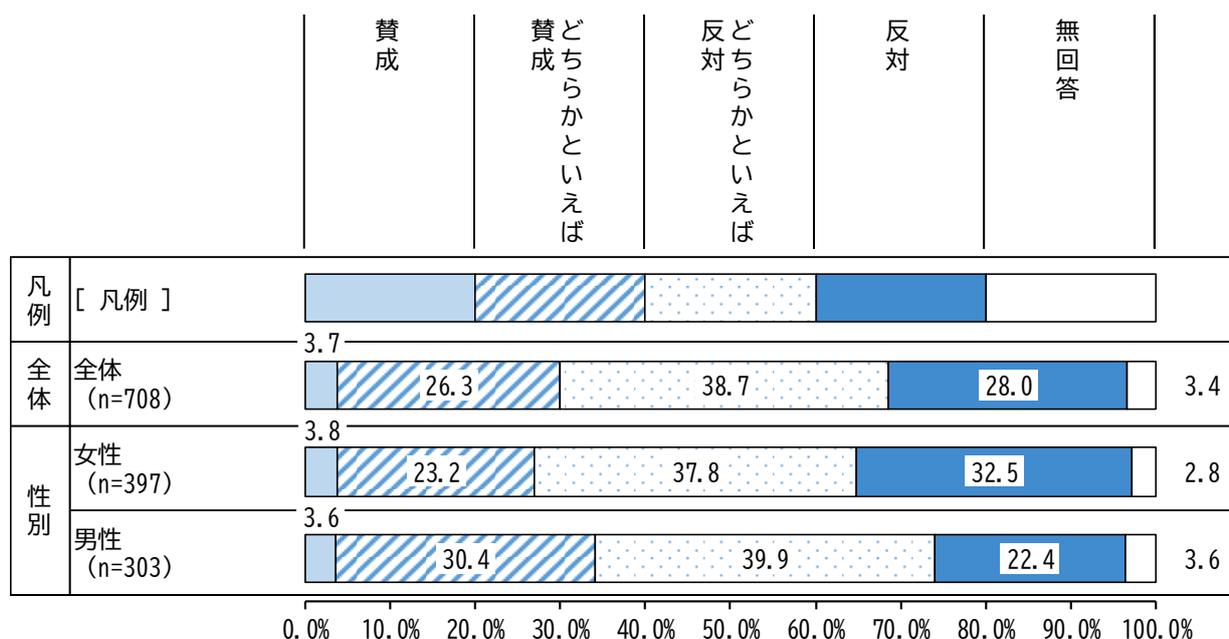
※1 大阪府調査の選択肢は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」

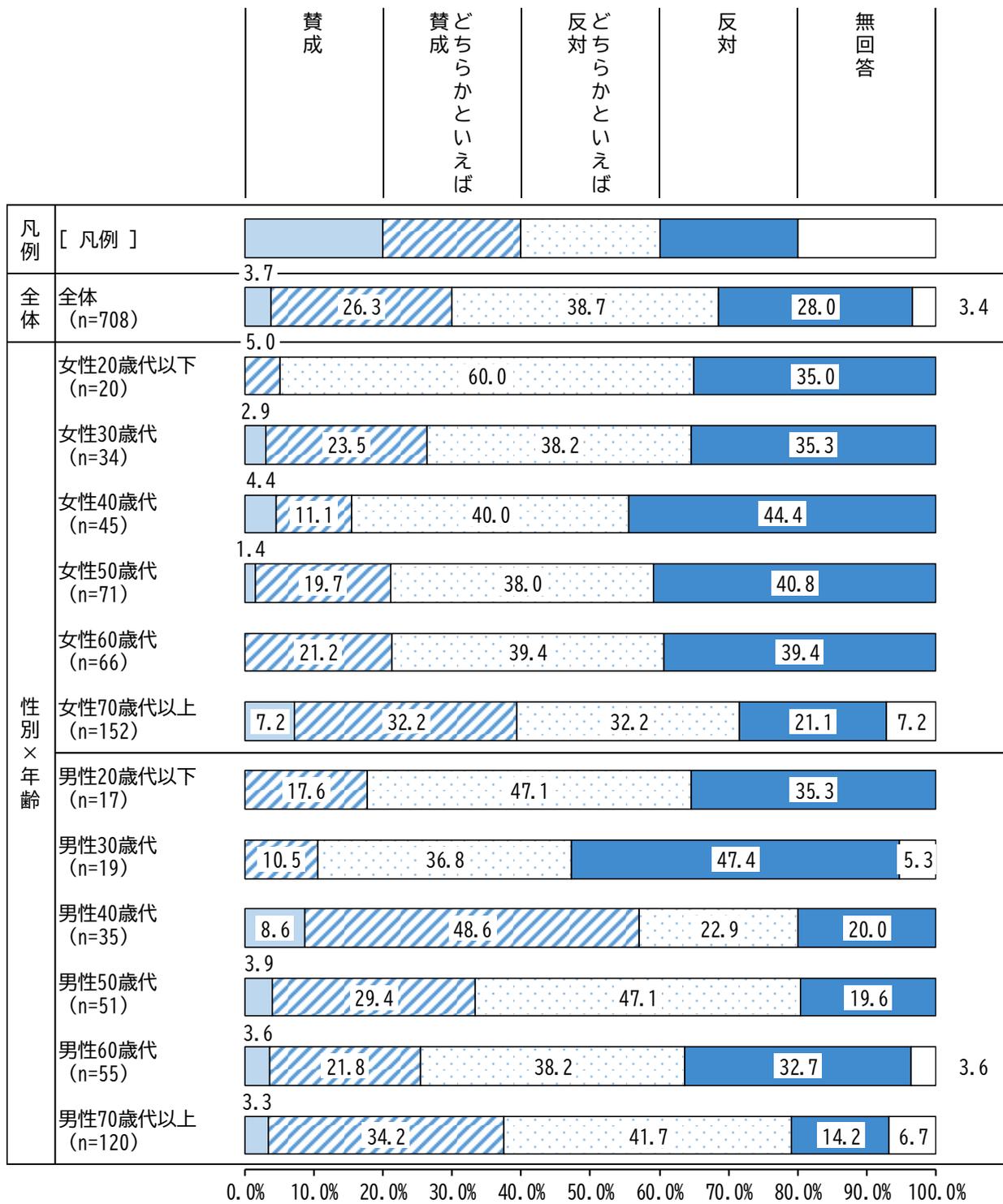
※2 全国調査の項目は「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」

②女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活したほうがよい

- 【全体】
- 「どちらかといえば反対」が38.7%で最も多く、次いで「反対」が28.0%、「どちらかといえば賛成」が26.3%となっています。
 - 「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は30.0%となっています。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた“反対”は66.7%となっています。
- 【性別】
- 女性では、“反対”が70.3%で、男性の62.3%より8.0ポイント多くなっています。

【②女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活したほうがよい】





■過去調査との比較

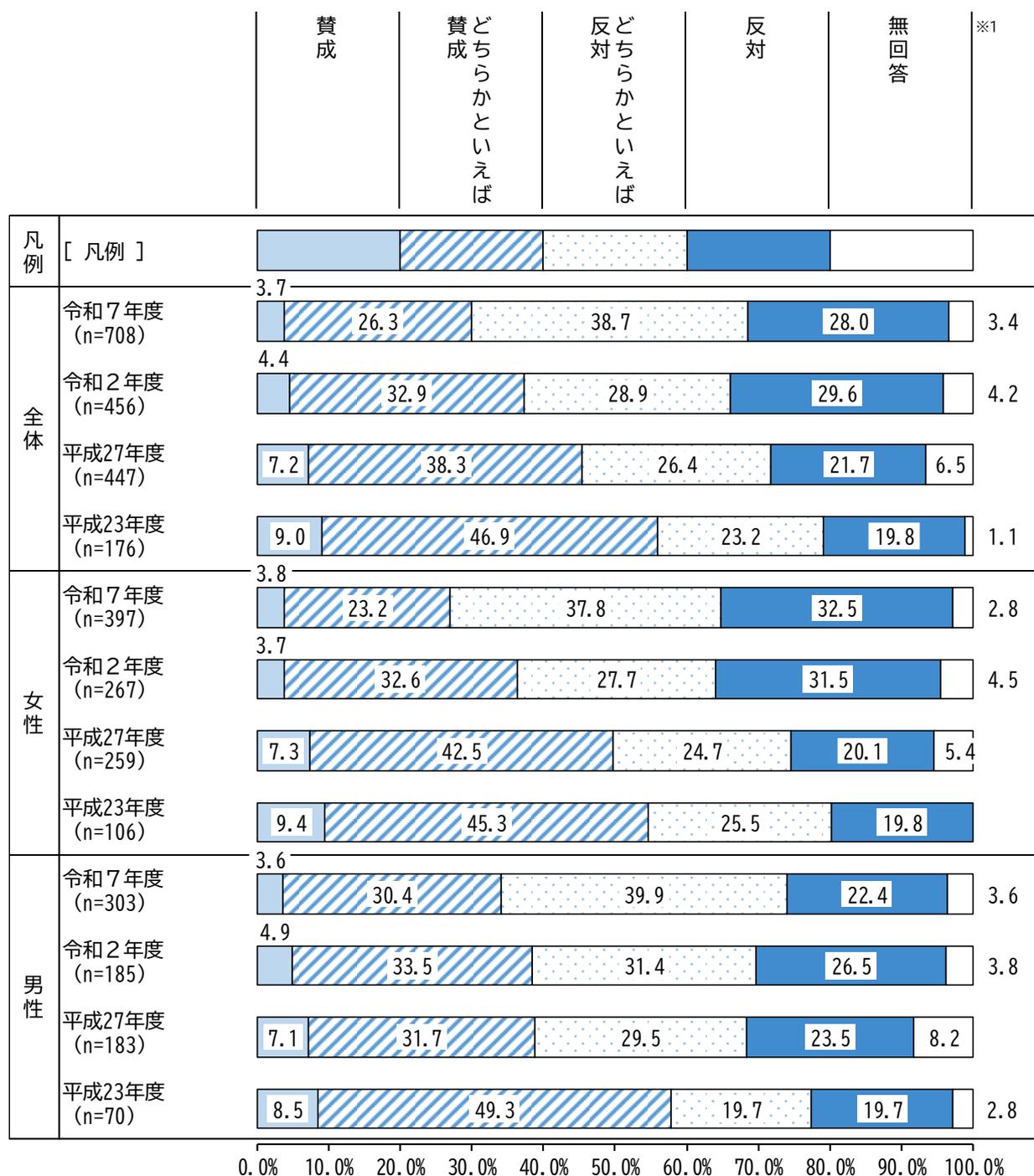
【全体】

○ 過去調査と比較すると、平成23年度以降“賛成”の減少が続き、“反対”が増加しています。

【性別】

○ 女性では“反対”の増加が続き、令和2年以降は“賛成”より“反対”が多くなっています。

○ 男性では、平成23年度は“賛成”が57.8%となっていました。平成27年度以降は“反対”が50%を超えています。



※1 過去調査の選択肢は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」

③妻子を養うのは男性の責任である

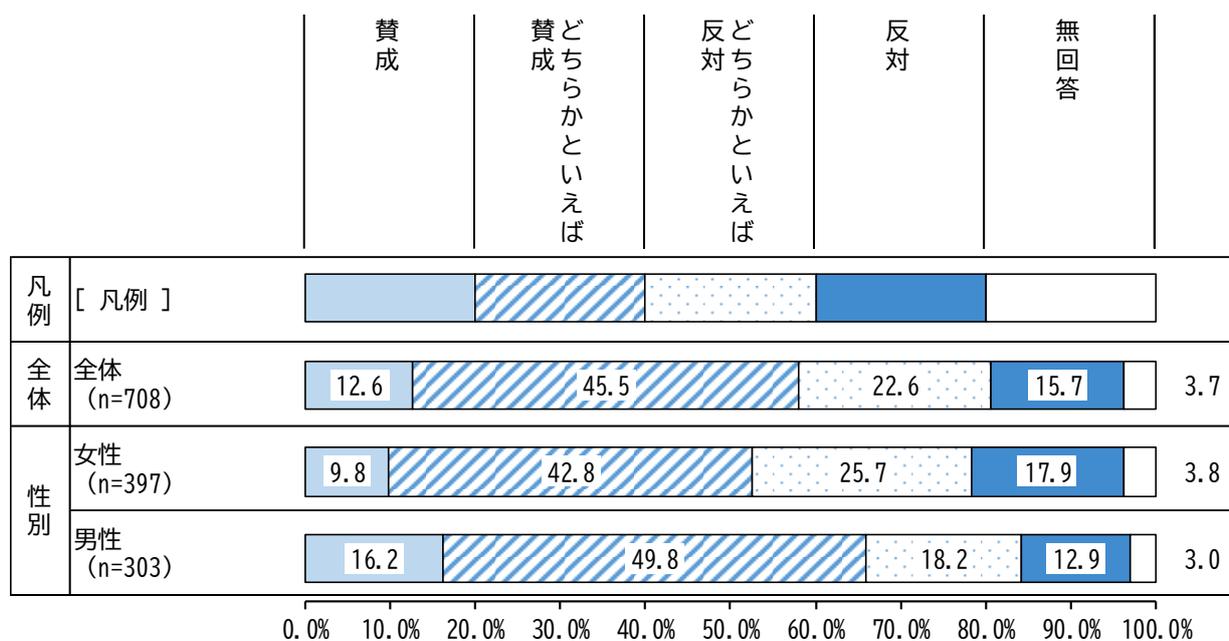
【全体】

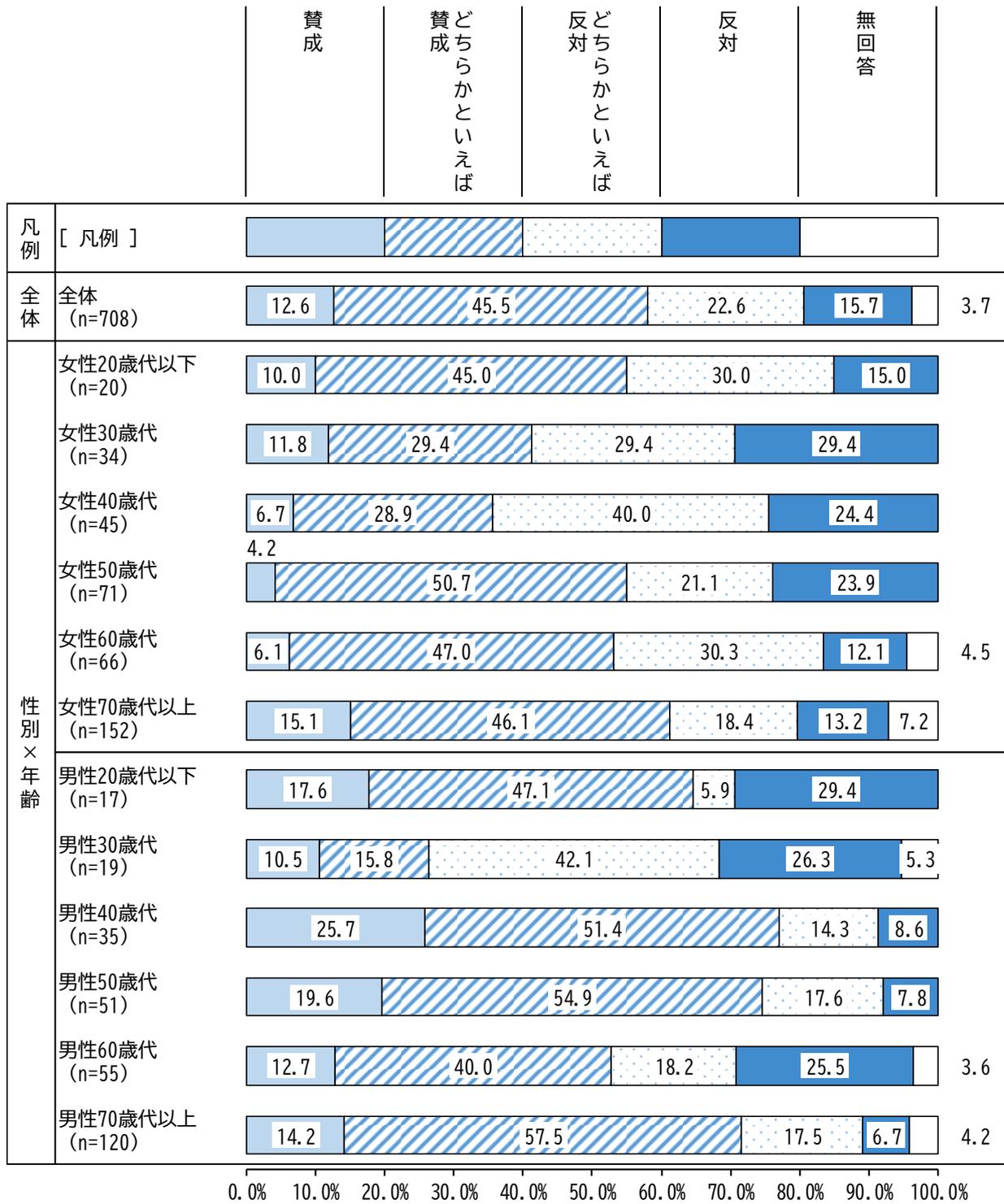
- 「どちらかといえば賛成」が 45.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば反対」が 22.6%、「反対」が 15.7%となっています。
- 「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は 58.1%となっています。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた“反対”は 38.3%となっています。

【性別】

- 男性では、“賛成”が 66.0%で、女性の 52.6%より 13.4 ポイント多くなっています。

【③妻子を養うのは男性の責任である】





■過去調査との比較

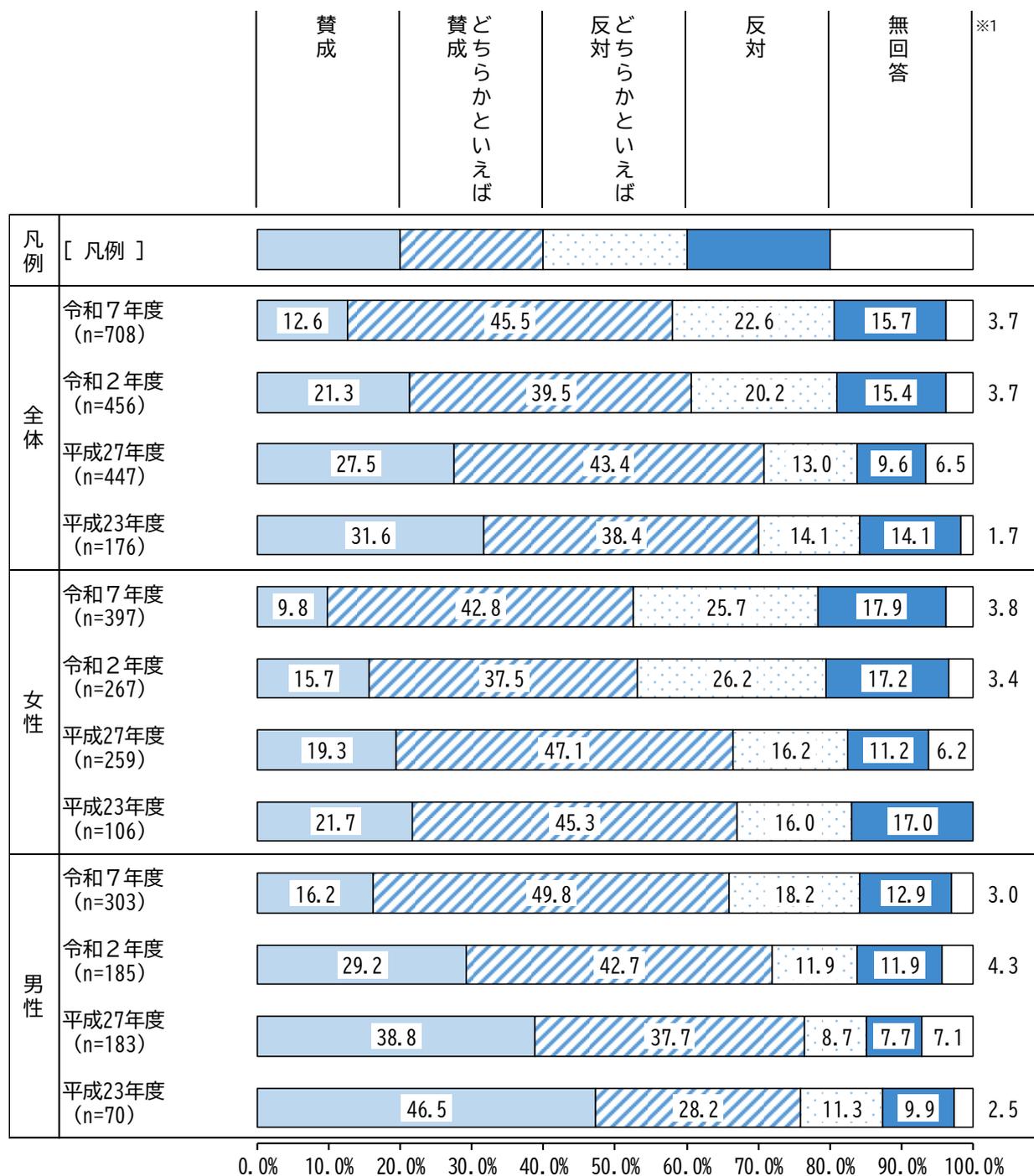
【全体】

○ 過去調査と比較すると、“賛成”は平成23年度と平成27年度では約70%、令和2年度以降では約60%となっています。

【性別】

○ 女性では、令和2年度以降では“反対”が40%を超えています。

○ 男性では、「賛成」が減少し、「どちらかといえば賛成」が増加する傾向が続いています。



※1 過去調査の選択肢は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」

④子どもが3歳までは母親の手で育てるのがよい

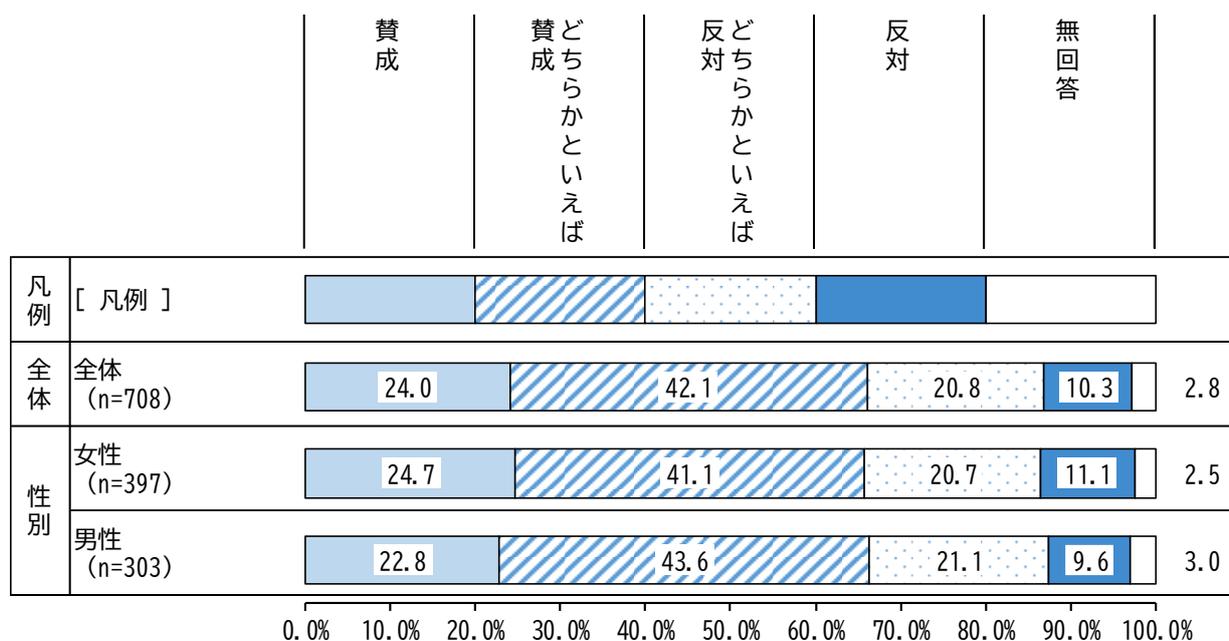
【全体】

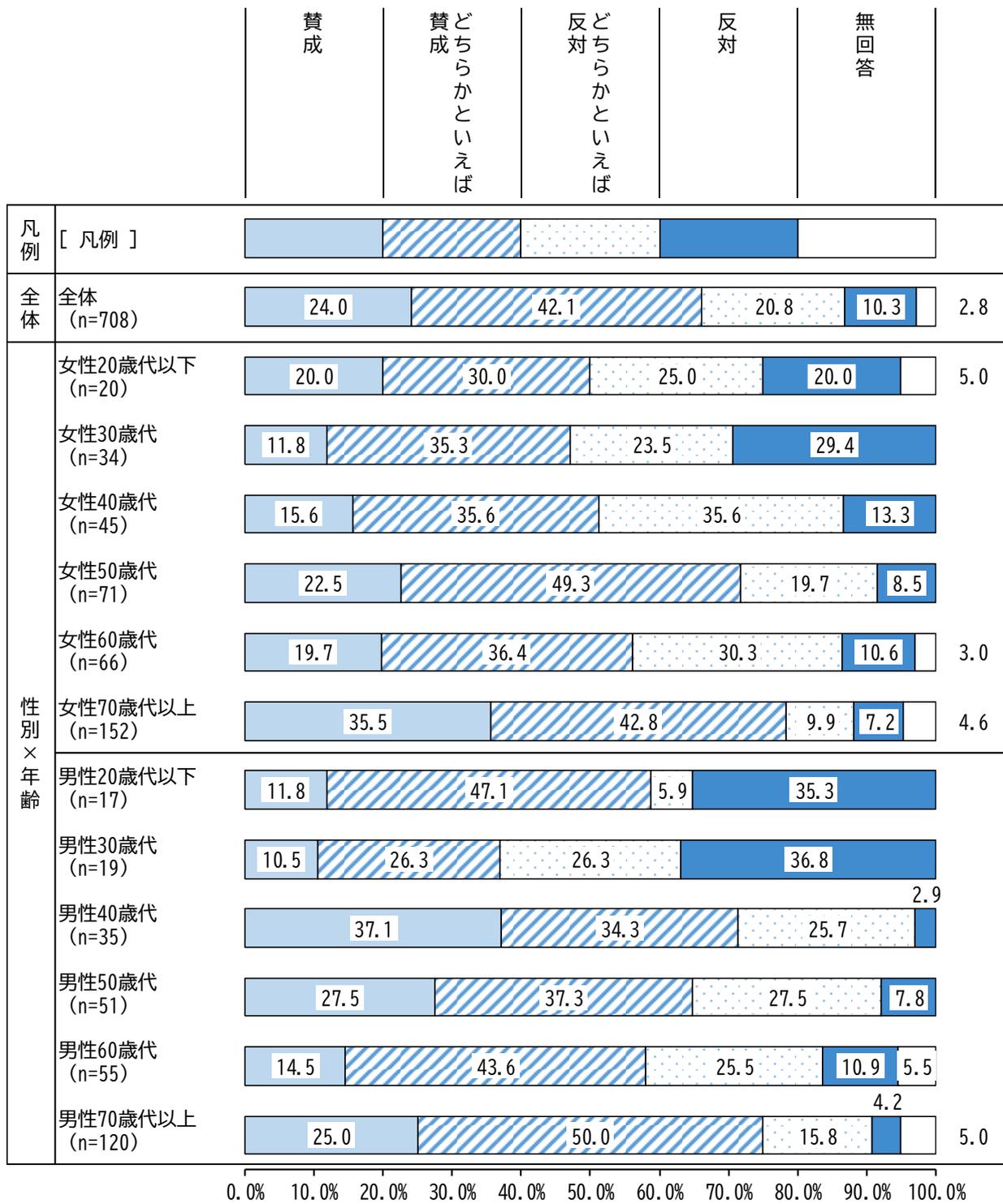
- 「どちらかといえば賛成」が42.1%で最も多く、次いで「賛成」が24.0%、「どちらかといえば反対」が20.8%となっています。
- 「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は66.1%となっています。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた“反対”は31.1%となっています。

【性別】

- 男女とも“賛成”が60%台となっており、性別による違いはほとんどみられません。

【④子どもが3歳までは母親の手で育てるのがよい】

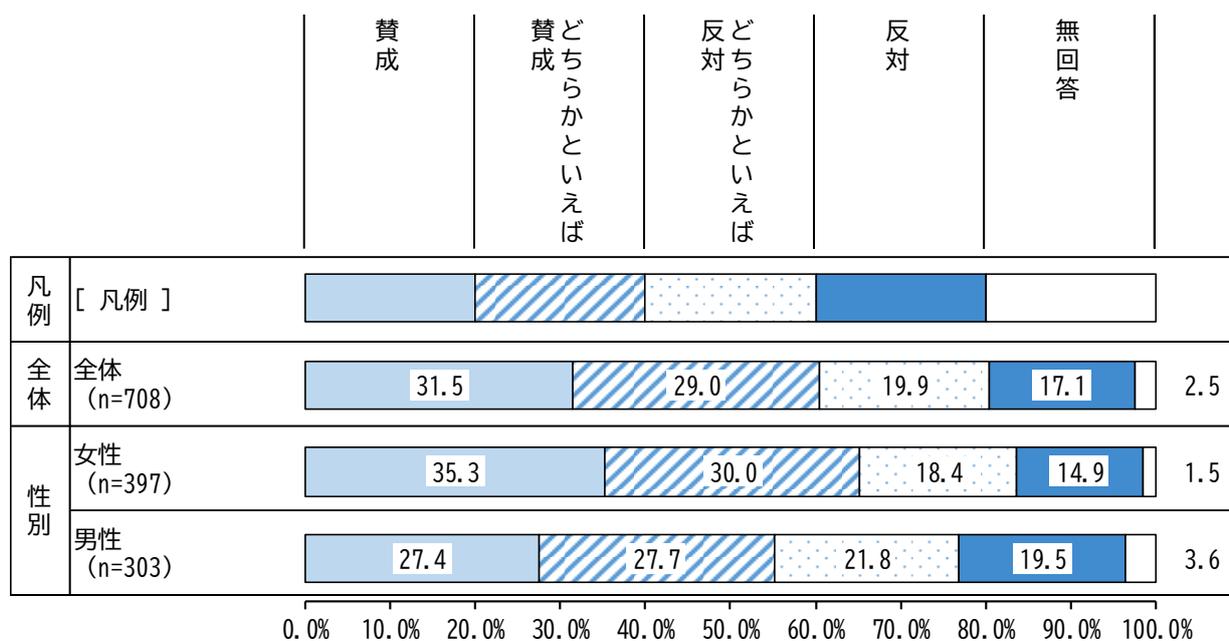




⑤希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない

- 【全体】
- 「賛成」が31.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が29.0%、「どちらかといえば反対」が19.9%となっています。
 - 「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は60.5%となっています。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた“反対”は37.0%となっています。
- 【性別】
- 女性では、“賛成”が65.3%で、男性の55.1%より10.2ポイント多くなっています。

【⑤希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない】



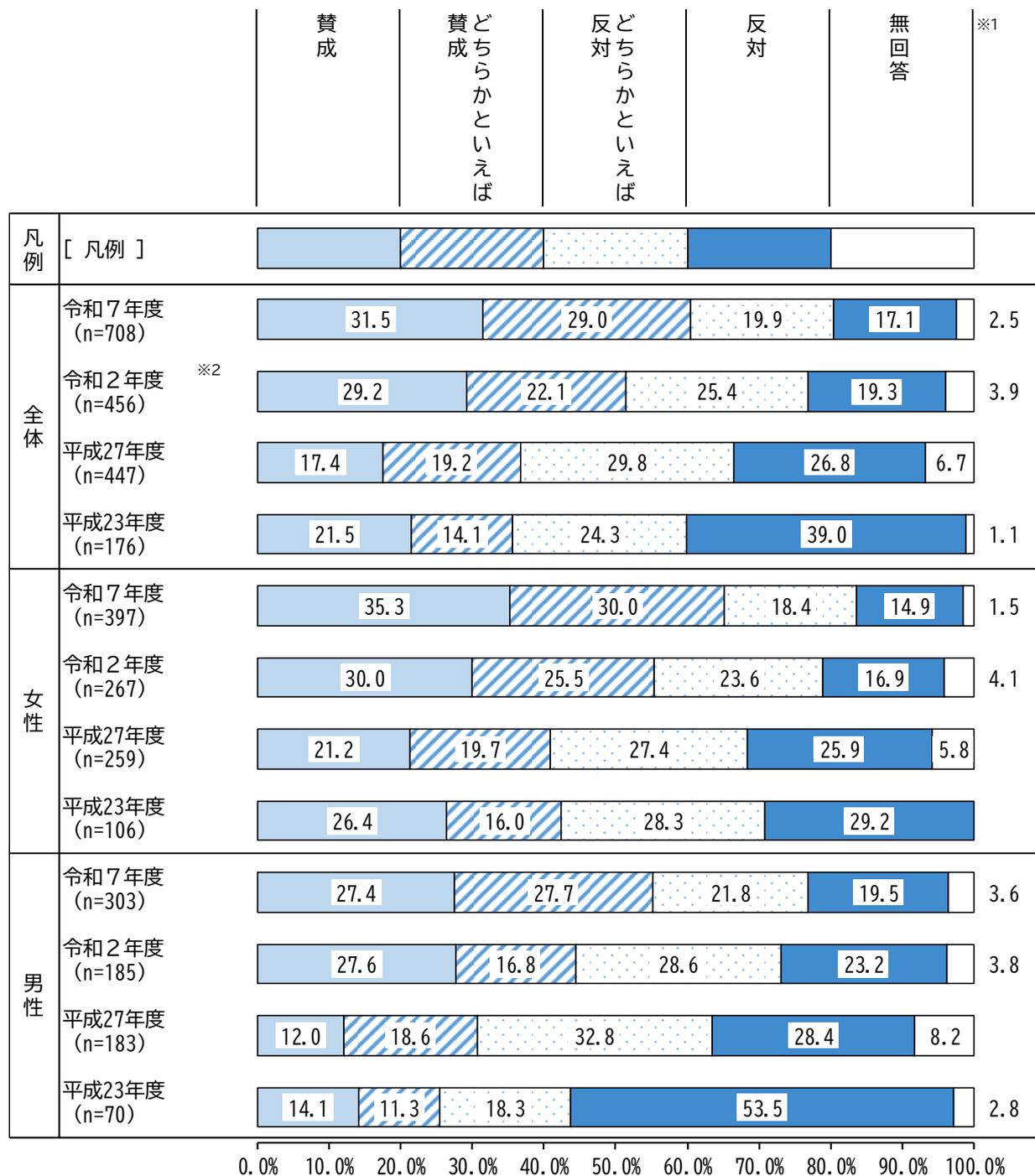
■過去調査との比較

【全体】

○ 過去調査と比較すると、平成23年度以降“賛成”の増加が続いています。

【性別】

○ 女性では令和2年度以降、男性では令和7年度に“賛成”が“反対”を上回っています。



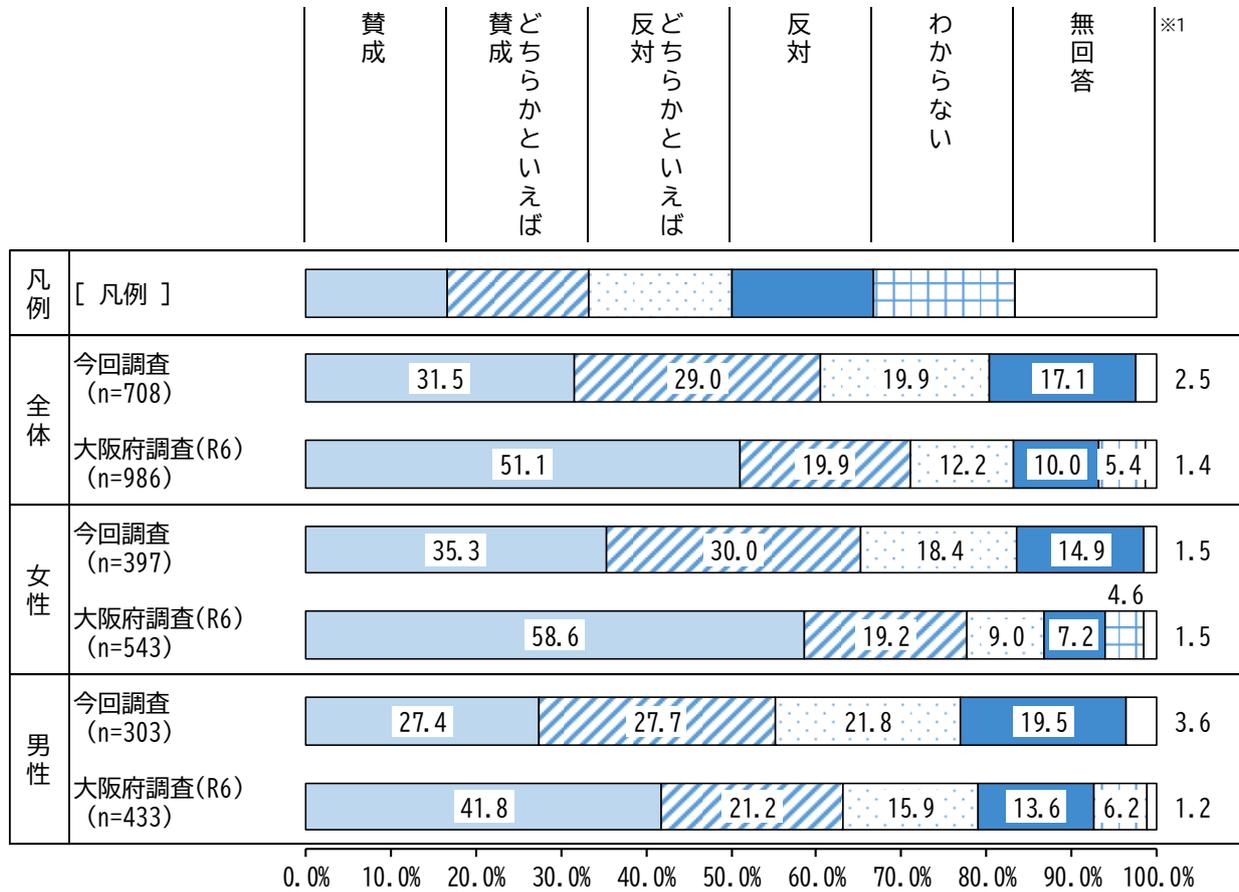
※1 過去調査の選択肢は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」

※2 過去調査の項目は「夫婦は別の姓を名乗ってもよい」

■大阪府調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、今回調査は大阪府調査より“賛成”が少なく、“反対”が多くなっています。
- “賛成”の割合は、大阪府調査の女性 77.8%・男性 63.0%に対し、今回調査では女性 65.3%・男性 55.1%と、男女とも少なくなっています。



※1 大阪府調査の選択肢は「そう思う」「ある程度そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」

⑥父親も子育てに積極的にかかわった方がよい

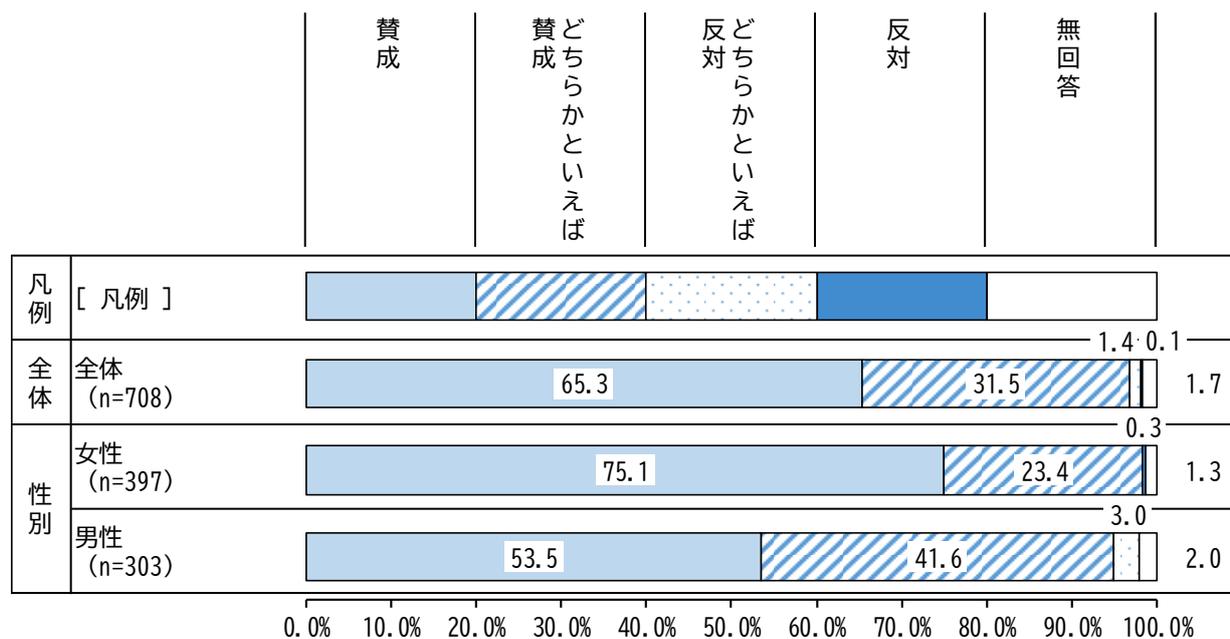
【全体】

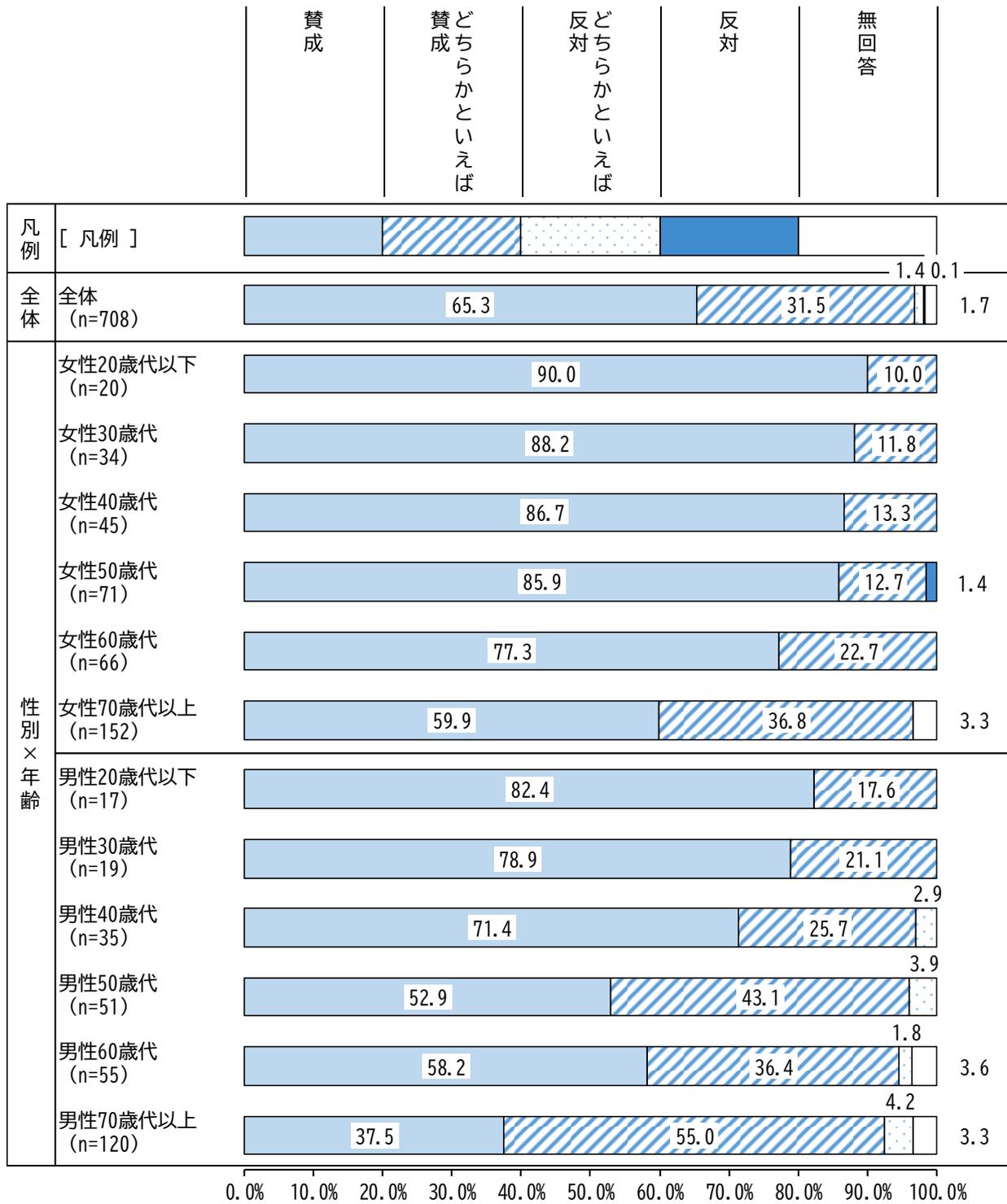
- 「賛成」が65.3%で最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が31.5%、「どちらかといえば反対」が1.4%となっています。
- 「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は96.8%となっています。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた“反対”は1.5%となっています。

【性別】

- 男女とも“賛成”が多くを占めていますが、「賛成」は女性75.1%・男性53.5%で、女性のほうが21.6ポイント多くなっています。

【⑥父親も子育てに積極的にかかわった方がよい】

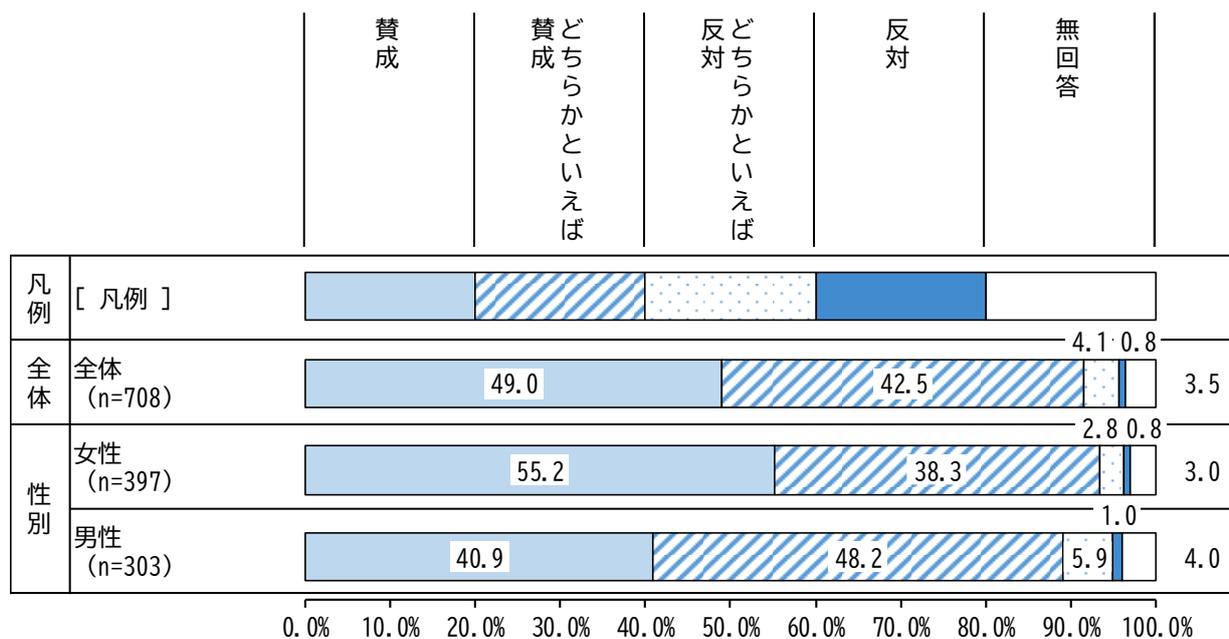


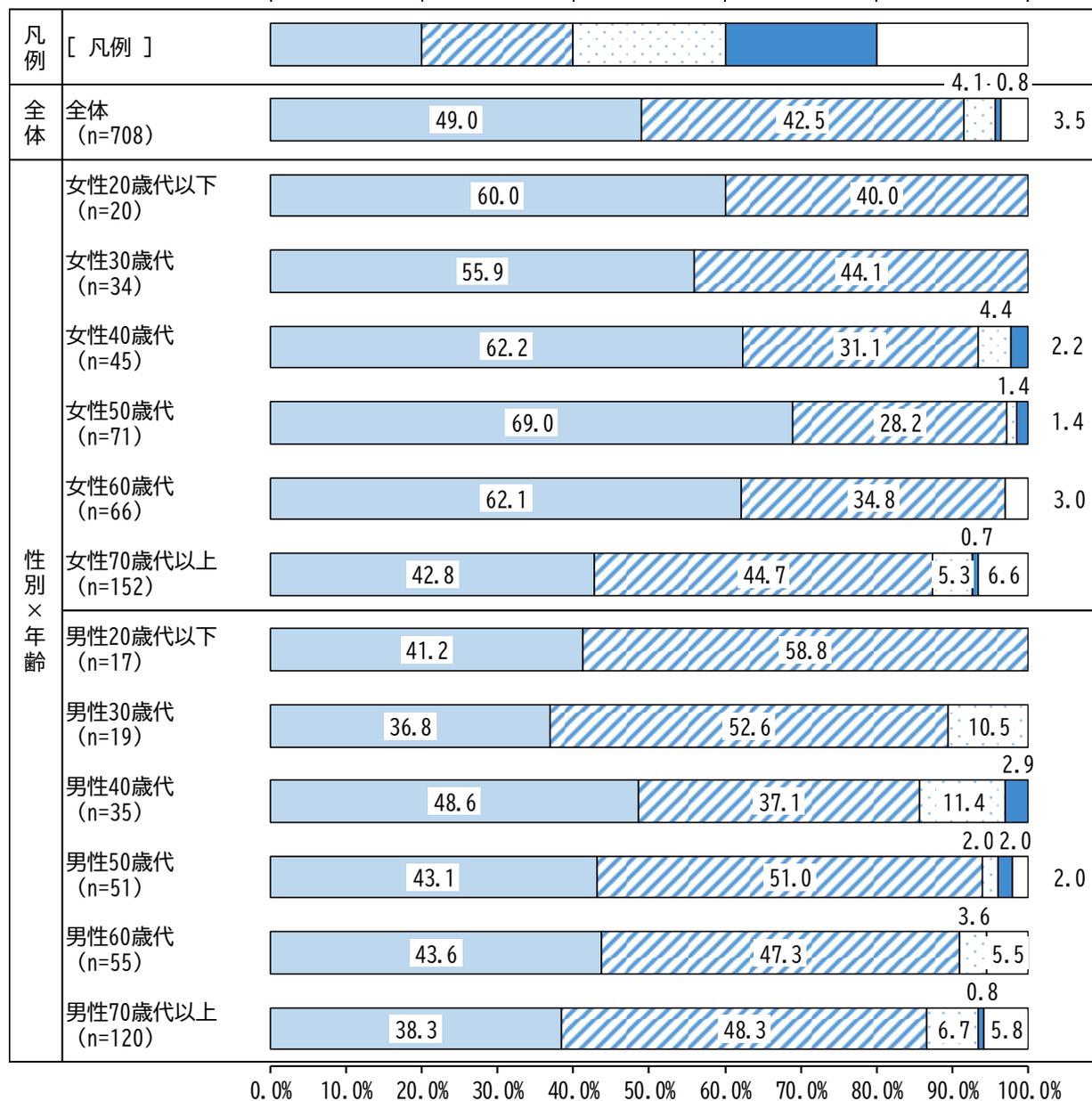
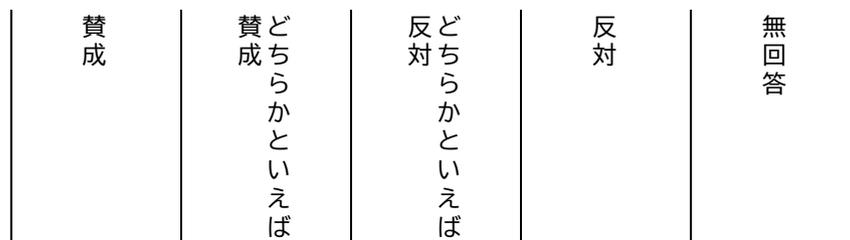


⑦政治など方針決定の場に参画する女性が今よりも増えた方がよい

- 【全体】
- 「賛成」が49.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が42.5%、「どちらかといえば反対」が4.1%となっています。
 - 「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は91.5%となっています。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた“反対”は4.9%となっています。
- 【性別】
- 男女とも“賛成”が多くを占めていますが、「賛成」は女性55.2%・男性40.9%で女性のほうが14.3ポイント多くなっています。

【⑦政治など方針決定の場に参画する女性が今よりも増えた方がよい】

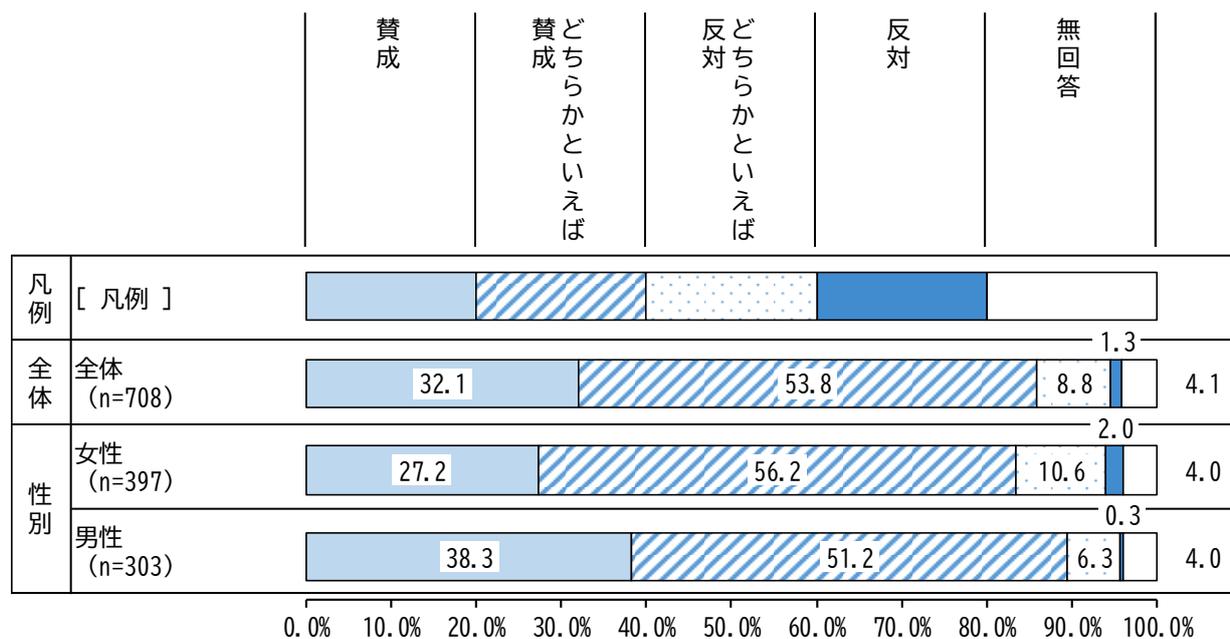


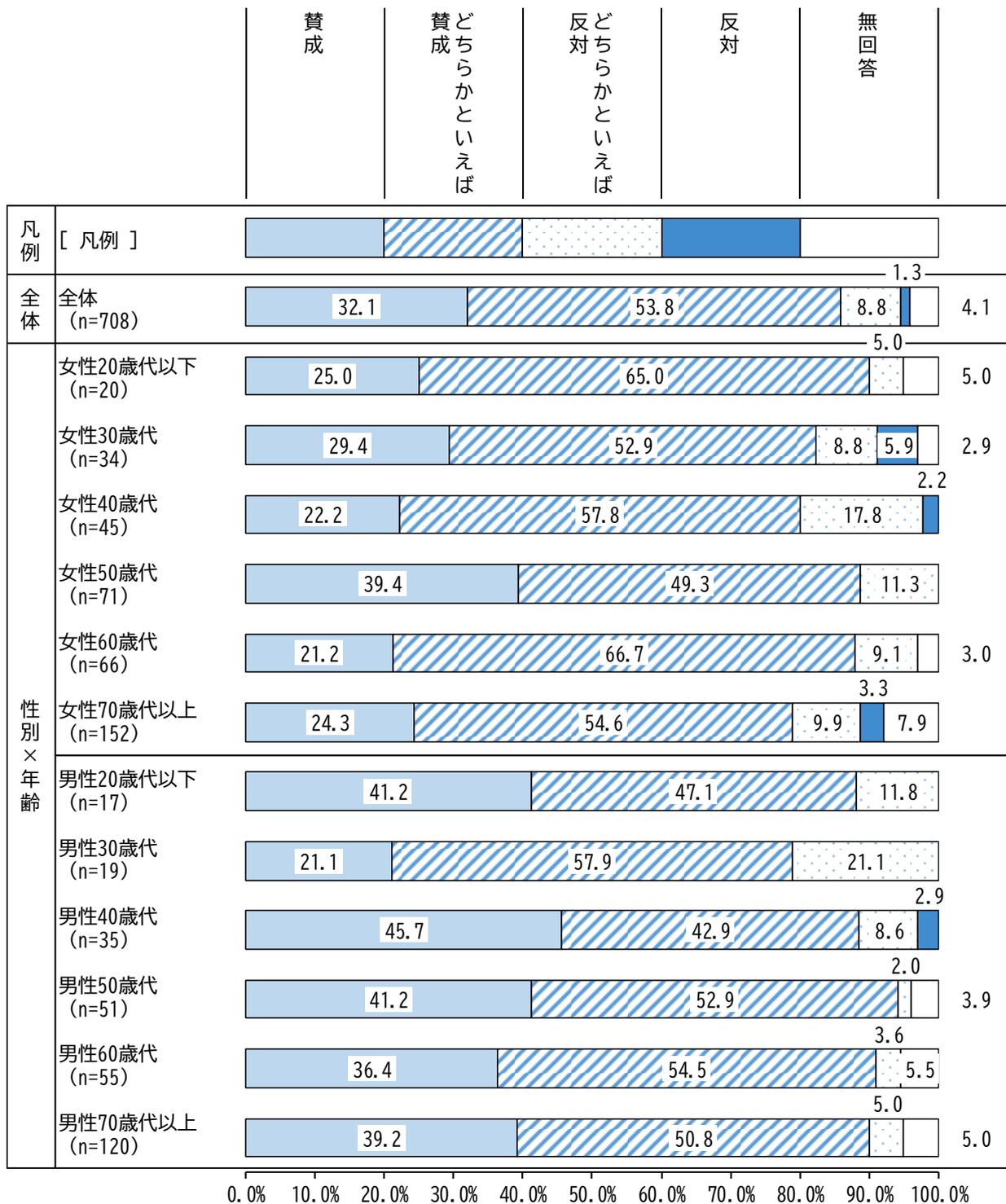


⑧自治会やPTAなどの会長や役員に女性が増えた方がよい

- 【全体】
- 「どちらかといえば賛成」が53.8%で最も多く、次いで「賛成」が32.1%、「どちらかといえば反対」が8.8%となっています。
 - 「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は85.9%となっています。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた“反対”は10.1%となっています。
- 【性別】
- 男性では、“賛成”が89.5%で、女性の83.4%より6.1ポイント多くなっています。また、「賛成」は女性27.2%・男性38.3%で男性のほうが11.1ポイント多くなっています。

【⑧自治会やPTAなどの会長や役員に女性が増えた方がよい】

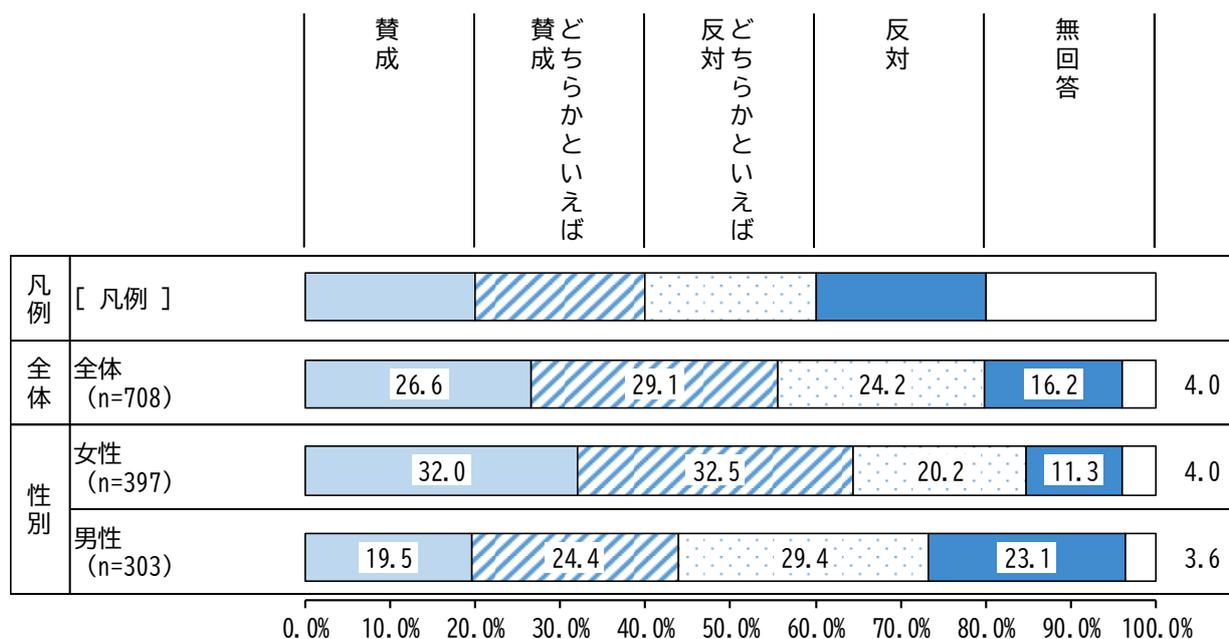


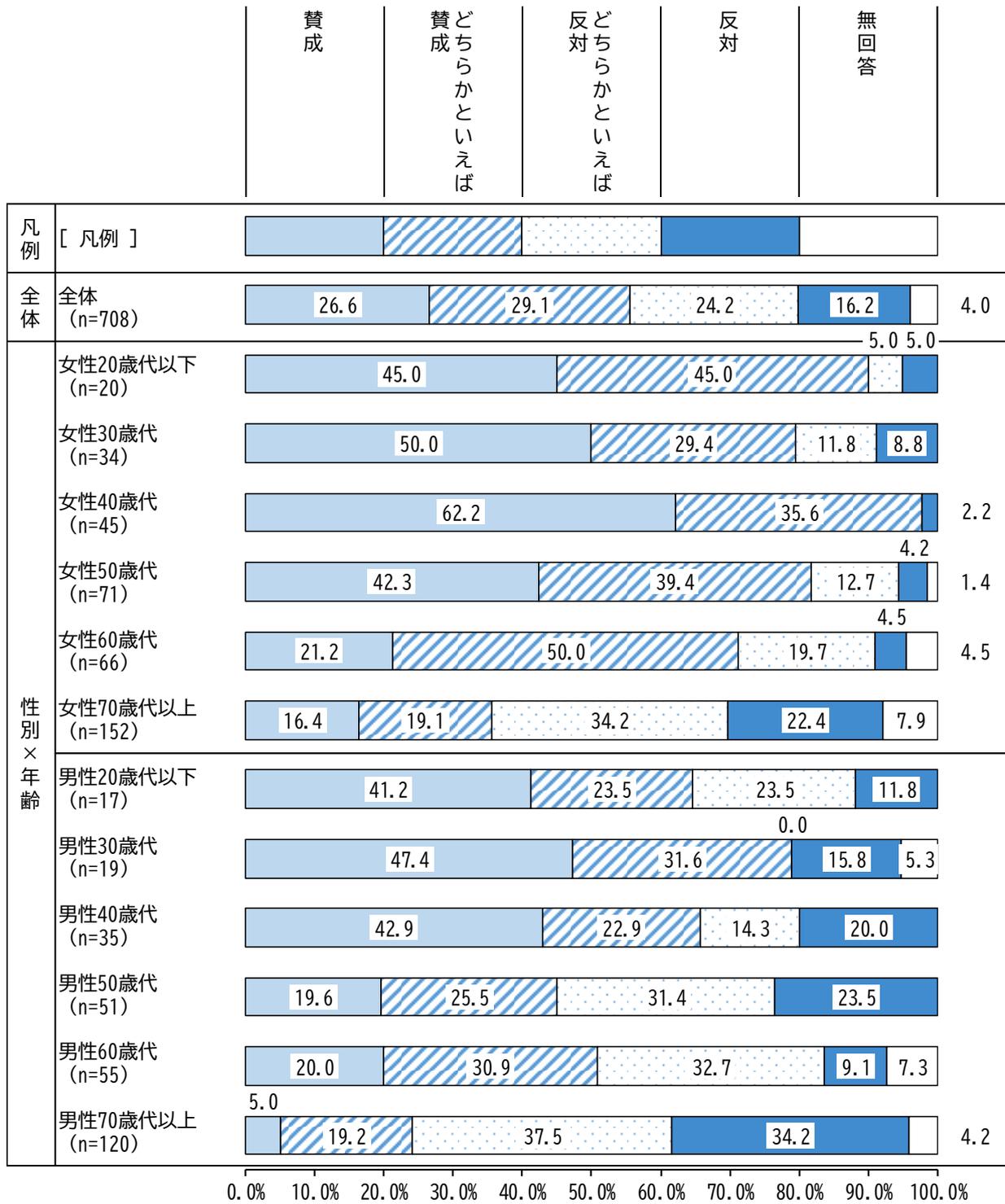


⑨同性同士の結婚を認めてよい

- 【全体】
- 「どちらかといえば賛成」が29.1%で最も多く、次いで「賛成」が26.6%、「どちらかといえば反対」が24.2%となっています。
 - 「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”は55.7%となっています。「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた“反対”は40.4%となっています。
- 【性別】
- 女性では、“賛成”が64.5%で、男性の43.9%より20.6ポイント多くなっています。
 - 男性では、“賛成”（43.9%）より“反対”（52.5%）が多くなっています。

【⑨同性同士の結婚を認めてよい】



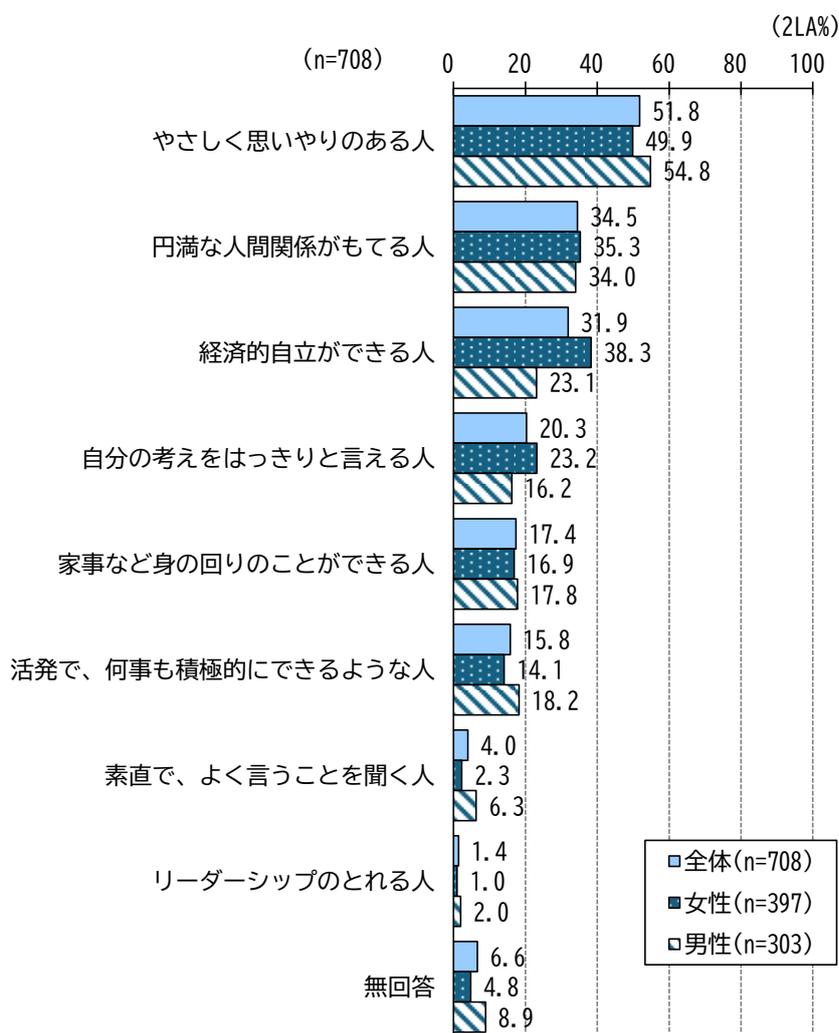


問4 あなたは、自分の子どもが、特にどのような人に育ててほしいと思いますか。女の子、男の子どちらかだけいる方は、両方を想定して、現在子どもがいない方は、いる場合を想定して、お答えください。（「女の子の場合」「男の子の場合」それぞれ〇は2つまで）

①女の子の場合(2LA)

- 【全体】
 ○ 「やさしく思いやりのある人」が 51.8%で最も多く、次いで「円満な人間関係がもてる人」が 34.5%、「経済的自立ができる人」が 31.9%となっています。
- 【性別】
 ○ 女性は、男性よりも「経済的自立ができる人」（15.2 ポイント差）、「自分の考えをはっきりと言える人」（7.0ポイント差）が多くなっています。

【①女の子の場合(2LA)】



単位：％

		母数 (n)	①女の子の場合(2LA)								
			やさしく思いやりのある人	自分の考えを はっきりと言える人	円満な人間関係がもてる人	リーダーシップのとれる人	家事など身の回りのことができる人	経済的自立ができる人	素直で、よく言うことを聞く人	活発で、何事も積極的にできるような人	無回答
全体		708	51.8	20.3	34.5	1.4	17.4	31.9	4.0	15.8	6.6
性別×年齢	女性20歳代以下	20	△ 70.0	15.0	△ 55.0	5.0	10.0	25.0	-	10.0	-
	女性30歳代	34	47.1	△ 32.4	35.3	-	8.8	29.4	8.8	△ 26.5	2.9
	女性40歳代	45	▼ 26.7	24.4	△ 51.1	4.4	11.1	△ 46.7	2.2	20.0	4.4
	女性50歳代	71	47.9	22.5	▼ 21.1	-	22.5	△ 52.1	4.2	12.7	5.6
	女性60歳代	66	56.1	19.7	34.8	-	18.2	31.8	-	12.1	6.1
	女性70歳代以上	152	53.3	23.0	34.2	0.7	18.4	34.9	1.3	11.8	5.3
	男性20歳代以下	17	△ 70.6	17.6	41.2	5.9	▼ 5.9	29.4	△ 17.6	5.9	-
	男性30歳代	19	▼ 21.1	△ 36.8	31.6	10.5	15.8	△ 42.1	5.3	▼ 5.3	15.8
	男性40歳代	35	51.4	11.4	34.3	-	20.0	28.6	8.6	25.7	2.9
	男性50歳代	51	60.8	13.7	31.4	2.0	21.6	▼ 21.6	5.9	25.5	5.9
	男性60歳代	55	52.7	16.4	32.7	-	9.1	25.5	9.1	16.4	16.4
	男性70歳代以上	120	56.7	15.0	35.0	1.7	22.5	▼ 17.5	3.3	16.7	8.3

②男の子の場合(2LA)

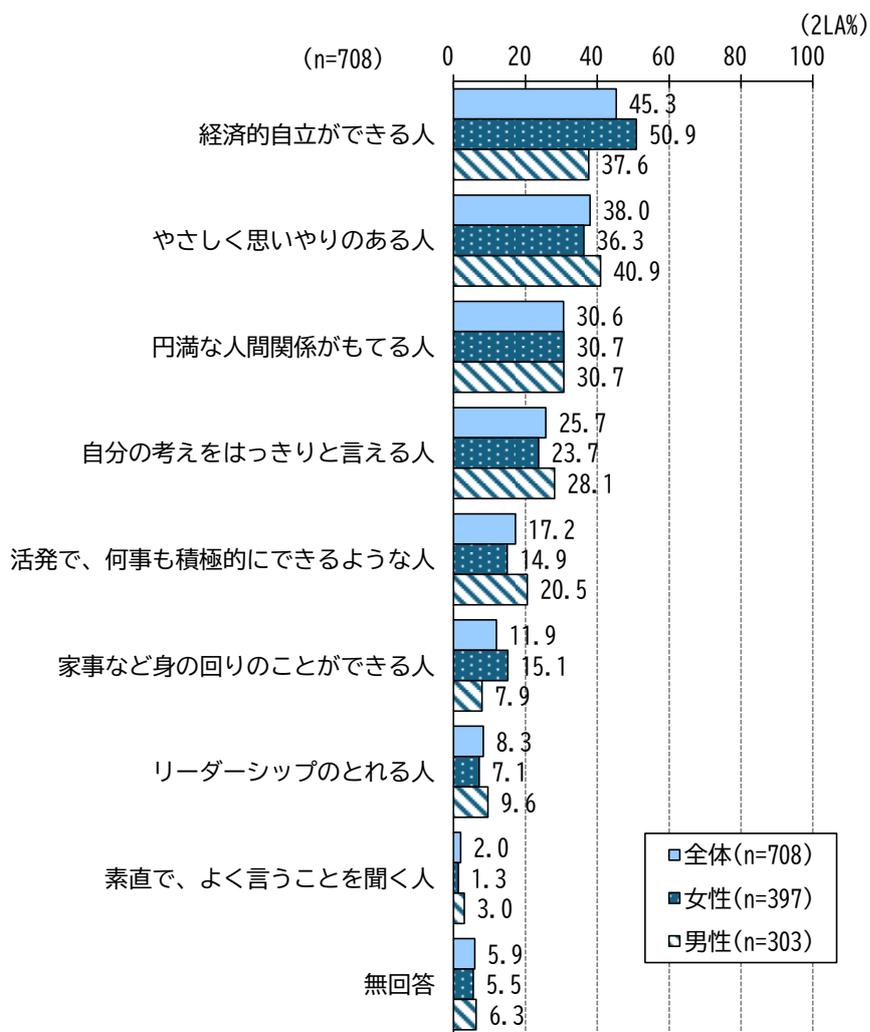
【全体】

- 「経済的自立ができる人」が45.3%で最も多く、次いで「やさしく思いやりのある人」が38.0%、「円満な人間関係がもてる人」が30.6%となっています。

【性別】

- 女性は「経済的自立ができる人」、男性は「やさしく思いやりのある人」が最も多くなっています。

【②男の子の場合(2LA)】



		母数 (n)	②男の子の場合(2LA)								無回答
			やさしく思いやりのある人	自分の考えを はつきりと言える人	円満な人間関係がもてる人	リーダーシップのとれる人	家事など身の回りのことができる人	経済的自立ができる人	素直で、よく言うことを聞く人	活発で、何事も積極的に できるような人	
全体		708	38.0	25.7	30.6	8.3	11.9	45.3	2.0	17.2	5.9
性別× 年齢	女性20歳代以下	20	△ 65.0	▼ 10.0	35.0	5.0	15.0	45.0	-	20.0	-
	女性30歳代	34	△ 52.9	20.6	29.4	2.9	11.8	▼ 35.3	2.9	26.5	5.9
	女性40歳代	45	28.9	17.8	△ 46.7	6.7	△ 24.4	46.7	4.4	20.0	-
	女性50歳代	71	35.2	28.2	▼ 18.3	4.2	△ 25.4	54.9	1.4	12.7	7.0
	女性60歳代	66	43.9	▼ 15.2	33.3	3.0	19.7	50.0	1.5	13.6	1.5
	女性70歳代以上	152	28.9	29.6	29.6	11.2	6.6	54.6	-	11.8	8.6
	男性20歳代以下	17	47.1	35.3	29.4	11.8	△ 29.4	▼ 17.6	5.9	17.6	-
	男性30歳代	19	42.1	△ 36.8	21.1	15.8	10.5	42.1	-	10.5	10.5
	男性40歳代	35	42.9	17.1	40.0	5.7	8.6	▼ 31.4	8.6	△ 28.6	2.9
	男性50歳代	51	43.1	27.5	29.4	9.8	11.8	37.3	3.9	△ 27.5	2.0
	男性60歳代	55	45.5	18.2	36.4	3.6	▼ 1.8	36.4	1.8	21.8	14.5
	男性70歳代以上	120	35.0	33.3	28.3	11.7	5.8	42.5	1.7	15.8	5.8

■過去調査との比較

【女の子の場合】

- 過去調査と比較すると、女の子の場合はいずれの年度でも「やさしく思いやりのある人」が多くなっていますが、その割合は少なくなる傾向がみられ、「経済的自立ができる人」が増加傾向となっています。

【男の子の場合】

- 男の子の場合は、令和7年度は過去調査と比べて「円満な人間関係がもてる人」が多くなっています。

単位：％

		母数 (n)	やさしく思いやりのある人	自分 の考 えを はつ つき りと言 える人	円満な 人間 関係が もてる 人	リ ー ダ ー シ ッ プの とれる 人	家事 など 身の 回りの ことが できる 人※ ¹	経済 的自 立が できる 人	素直 で、 よく 言う こと を 聞く 人	活発 で、 何事 も積 極的 に でき るよ うな 人	無 回 答
女 の 子	令和7年度	708	51.8	20.3	34.5	1.4	17.4	31.9	4.0	15.8	6.6
	令和2年度	456	56.6	17.5	26.1	0.7	16.7	28.5	3.9	14.5	13.4
	平成27年度	447	62.2	18.3	31.8	2.2	26.6	26.8	10.5	16.6	7.4
	平成23年度	177	62.1	17.5	25.4	-	18.1	20.3	6.8	11.3	13.6
男 の 子	令和7年度	708	38.0	25.7	30.6	8.3	11.9	45.3	2.0	17.2	5.9
	令和2年度	456	35.5	23.5	23.0	8.3	14.5	42.8	1.1	16.2	12.9
	平成27年度	447	38.9	30.2	25.1	18.8	13.9	49.0	5.1	26.0	6.0
	平成23年度	177	35.6	29.4	21.5	8.5	10.7	42.4	1.1	23.2	7.3

※1 過去調査では「家事など身の回りのことが自分でできる人」

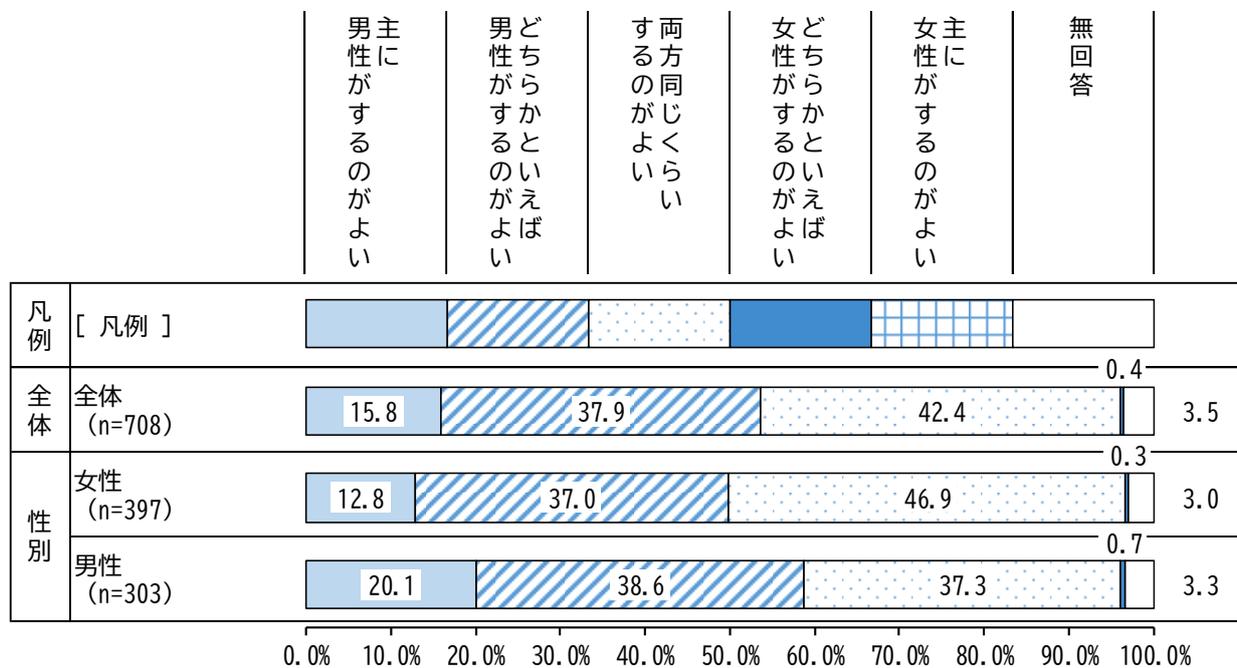
3 家庭生活について

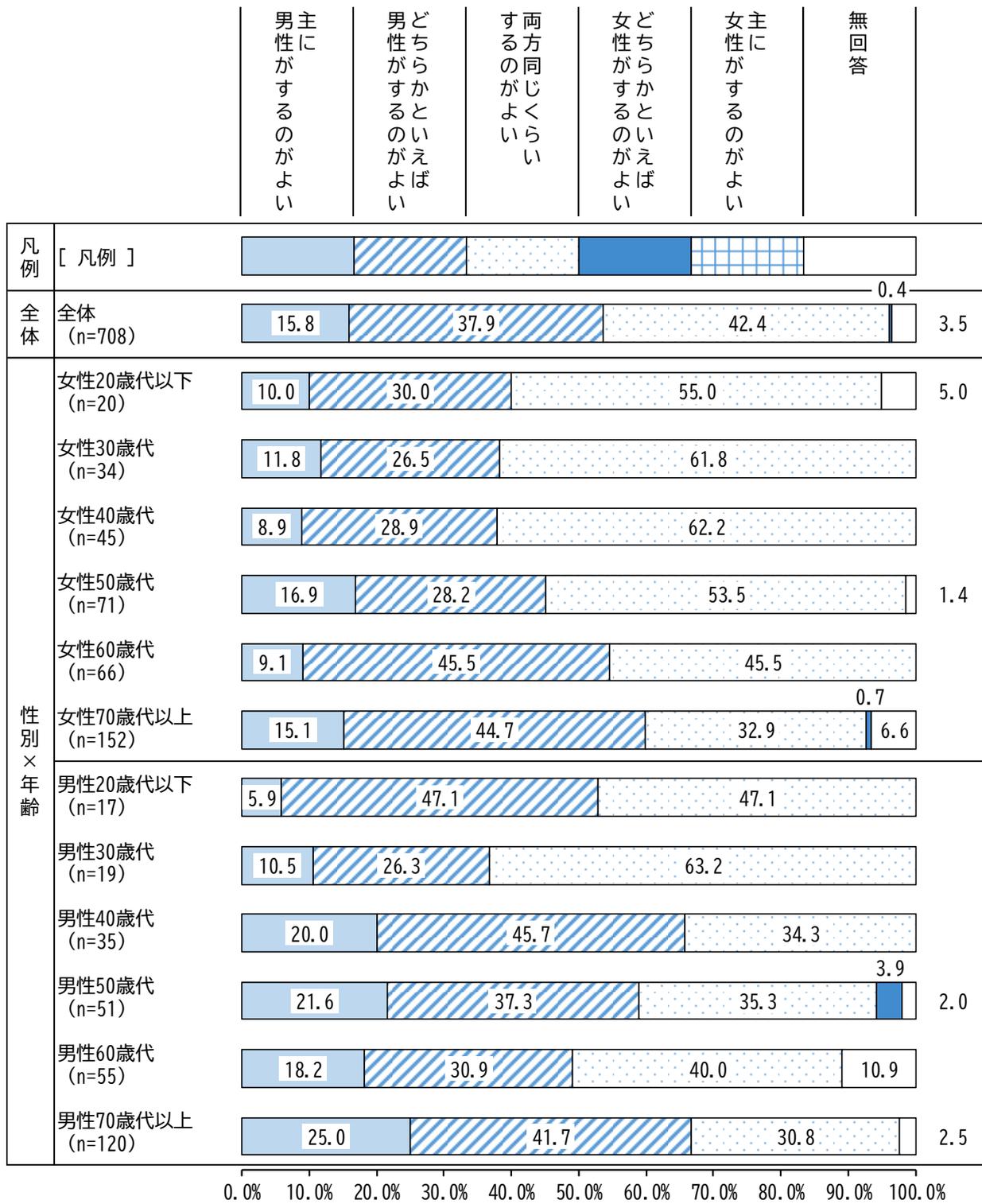
問5 家庭での分担について、あなたはどのようにするのが望ましいと思いますか。また実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。(①～⑦の項目について、理想と現実でそれぞれ○は1つ)

①生活費をかせぐ (理想)

【全体】	
○	「両方同じくらいするのがよい」が42.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性がするのがよい」が37.9%、「主に男性がするのがよい」が15.8%となっています。
○	「主に男性がするのがよい」「どちらかといえば男性がするのがよい」を合わせた“男性がするのがよい”は53.7%となっています。「主に女性がするのがよい」「どちらかといえば女性がするのがよい」を合わせた“女性がするのがよい”は0.4%となっています。
【性別】	
○	女性では、「両方同じくらいするのがよい」が46.9%で、男性の37.3%より9.6ポイント多くなっています。

【①生活費をかせぐ (理想)】





①生活費をかせぐ（現実）

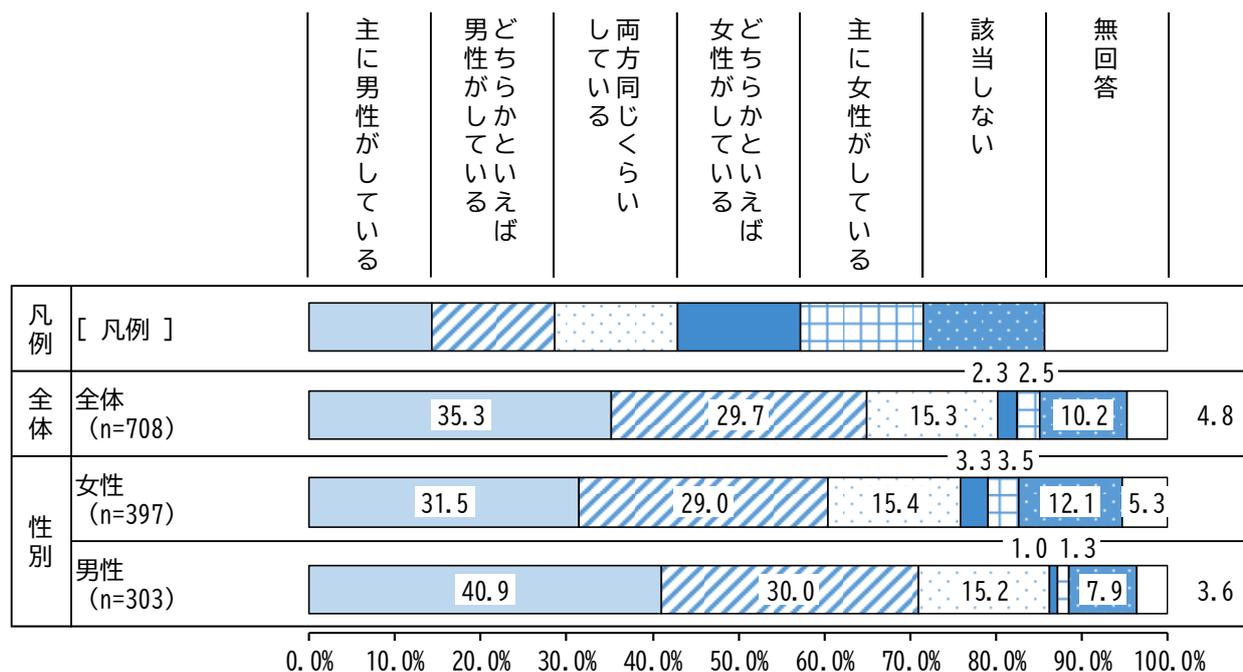
【全体】

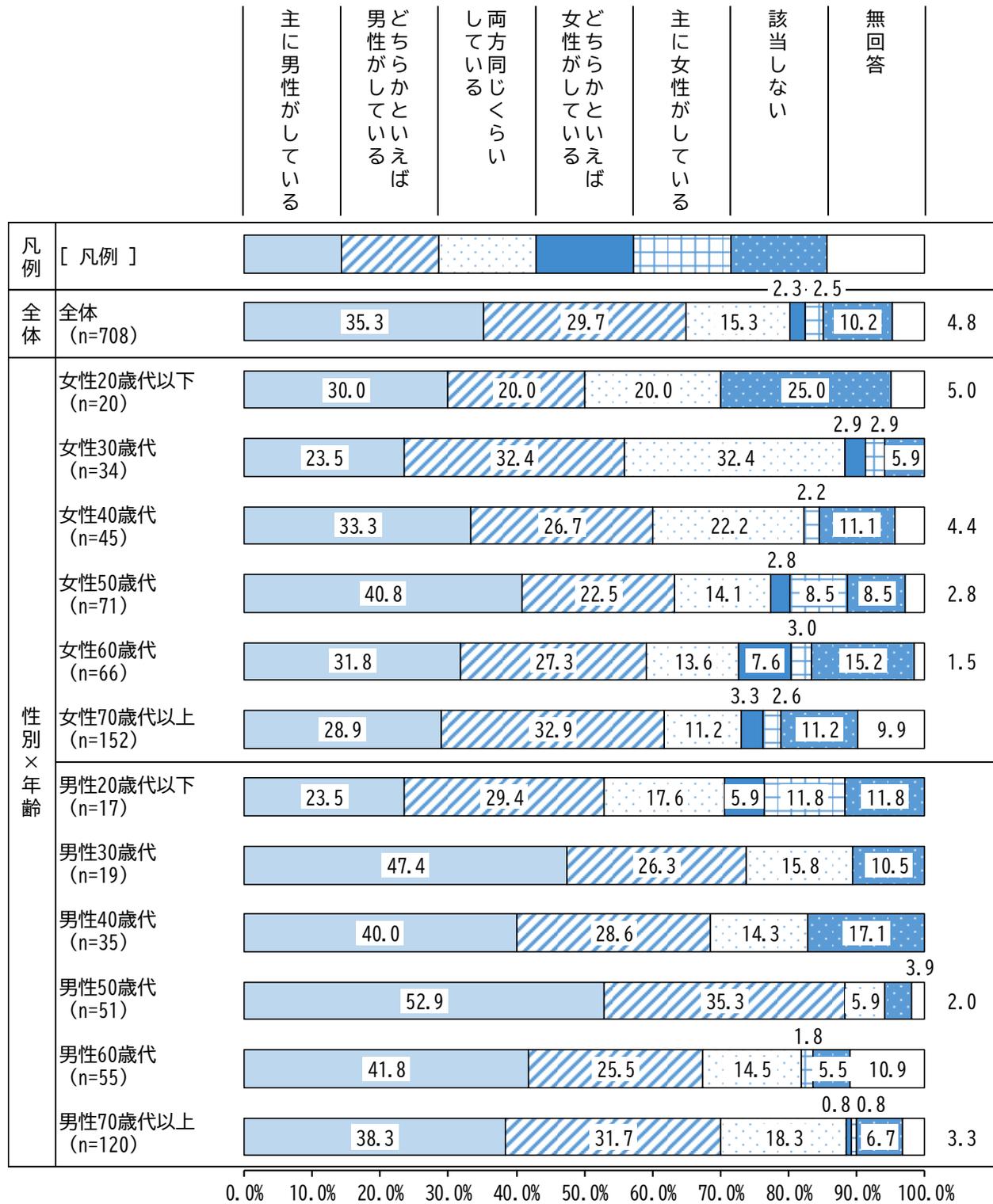
- 「主に男性がしている」が 35.3%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性がしている」が 29.7%、「両方同じくらいしている」が 15.3%となっています。
- 「主に男性がしている」「どちらかといえば男性がしている」を合わせた“男性がしている”は 65.0%となっています。「主に女性がしている」「どちらかといえば女性がしている」を合わせた“女性がしている”は 4.8%となっています。

【性別】

- 男性では、“男性がしている”が 70.9%で、女性の 60.5%より 10.4 ポイント多くなっています。

【①生活費をかせぐ（現実）】





②日々の家計の管理（理想）

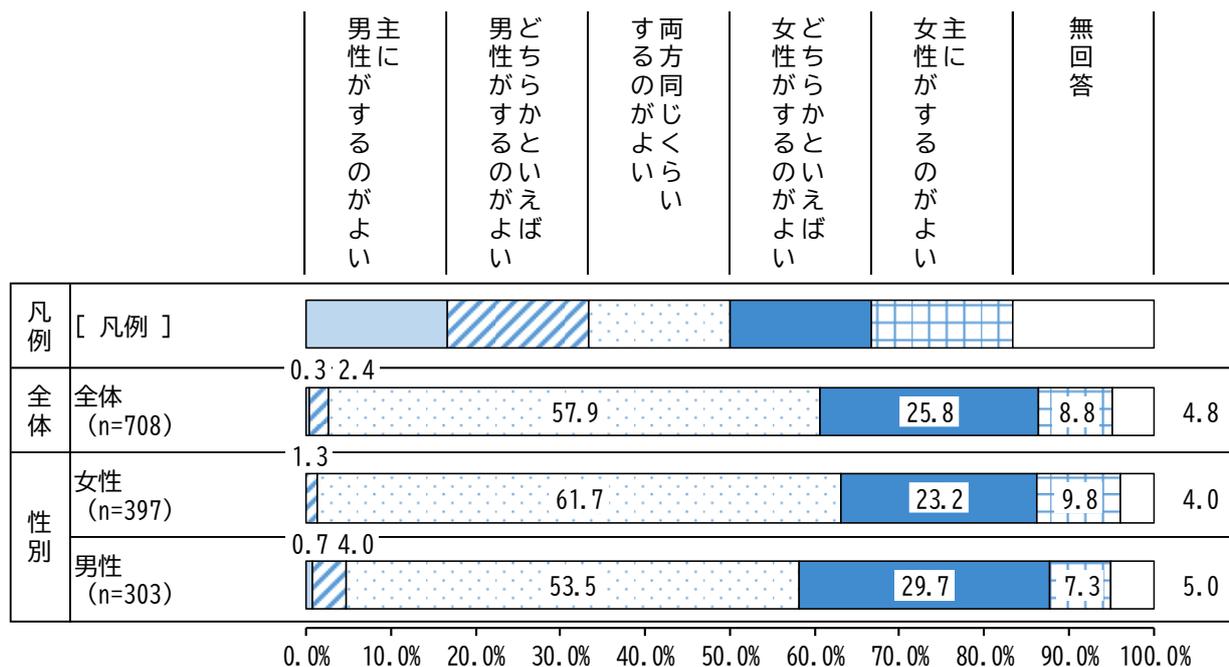
【全体】

- 「両方同じくらいするのがよい」が57.9%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がするのがよい」が25.8%、「主に女性がするのがよい」が8.8%となっています。
- 「主に男性がするのがよい」「どちらかといえば男性がするのがよい」を合わせた“男性がするのがよい”は2.7%となっています。「主に女性がするのがよい」「どちらかといえば女性がするのがよい」を合わせた“女性がするのがよい”は34.6%となっています。

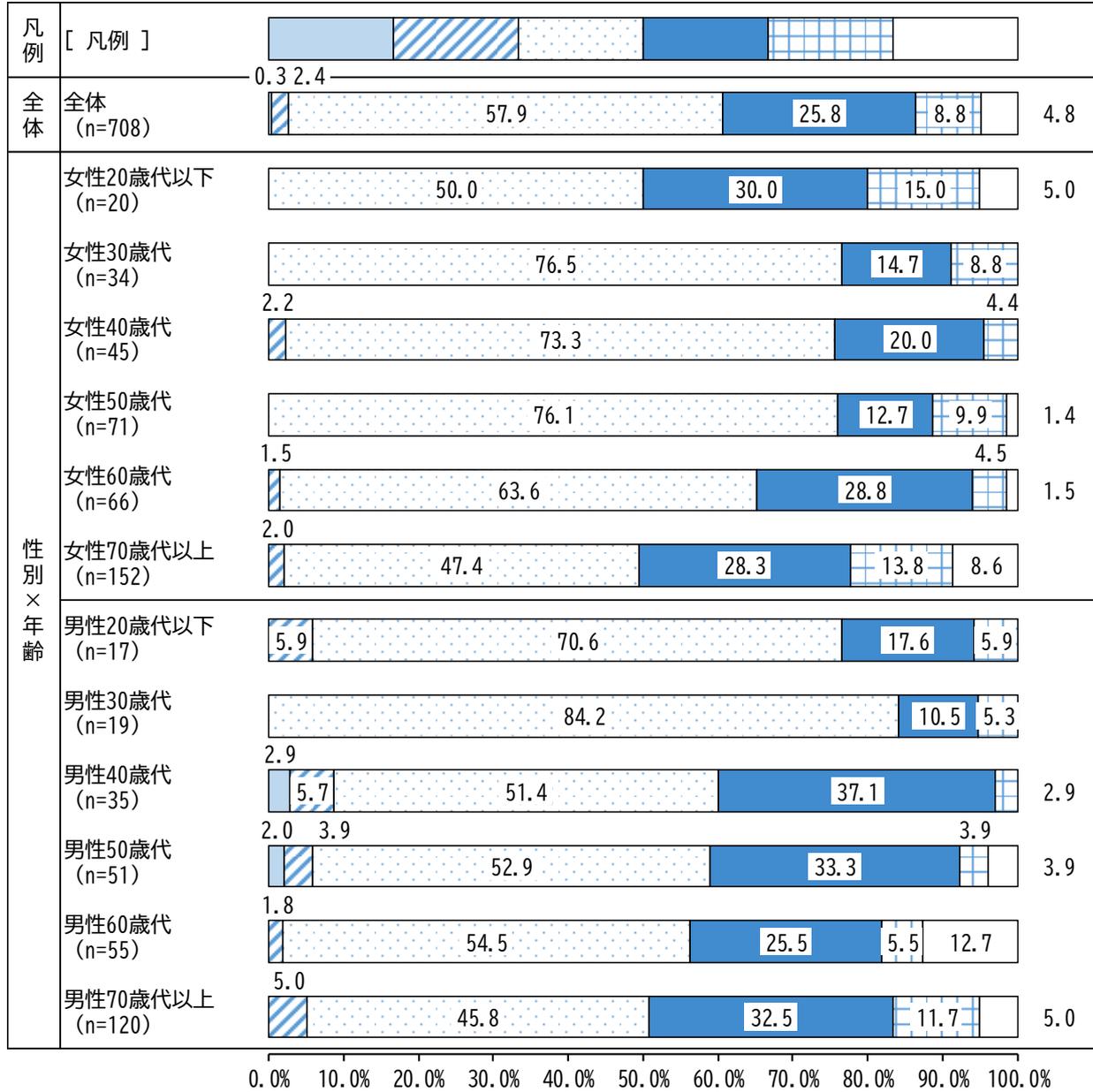
【性別】

- 女性では、「両方同じくらいするのがよい」が61.7%で、男性の53.5%より8.2ポイント多くなっています。

【②日々の家計の管理（理想）】



主に男性がするのがよい	どちらがするかといえはよい	両方が同じくらい	どちらがするかといえはよい	主に女性がするのがよい	無回答
-------------	---------------	----------	---------------	-------------	-----



②日々の家計の管理（現実）

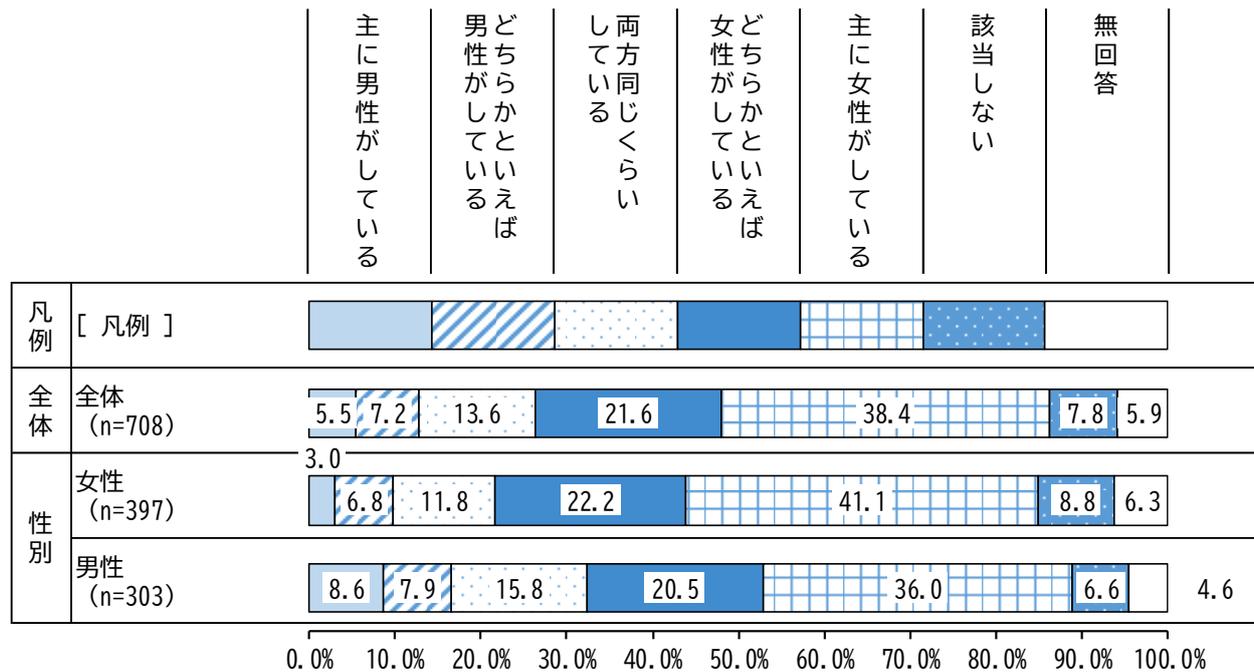
【全体】

- 「主に女性がしている」が 38.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がしている」が 21.6%、「両方同じくらいしている」が 13.6%となっています。
- 「主に男性がしている」「どちらかといえば男性がしている」を合わせた“男性がしている”は 12.7%となっています。「主に女性がしている」「どちらかといえば女性がしている」を合わせた“女性がしている”は 60.0%となっています。

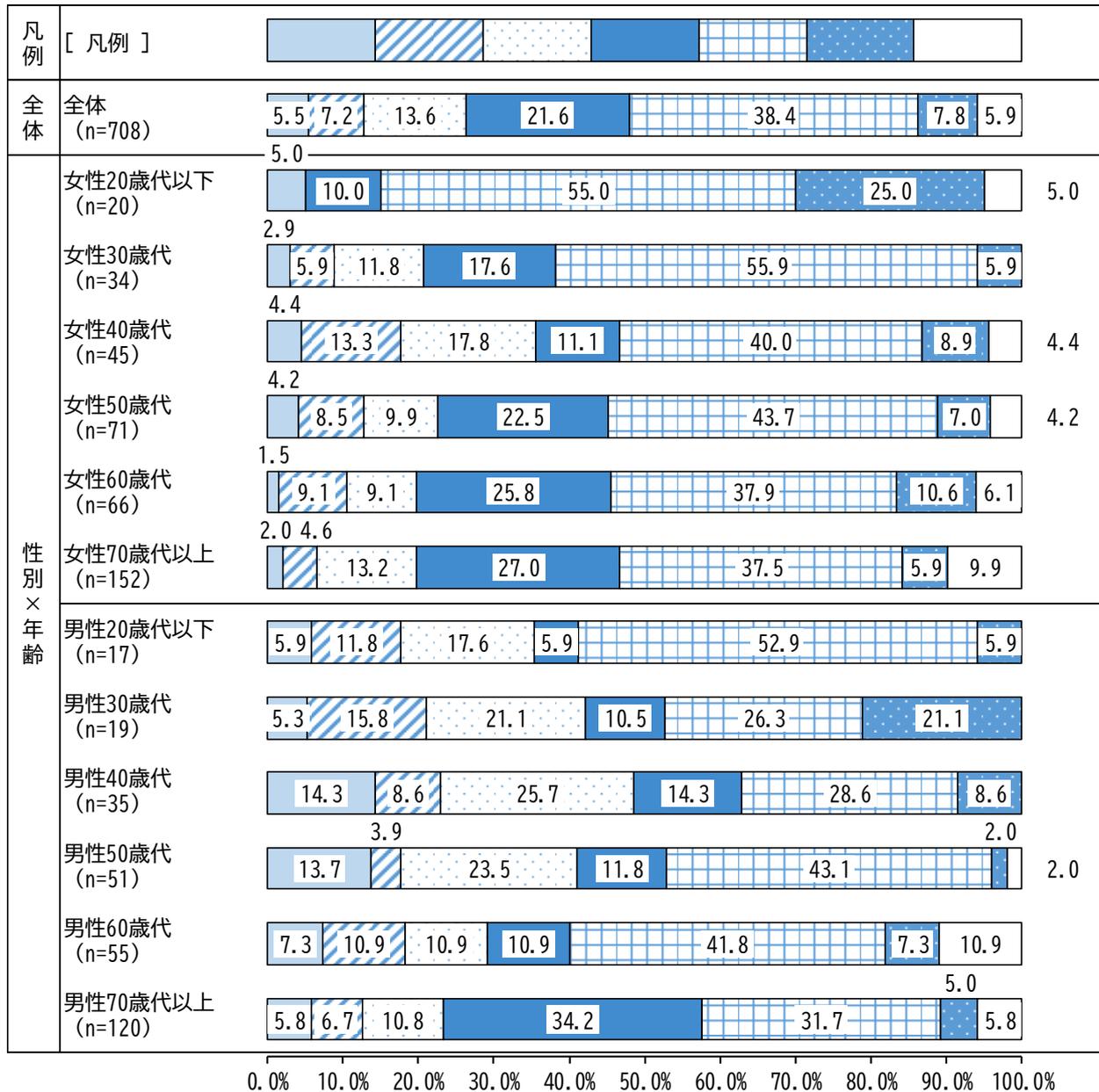
【性別】

- 女性では、“女性がしている”が 63.3%で、男性の 56.5%より 6.8ポイント多くなっています。

【②日々の家計の管理（現実）】



主に男性がしている	どちらかといえば男性がしている	両方同じくらいしている	どちらかといえば女性がしている	主に女性がしている	該当しない	無回答
-----------	-----------------	-------------	-----------------	-----------	-------	-----



③日常の家事（理想）

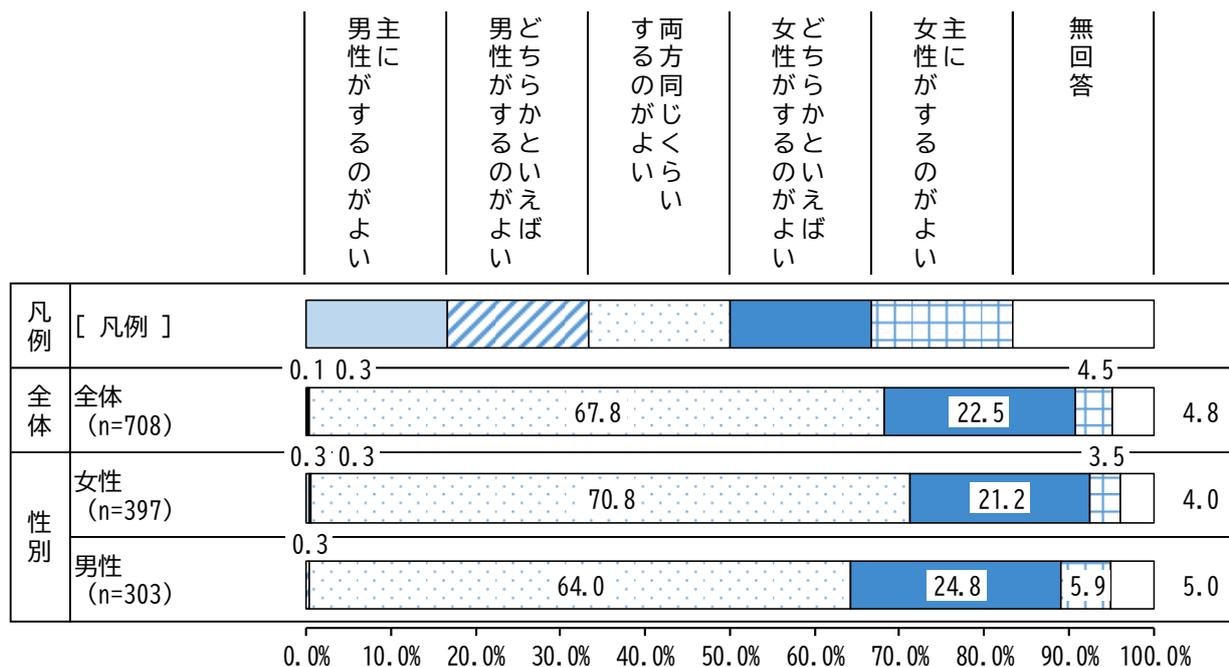
【全体】

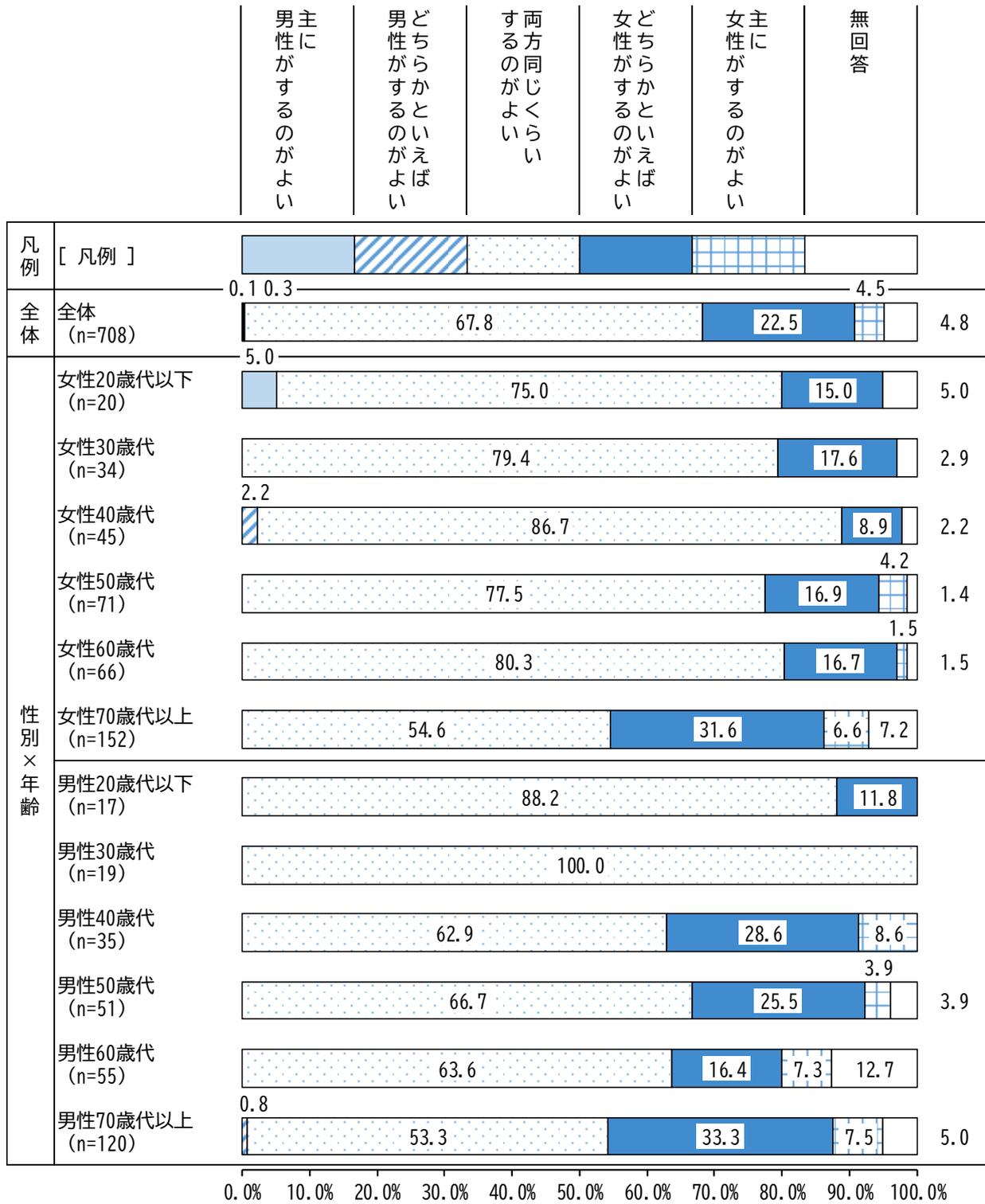
- 「両方同じくらいするのがよい」が67.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がするのがよい」が22.5%、「主に女性がするのがよい」が4.5%となっています。
- 「主に男性がするのがよい」「どちらかといえば男性がするのがよい」を合わせた“男性がするのがよい”は0.4%となっています。「主に女性がするのがよい」「どちらかといえば女性がするのがよい」を合わせた“女性がするのがよい”は27.0%となっています。

【性別】

- 女性では、「両方同じくらいするのがよい」が70.8%で、男性の64.0%より6.8ポイント多くなっています。

【③日常の家事（理想）】





③日常の家事（現実）

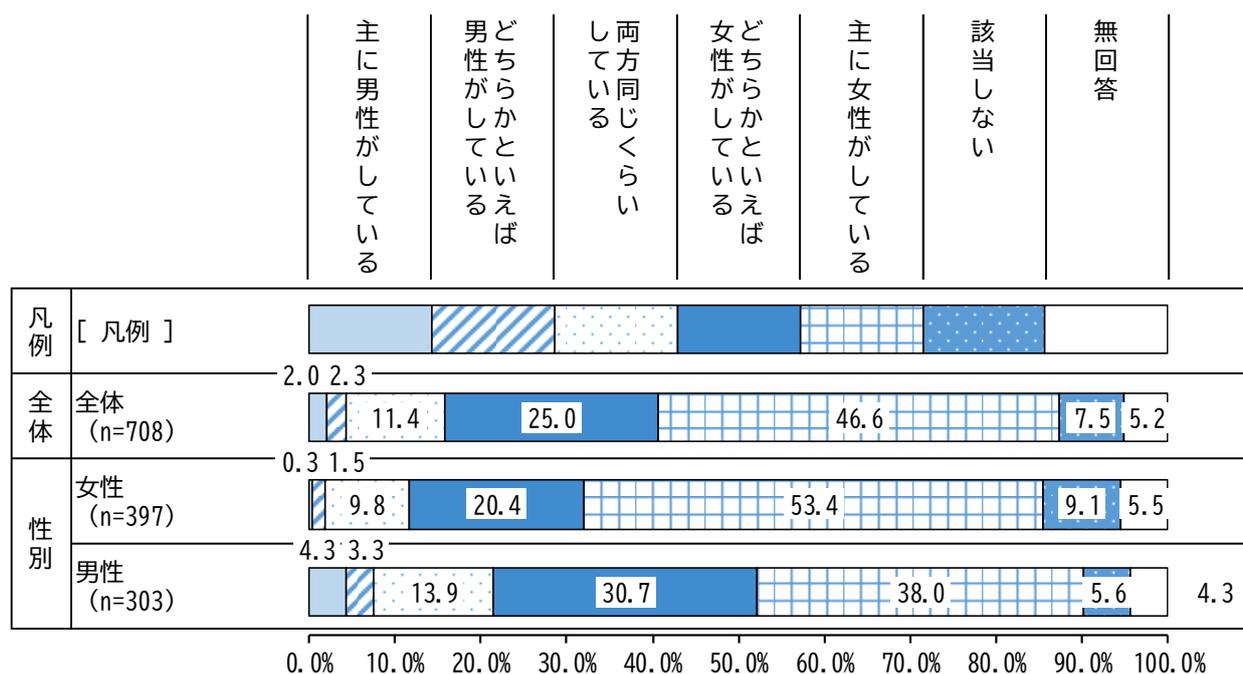
【全体】

- 「主に女性がしている」が46.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がしている」が25.0%、「両方同じくらいしている」が11.4%となっています。
- 「主に男性がしている」「どちらかといえば男性がしている」を合わせた“男性がしている”は4.3%となっています。「主に女性がしている」「どちらかといえば女性がしている」を合わせた“女性がしている”は71.6%となっています。

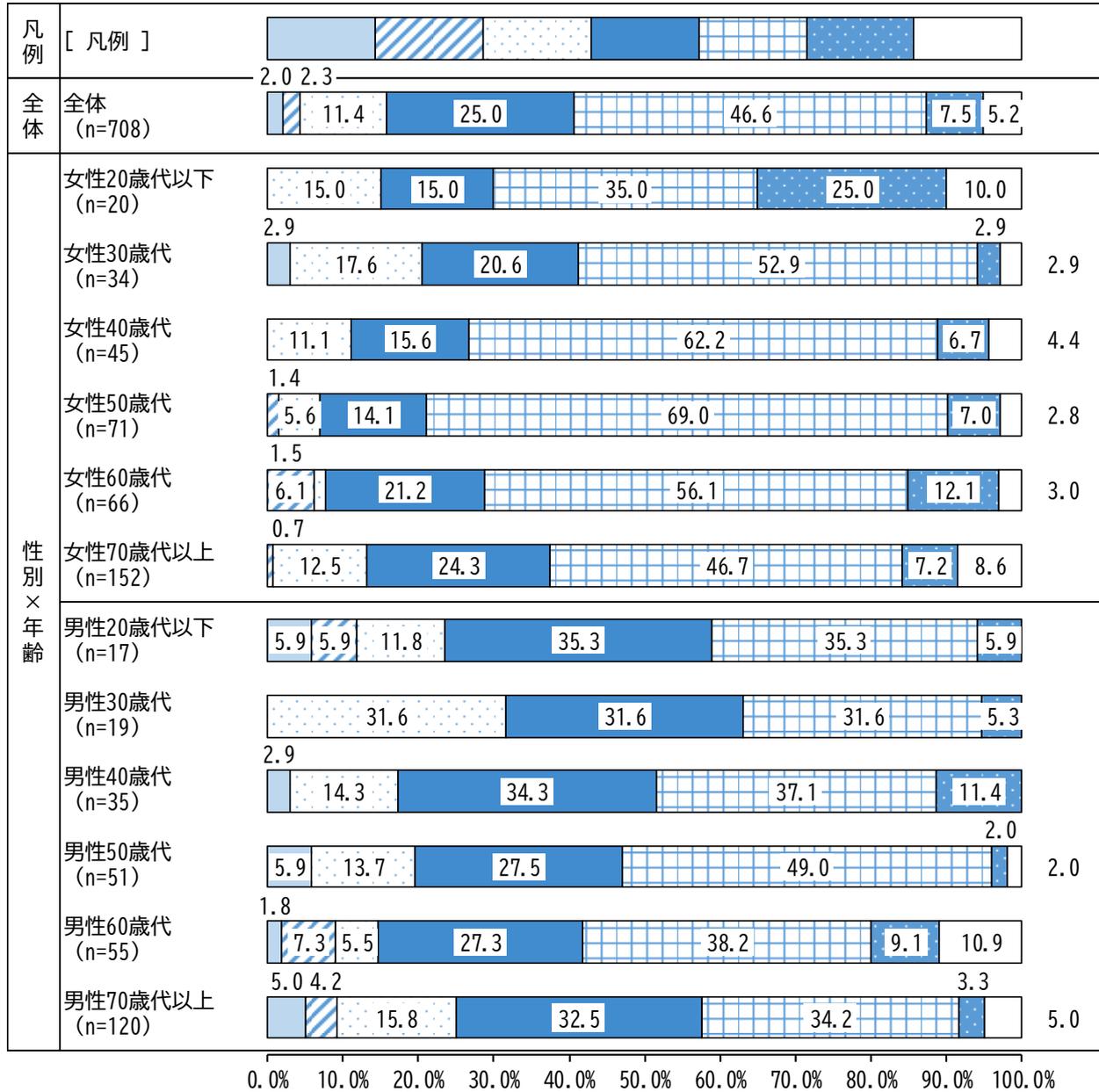
【性別】

- 女性では、“女性がしている”が73.8%で、男性の68.7%より5.1ポイント多くなっています。また、「主に女性がしている」は女性53.4%・男性38.0%で、女性のほうが15.4ポイント多くなっています。

【③日常の家事（現実）】



主に男性がしている	どちらかといえば男性がしている	両方同じくらいしている	どちらかといえば女性がしている	主に女性がしている	該当しない	無回答
-----------	-----------------	-------------	-----------------	-----------	-------	-----



④老親や病身者の介護や看護（理想）

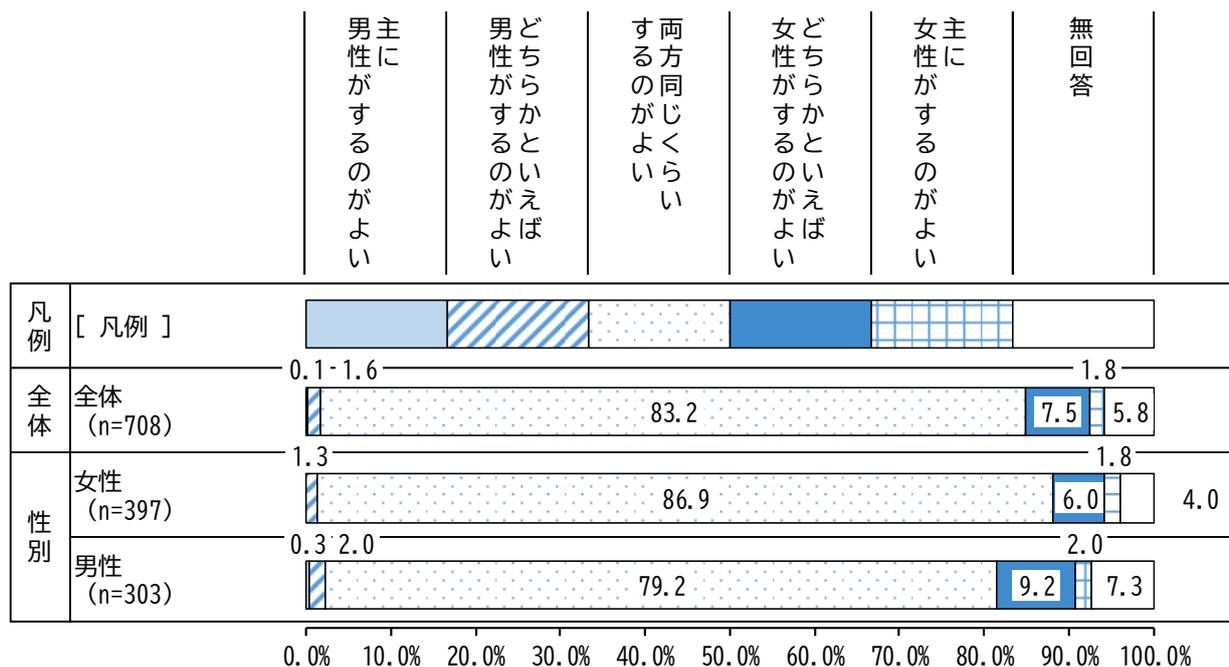
【全体】

- 「両方同じくらいするのがよい」が83.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がするのがよい」が7.5%、「主に女性がするのがよい」が1.8%となっています。
- 「主に男性がするのがよい」「どちらかといえば男性がするのがよい」を合わせた“男性がするのがよい”は1.7%となっています。「主に女性がするのがよい」「どちらかといえば女性がするのがよい」を合わせた“女性がするのがよい”は9.3%となっています。

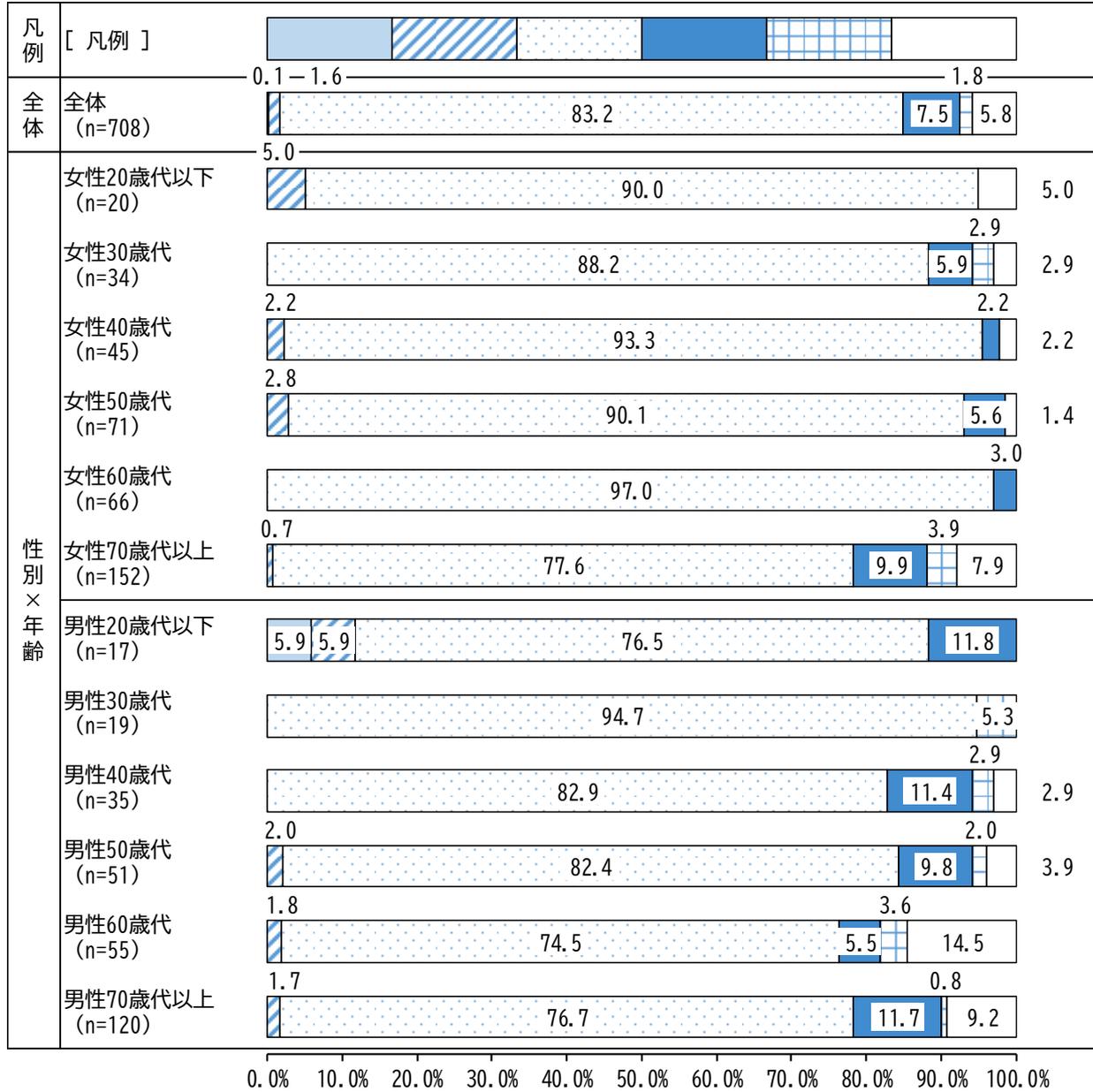
【性別】

- 女性では、「両方同じくらいするのがよい」が86.9%で、男性の79.2%より7.7ポイント多くなっています。

【④老親や病身者の介護や看護（理想）】



主に男性がするのがよい	どちらがするかといえはよい	両方が同じくらい	どちらがするかといえはよい	主に女性がするのがよい	無回答
-------------	---------------	----------	---------------	-------------	-----



④老親や病身者の介護や看護（現実）

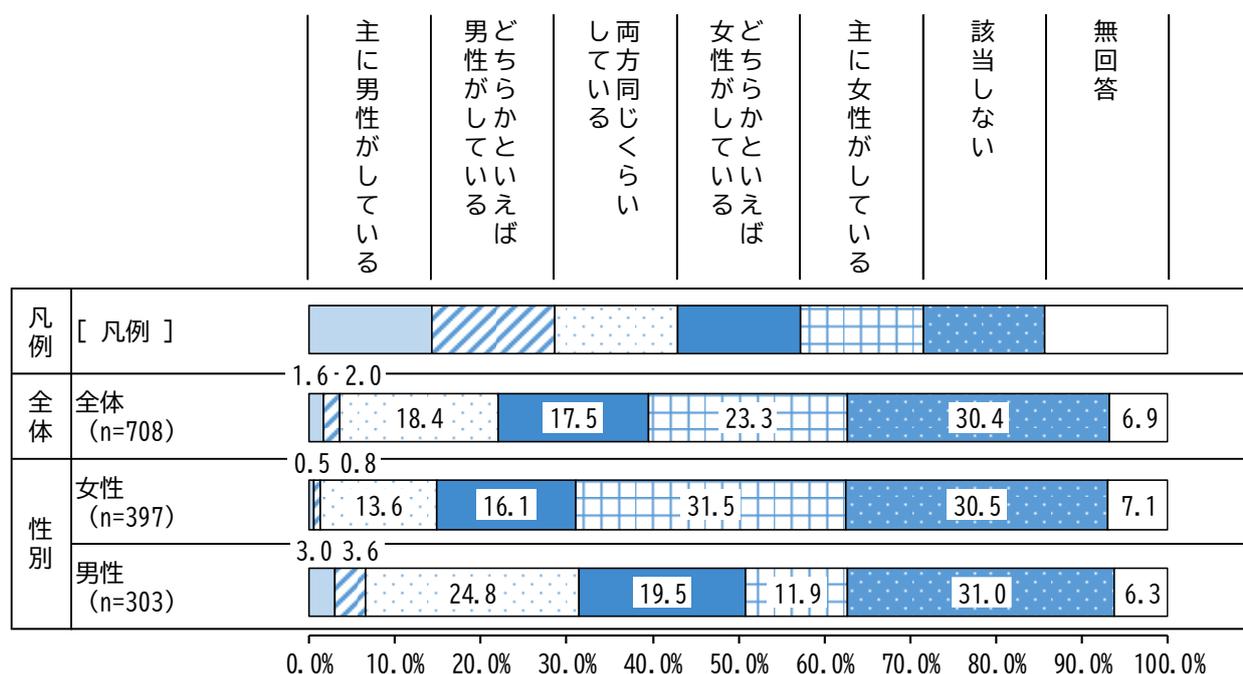
【全体】

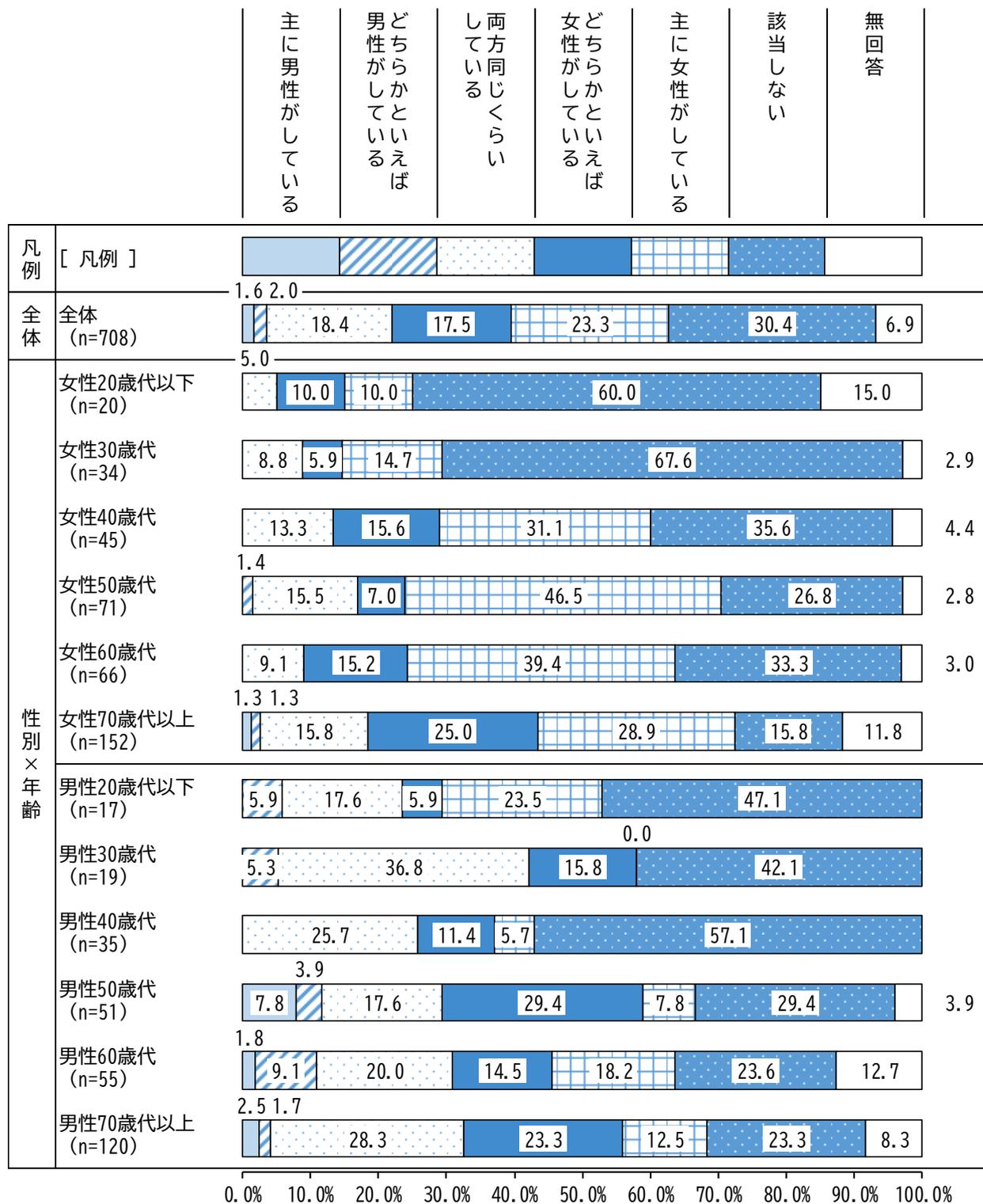
- 「該当しない」が30.4%で最も多く、次いで「主に女性がしている」が23.3%、「両方同じくらいしている」が18.4%となっています。
- 「主に男性がしている」「どちらかといえば男性がしている」を合わせた“男性がしている”は3.6%となっています。「主に女性がしている」「どちらかといえば女性がしている」を合わせた“女性がしている”は40.8%となっています。

【性別】

- 女性では、“女性がしている”が47.6%で、男性の31.4%より16.2ポイント多くなっています。
- 男性では、「両方同じくらいしている」が24.8%で、女性の13.6%より11.2ポイント多くなっています。

【④老親や病身者の介護や看護（現実）】





⑤子どもの教育としつけ（理想）

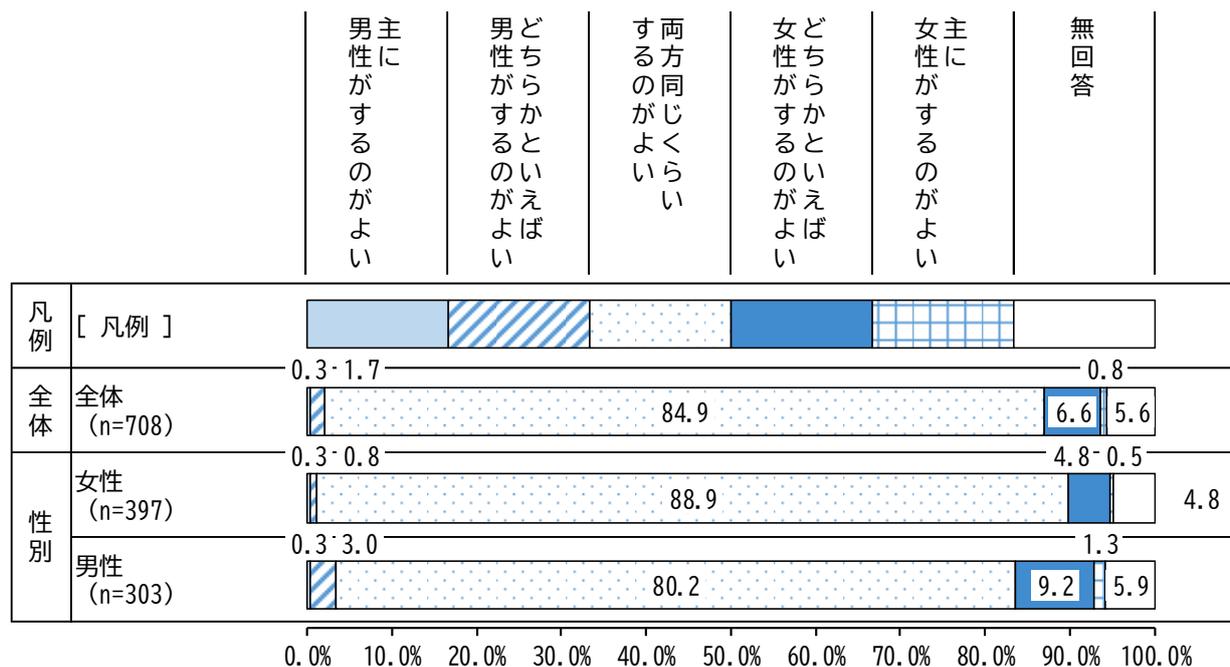
【全体】

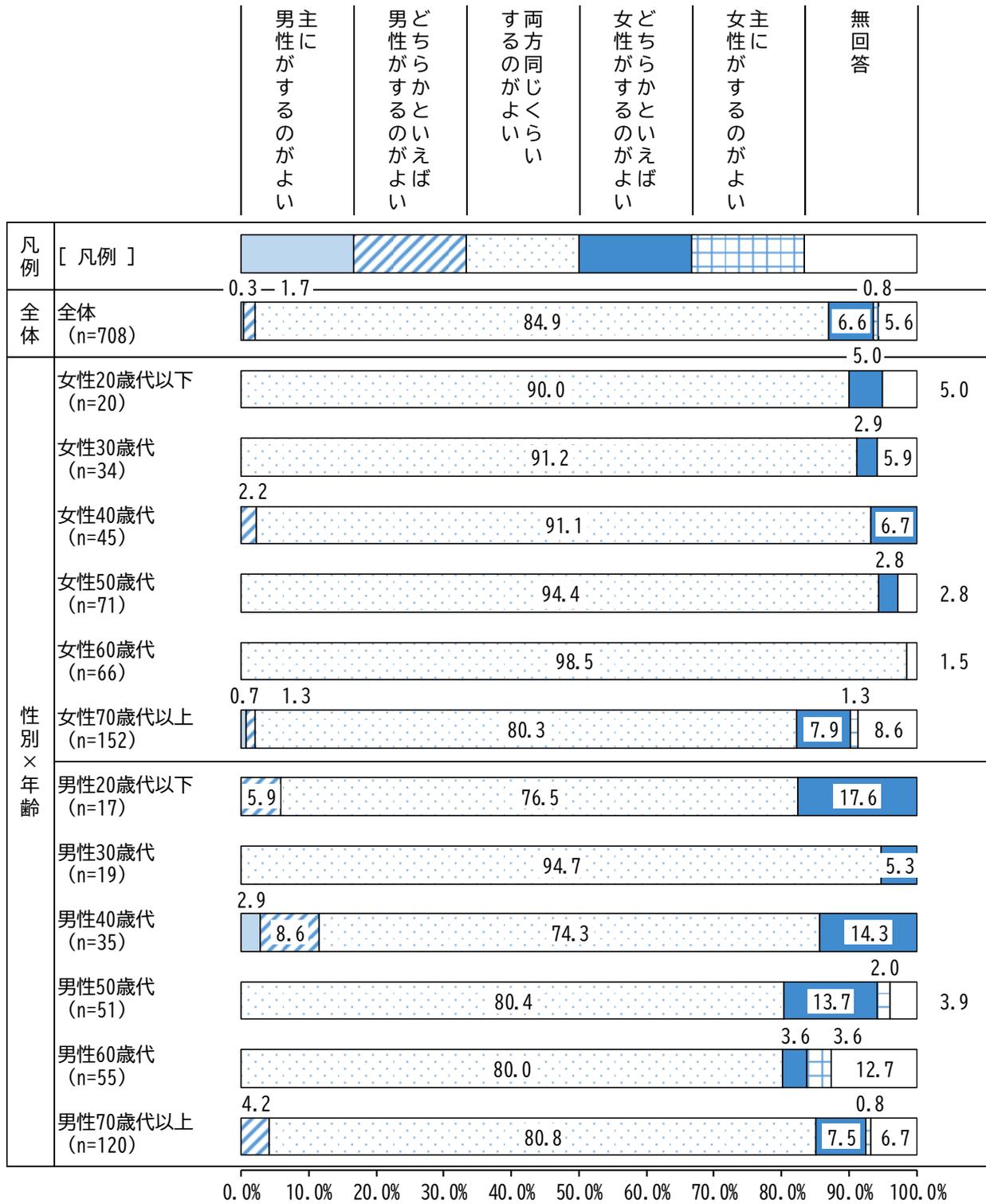
- 「両方同じくらいするのがよい」が84.9%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がするのがよい」が6.6%、「どちらかといえば男性がするのがよい」が1.7%となっています。
- 「主に男性がするのがよい」「どちらかといえば男性がするのがよい」を合わせた“男性がするのがよい”は2.0%となっています。「主に女性がするのがよい」「どちらかといえば女性がするのがよい」を合わせた“女性がするのがよい”は7.4%となっています。

【性別】

- 女性では、「両方同じくらいするのがよい」が88.9%で、男性の80.2%より8.7ポイント多くなっています。

【⑤子どもの教育としつけ（理想）】





⑤子どもの教育としつけ（現実）

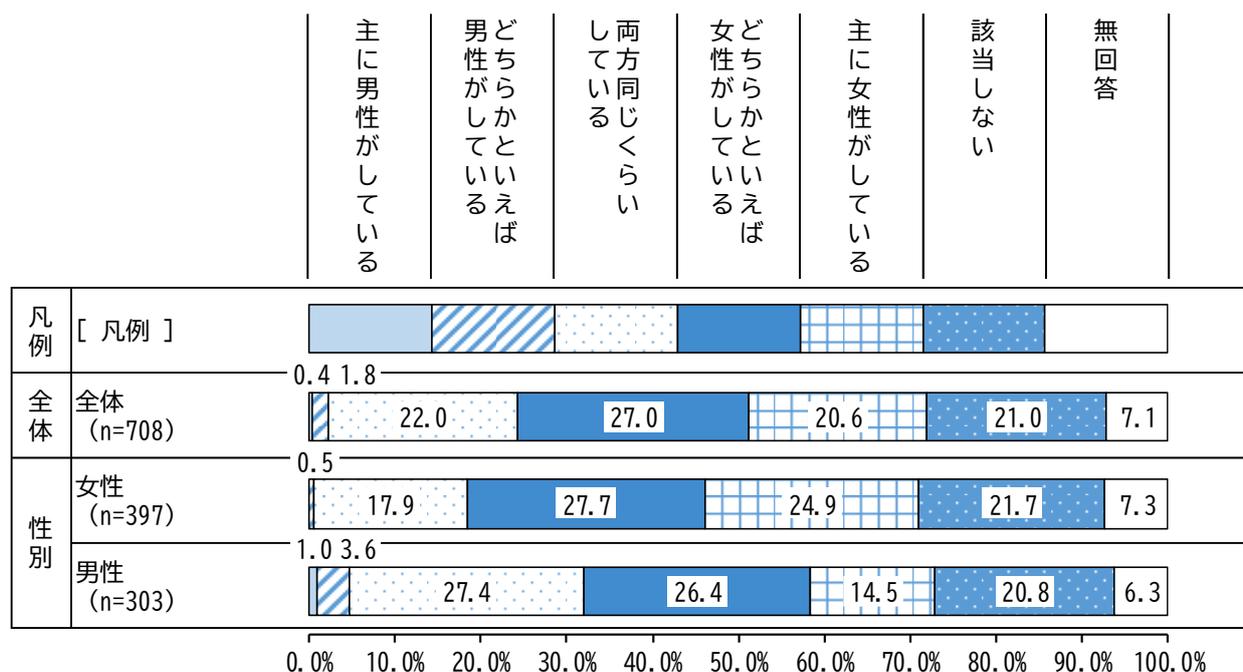
【全体】

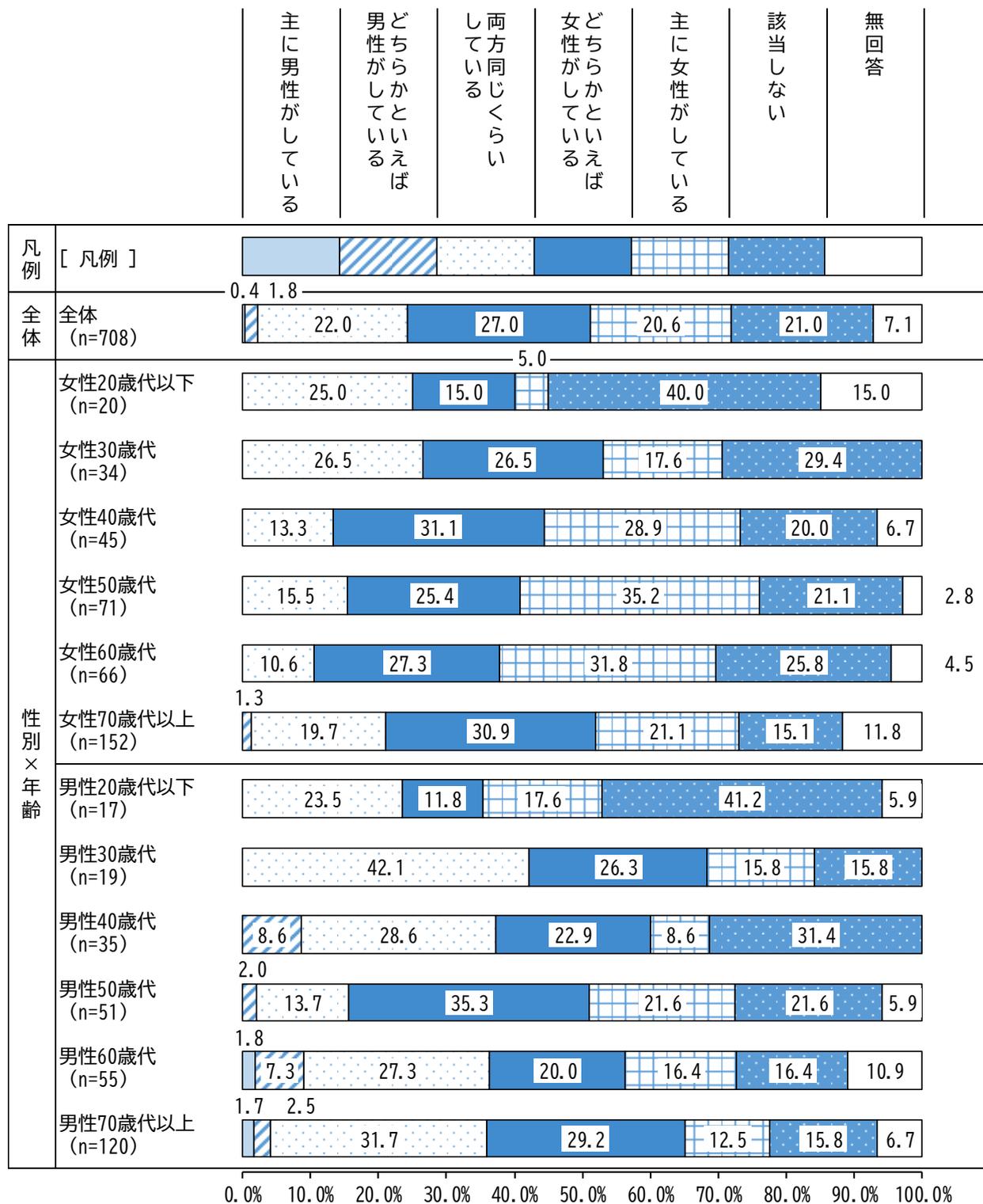
- 「どちらかといえば女性がしている」が27.0%で最も多く、次いで「両方同じくらいしている」が22.0%、「該当しない」が21.0%となっています。
- 「主に男性がしている」「どちらかといえば男性がしている」を合わせた“男性がしている”は2.2%となっています。「主に女性がしている」「どちらかといえば女性がしている」を合わせた“女性がしている”は47.6%となっています。

【性別】

- 女性では、“女性がしている”が52.6%で、男性の40.9%より11.7ポイント多くなっています。

【⑤子どもの教育としつけ（現実）】





⑥育児（乳幼児の世話）（理想）

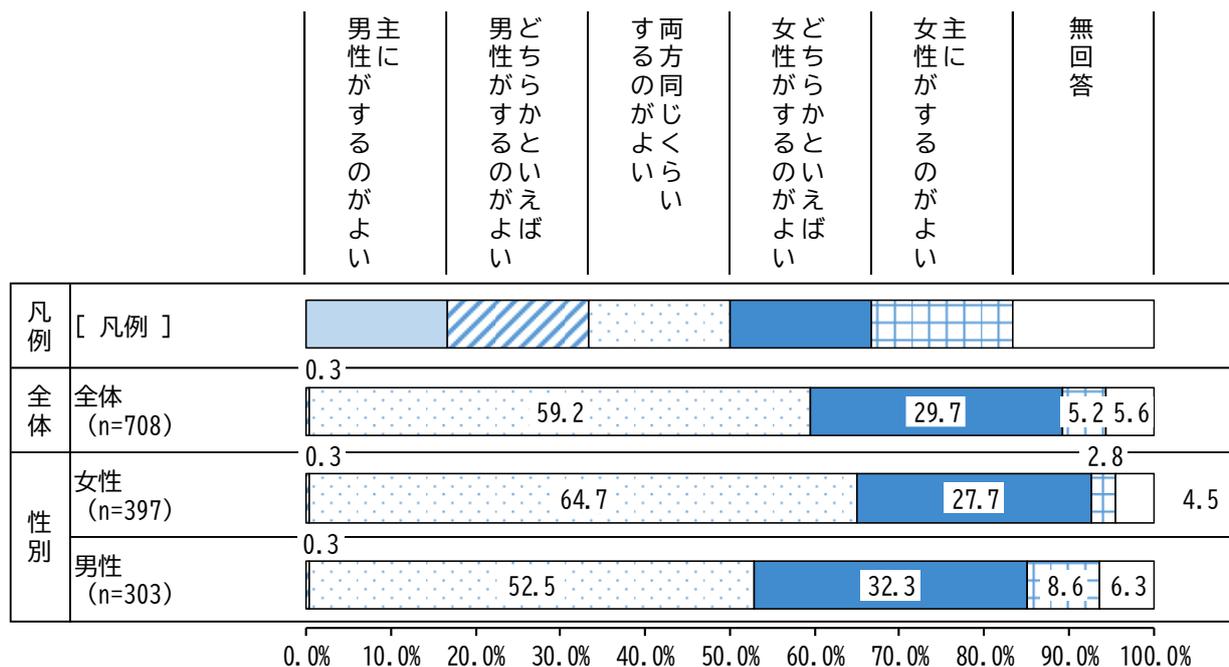
【全体】

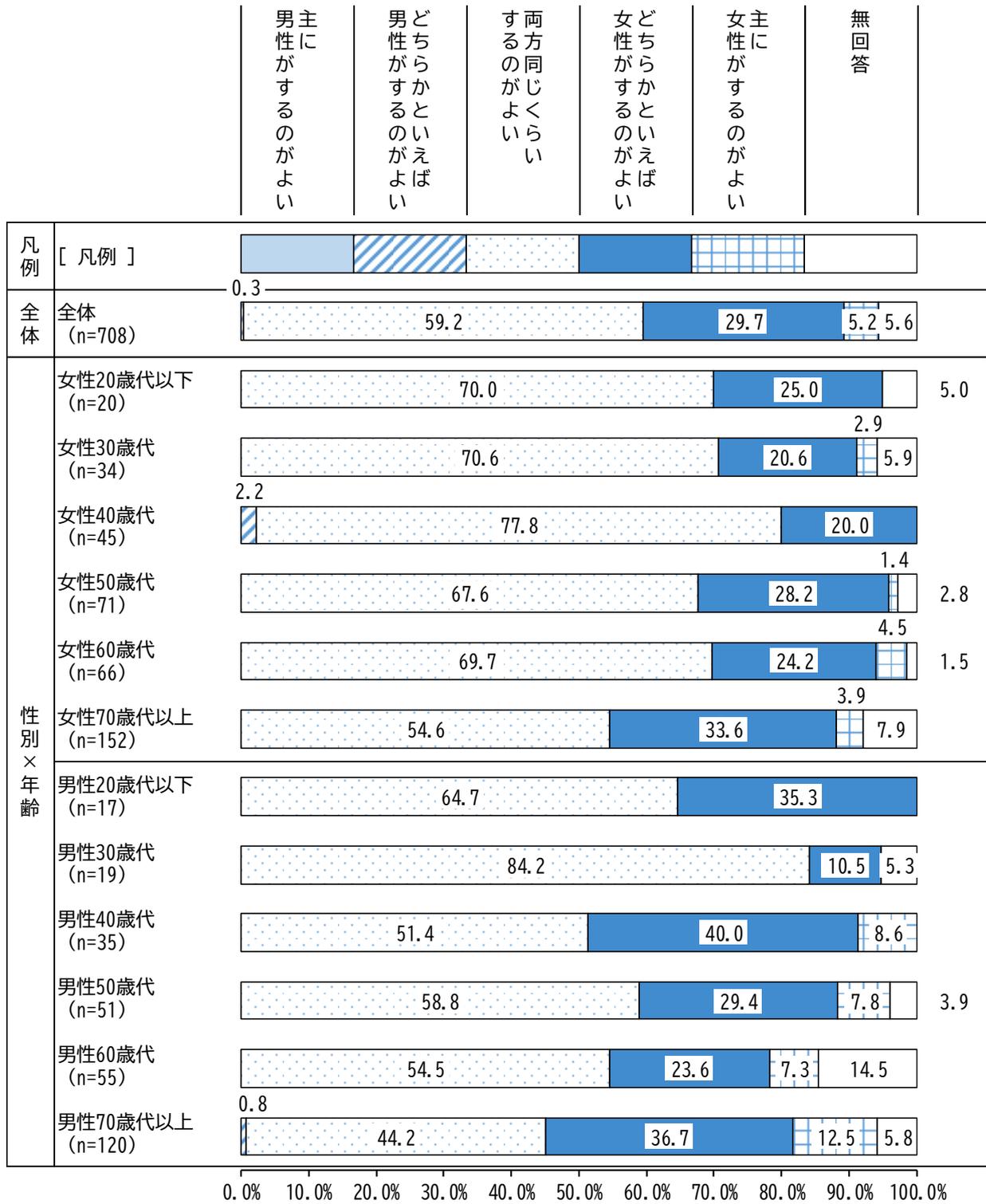
- 「両方同じくらいするのがよい」が59.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がするのがよい」が29.7%、「主に女性がするのがよい」が5.2%となっています。
- 「主に男性がするのがよい」「どちらかといえば男性がするのがよい」を合わせた“男性がするのがよい”は0.3%となっています。「主に女性がするのがよい」「どちらかといえば女性がするのがよい」を合わせた“女性がするのがよい”は34.9%となっています。

【性別】

- 女性では、「両方同じくらいするのがよい」が64.7%で、男性の52.5%より12.2ポイント多くなっています。

【⑥育児（乳幼児の世話）（理想）】





⑥育児（乳幼児の世話）（現実）

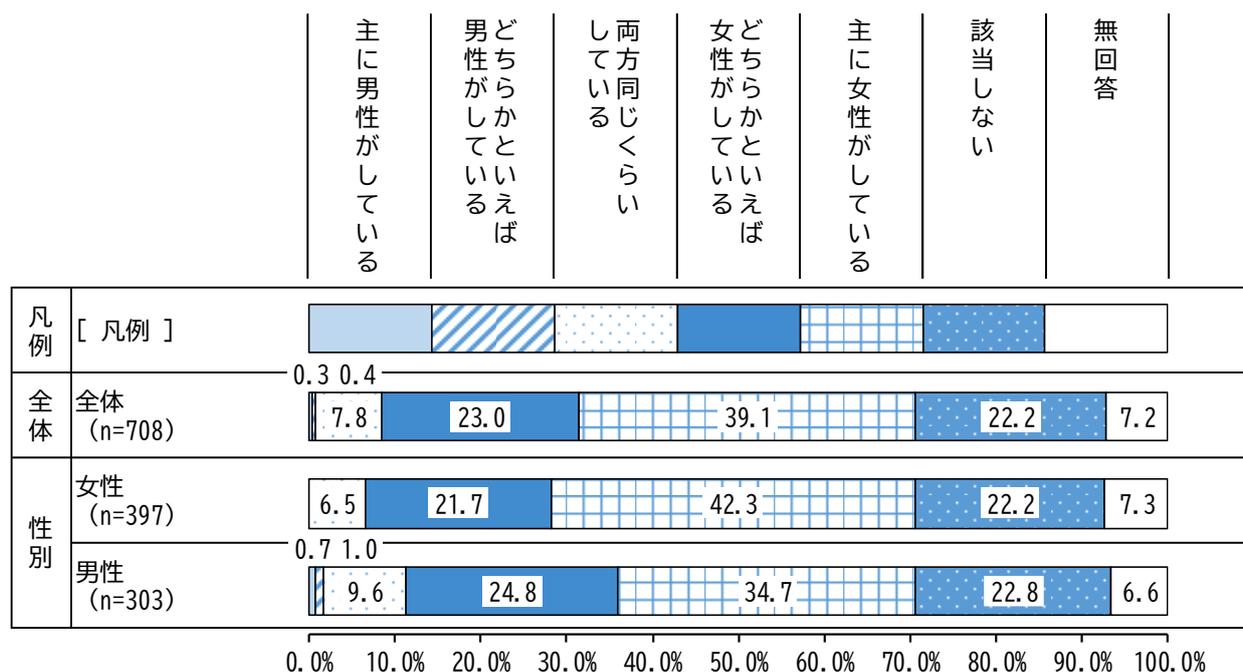
【全体】

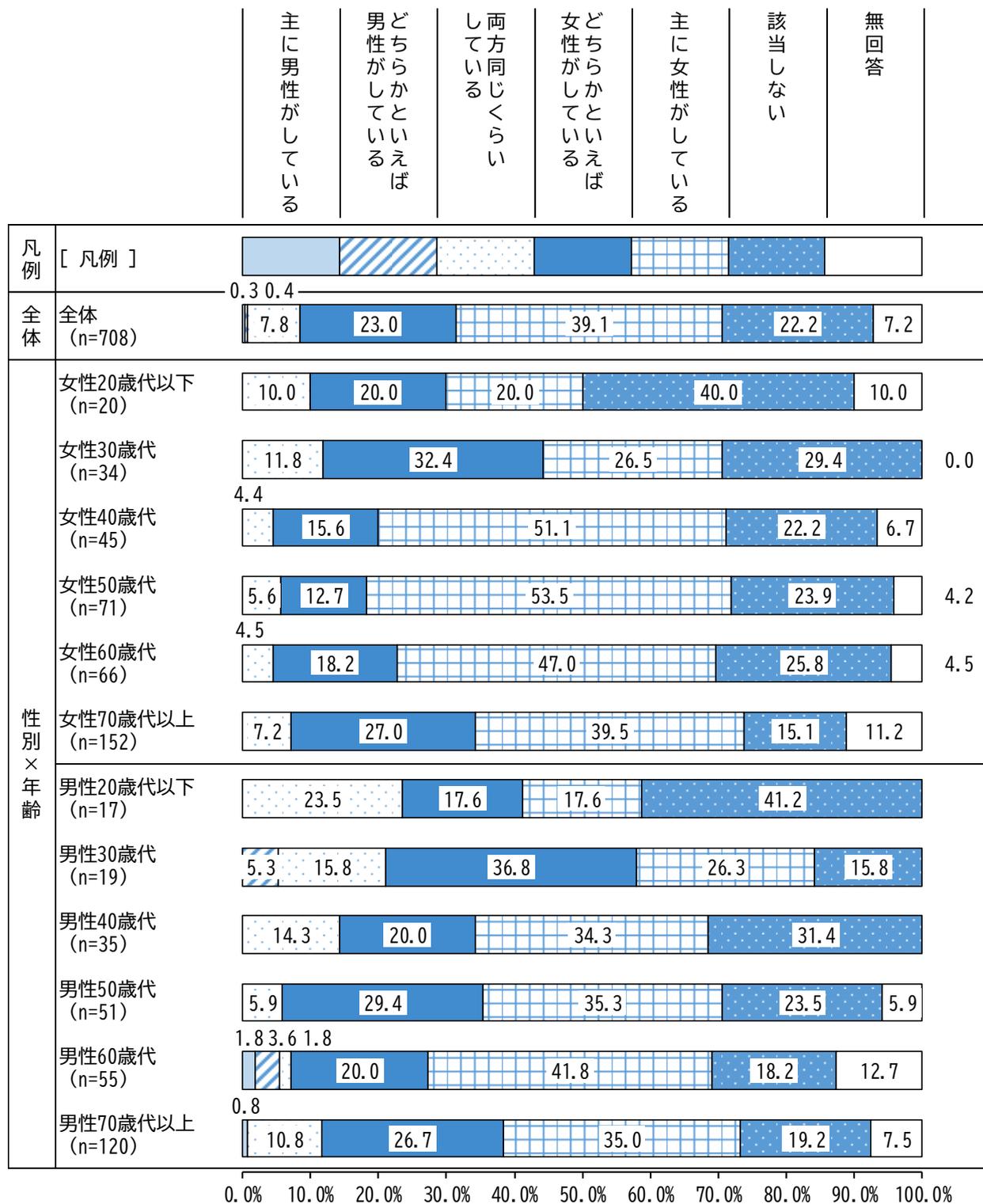
- 「主に女性がしている」が 39.1%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性がしている」が 23.0%、「該当しない」が 22.2%となっています。
- 「主に男性がしている」「どちらかといえば男性がしている」を合わせた“男性がしている”は 0.7%となっています。「主に女性がしている」「どちらかといえば女性がしている」を合わせた“女性がしている”は 62.1%となっています。

【性別】

- 女性では、「主に女性がしている」が 42.3%で、男性の 34.7%より 7.6 ポイント多くなっています。

【⑥育児（乳幼児の世話）（現実）】





⑦自治会など地域活動への参加（理想）

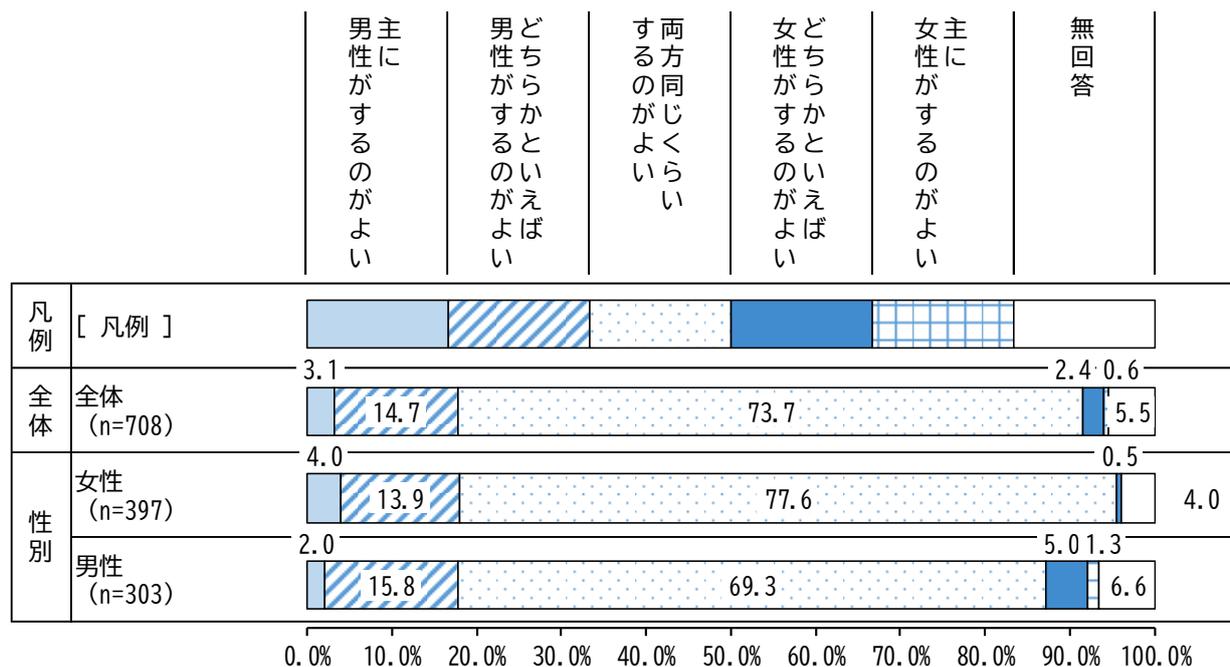
【全体】

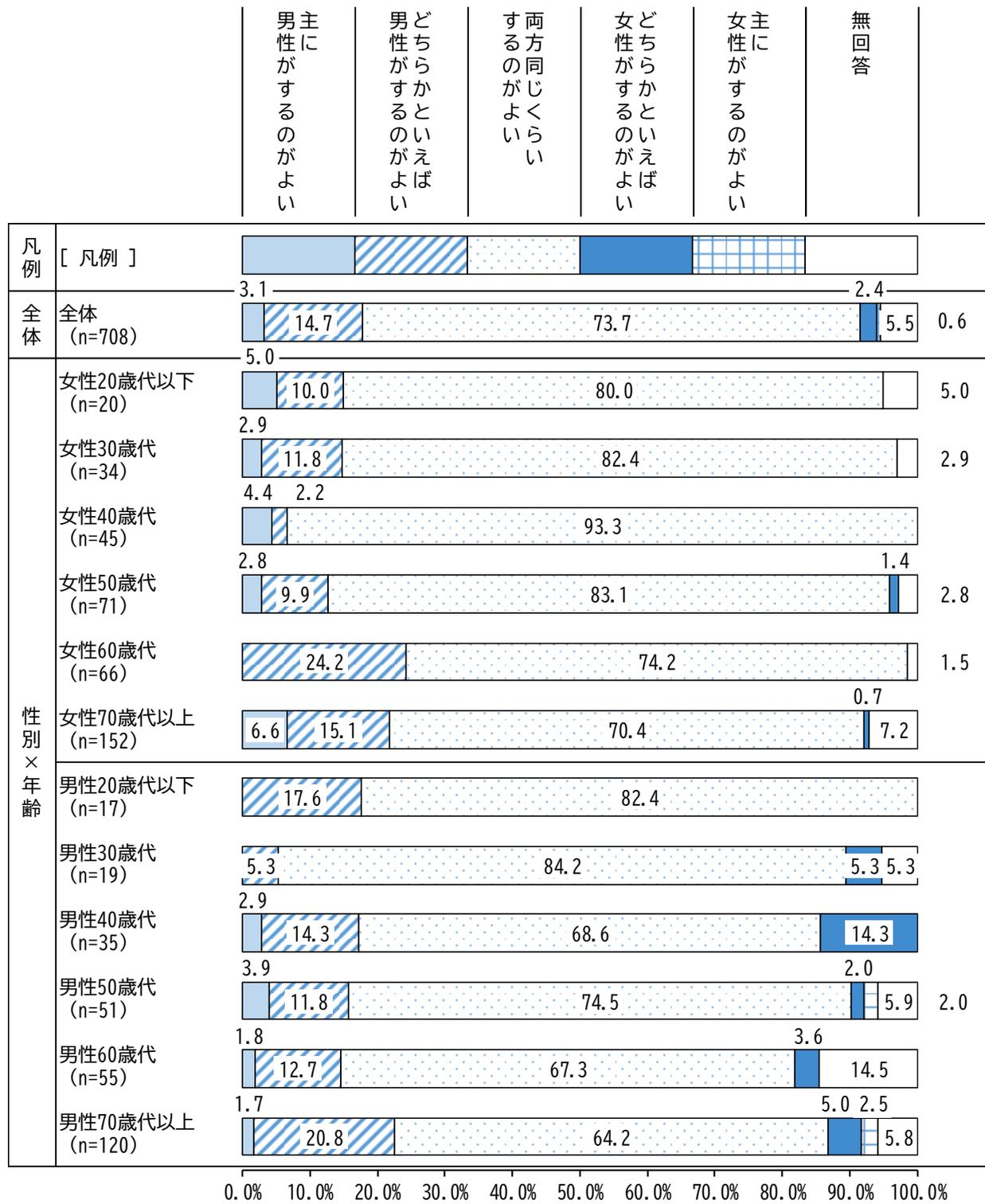
- 「両方同じくらいするのがよい」が73.7%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性がするのがよい」が14.7%、「主に男性がするのがよい」が3.1%となっています。
- 「主に男性がするのがよい」「どちらかといえば男性がするのがよい」を合わせた“男性がするのがよい”は17.8%となっています。「主に女性がするのがよい」「どちらかといえば女性がするのがよい」を合わせた“女性がするのがよい”は3.0%となっています。

【性別】

- 女性では、「両方同じくらいするのがよい」が77.6%で、男性の69.3%より8.3ポイント多くなっています。

【⑦自治会など地域活動への参加（理想）】





⑦自治会など地域活動への参加（現実）

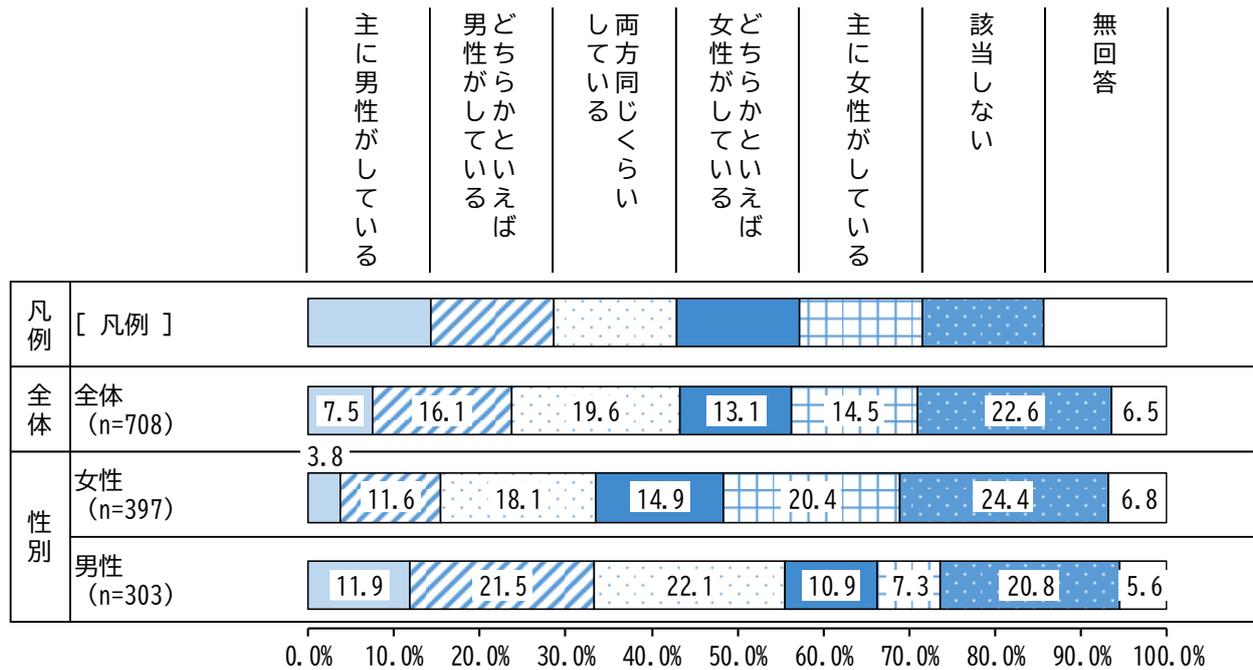
【全体】

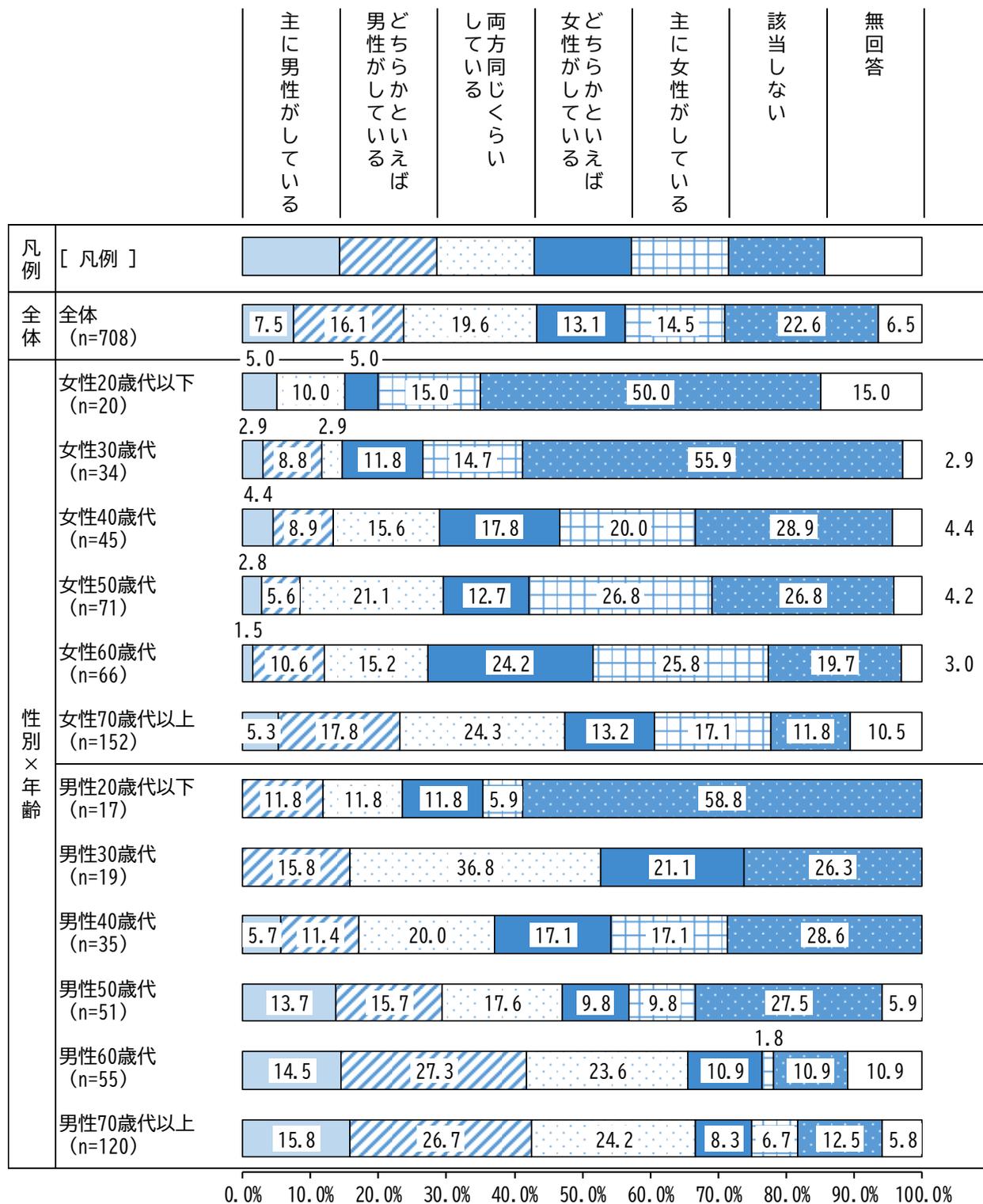
- 「該当しない」が22.6%で最も多く、次いで「両方同じくらいしている」が19.6%、「どちらかといえば男性がしている」が16.1%となっています。
- 「主に男性がしている」「どちらかといえば男性がしている」を合わせた“男性がしている”は23.6%となっています。「主に女性がしている」「どちらかといえば女性がしている」を合わせた“女性がしている”は27.6%となっています。

【性別】

- 女性は「両方同じくらいしている」よりも“女性がしている”が多く、男性は「両方同じくらいしている」よりも“男性がしている”が多くなっています。

【⑦自治会など地域活動への参加（現実）】





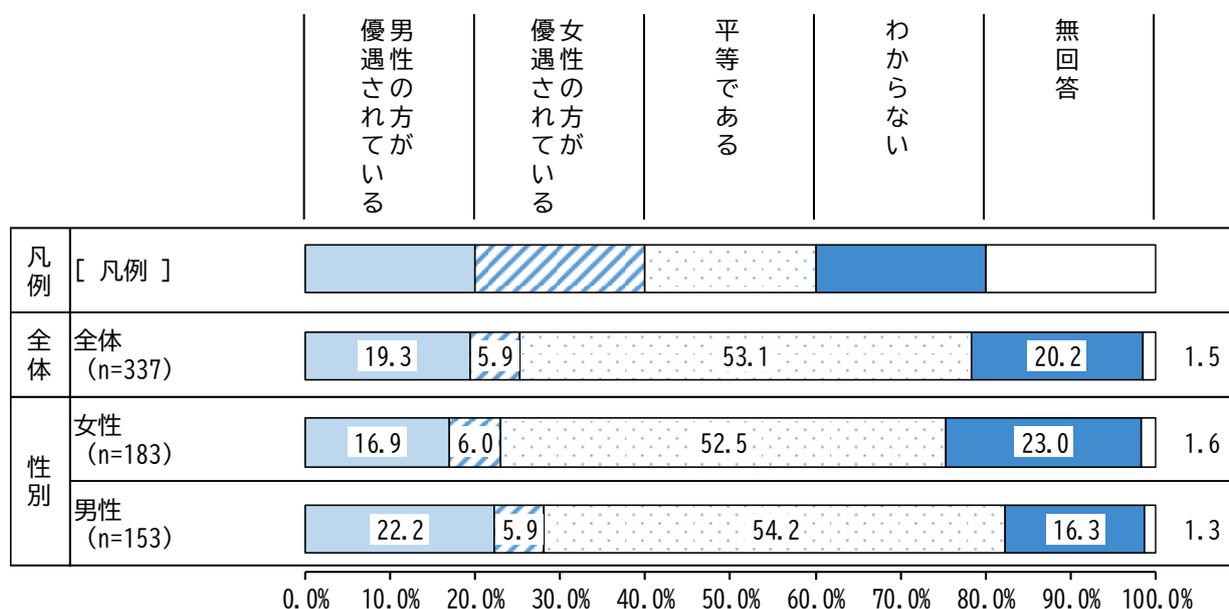
4 労働・社会参加について

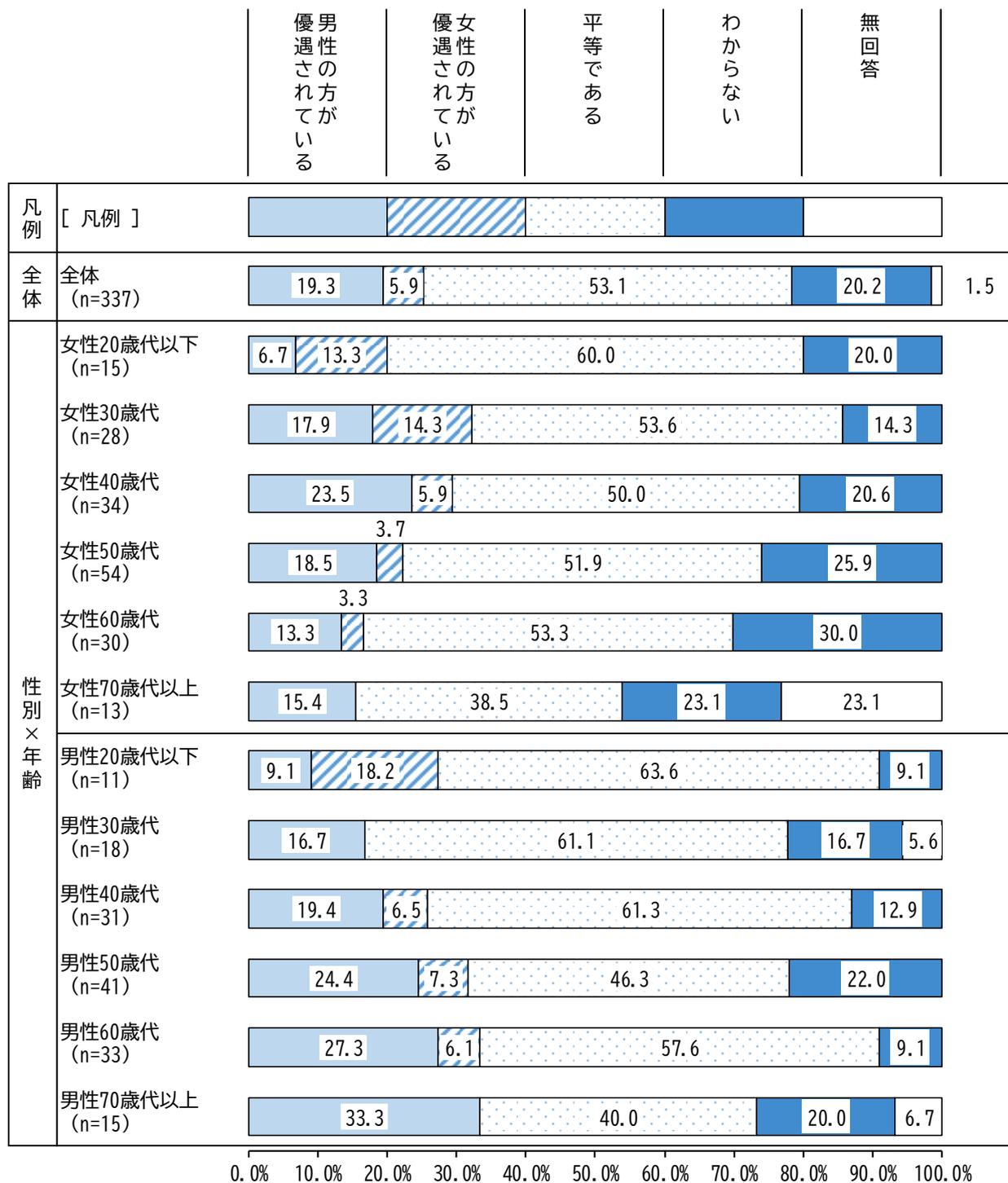
問6 現在、雇用されて働いている方（勤め人（正規社員・職員またはパート・アルバイト・派遣等非正規社員・職員））にお聞きします。あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。（各項目でそれぞれ○は1つ）

①募集・採用

<p>【全体】 ○ 「平等である」が53.1%で最も多く、次いで「わからない」が20.2%、「男性の方が優遇されている」が19.3%となっています。</p> <p>【性別】 ○ 男性では、「男性の方が優遇されている」が22.2%で、女性の16.9%より5.3ポイント多くなっています。</p>
--

【①募集・採用】





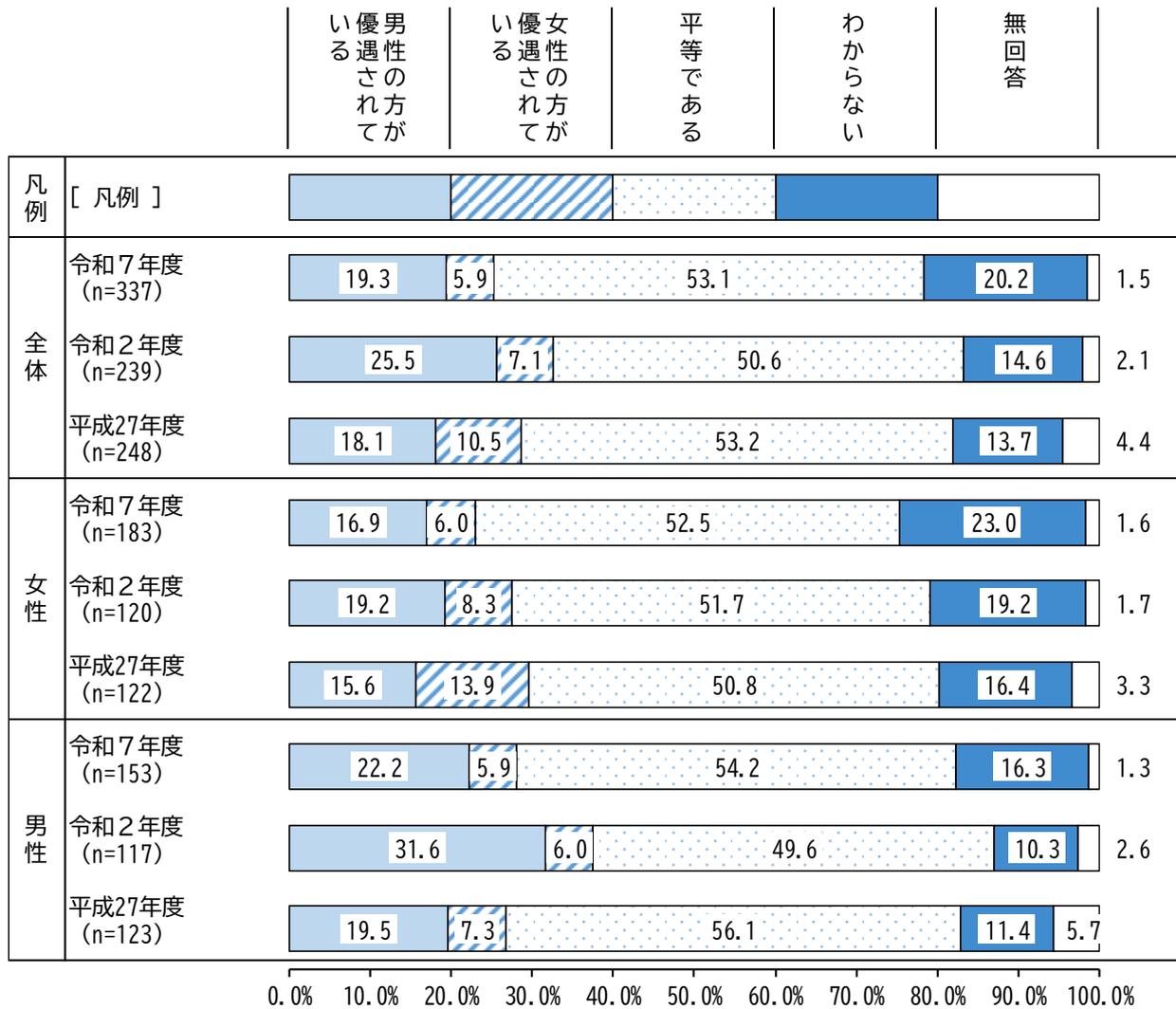
■過去調査との比較

【全体】

- 過去調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」が比較的多かった令和2年度に比べて、令和7年度は「男性の方が優遇されている」が少なくなっています。

【性別】

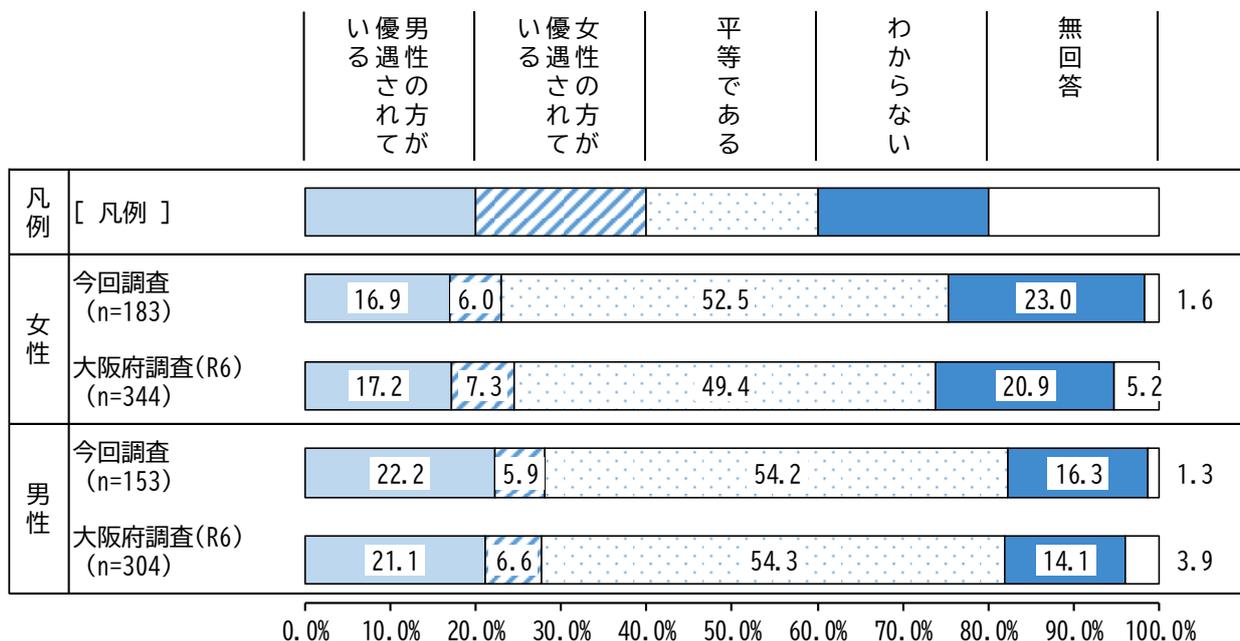
- 令和7年度の男性は、令和2年度と比べて「平等である」が多く、平成27年度と同程度となっています。



■大阪府調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、女性では大阪府調査よりやや「平等である」が多くなっていますが、男性は大阪府調査と大きな違いはみられません。



②賃金

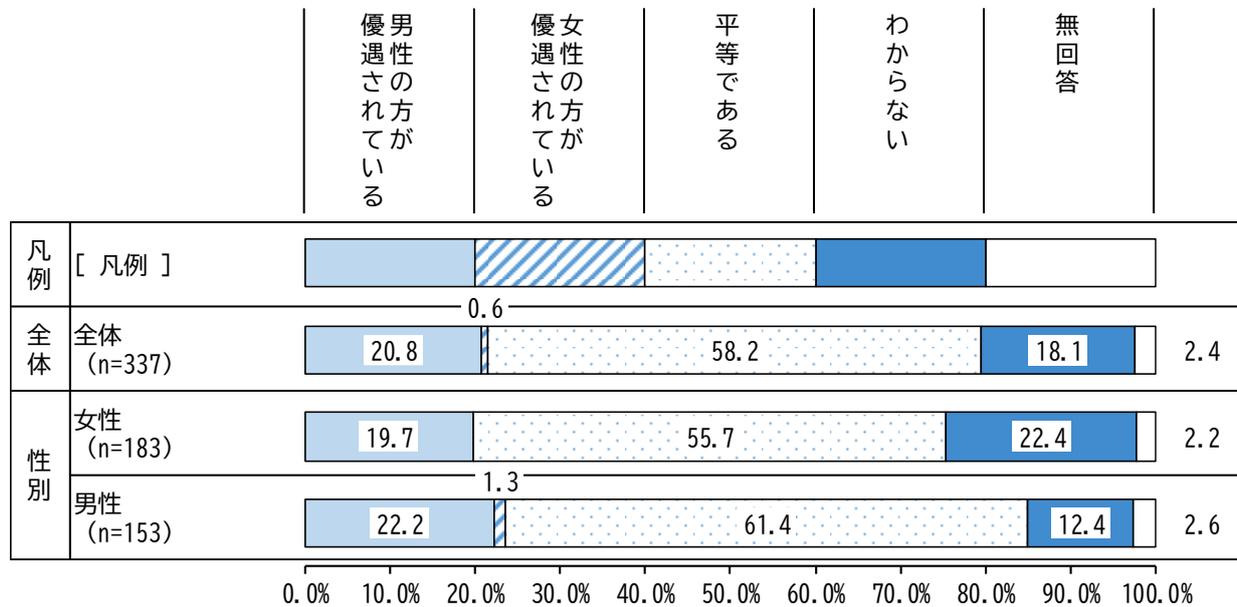
【全体】

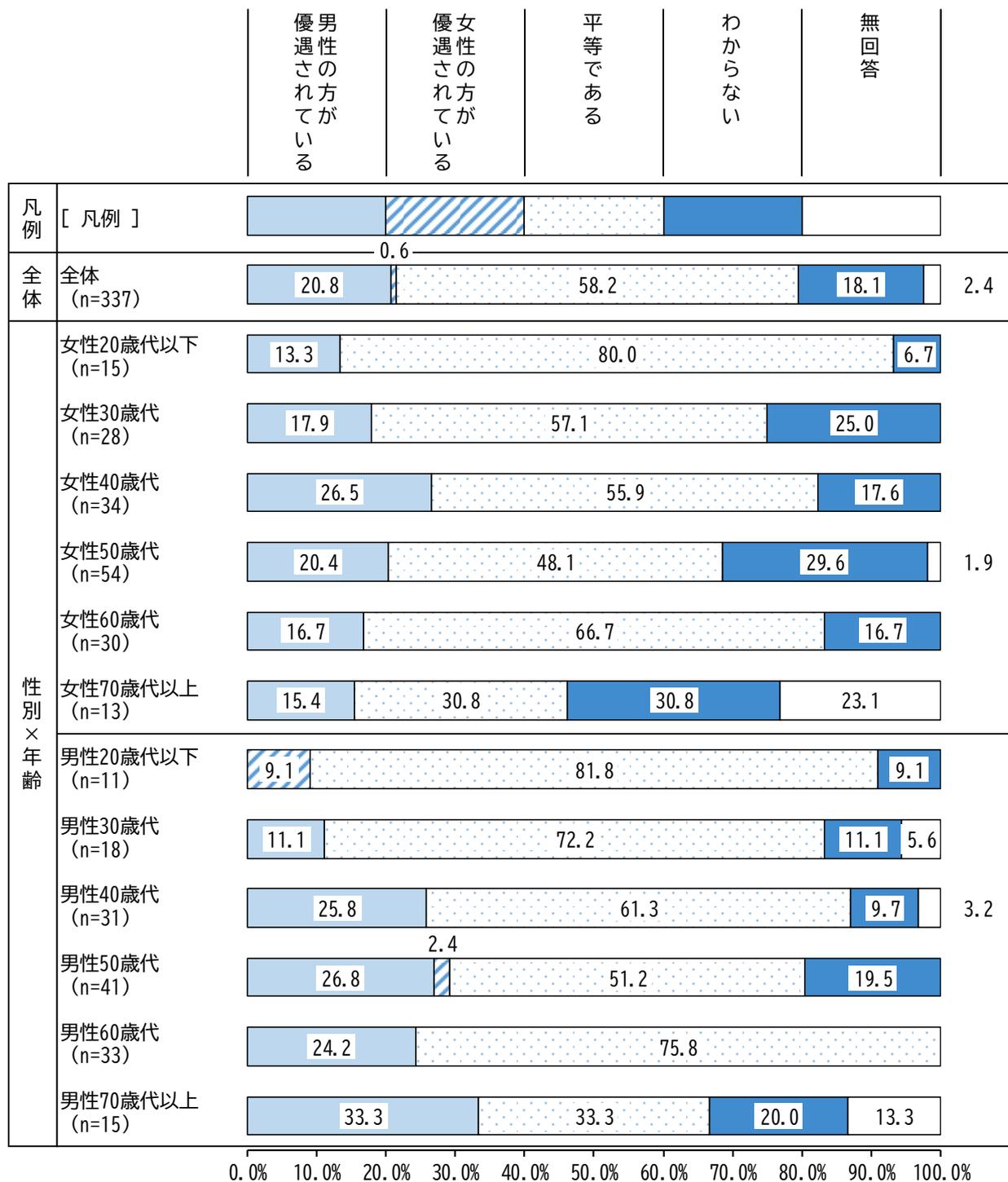
- 「平等である」が58.2%で最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が20.8%、「わからない」が18.1%となっています。

【性別】

- 男性では、「平等である」が61.4%で、女性の55.7%より5.7ポイント多くなっています。

【②賃金】





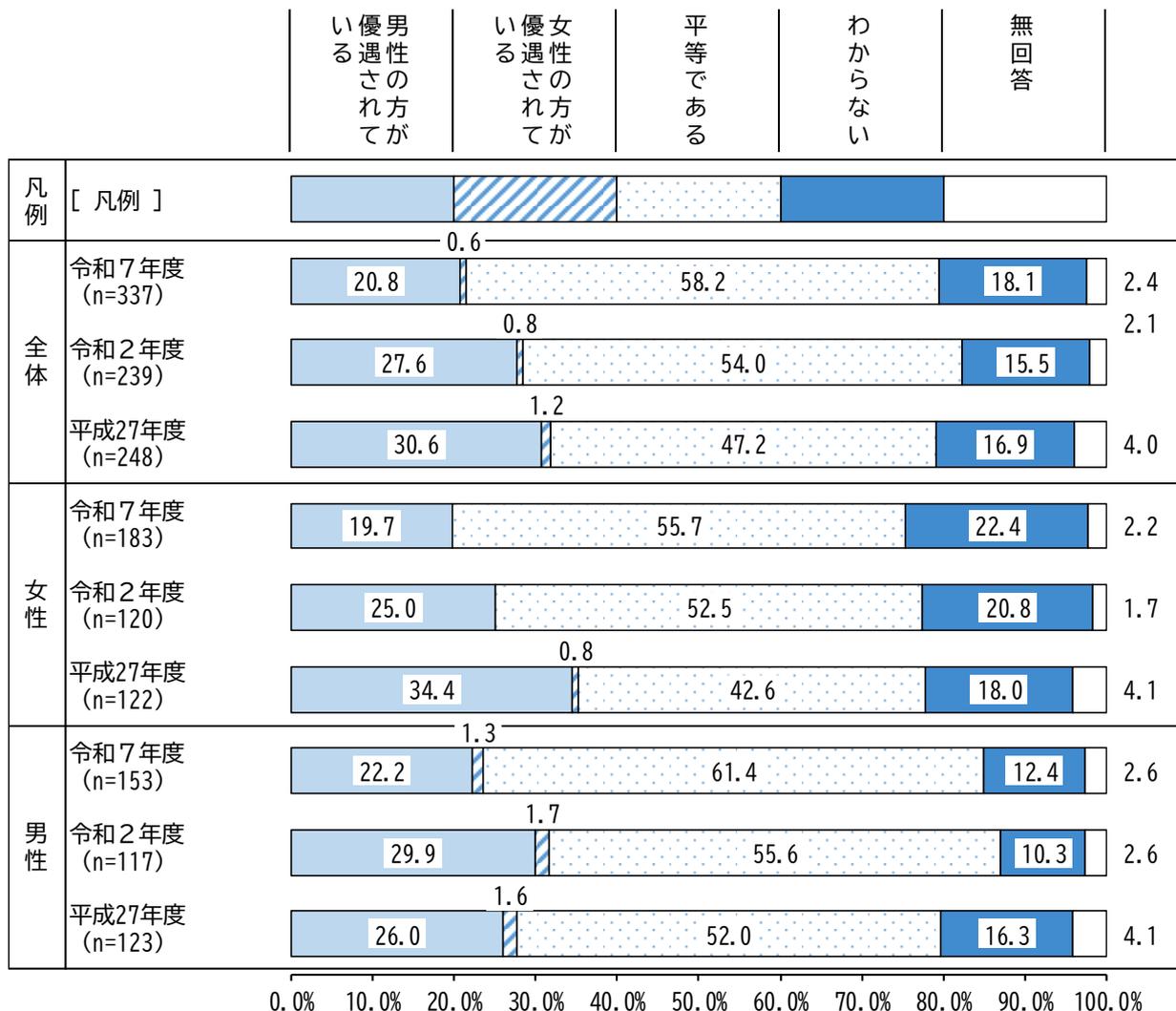
■過去調査との比較

【全体】

- 過去調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」が減少し、「平等である」が増加する傾向が続いています。

【性別】

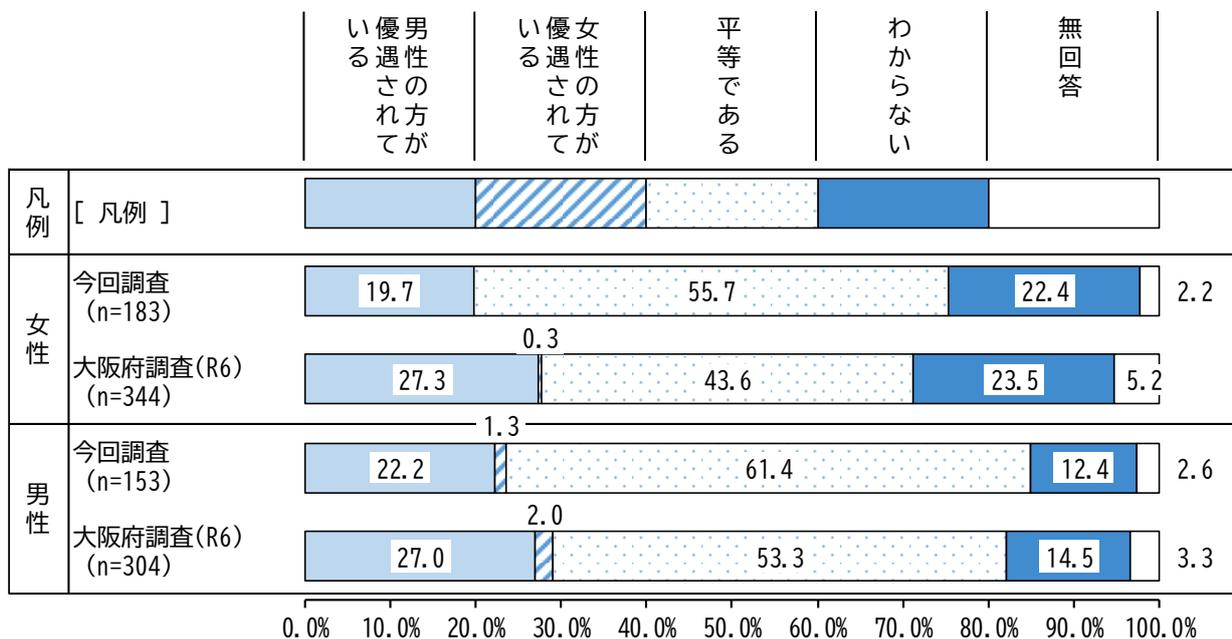
- 女性では、平成27年以降「男性の方が優遇されている」の減少が続いています。
- 男性では、令和2年度から令和7年度にかけて「男性の方が優遇されている」が減少しています。



■大阪府調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、男女とも今回調査は「男性の方が優遇されている」が少なく、「平等である」が多くなっています。



③仕事の内容

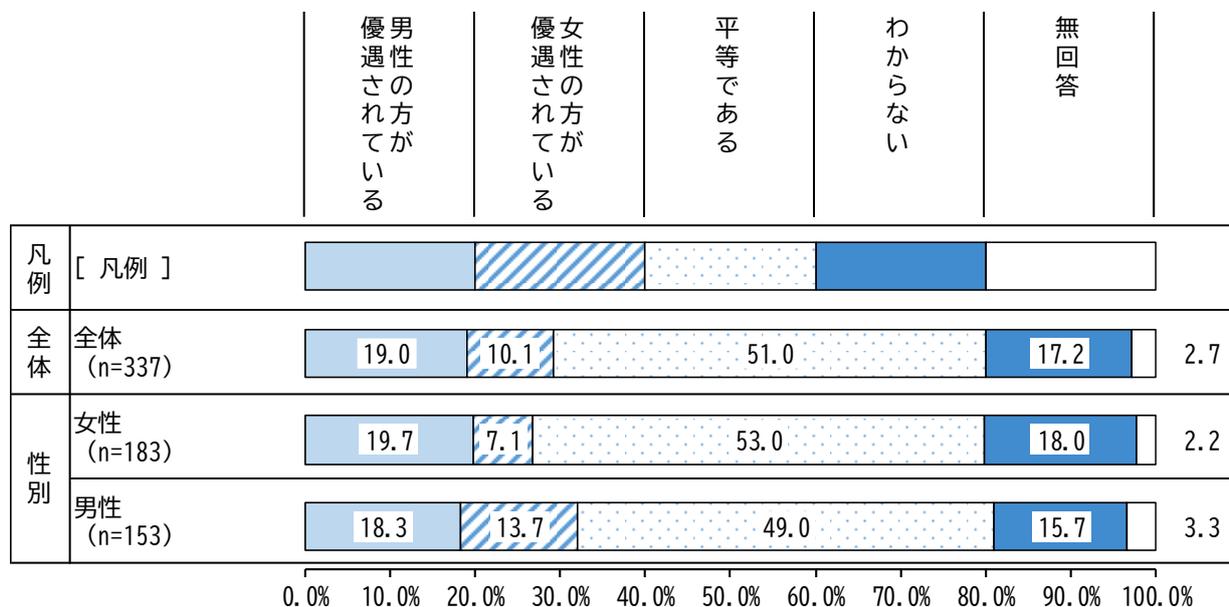
【全体】

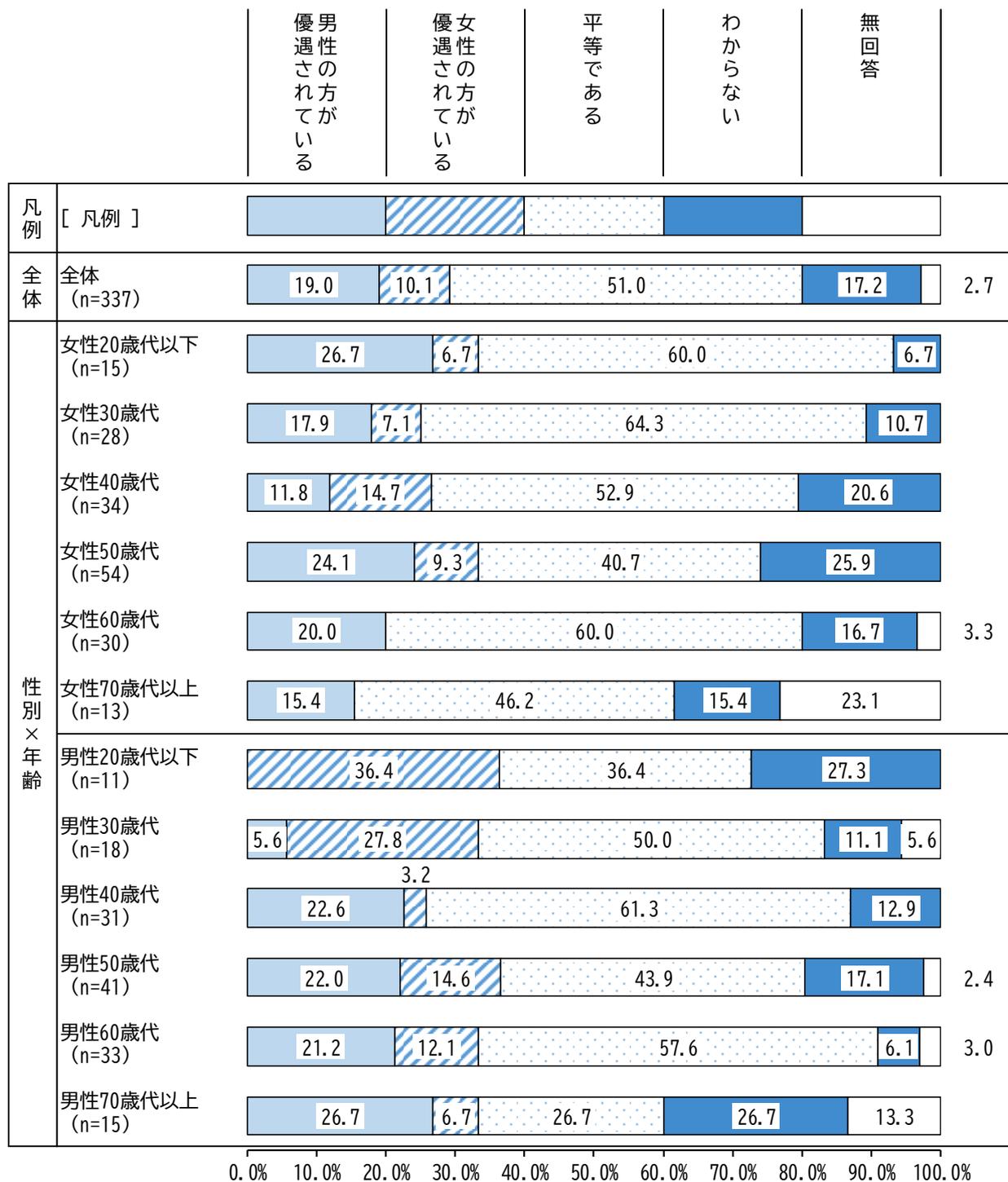
- 「平等である」が51.0%で最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が19.0%、「わからない」が17.2%となっています。

【性別】

- 男性では、「女性の方が優遇されている」が13.7%で、女性の7.1%より6.6ポイント多くなっています。

【③仕事の内容】





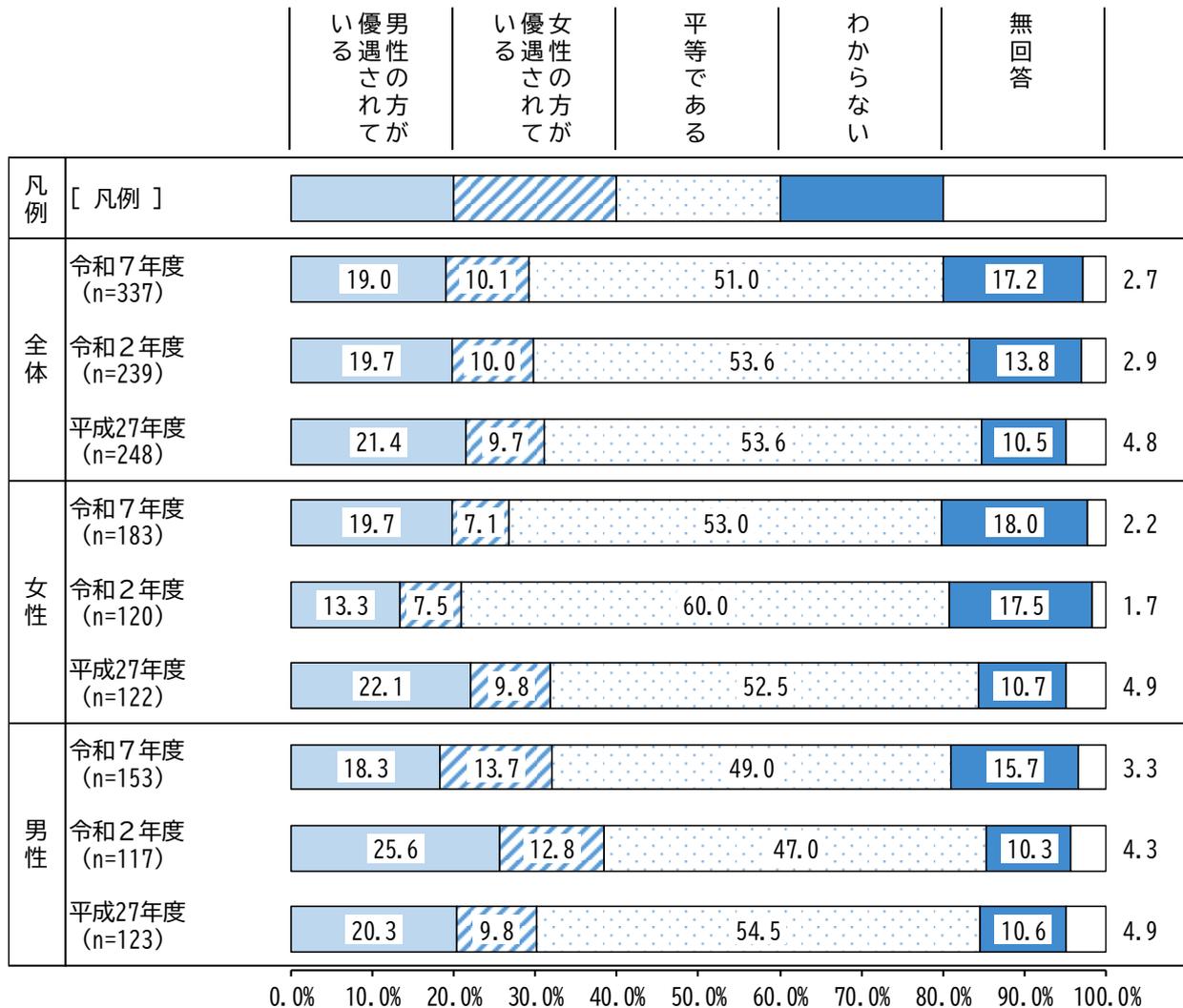
■過去調査との比較

【全体】

- 過去調査と比較すると、いずれの年度でも「男性の方が優遇されている」が約 20%、「平等である」が約 50%となっています。

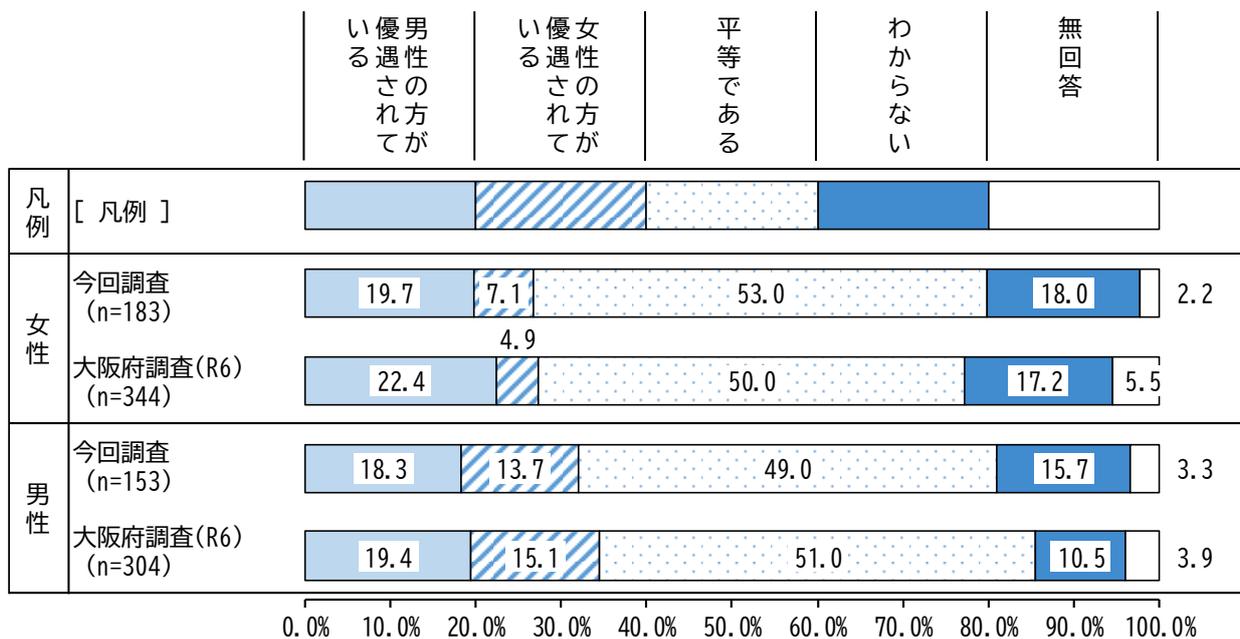
【性別】

- 令和 2 年度は、性別による割合の違いが大きくなっていましたが、令和 7 年度はその違いが小さくなっています。



■大阪府調査との比較

【大阪府調査】
○ 大阪府調査と比較すると、今回調査と大阪府調査とのあいだに大きな違いはみられません。



④昇進・昇格

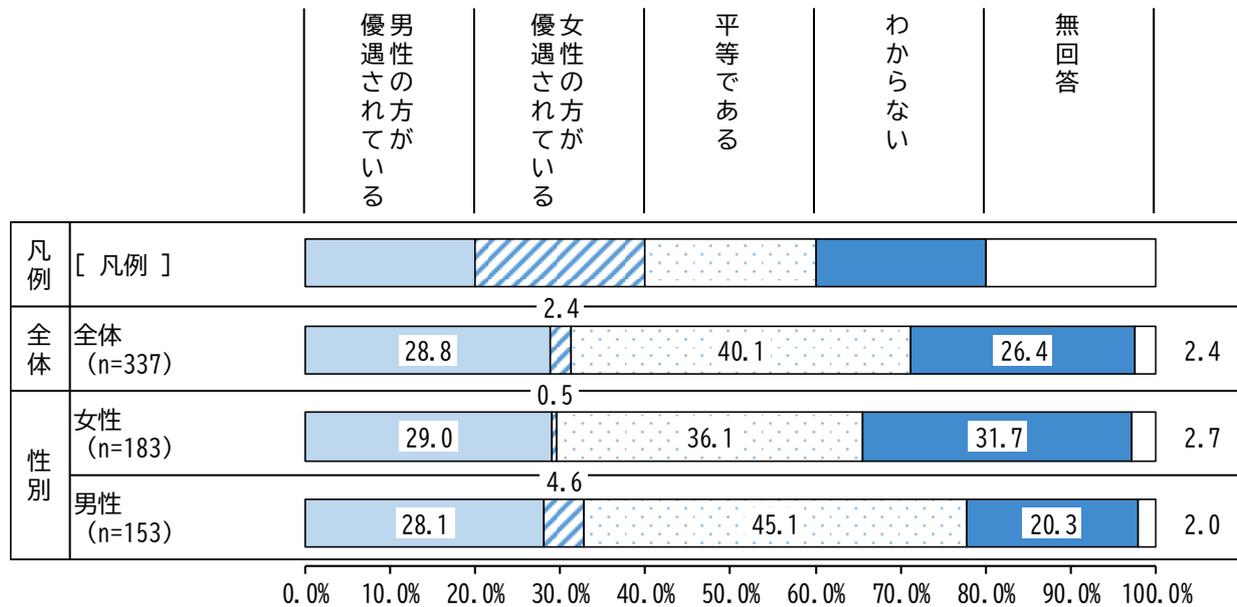
【全体】

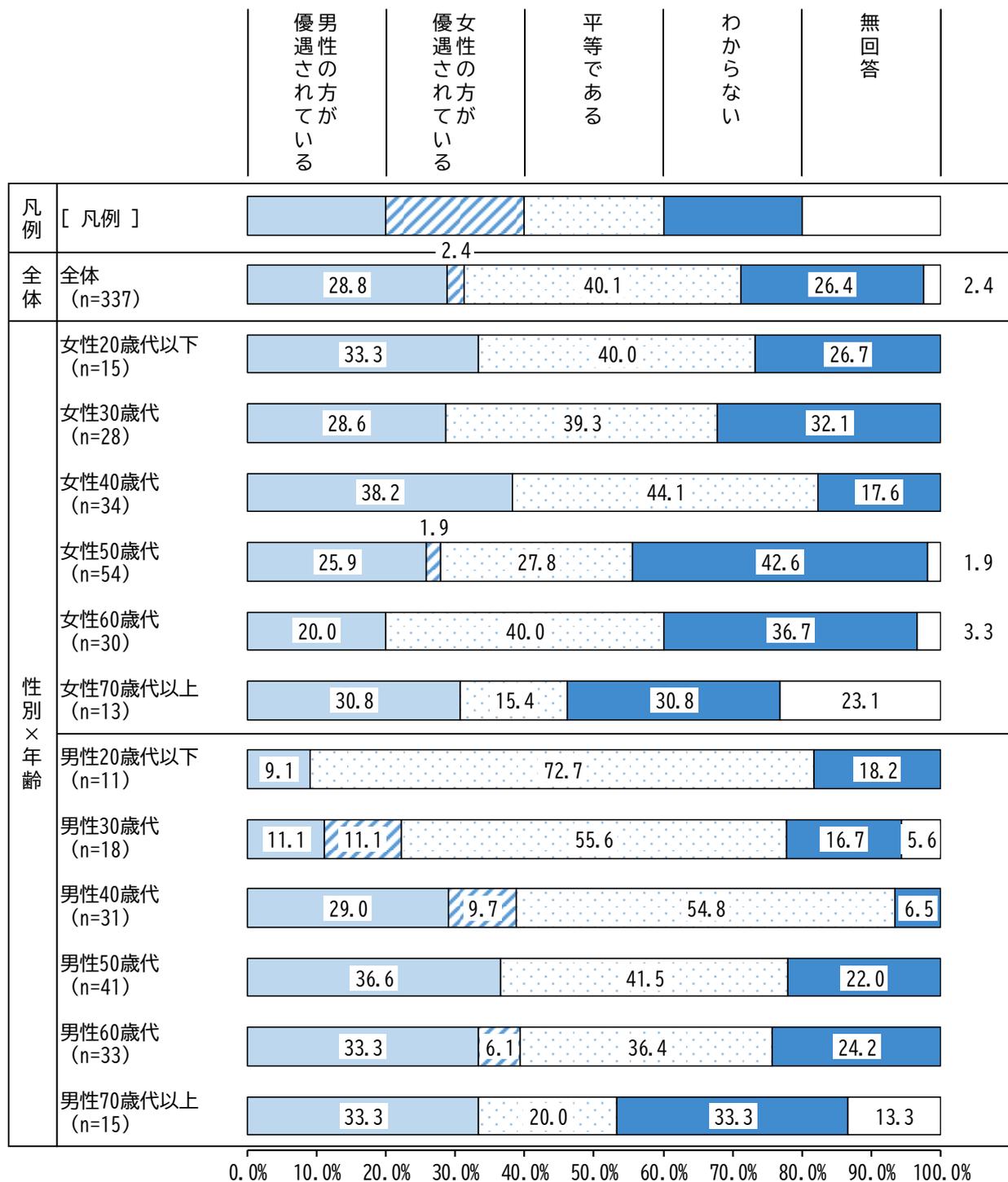
- 「平等である」が40.1%で最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が28.8%、「わからない」が26.4%となっています。

【性別】

- 男性では、「平等である」が45.1%で、女性の36.1%より9.0ポイント多くなっています。

【④昇進・昇格】





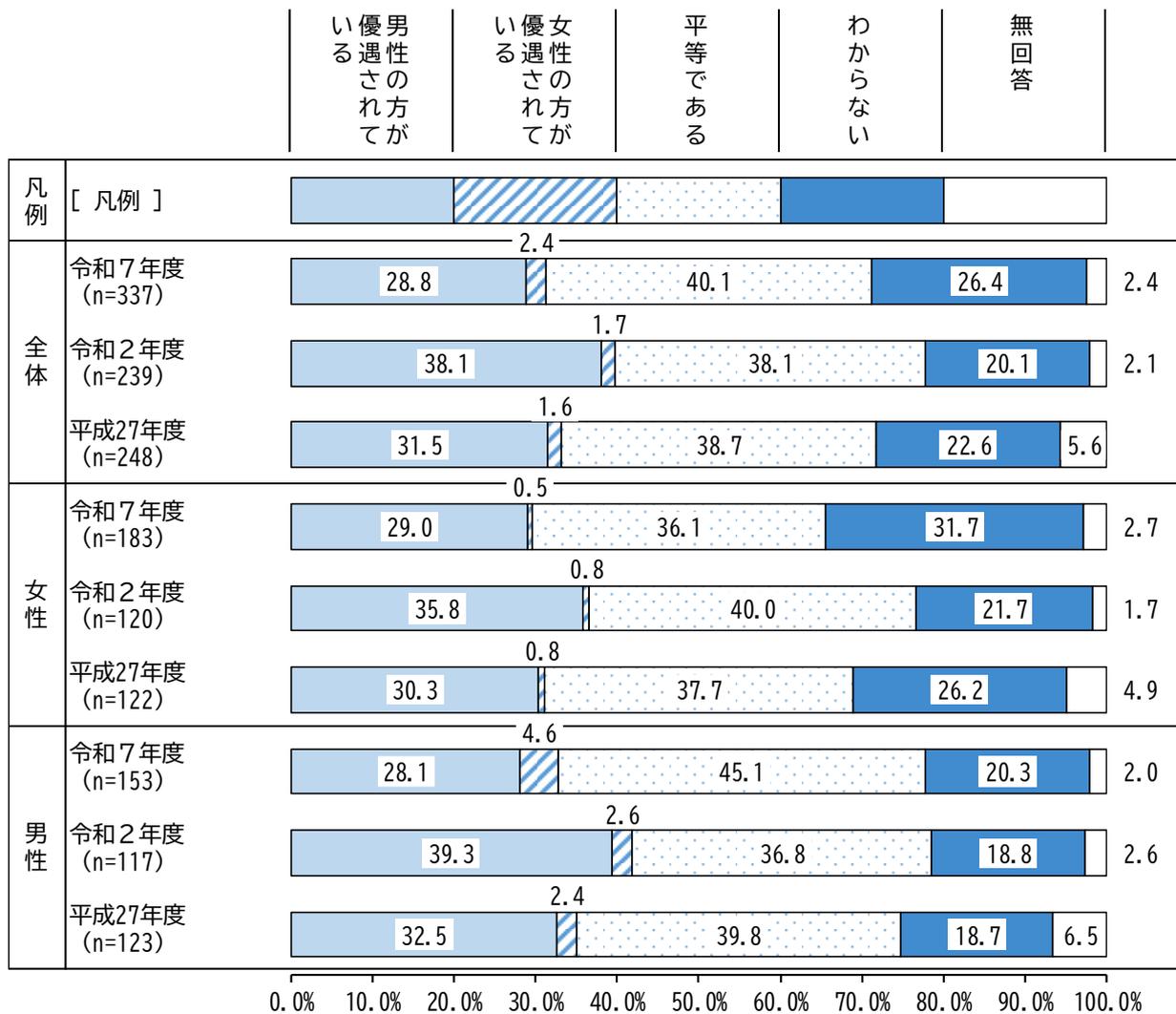
■過去調査との比較

【全体】

- 過去調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」が比較的多かった令和2年度に比べて、令和7年度は「男性の方が優遇されている」が少なくなっています。

【性別】

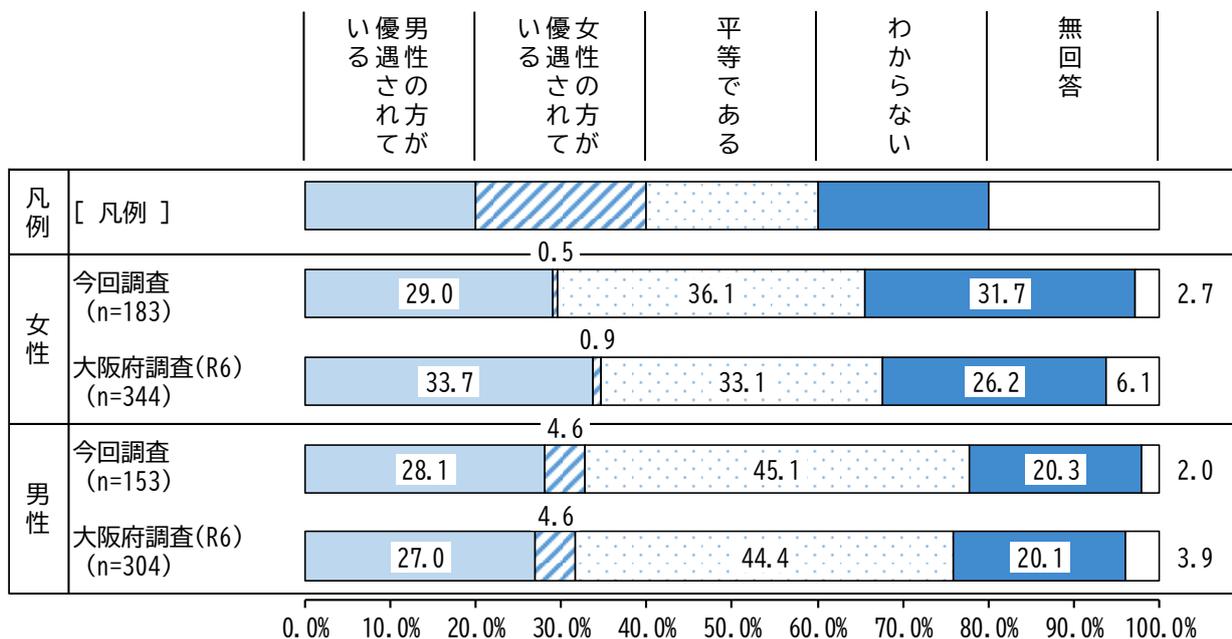
- 令和2年度との「男性の方が優遇されている」の差は、女性よりも男性で大きくなっています。



■大阪府調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、女性では大阪府調査より「男性の方が優遇されている」が少なくなっています。男性では、大阪府調査と大きな違いはみられません。



⑤管理職への登用

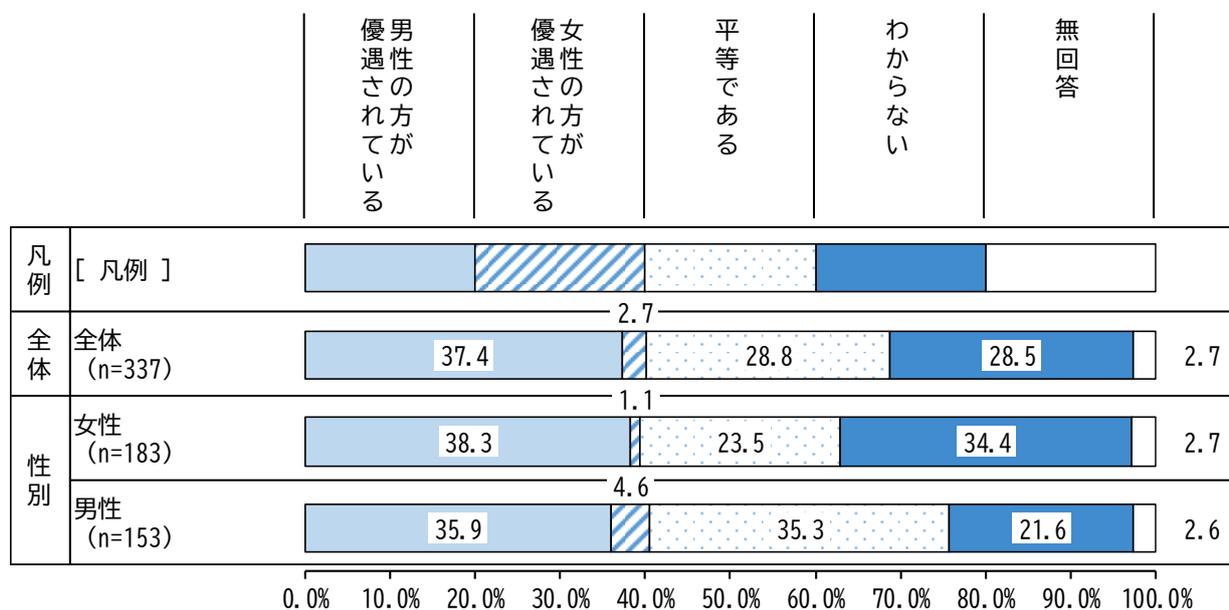
【全体】

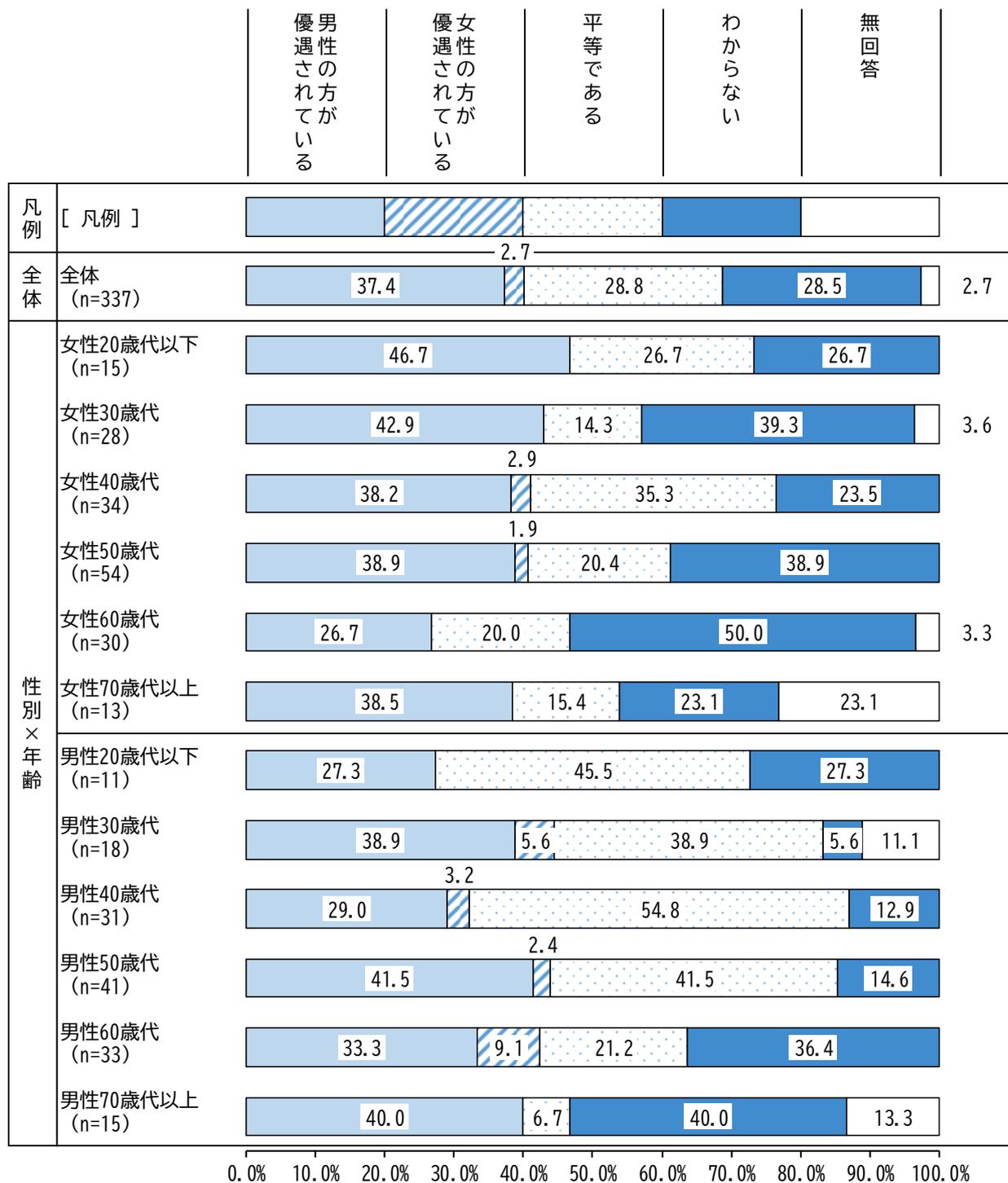
- 「男性の方が優遇されている」が37.4%で最も多く、次いで「平等である」が28.8%、「わからない」が28.5%となっています。

【性別】

- 男性では、「平等である」が35.3%で、女性の23.5%より11.8ポイント多くなっています。

【⑤管理職への登用】





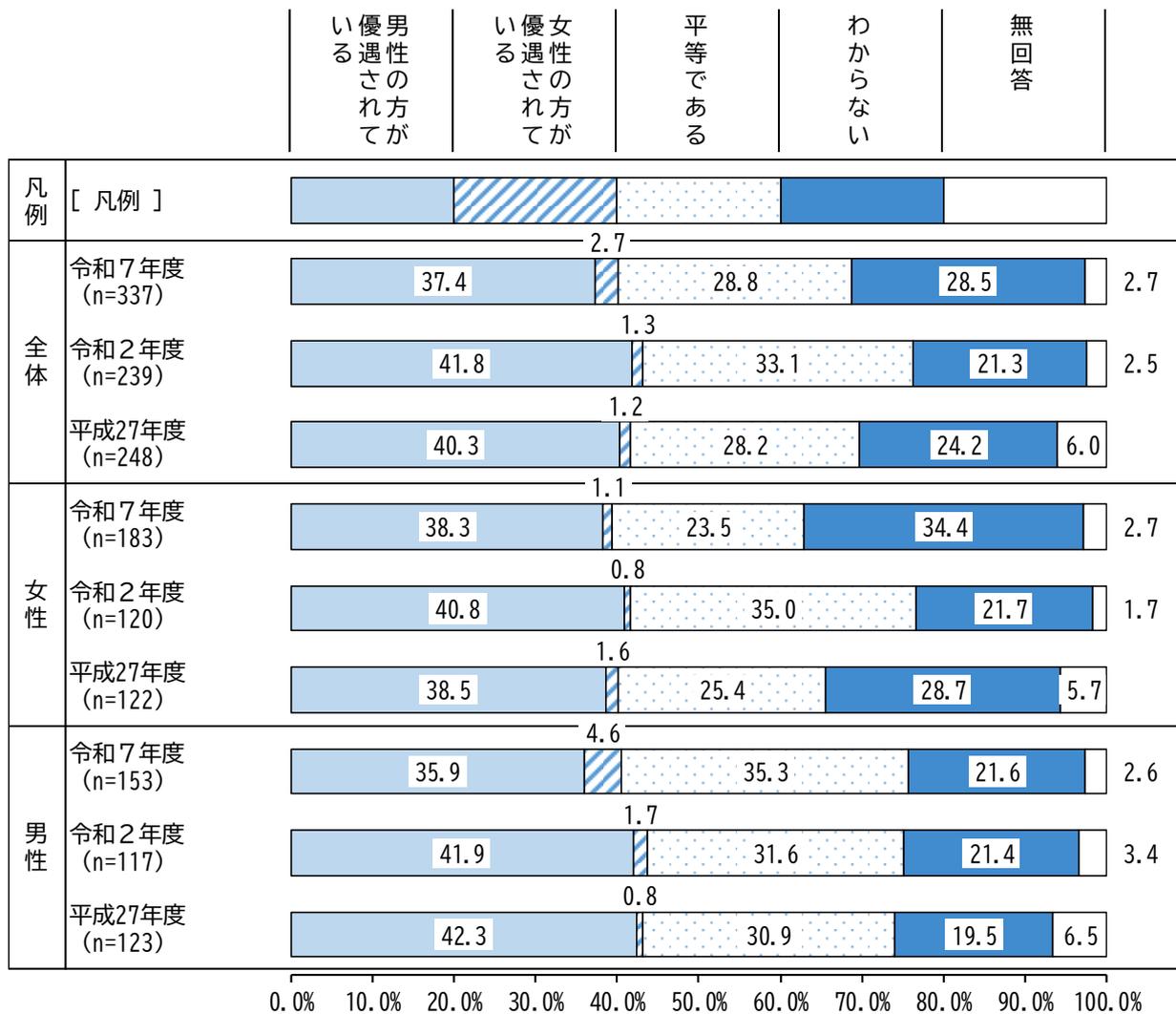
■過去調査との比較

【全体】

○ 過去調査と比較すると、令和7年度は令和2年度より「平等である」が少なくなっています。

【性別】

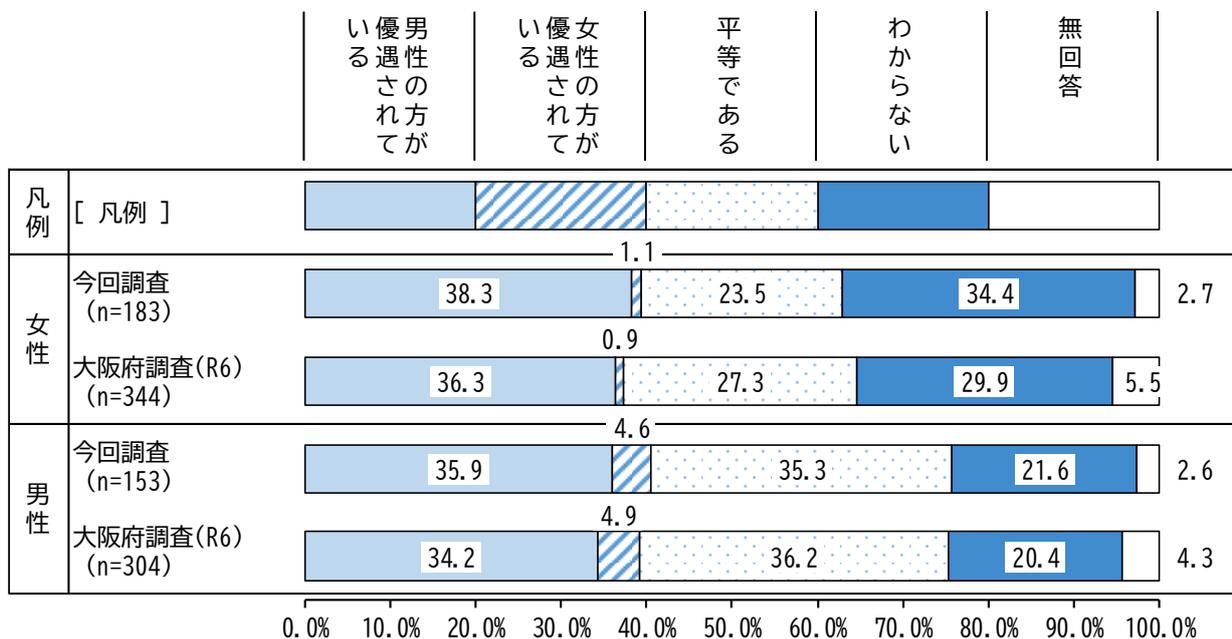
○ 令和7年度の女性は「平等である」が令和2年度より10ポイント以上少なくなっています。



■大阪府調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、女性では大阪府調査より「平等である」が少なくなっています。男性では、大阪府調査と大きな違いはみられません。



⑥能力評価（業績評価・人事考課など）

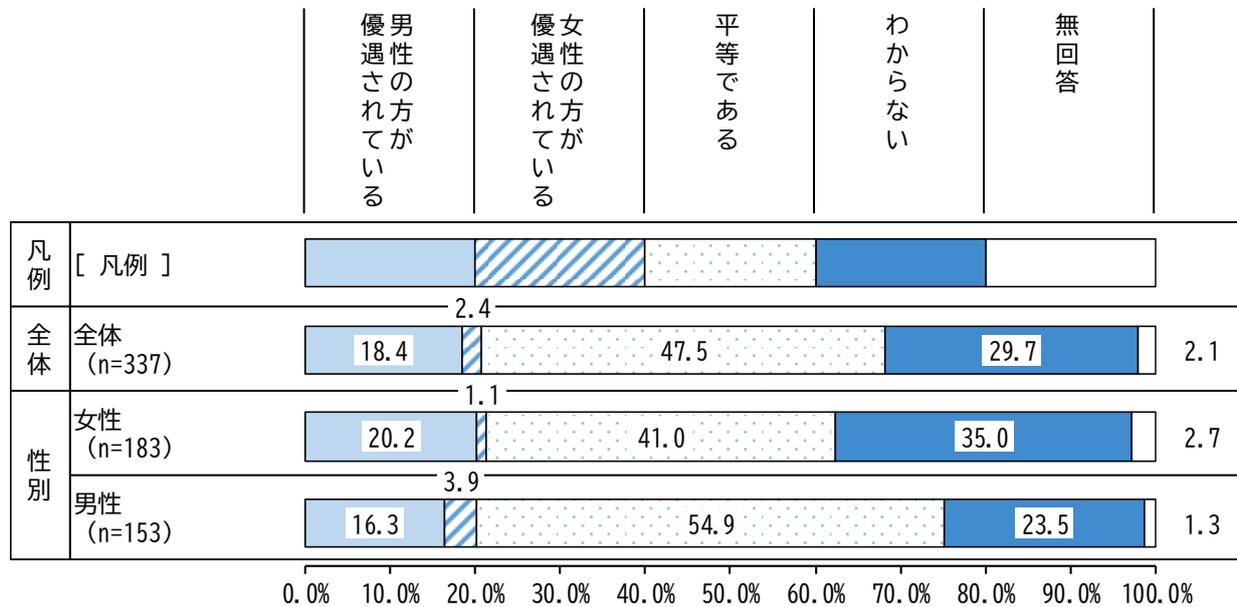
【全体】

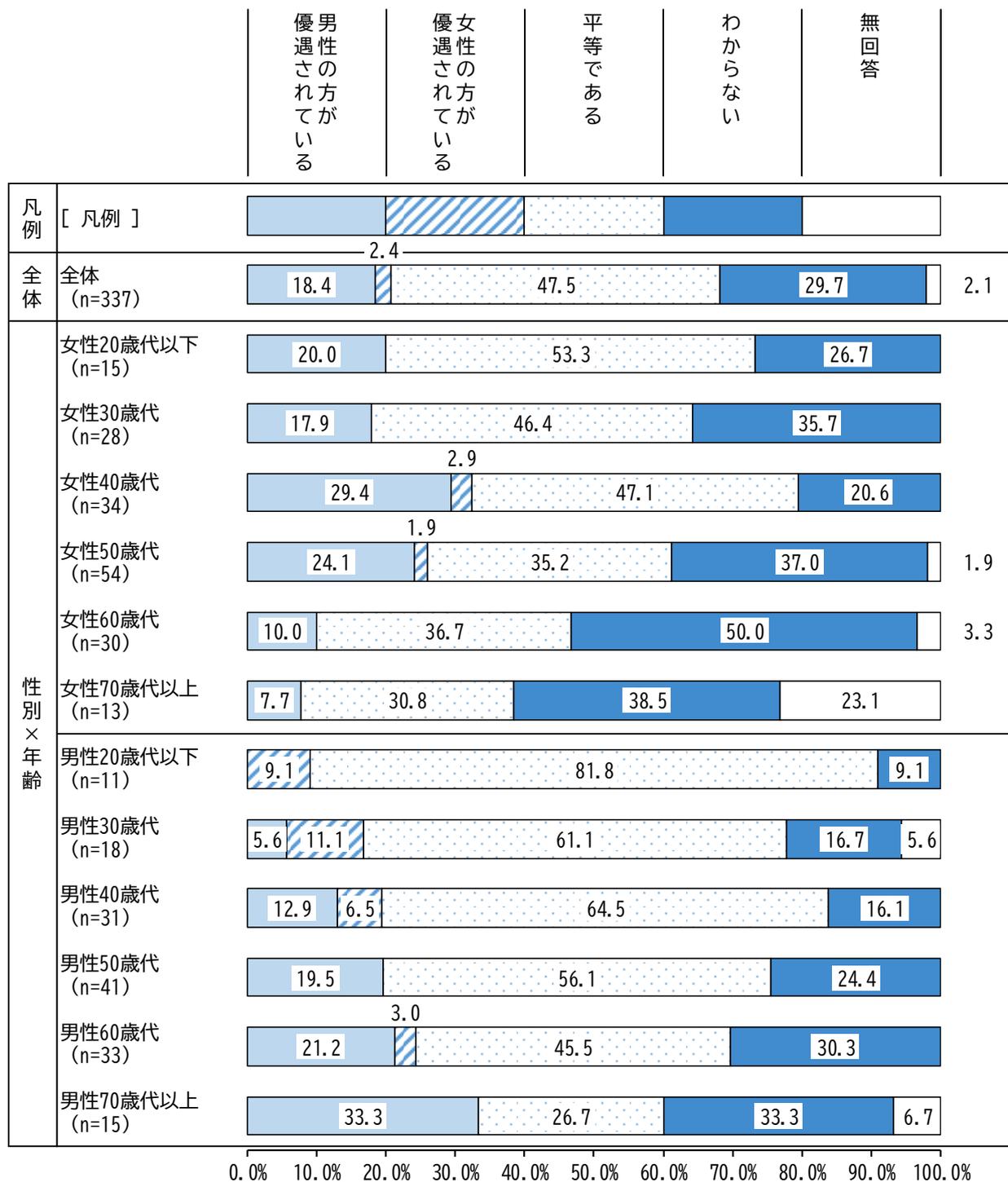
- 「平等である」が47.5%で最も多く、次いで「わからない」が29.7%、「男性の方が優遇されている」が18.4%となっています。

【性別】

- 男性では、「平等である」が54.9%で、女性の41.0%より13.9ポイント多くなっています。

【⑥能力評価（業績評価・人事考課など）】





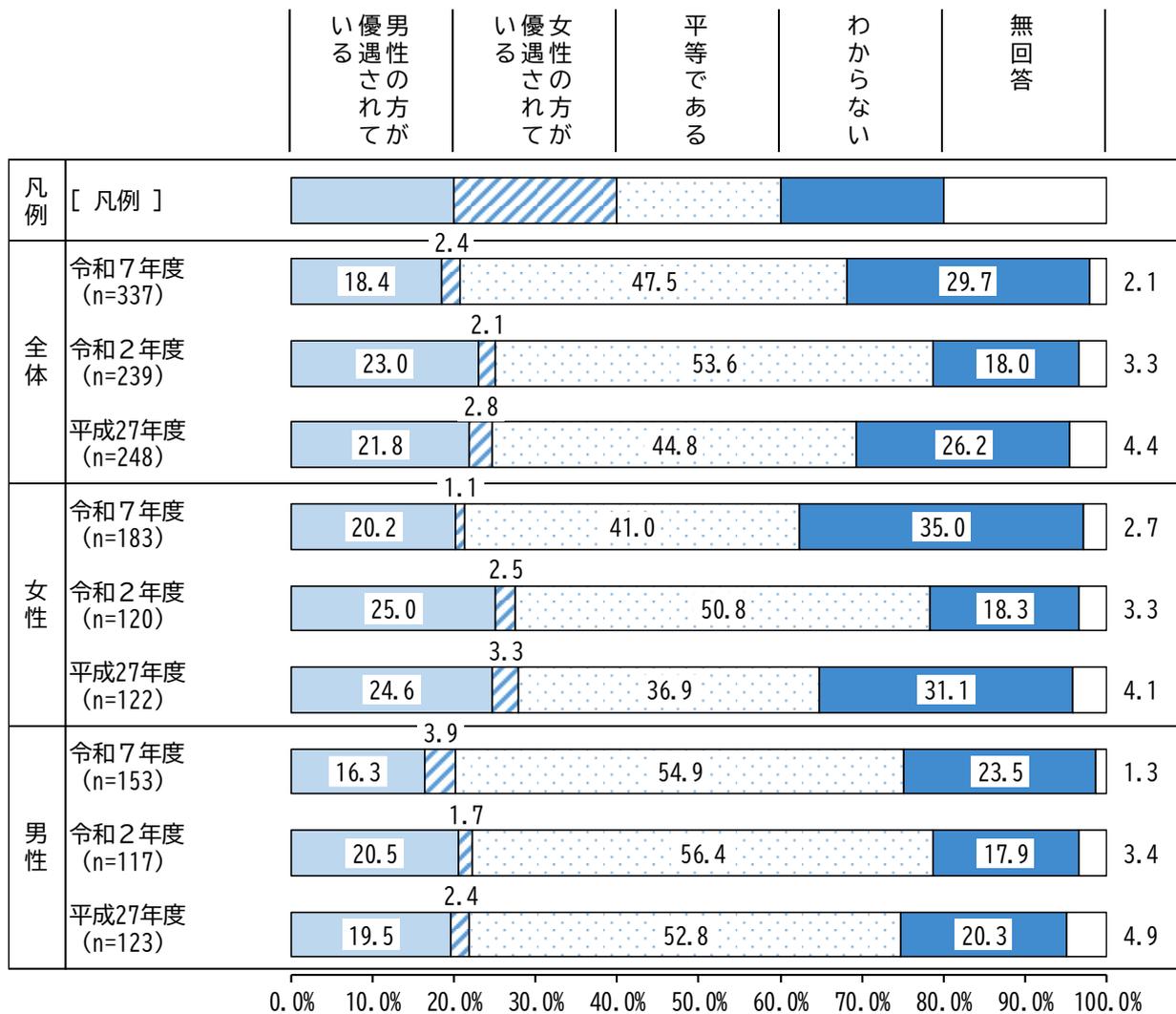
■過去調査との比較

【全体】

- 過去調査と比較すると、令和7年度は令和2年度より「男性の方が優遇されている」が少なくなっています。

【性別】

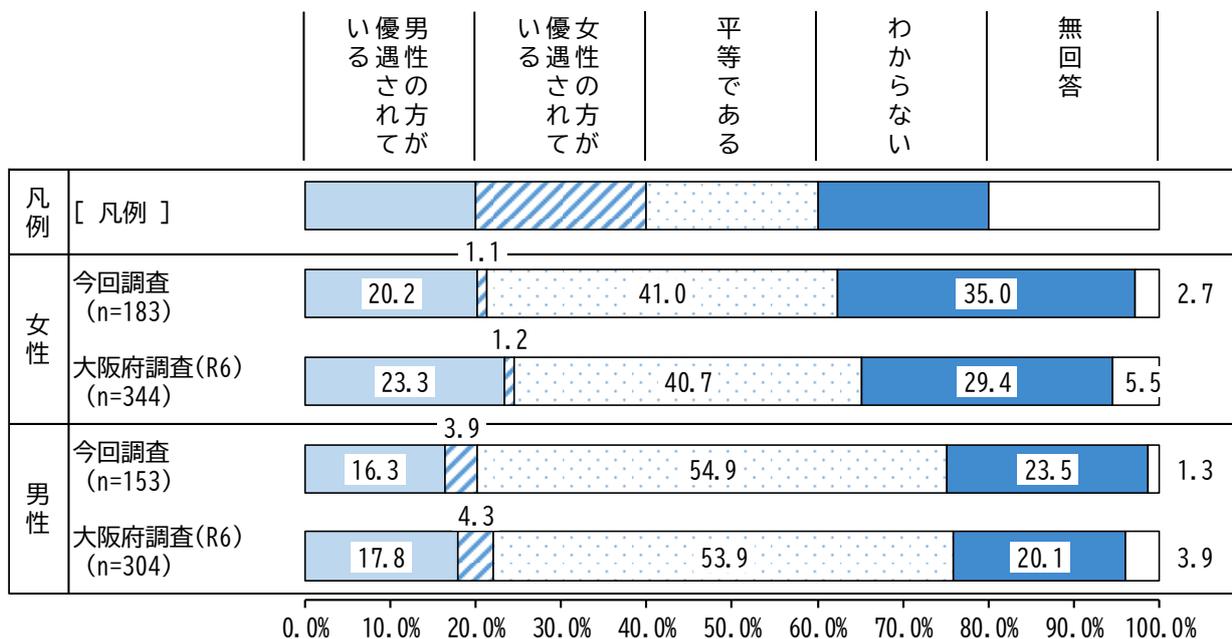
- 女性では、平成27年度には「平等である」が36.9%と少なくなりましたが、令和2年度には50.8%、令和7年度には41.0%となっています。



■大阪府調査との比較

【大阪府調査】

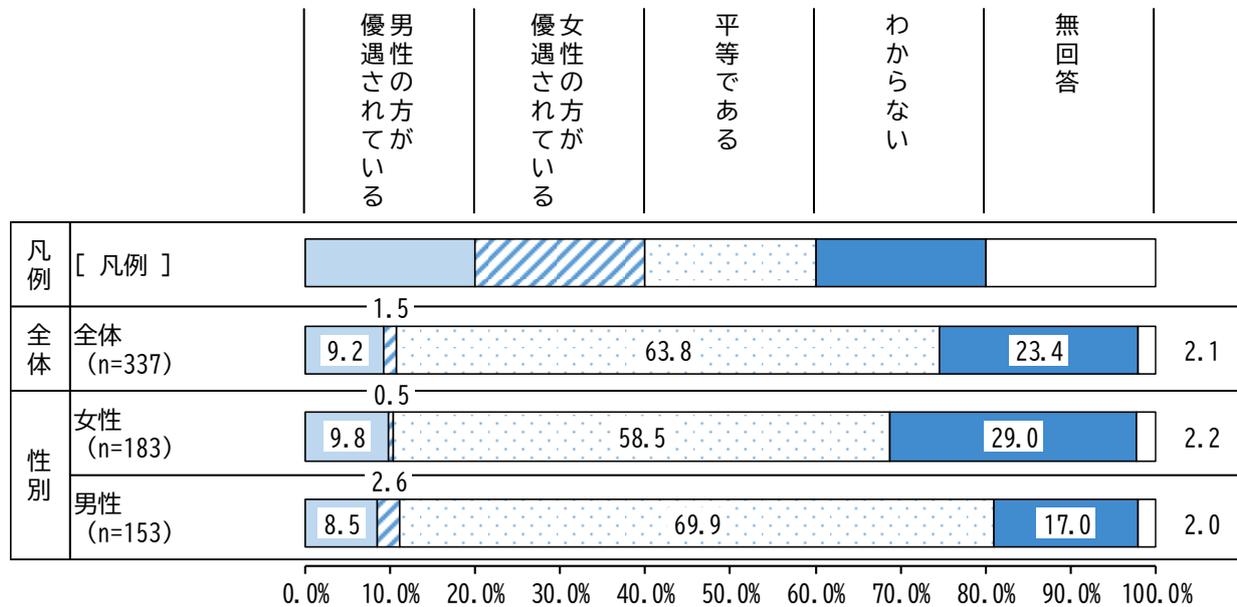
- 大阪府調査と比較すると、女性では大阪府調査より「男性の方が優遇されている」が少なくなっています。男性では、大阪府調査と大きな違いはみられません。

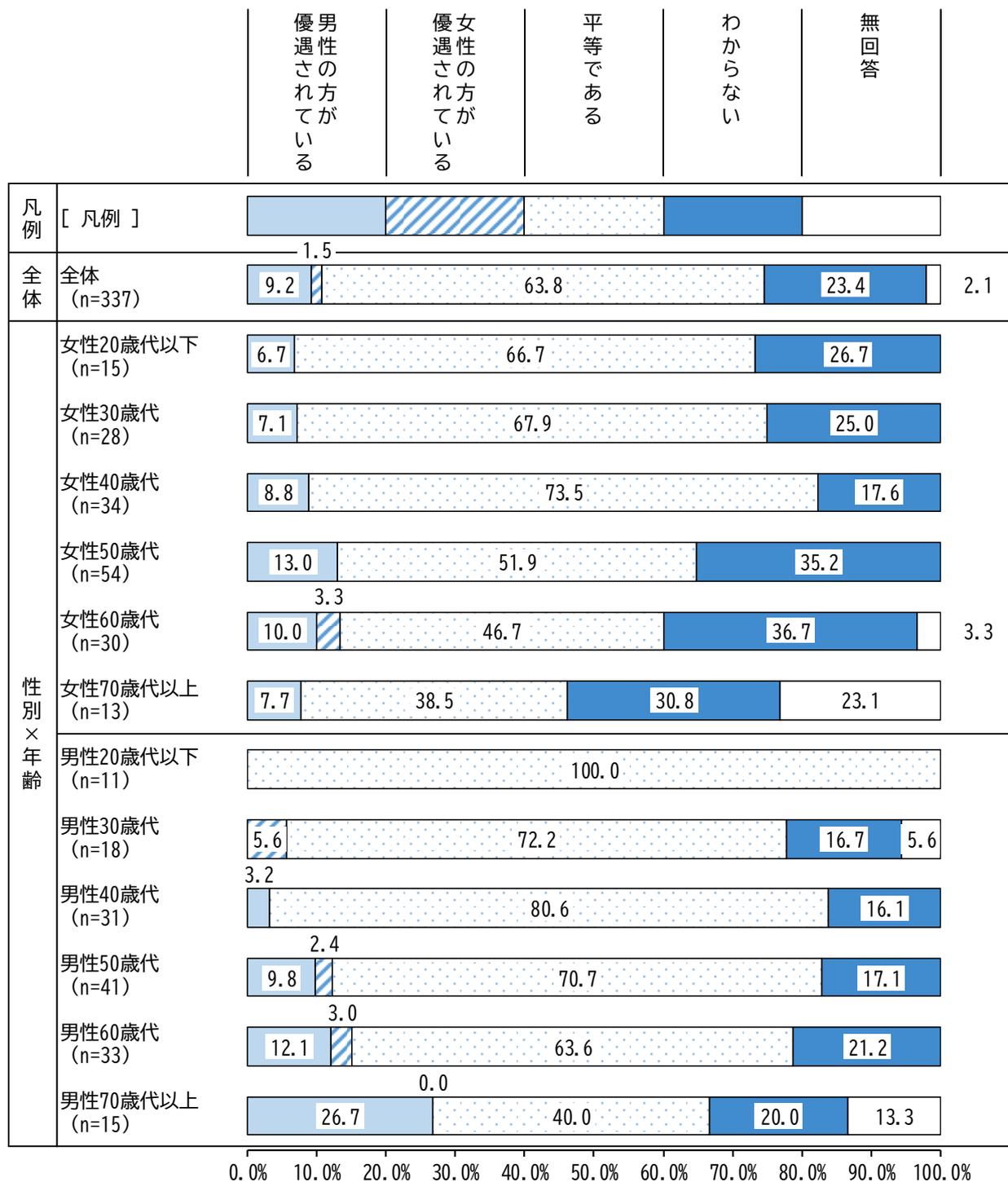


⑦研修の機会や内容

- 【全体】
 ○ 「平等である」が63.8%で最も多く、次いで「わからない」が23.4%、「男性の方が優遇されている」が9.2%となっています。
- 【性別】
 ○ 男性では、「平等である」が69.9%で、女性の58.5%より11.4ポイント多くなっています。

【⑦研修の機会や内容】





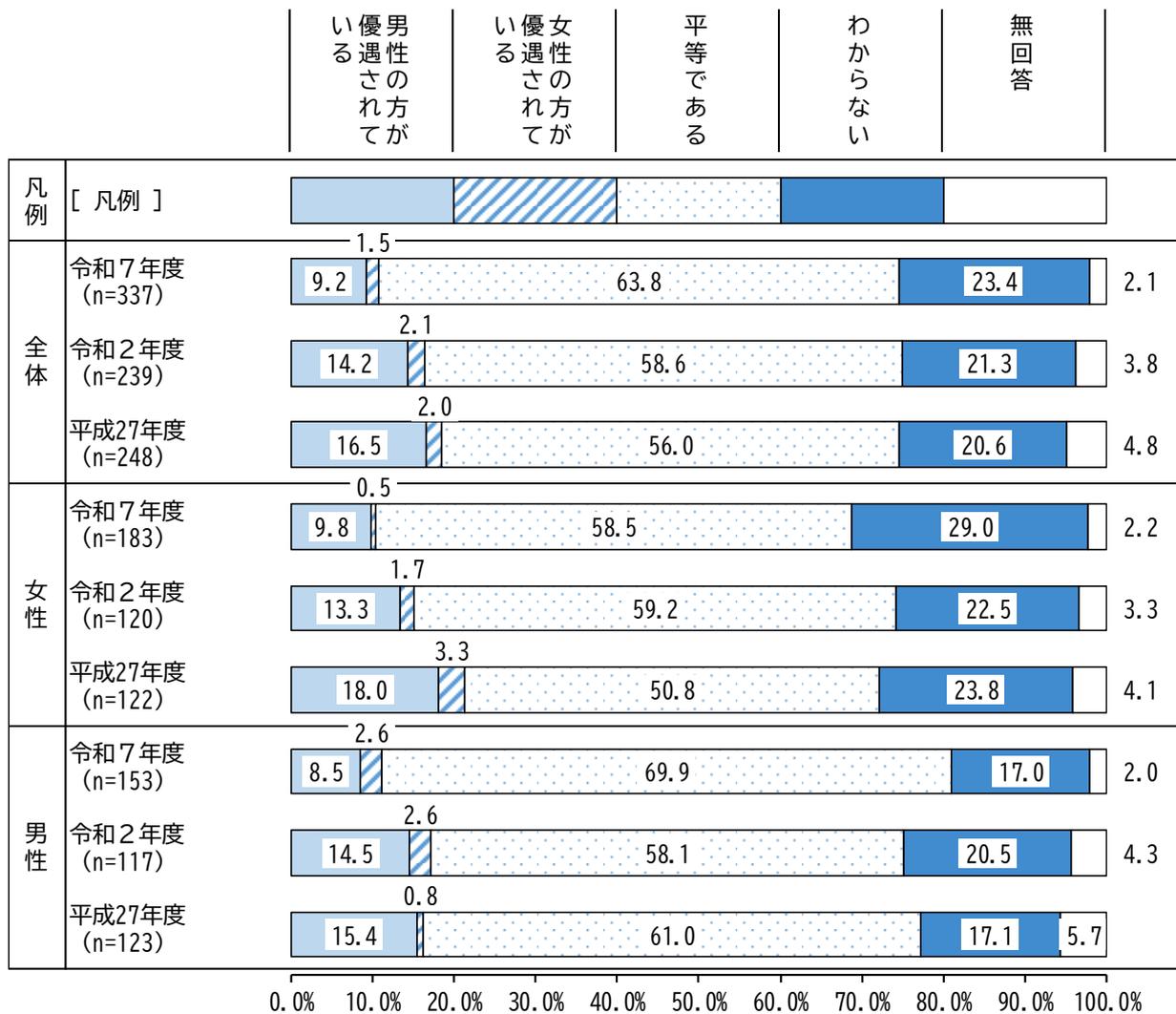
■過去調査との比較

【全体】

- 過去調査と比較すると、平成 27 年度以降、「男性の方が優遇されている」が減少し、「平等である」の増加が続いています。

【全体】

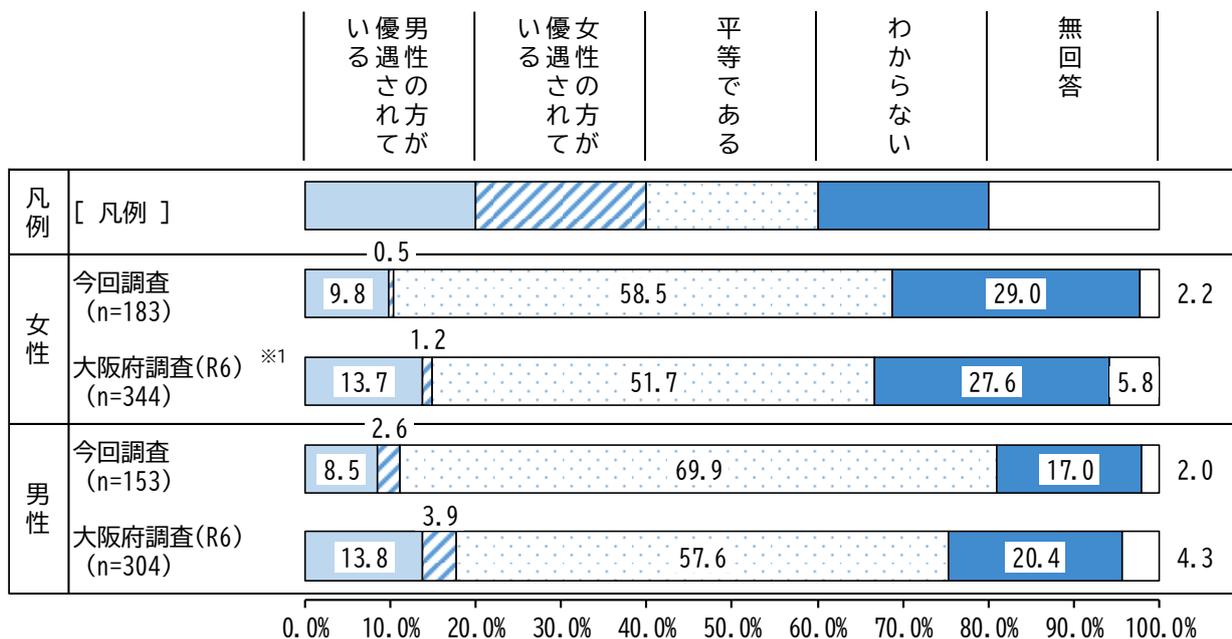
- 女性では、平成 27 年度以降、「男性の方が優遇されている」の減少が続いています。
- 男性では、平成 27 年度と令和 2 年度に大きな違いはみられませんが、令和 7 年度には「男性の方が優遇されている」が少なくなっています。



■大阪府調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査（研修の機会や内容（キャリア支援））と比較すると、男女とも「男性の方が優遇されている」が少なく、「平等である」が多くなっています。



※1 大阪府調査の項目は「研修の機会や内容（キャリア支援）」

⑧働き続けやすい環境

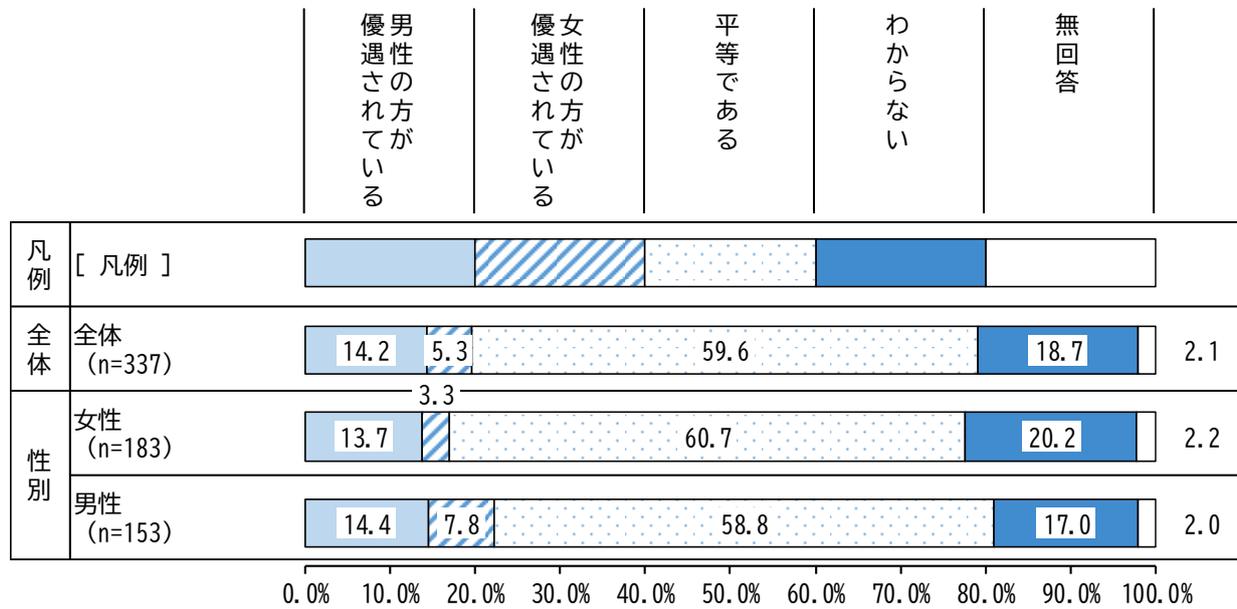
【全体】

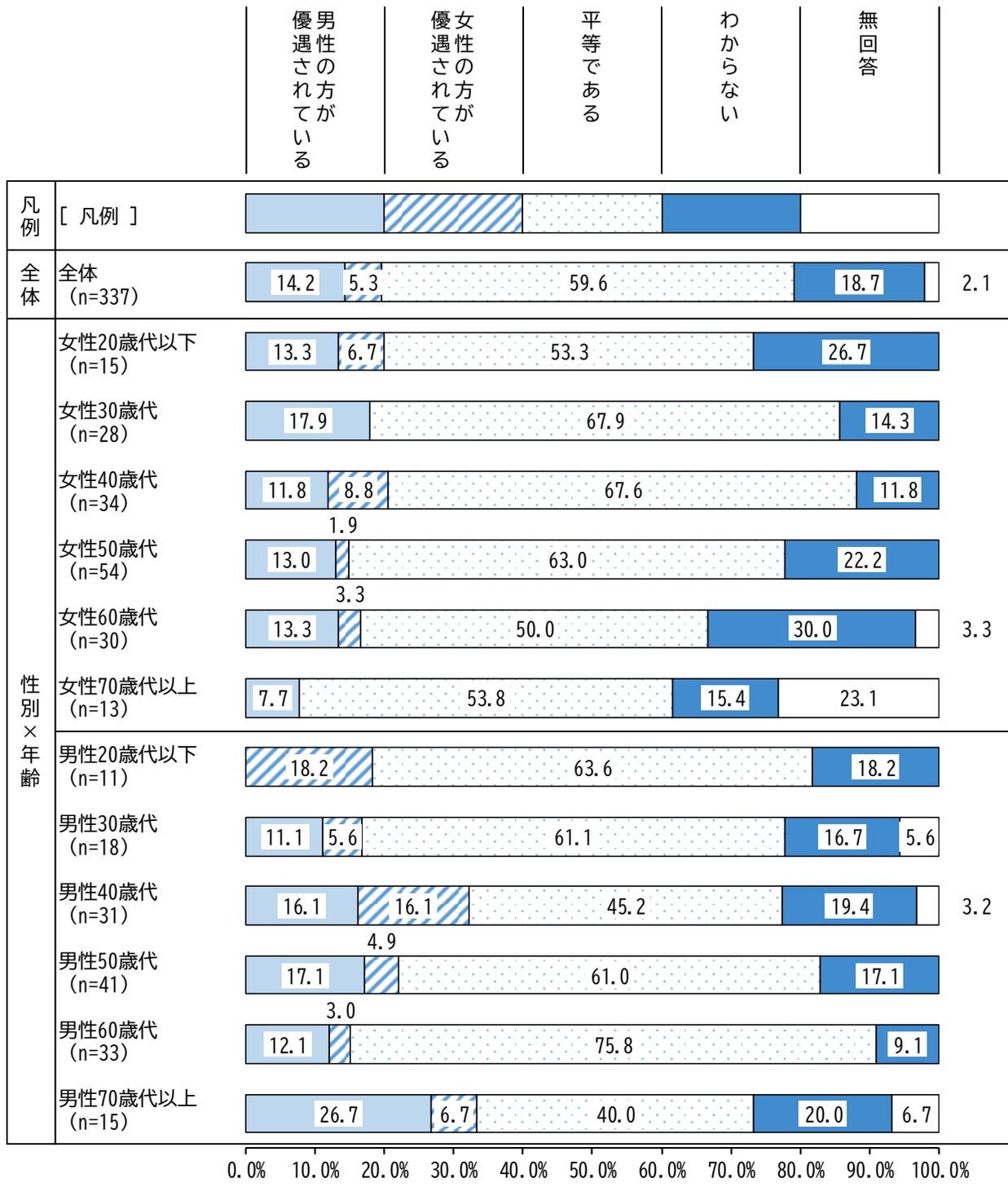
- 「平等である」が59.6%で最も多く、次いで「わからない」が18.7%、「男性の方が優遇されている」が14.2%となっています。

【性別】

- 男女とも「平等である」が約60%となっています。

【⑧働き続けやすい環境】





■過去調査との比較

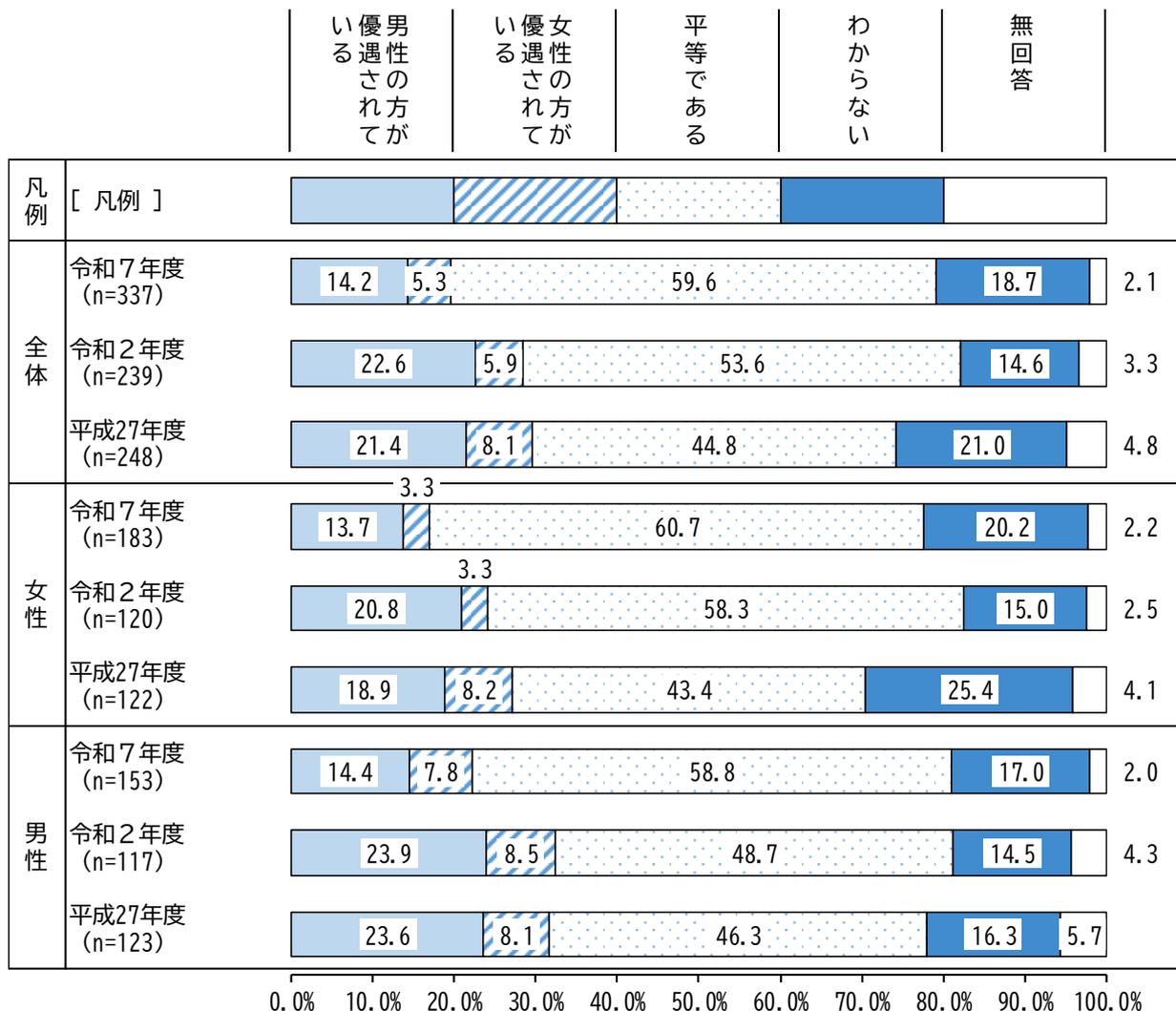
【全体】

○ 過去調査と比較すると、平成27年以降「平等である」の増加が続いています。

【性別】

○ 女性では、平成27年以降「平等である」の増加が続いています。

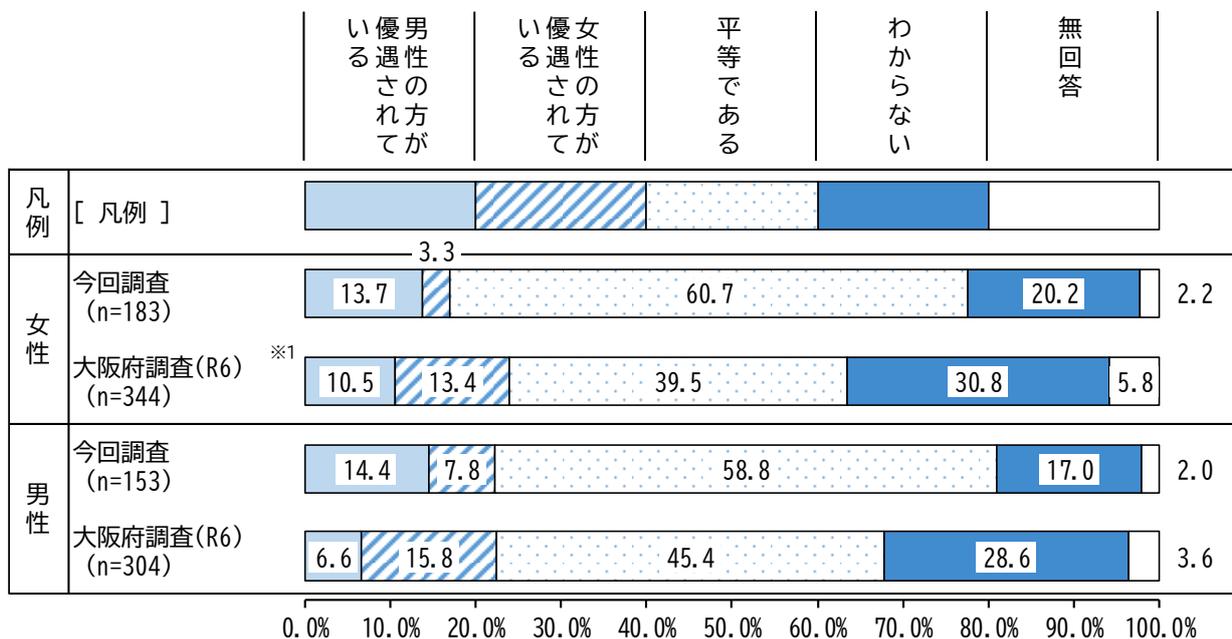
○ 男性では、平成27年度と令和2年度に大きな違いはみられませんが、令和7年度には「平等である」が多くなっています。



■大阪府調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査（家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備）と比較すると、男女とも「女性の方が優遇されている」が少なく、「平等である」が多くなっています。



※1 大阪府調査の項目は「家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備」

⑨育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ

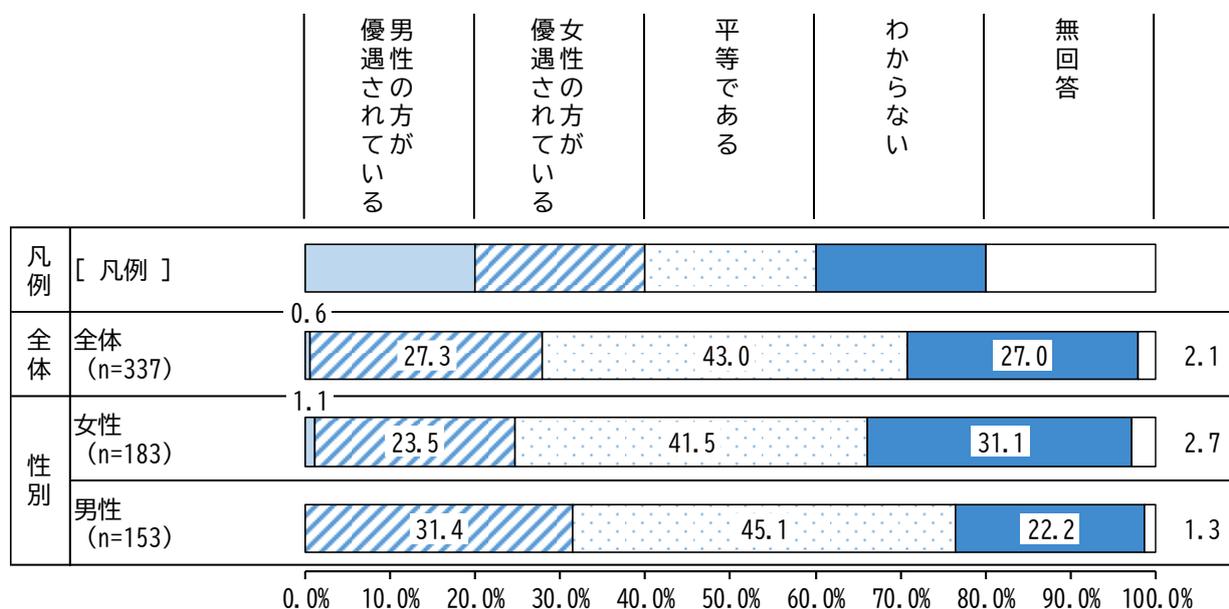
【全体】

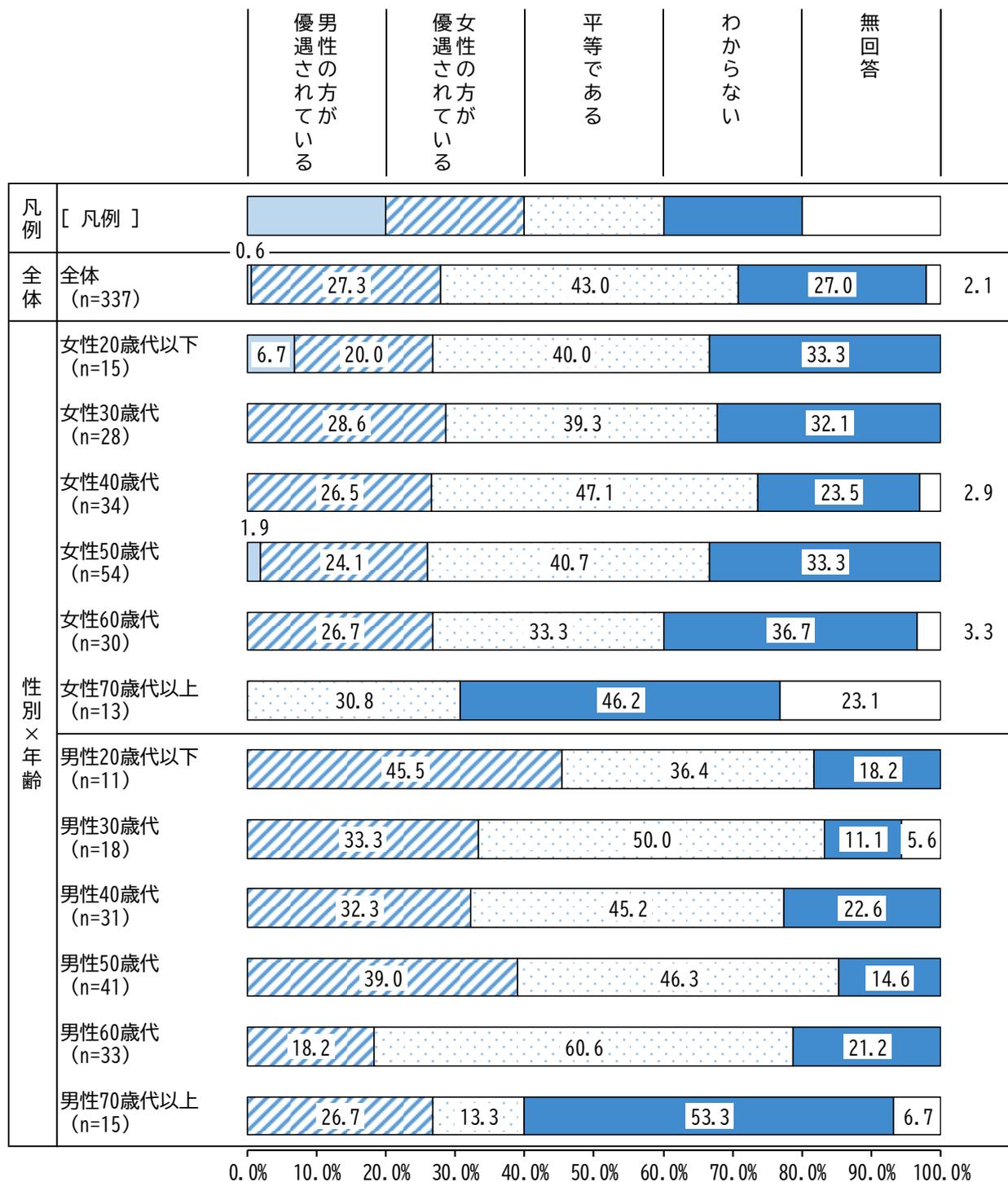
- 「平等である」が43.0%で最も多く、次いで「女性の方が優遇されている」が27.3%、「わからない」が27.0%となっています。

【性別】

- 男性では、「女性の方が優遇されている」が31.4%で、女性の23.5%より7.9ポイント多くなっています。

【⑨育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ】





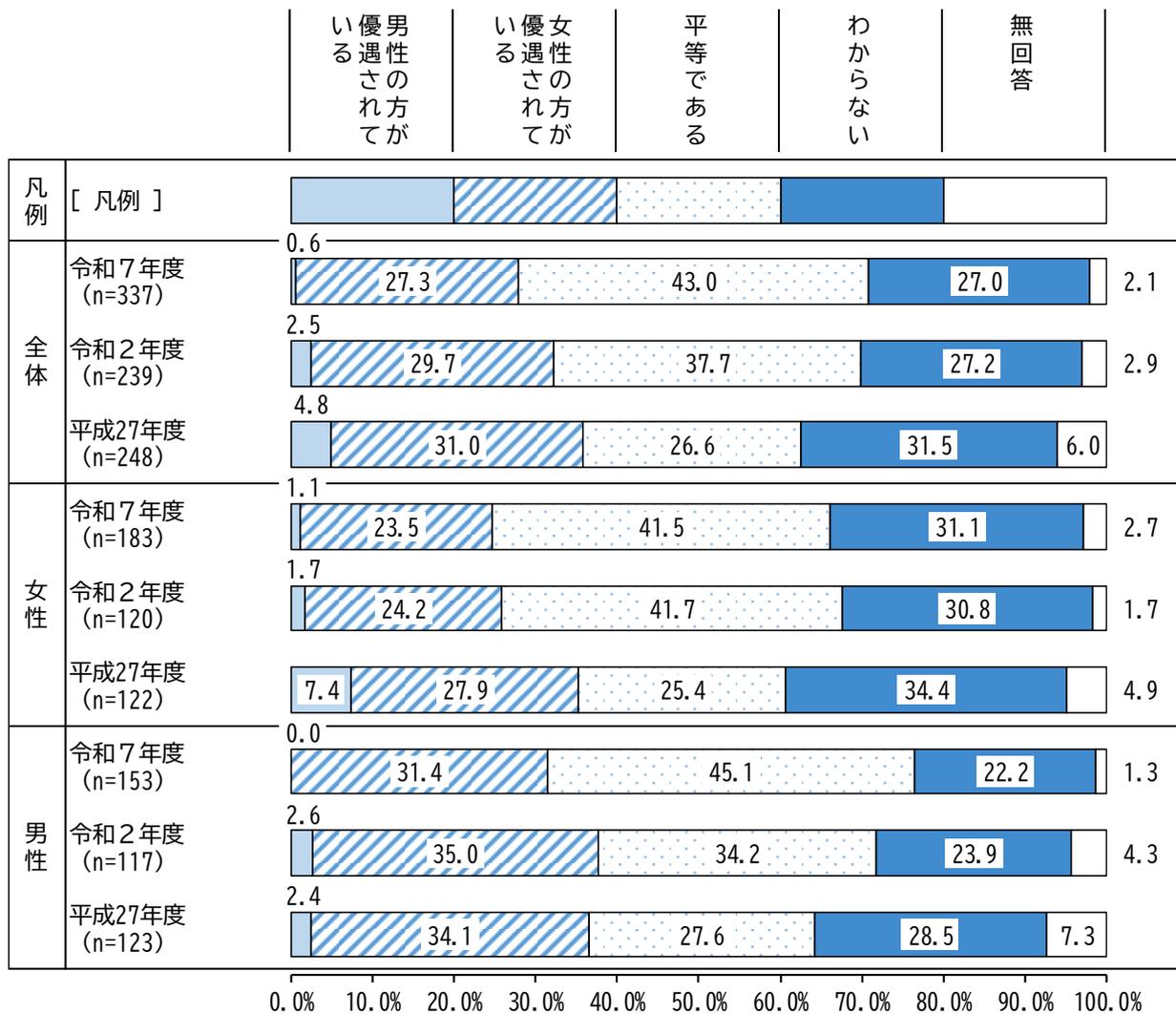
■過去調査との比較

【全体】

- 過去調査と比較すると、平成27年度は「男性の方が優遇されている」、令和2年度以降は「平等である」が最も多くなっています。

【性別】

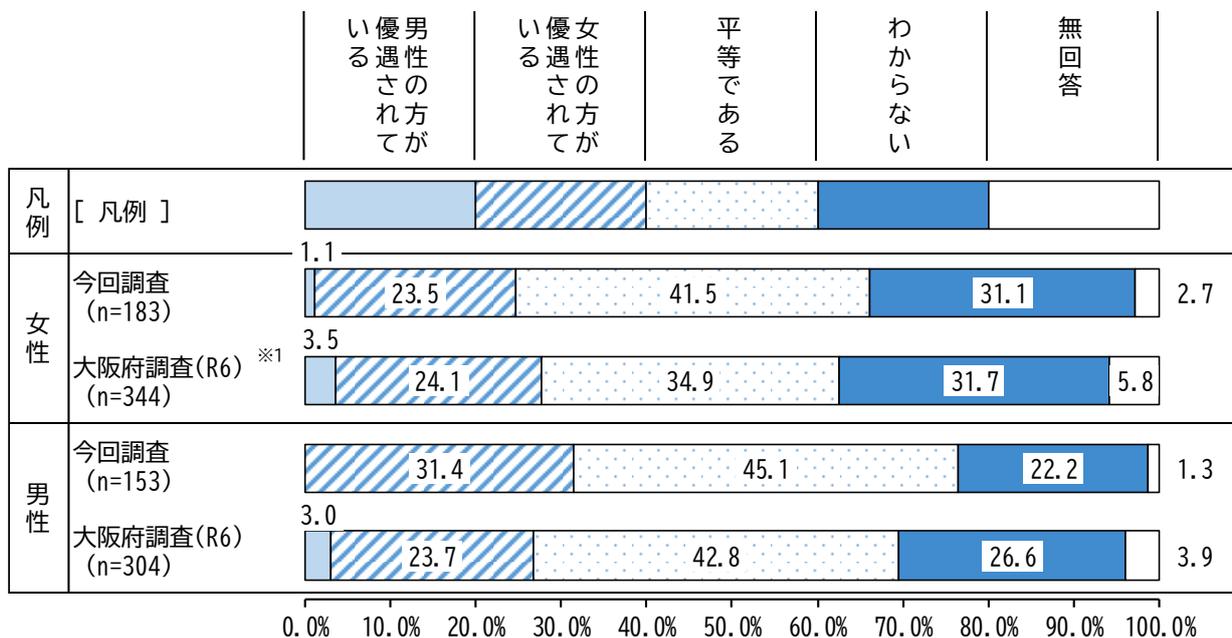
- 女性では令和2年度以降、男性では令和7年度で「平等である」が40%を超え、「女性の方が優遇されている」よりも多くなっています。



■大阪府調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査（育児・介護・看護休暇など休暇の取得のしやすさ）と比較すると、女性では大阪府調査より「平等である」が多くなっていますが、男性は大阪府調査より「女性の方が優遇されている」が多くなっています。

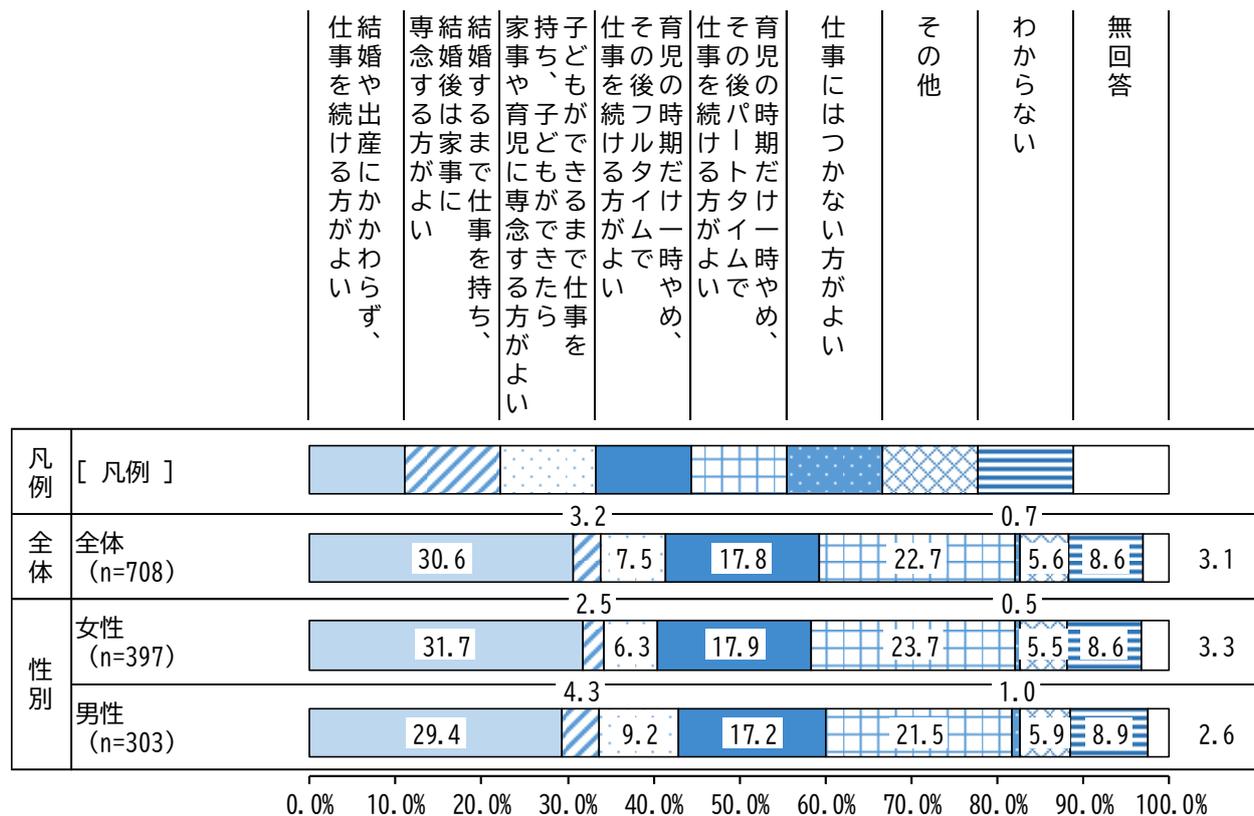


※1 大阪府調査の項目は「育児・介護・看護休暇など休暇の取得のしやすさ」

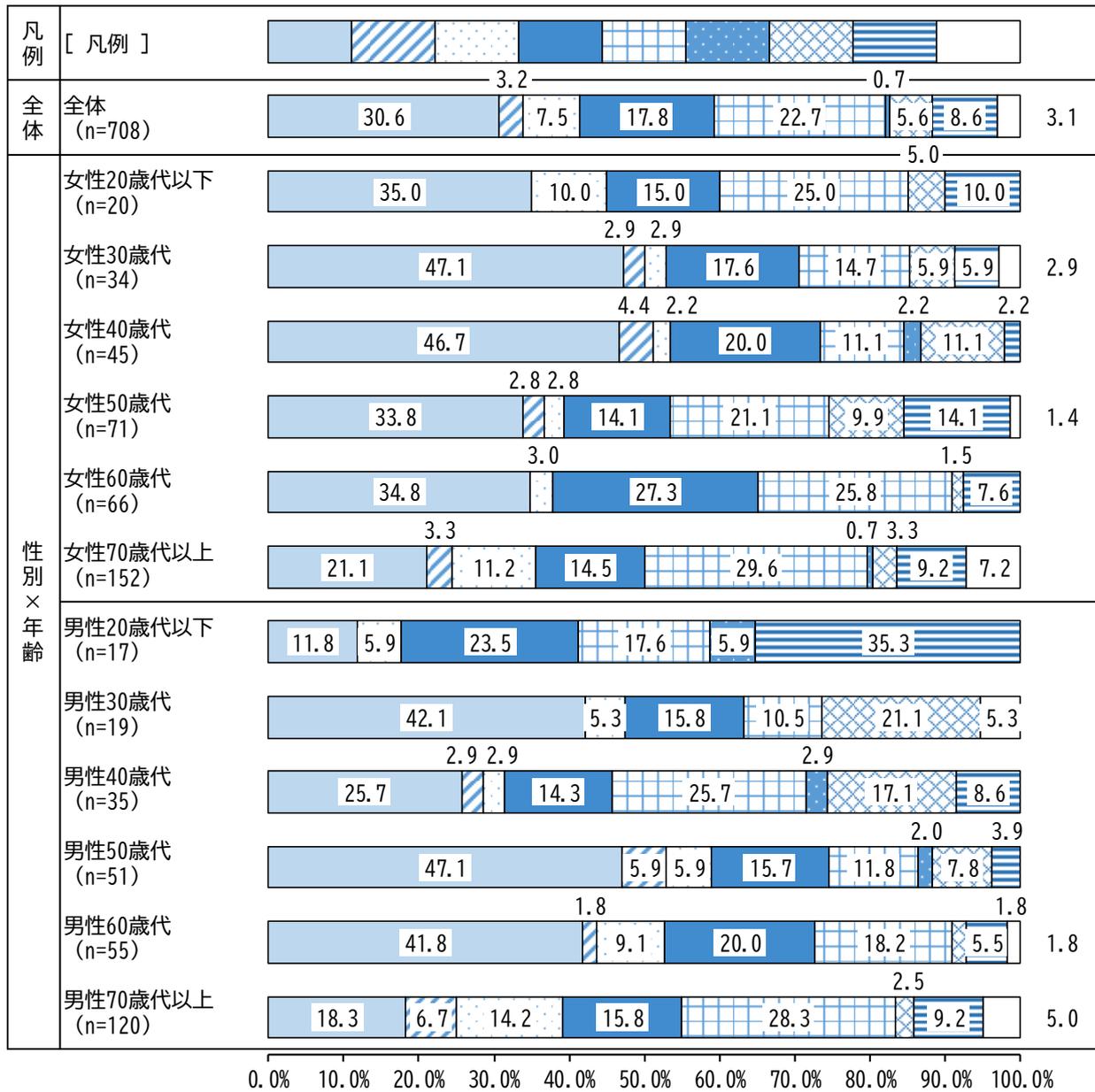
問7 あなたが、女性の働き方として望ましいと思うのは、次のうちどれですか。(○は1つ)

- 【全体】
- 女性の働き方として望ましいと思うものについて、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が30.6%で最も多く、次いで「育児の時期だけ一時やめ、その後パートタイムで仕事を続ける方がよい」が22.7%、「育児の時期だけ一時やめ、その後フルタイムで仕事を続ける方がよい」が17.8%となっています。
- 【性別】
- 男女とも、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が約30%、「育児の時期だけ一時やめ、その後パートタイムで仕事を続ける方がよい」が約20%などとなっており、性別による違いはほとんどみられません。

【女性の働き方として望ましいと思うもの】



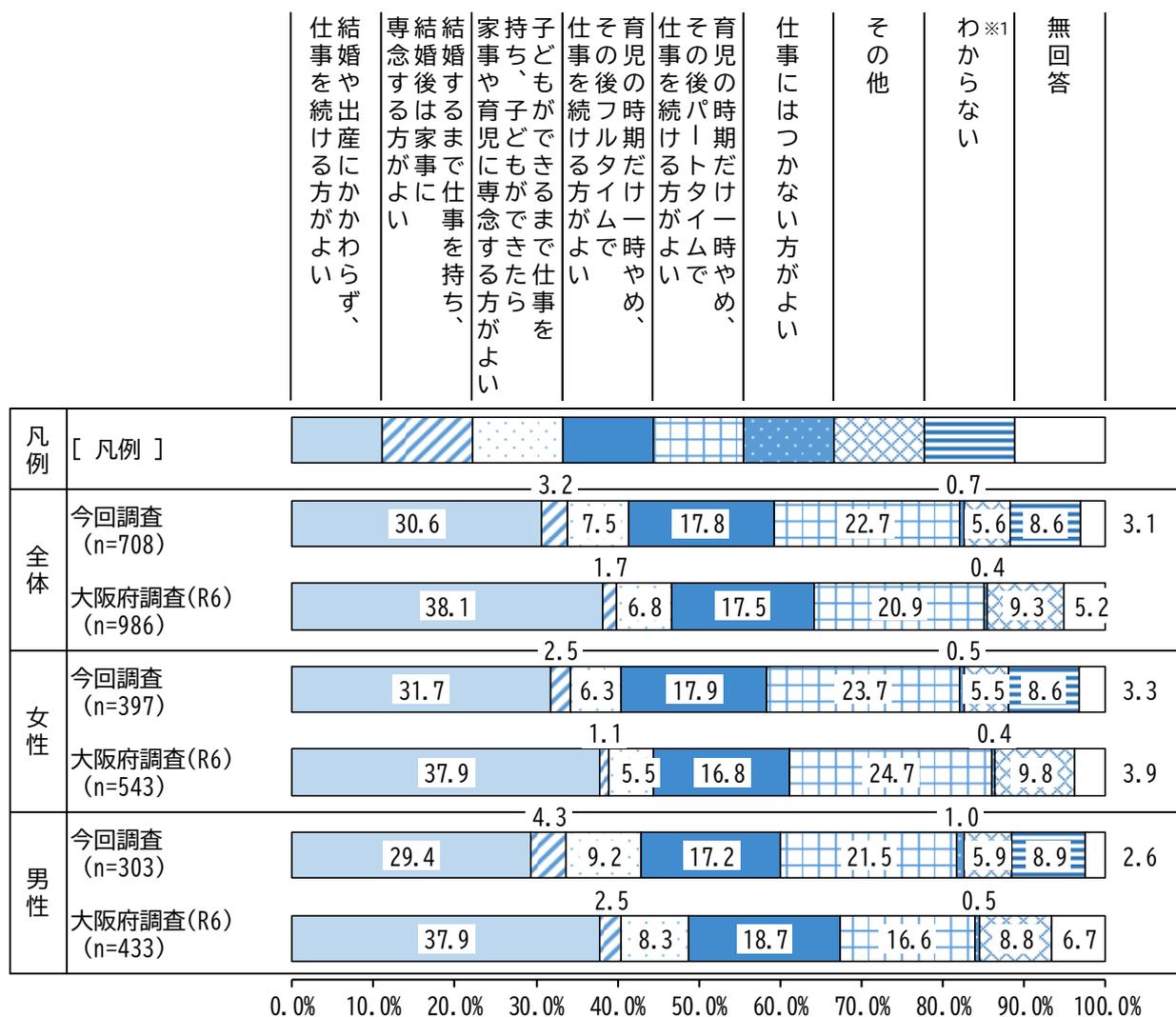
無回答	わからない	その他	仕事にはつかない方がよい	育児の時期だけ一時やめ、その後パートタイムで仕事を続ける方がよい	その後のフルタイムで仕事を続ける方がよい	子どもができるまで仕事をもち、子どもができたらか家事や育児に専念する方がよい	結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する方がよい	結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい
-----	-------	-----	--------------	----------------------------------	----------------------	--	-----------------------------	------------------------



■大阪府調査との比較

【大阪府調査】

○ 大阪府調査と比較すると、今回調査は大阪府調査より「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が少なく、今回調査のみの項目「わからない」が8.6%となっています。

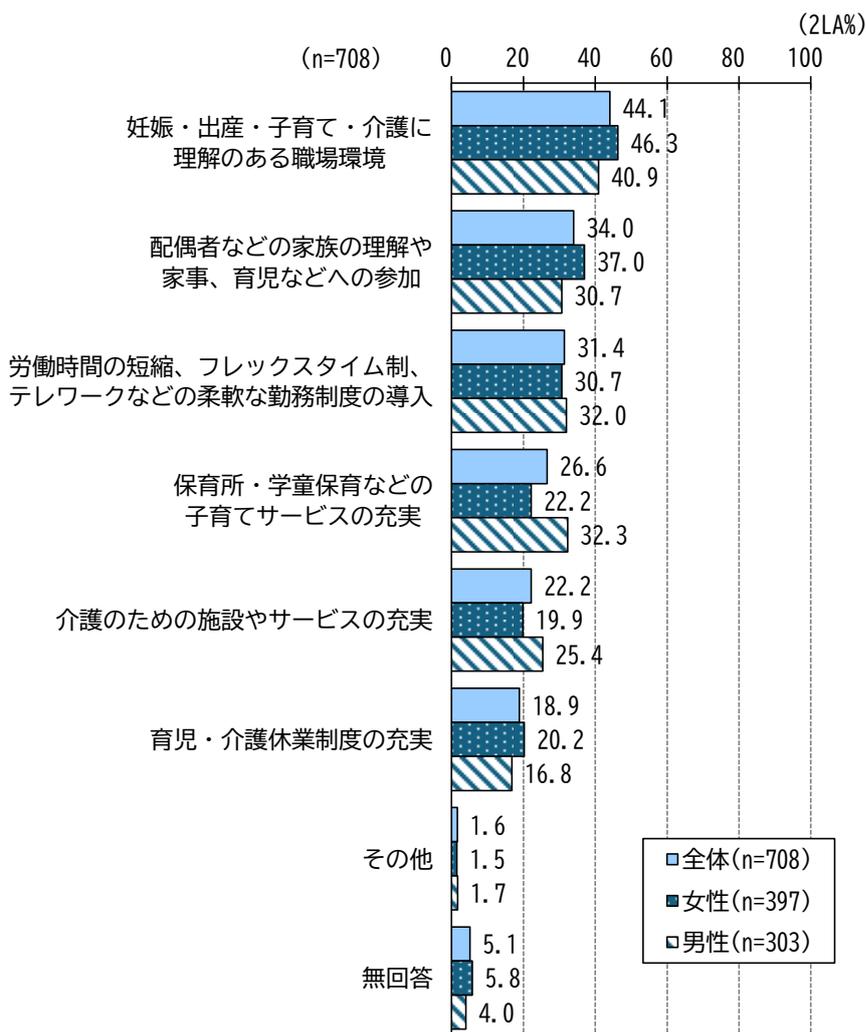


※1 「わからない」は今回調査のみの選択肢

問8 働く人が、出産・子育て・介護などの理由で、仕事を辞めずに働き続けるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

- 【全体】
- 仕事を辞めずに働き続けるために必要なことについて、「妊娠・出産・子育て・介護に理解のある職場環境」が44.1%で最も多く、次いで「配偶者などの家族の理解や家事、育児などへの参加」が34.0%、「労働時間の短縮、フレックスタイム制、テレワークなどの柔軟な勤務制度の導入」が31.4%となっています。
- 【性別】
- 男女とも「妊娠・出産・子育て・介護に理解のある職場環境」が最も多く、次いで、女性は「配偶者などの家族の理解や家事、育児などへの参加」、男性は「保育所・学童保育などの子育てサービスの充実」が多くなっています。

【仕事を辞めずに働き続けるために必要なこと(2LA)】



単位：％

	母数 (n)	仕事を辞めずに働き続けるために必要なこと(2LA)									
		家事、 配偶者 、育児 などの 家族の 参加 や	子育て 、サ ービス の充 実	サ ー ビ ス の 充 実 の 施 設 や	育 児 ・ 介 護 休 業 制 度 の 充 実	柔 軟 な 勤 務 制 度 の 導 入	タ イ ム 制 、 フ レ ッ ク ス タ イ ム 制	労働 時間 の 短 縮 、 ワ ー ク の 導 入	理 解 の あ る 職 場 環 境	妊 娠 ・ 出 産 ・ 子 育 て ・ 介 護	そ の 他
全体	708	34.0	26.6	22.2	18.9	31.4	44.1	1.6	5.1		
性別× 年齢	女性20歳代以下	20	35.0	35.0	-	10.0	△ 50.0	50.0	-	-	
	女性30歳代	34	△ 47.1	32.4	▼ 8.8	17.6	38.2	38.2	2.9	2.9	
	女性40歳代	45	31.1	▼ 13.3	▼ 8.9	24.4	△ 51.1	△ 66.7	2.2	-	
	女性50歳代	71	36.6	26.8	23.9	25.4	32.4	50.7	-	-	
	女性60歳代	66	40.9	25.8	18.2	21.2	22.7	50.0	1.5	3.0	
	女性70歳代以上	152	35.5	17.8	27.0	19.1	▼ 21.1	37.5	2.0	13.2	
	男性20歳代以下	17	35.3	△ 41.2	▼ 11.8	17.6	41.2	47.1	-	-	
	男性30歳代	19	36.8	26.3	▼ 10.5	26.3	△ 52.6	▼ 26.3	-	5.3	
	男性40歳代	35	25.7	△ 42.9	17.1	14.3	34.3	48.6	5.7	-	
	男性50歳代	51	29.4	29.4	21.6	21.6	35.3	45.1	2.0	-	
	男性60歳代	55	29.1	△ 41.8	30.9	14.5	30.9	34.5	-	7.3	
	男性70歳代以上	120	32.5	26.7	30.8	15.0	25.0	40.8	1.7	5.8	

■過去調査との比較

- 【全体】
- 過去調査と比較すると、令和7年度は「介護のための施設やサービスの充実」「労働時間の短縮、フレックスタイム制、テレワークなどの柔軟な勤務制度の導入」が過去調査よりも多くなっています。
- 【性別】
- 女性では、「育児・介護休業制度の充実」が過去調査よりも多くなっています。
 - 男性では、「介護のための施設やサービスの充実」「労働時間の短縮、フレックスタイム制、テレワークなどの柔軟な勤務制度の導入」が過去調査よりも多くなっています。

単位：％

	母数 (n)	仕事を辞めずに働き続けるために必要なこと(2LA)								
		家事、 配偶者 、育児 などの 家族の 参加 や	子育て 、サ ービス の充 実	サ ー ビ ス の 充 実 の 施 設 や	育 児 ・ 介 護 休 業 制 度 の 充 実	柔 軟 な 勤 務 制 度 の 導 入	タ イ ム 制 、 フ レ ッ ク ス タ イ ム 制	労働 時間 の 短 縮 、 ワ ー ク の 導 入	理 解 の あ る 職 場 環 境	妊 娠 ・ 出 産 ・ 子 育 て ・ 介 護
全体	令和7年度	708	34.0	26.6	22.2	18.9	31.4	44.1	1.6	5.1
	令和2年度 ※1	456	40.1	33.8	16.0	12.7	25.2	43.0	2.2	9.2
	平成27年度	447	38.0	34.0	16.1	15.7	27.7	46.3	2.5	5.6
女性	令和7年度	397	37.0	22.2	19.9	20.2	30.7	46.3	1.5	5.8
	令和2年度	267	42.7	30.3	18.4	9.4	24.7	47.6	2.2	8.2
	平成27年度	259	40.5	31.3	18.9	13.1	31.7	47.1	1.5	5.0
男性	令和7年度	303	30.7	32.3	25.4	16.8	32.0	40.9	1.7	4.0
	令和2年度	185	36.2	38.4	13.0	17.8	25.4	36.8	2.2	10.8
	平成27年度	183	35.0	37.2	12.6	19.7	21.9	45.9	3.3	6.6

※1 過去調査の設問は「女性が、出産・子育て・介護などの理由で、仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか」

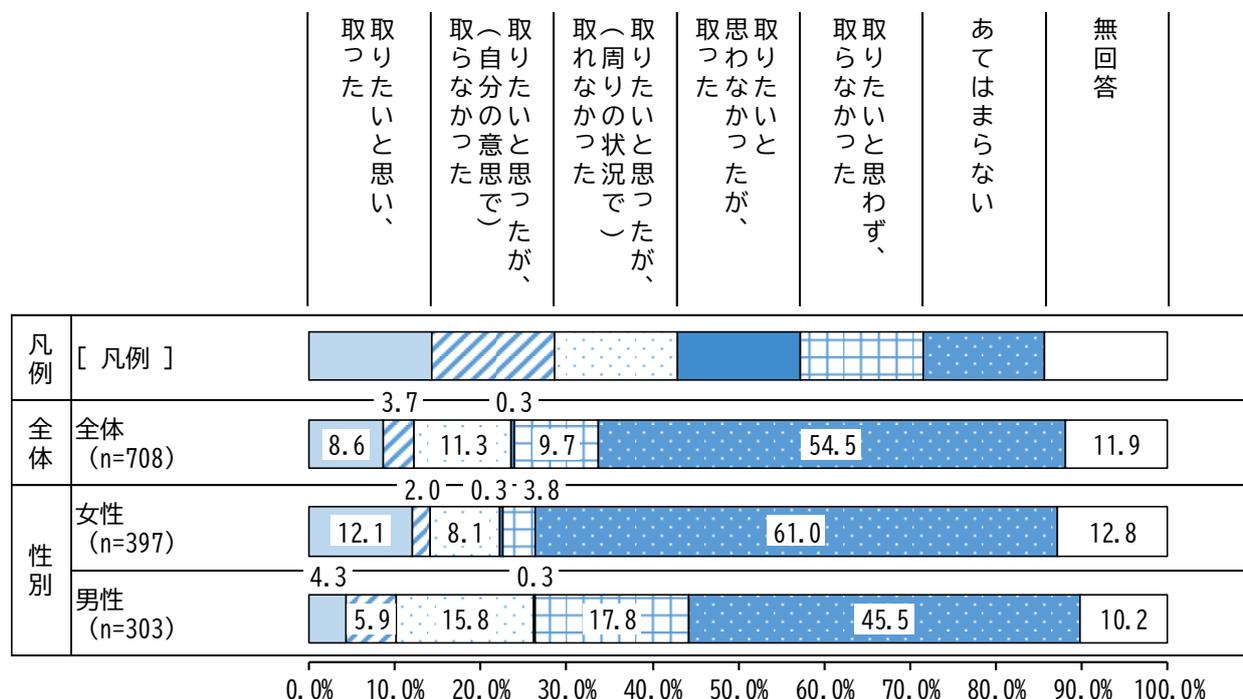
問9 あなたは、これまでに育児休業・介護休業を取りましたか。(各項目でそれぞれ○は1つ)

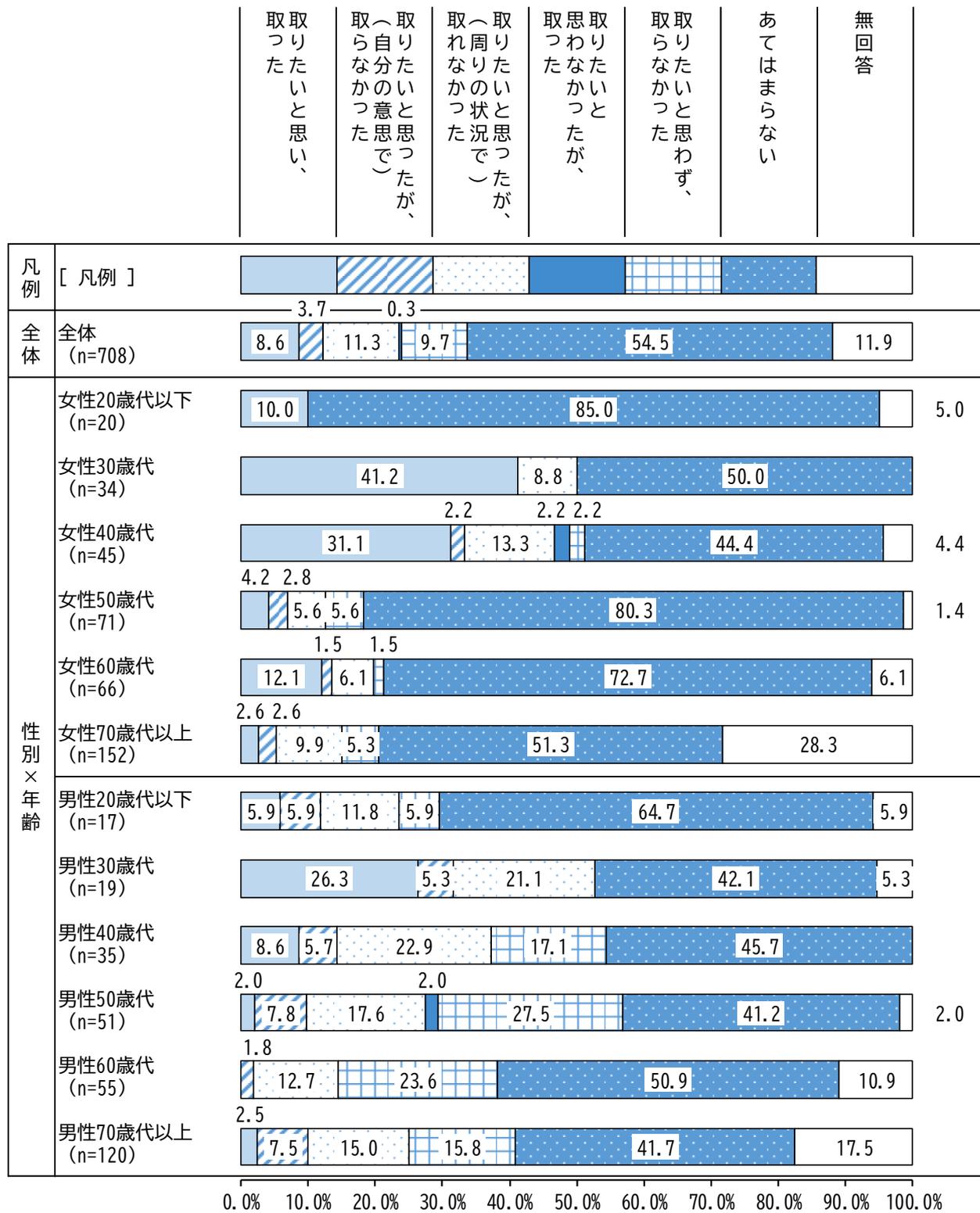
①育児休業について

【全体】
 ○ 育児休業について、「あてはまらない」が54.5%で最も多く、次いで「取りたいと思ったが、(周りの状況で)取れなかった」が11.3%、「取りたいと思わず、取らなかった」が9.7%となっています。

【性別】
 ○ 「あてはまらない」を除くと、女性は「取りたいと思い、取った」、男性は「取りたいと思わず、取らなかった」が最も多くなっています。
 ○ 「取りたいと思ったが、(周りの状況で)取れなかった」は女性8.1%・男性15.8%で、男性のほうが7.7ポイント多くなっています。

【①育児休業について】





②介護休業について

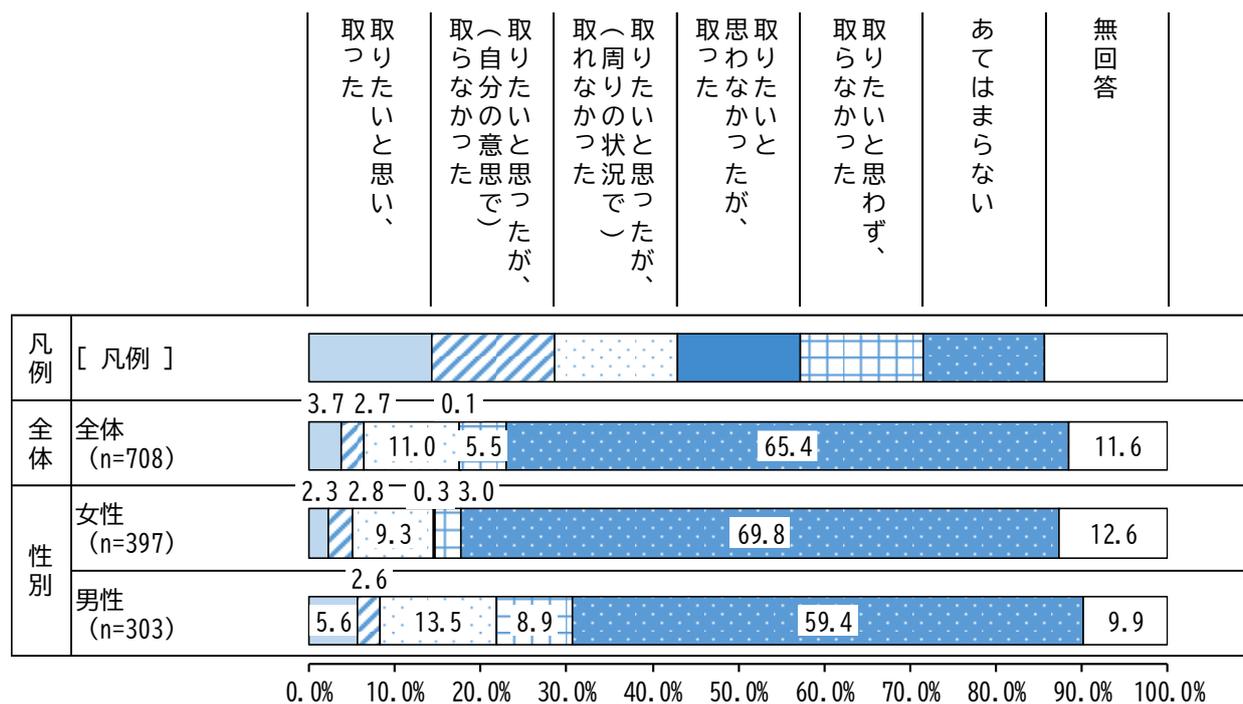
【全体】

- 介護休業について、「あてはまらない」が65.4%で最も多く、次いで「取りたいと思ったが、(周りの状況で)取れなかった」が11.0%、「取りたいと思わず、取らなかった」が5.5%となっています。

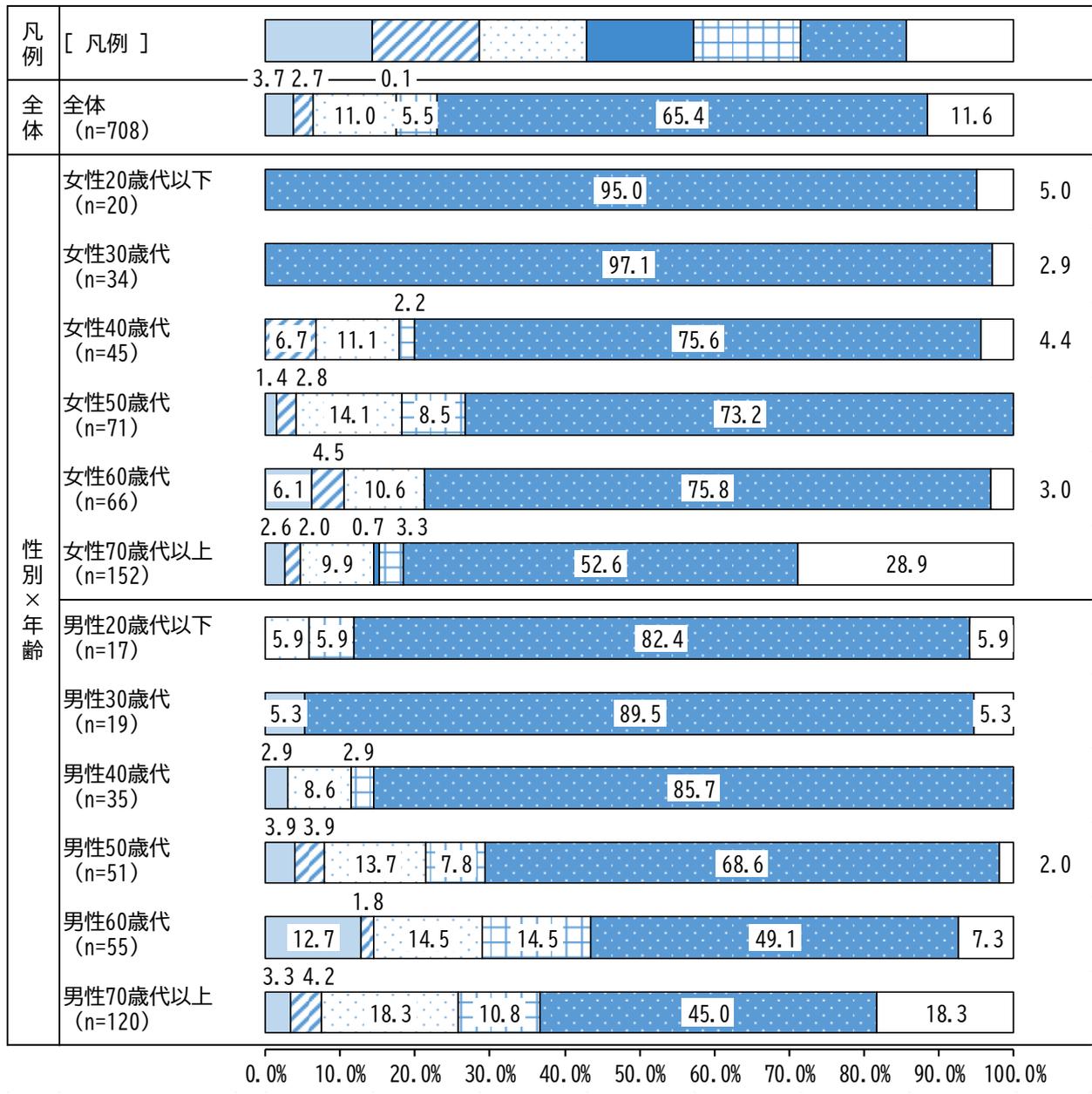
【性別】

- 男女とも、「あてはまらない」が最も多く、次いで「取りたいと思ったが、(周りの状況で)取れなかった」「取りたいと思わず、取らなかった」の順となっています。
- 「取りたいと思わず、取らなかった」は女性 3.0%・男性 8.9%で、男性のほうが5.9ポイント多くなっています。

【②介護休業について】



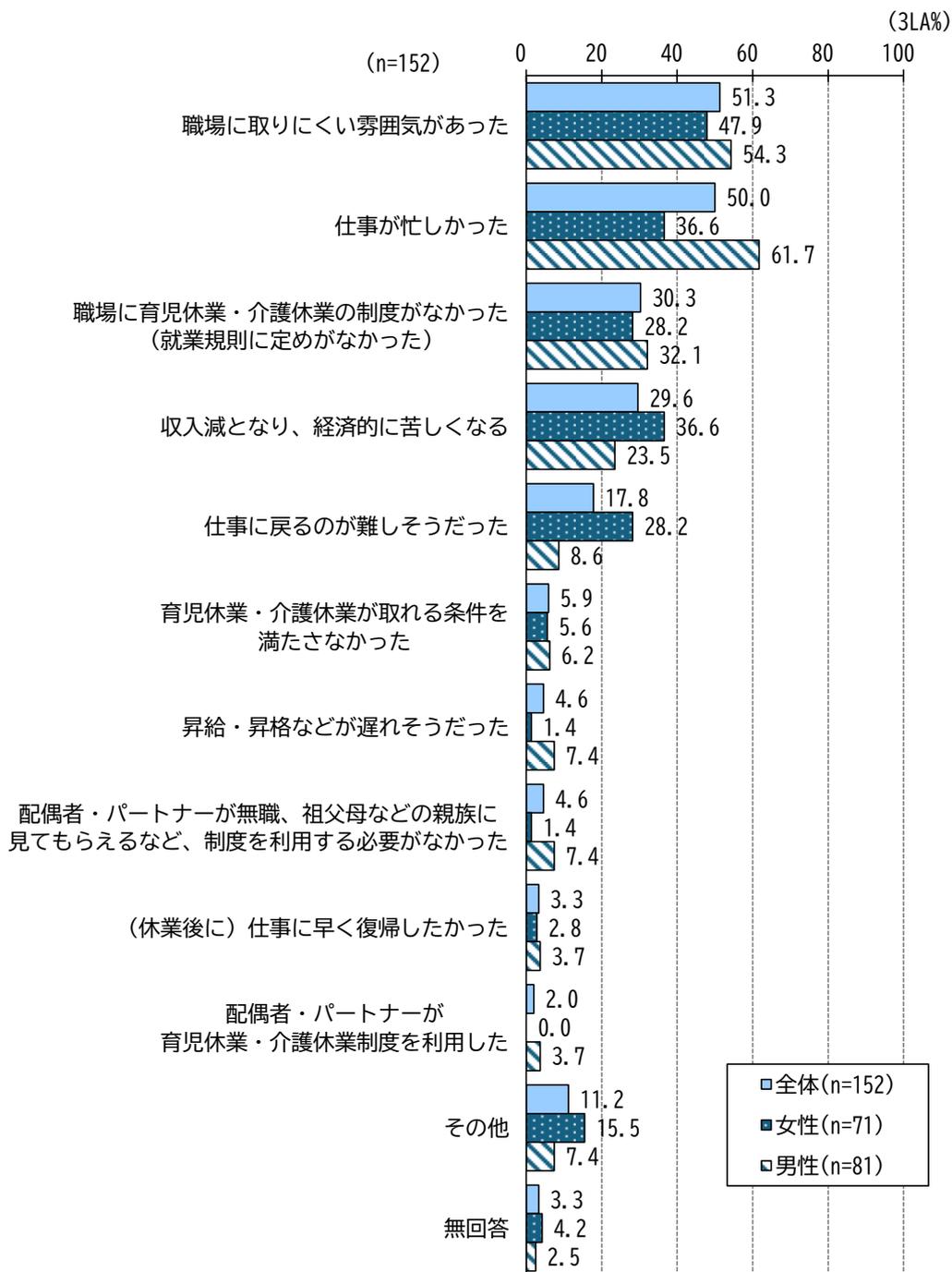
取 つ た い と 思 い、	取 ら な か つ た （ 取 り た い と 思 つ た が、 自 分 の 意 思 で ）	取 れ な か つ た （ 取 り た い と 思 つ た が、 周 り の 状 況 で ）	取 つ た 思 わ な か つ た が、 取 り た い と 思 つ た が、	取 ら な か つ た 取 り た い と 思 わ ず、	あ て は ま ら な い	無 回 答
----------------------------------	--	--	---	---	---------------------------------	-------------



問10 問9で1つでも「取りたいと思ったが、(自分の意思で) 取らなかった」「取りたいと思ったが、(周りの状況で) 取れなかった」と回答した方にお聞きします。
取得できなかった理由は何ですか。(○は3つまで)

- 【全体】
- 育児・介護休業を取得できなかった理由について、「職場に取りにくい雰囲気があった」が51.3%で最も多く、次いで「仕事が忙しかった」が50.0%、「職場に育児休業・介護休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が30.3%となっています。
- 【性別】
- 女性では、「職場に取りにくい雰囲気があった」が47.9%で最も多く、次いで「仕事が忙しかった」「収入減となり、経済的に苦しくなる」が36.6%、「仕事に戻るのが難しそうだった」「職場に育児休業・介護休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が28.2%となっています。
 - 男性では、「仕事が忙しかった」が61.7%で最も多く、次いで「職場に取りにくい雰囲気があった」が54.3%、「職場に育児休業・介護休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が32.1%となっています。

【育児・介護休業を取得できなかった理由(3LA)】



		母数 (n)	育児・介護休業を取得できなかった理由(3LA)										その他	無回答
			職場に取りにくい雰囲気があった	仕事が忙しかった	仕事に早く復帰しなかった (休業後に)	仕事に戻るのが難しそうだった	昇給・昇格などが遅れそうだった	収入減となり、経済的に苦しくなる	配偶者・パートナーが育児休業制度を利用した	配偶者・パートナーが無職、祖父母などの親族に見てもらえるなど、制度を利用する必要がなかった	職場に育児休業・介護休業の制度がなかった (就業規則に定めがなかった)	育児休業・介護休業が満たさなかった		
全体		152	51.3	50.0	3.3	17.8	4.6	29.6	2.0	4.6	30.3	5.9	11.2	3.3
性別×年齢	女性20歳代以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性30歳代	3	△ 66.7	-	-	△ 33.3	-	-	-	-	33.3	△ 33.3	-	-
	女性40歳代	13	53.8	▼ 30.8	-	23.1	7.7	△ 53.8	-	-	▼ 15.4	7.7	7.7	7.7
	女性50歳代	16	43.8	▼ 25.0	6.3	△ 31.3	-	△ 56.3	-	6.3	31.3	-	△ 37.5	-
	女性60歳代	13	▼ 30.8	53.8	-	△ 30.8	-	▼ 15.4	-	-	△ 46.2	-	15.4	-
	女性70歳代以上	26	53.8	42.3	3.8	26.9	-	30.8	-	-	23.1	7.7	7.7	7.7
	男性20歳代以下	3	△ 66.7	△ 66.7	△ 33.3	-	△ 33.3	△ 66.7	-	-	-	-	-	-
	男性30歳代	5	▼ 20.0	△ 80.0	-	△ 40.0	-	20.0	△ 20.0	△ 20.0	▼ 20.0	-	20.0	-
	男性40歳代	10	▼ 40.0	△ 60.0	-	10.0	-	△ 60.0	-	-	▼ 10.0	-	-	20.0
	男性50歳代	15	△ 73.3	46.7	-	13.3	6.7	26.7	-	13.3	▼ 20.0	-	13.3	-
	男性60歳代	13	53.8	△ 69.2	-	▼ 7.7	-	23.1	7.7	7.7	30.8	7.7	7.7	-
	男性70歳代以上	35	54.3	△ 62.9	5.7	▼ 2.9	11.4	▼ 8.6	2.9	5.7	△ 48.6	11.4	5.7	-

問11 性別にかかわらず、仕事と子育て、介護、地域活動を両立させるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

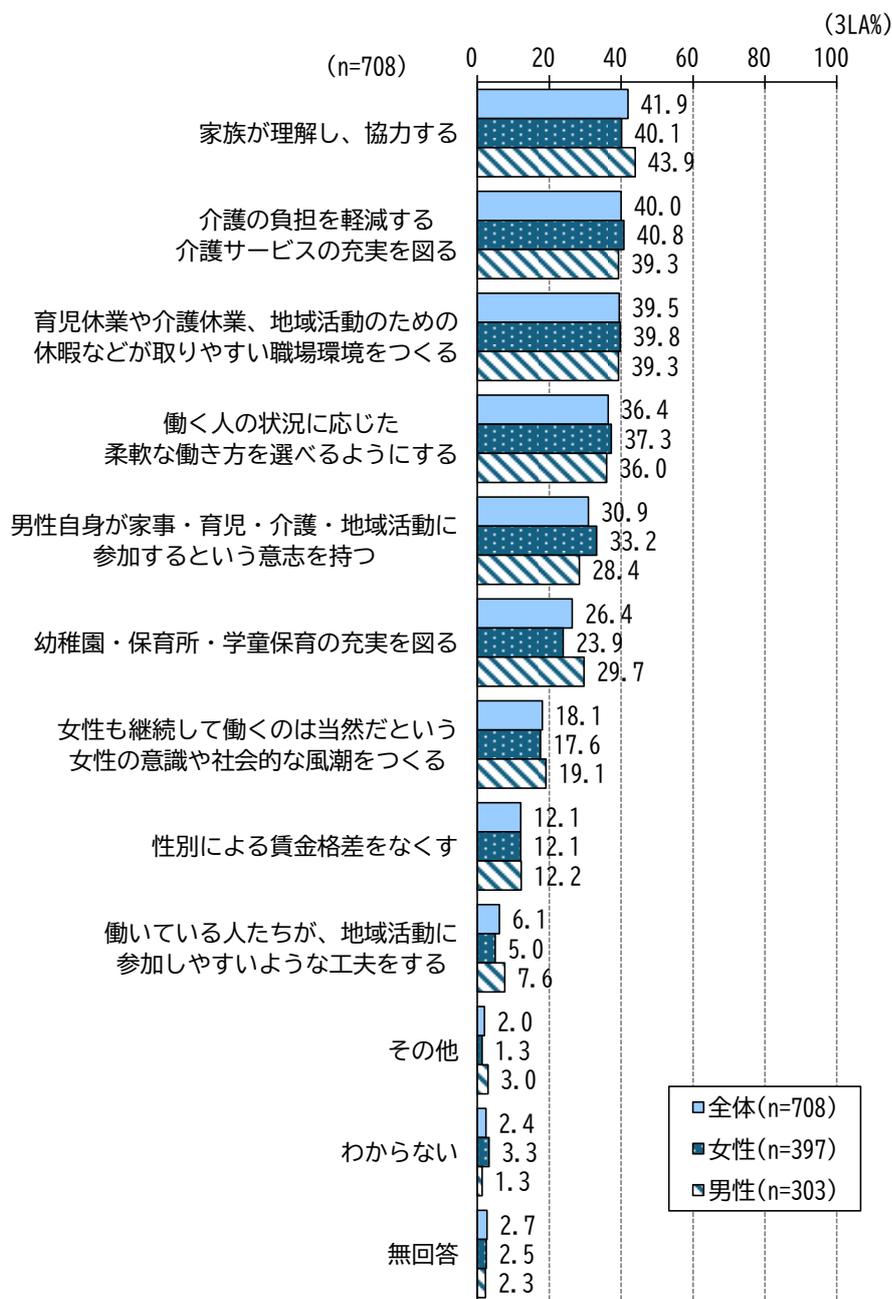
【全体】

- 仕事と子育て、介護、地域活動を両立させるために必要なことについて、「家族が理解し、協力する」が41.9%で最も多く、次いで「介護の負担を軽減する介護サービスの充実を図る」が40.0%、「育児休業や介護休業、地域活動のための休暇などが取りやすい職場環境をつくる」が39.5%となっています。

【性別】

- 女性は「介護の負担を軽減する介護サービスの充実を図る」、男性は「家族が理解し、協力する」が最も多くなっています。
- 「幼稚園・保育所・学童保育の充実を図る」は、女性23.9%・男性29.7%で、男性のほうが5.8ポイント多くなっています。

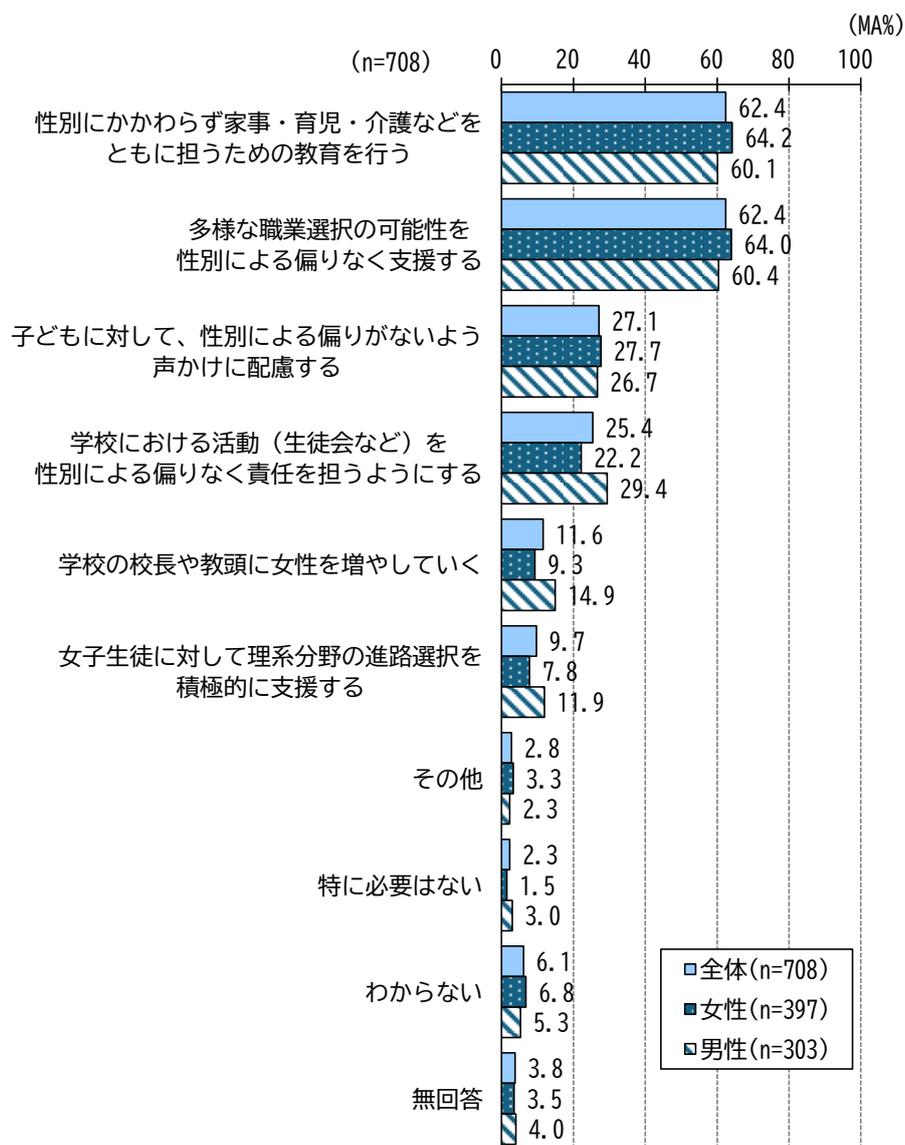
【仕事と子育て、介護、地域活動を両立させるために必要なこと(3LA)】



問12 あなたは、子どもたちが将来、性別にかかわらず社会の様々な分野で活躍できるために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 【全体】**
- 性別にかかわらず社会で活躍できるために必要なことについて、「性別にかかわらず家事・育児・介護などをともに担うための教育を行う」「多様な職業選択の可能性を性別による偏りなく支援する」が62.4%で最も多く、次いで「子どもに対して、性別による偏りがないよう声かけに配慮する」が27.1%、「学校における活動（生徒会など）を性別による偏りなく責任を担うようにする」が25.4%となっています。
- 【性別】**
- 女性では、「性別にかかわらず家事・育児・介護などをともに担うための教育を行う」が64.2%で最も多く、次いで「多様な職業選択の可能性を性別による偏りなく支援する」が64.0%、「子どもに対して、性別による偏りがないよう声かけに配慮する」が27.7%となっています。
 - 男性では、「多様な職業選択の可能性を性別による偏りなく支援する」が60.4%で最も多く、次いで「性別にかかわらず家事・育児・介護などをともに担うための教育を行う」が60.1%、「学校における活動（生徒会など）を性別による偏りなく責任を担うようにする」が29.4%となっています。

【性別にかかわらず社会で活躍できるために必要なこと(MA)】



		母数 (n)	性別にかかわらず社会で活躍するために必要なこと(MA)									無回答
			と家事・育児・介護などを行うためにも担当する	性別にかかわらず声かけに配慮する	子どもに対して、偏りなく責任を担うよう	学校(生徒会など)における活動を性別による偏りなく行う	進路選択を積極的に支援する	女子生徒に対して理系分野の職業選択の可能性を	多様な職業選択の可能性を	性別による偏りなく支援する	学校の校長や教頭に女性を増やしていく	
全体		708	62.4	27.1	25.4	9.7	62.4	11.6	2.8	2.3	6.1	3.8
性別×年齢	女性20歳代以下	20	70.0	20.0	20.0	15.0	65.0	5.0	-	-	5.0	-
	女性30歳代	34	70.6	35.3	20.6	5.9	55.9	14.7	5.9	5.9	2.9	-
	女性40歳代	45	60.0	26.7	28.9	13.3	△ 82.2	4.4	6.7	2.2	-	-
	女性50歳代	71	63.4	31.0	23.9	7.0	63.4	7.0	5.6	-	9.9	1.4
	女性60歳代	66	△ 72.7	30.3	21.2	7.6	71.2	9.1	3.0	1.5	7.6	-
	女性70歳代以上	152	59.2	23.7	19.7	5.9	57.2	11.2	1.3	1.3	8.6	8.6
	男性20歳代以下	17	52.9	△ 41.2	△ 41.2	11.8	△ 82.4	11.8	-	-	-	5.9
	男性30歳代	19	57.9	△ 42.1	31.6	△ 26.3	▼ 47.4	△ 26.3	-	-	5.3	-
	男性40歳代	35	▼ 48.6	28.6	▼ 14.3	17.1	▼ 45.7	14.3	△ 14.3	8.6	5.7	2.9
	男性50歳代	51	64.7	19.6	25.5	5.9	52.9	17.6	-	5.9	7.8	-
	男性60歳代	55	70.9	21.8	34.5	3.6	△ 76.4	9.1	1.8	-	5.5	3.6
	男性70歳代以上	120	59.2	27.5	31.7	14.2	59.2	15.0	0.8	2.5	4.2	5.8

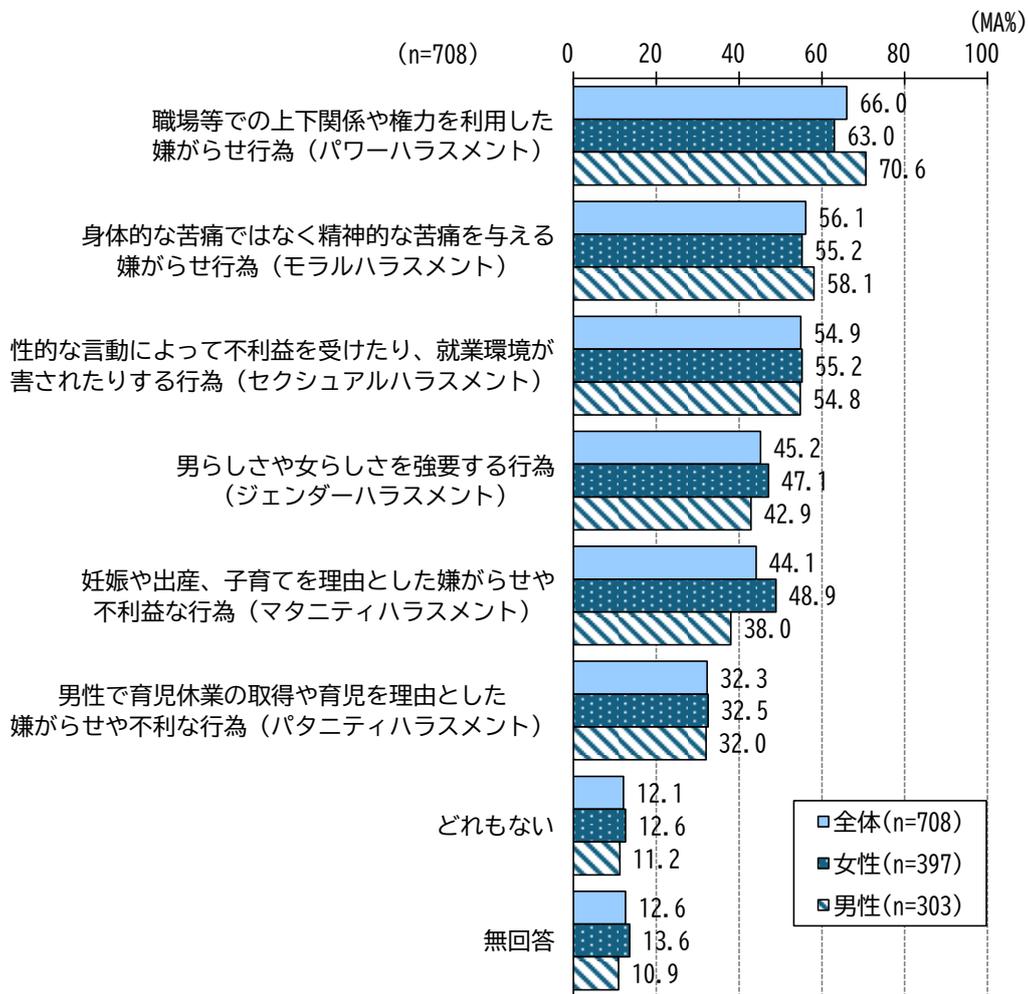
5 暴力・ハラスメントについて

問13 あなたは、次のような行為を知っていますか。また、経験したことがありますか。
 (「知っている」「経験したことがある」それぞれ○はいくつでも)

①知っている(MA)

【全体】	
○	「職場等での上下関係や権力を利用した嫌がらせ行為（パワーハラスメント）」が 66.0%で最も多く、次いで「身体的な苦痛ではなく精神的な苦痛を与える嫌がらせ行為（モラルハラスメント）」が56.1%、「性的な言動によって不利益を受けたり、就業環境が害されたりする行為（セクシュアルハラスメント）」が54.9%となっています。
【性別】	
○	女性では、「妊娠や出産、子育てを理由とした嫌がらせや不利益な行為（マタニティハラスメント）」が48.9%で、男性の38.0%より10.9ポイント多くなっています。
○	男性では、「職場等での上下関係や権力を利用した嫌がらせ行為（パワーハラスメント）」が70.6%で、女性の63.0%より7.6ポイント多くなっています。

【①知っている(MA)】



		母数 (n)	①知っている(MA)							無回答
			嫌職 場等 がら せ行 為(パ ワー ハラ スメン ト)	性的 な言 動に よつ て不 利益 を 受け たり 、就 業環 境が 害さ れた りす る 行為 (セ クシ ュア ルハ ラス メン ト)	精神 的な 苦し み(モ ラル ハラ スメン ト)	身体的 な苦 痛を 与え る嫌 がら せ行 為	男らし さや 女らし さを 強要 する 行為 (ジ エン ダー ハラ スメン ト)	妊娠 や出 産、 子育 てを 理由 とし た (マ タニ テイ ハラ スメン ト)	男性 で育 児休 業の 取得 や育 児を 理由 とし た嫌 がら せや 不利 な行 為 (パ タニ テイ ハラ スメン ト)	
全体		708	66.0	54.9	56.1	45.2	44.1	32.3	12.1	12.6
性別 × 年 齢	女性20歳代以下	20	75.0	△ 70.0	△ 70.0	55.0	△ 70.0	35.0	20.0	-
	女性30歳代	34	△ 76.5	△ 76.5	△ 67.6	△ 64.7	△ 64.7	△ 50.0	8.8	5.9
	女性40歳代	45	△ 80.0	△ 66.7	△ 75.6	△ 68.9	△ 68.9	△ 55.6	2.2	11.1
	女性50歳代	71	73.2	△ 76.1	△ 76.1	△ 64.8	△ 70.4	△ 43.7	8.5	4.2
	女性60歳代	66	68.2	60.6	59.1	54.5	53.0	36.4	7.6	10.6
	女性70歳代以上	152	▼ 46.1	▼ 32.9	▼ 33.6	▼ 25.0	▼ 25.0	▼ 15.1	19.1	24.3
	男性20歳代以下	17	△ 94.1	△ 88.2	△ 88.2	△ 76.5	△ 58.8	35.3	5.9	-
	男性30歳代	19	△ 84.2	△ 68.4	△ 84.2	△ 63.2	△ 57.9	△ 52.6	5.3	-
	男性40歳代	35	71.4	51.4	57.1	37.1	37.1	34.3	17.1	5.7
	男性50歳代	51	△ 88.2	64.7	△ 66.7	51.0	△ 54.9	39.2	5.9	-
	男性60歳代	55	△ 76.4	60.0	58.2	49.1	40.0	30.9	7.3	10.9
	男性70歳代以上	120	▼ 55.0	▼ 42.5	46.7	▼ 31.7	▼ 25.8	26.7	15.8	20.0

②経験したことがある(MA)

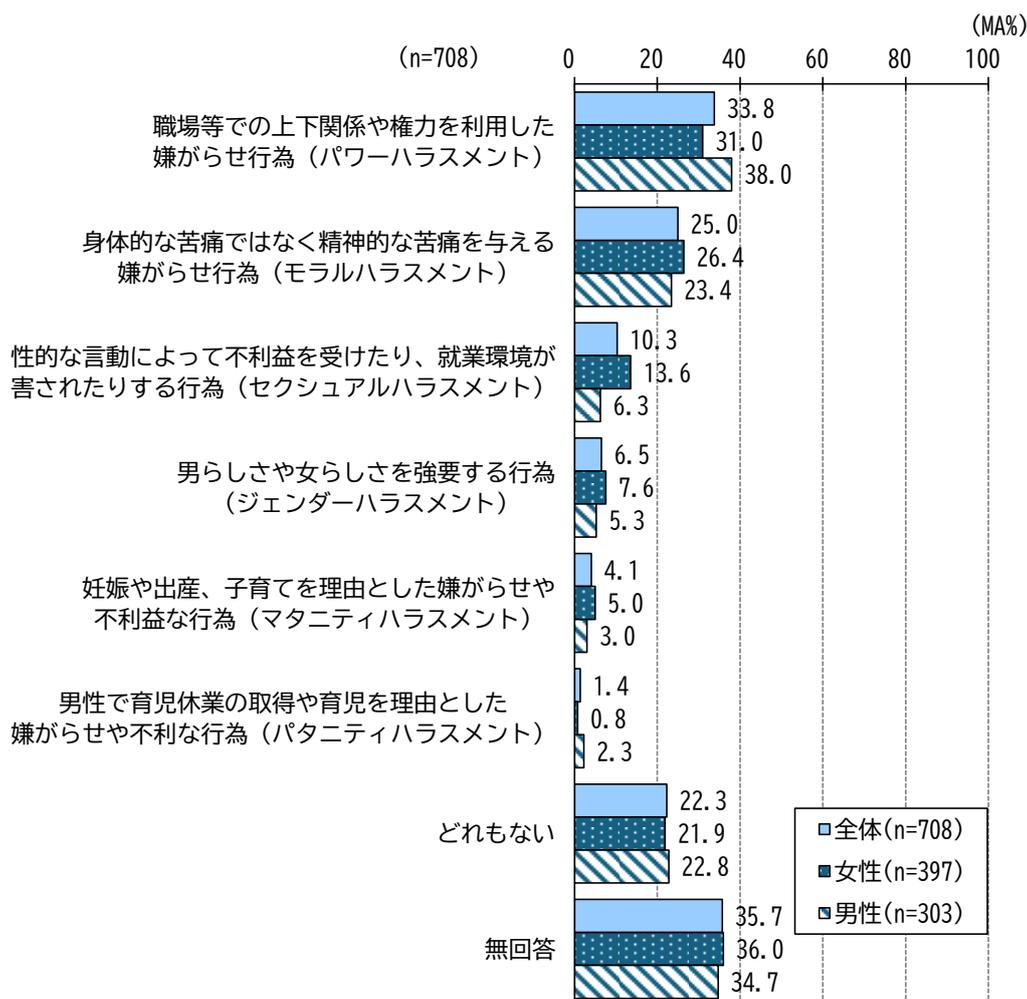
【全体】

- 「職場等での上下関係や権力を利用した嫌がらせ行為（パワーハラスメント）」が 33.8%で最も多く、次いで「身体的な苦痛ではなく精神的な苦痛を与える嫌がらせ行為（モラルハラスメント）」が 25.0%、「どれも無い」が 22.3%となっています。

【性別】

- 女性では、「性的な言動によって不利益を受けたり、就業環境が害されたりする行為（セクシュアルハラスメント）」が 13.6%で、男性の 6.3%より 7.3 ポイント多くなっています。
- 男性は、「職場等での上下関係や権力を利用した嫌がらせ行為（パワーハラスメント）」が 38.0%で、女性の 31.0%より 7.0 ポイント多くなっています。

【②経験したことがある(MA)】



単位：%

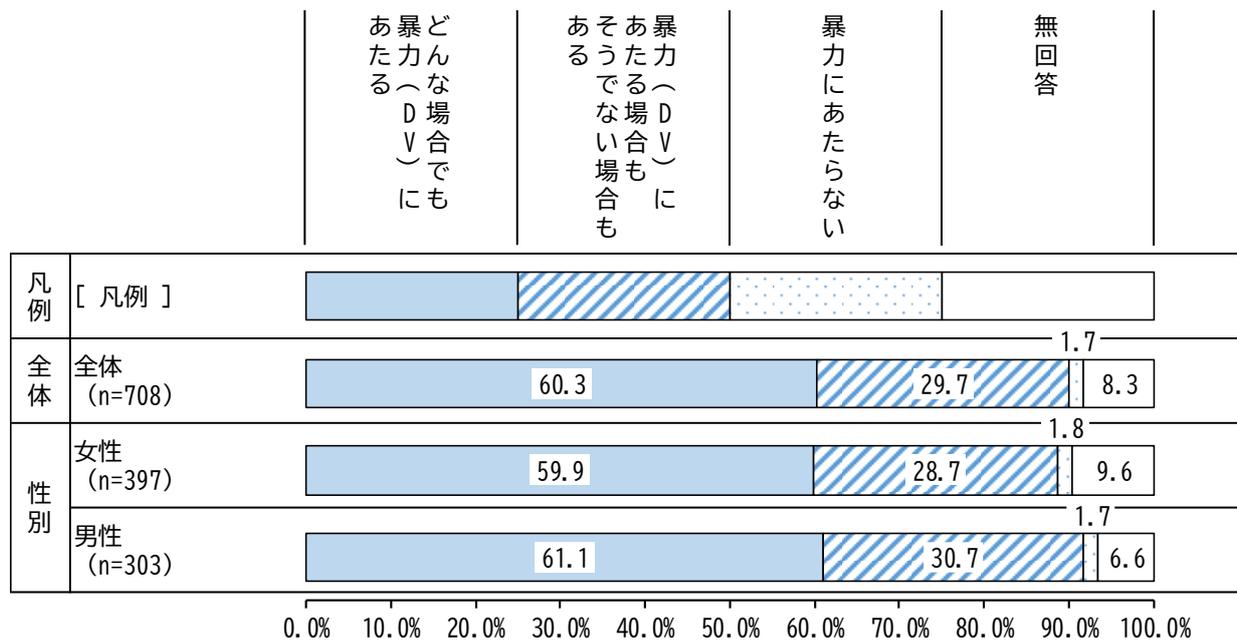
		母数 (n)	②経験したことがある(MA)					どれも ない	無 回 答	
			嫌 が ら せ 行 為 (パ ワ ー ハ ラ ス メ ン ト)	職 場 等 の 上 下 関 係 や 権 力 を 利 用 し た 行 為 (セ ク シ ュ ア ル ハ ラ ス メ ン ト)	受 け た り 、 就 業 環 境 が 害 さ れ た り す る 行 為 (ハ ラ ス メ ン ト)	性 的 な 言 動 に よ っ て 不 利 益 を 与 え る 嫌 が ら せ 行 為 (モ ラ ル ハ ラ ス メ ン ト)	精 神 的 な 苦 痛 を 与 え る 嫌 が ら せ 行 為 (モ ラ ル ハ ラ ス メ ン ト)			身 体 的 な 苦 痛 を 与 え る 嫌 が ら せ 行 為 (モ ラ ル ハ ラ ス メ ン ト)
全体		708	33.8	10.3	25.0	6.5	4.1	1.4	22.3	35.7
性別 × 年 齢	女性20歳代以下	20	▼ 20.0	△ 25.0	30.0	-	-	-	△ 45.0	15.0
	女性30歳代	34	41.2	△ 20.6	△ 38.2	5.9	△ 17.6	-	23.5	23.5
	女性40歳代	45	△ 51.1	△ 22.2	△ 37.8	11.1	8.9	2.2	15.6	22.2
	女性50歳代	71	35.2	16.9	31.0	8.5	1.4	-	22.5	31.0
	女性60歳代	66	42.4	18.2	33.3	13.6	9.1	3.0	16.7	25.8
	女性70歳代以上	152	▼ 16.4	3.9	▼ 14.5	3.9	1.3	-	21.1	54.6
	男性20歳代以下	17	▼ 17.6	5.9	▼ 11.8	11.8	5.9	5.9	△ 58.8	17.6
	男性30歳代	19	36.8	15.8	△ 36.8	5.3	10.5	5.3	26.3	21.1
	男性40歳代	35	42.9	11.4	34.3	5.7	2.9	2.9	28.6	25.7
	男性50歳代	51	△ 52.9	7.8	29.4	5.9	3.9	3.9	15.7	27.5
	男性60歳代	55	40.0	7.3	29.1	1.8	1.8	1.8	23.6	30.9
男性70歳代以上	120	31.7	2.5	15.8	5.8	1.7	0.8	17.5	47.5	

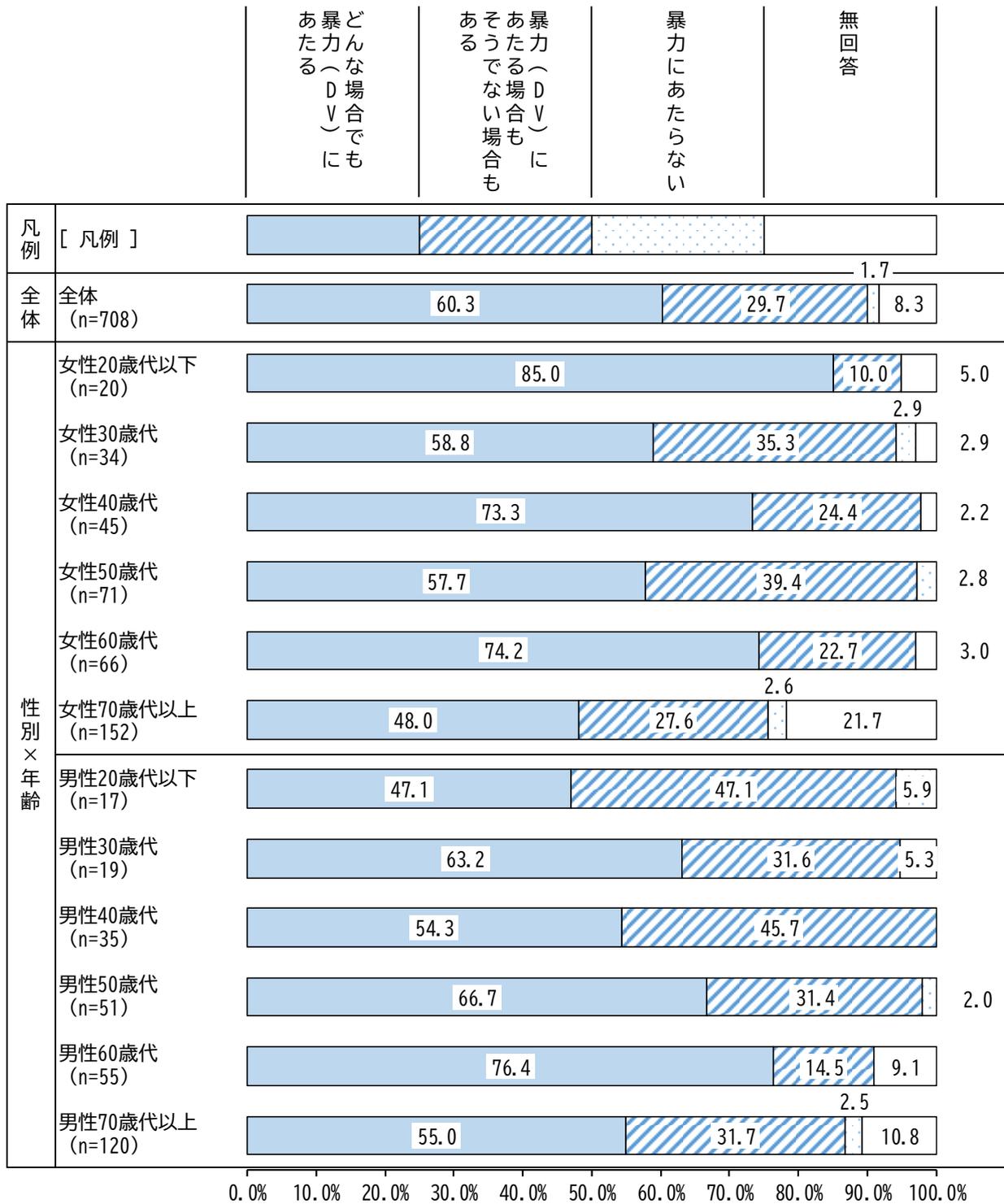
問14 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナー、恋人の間で行われて、された人が怖いと感じた場合、それを暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）だと思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。（各項目でそれぞれ○は1つ）

①物を投げる・壊す

【全体】
 ○ 「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が60.3%で最も多く、次いで「暴力（DV）にあたる場合もそうでない場合もある」が29.7%、「暴力にあたらない」が1.7%となっています。
 【性別】
 ○ 男女とも、「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が約60%となっています。

【①物を投げる・壊す】

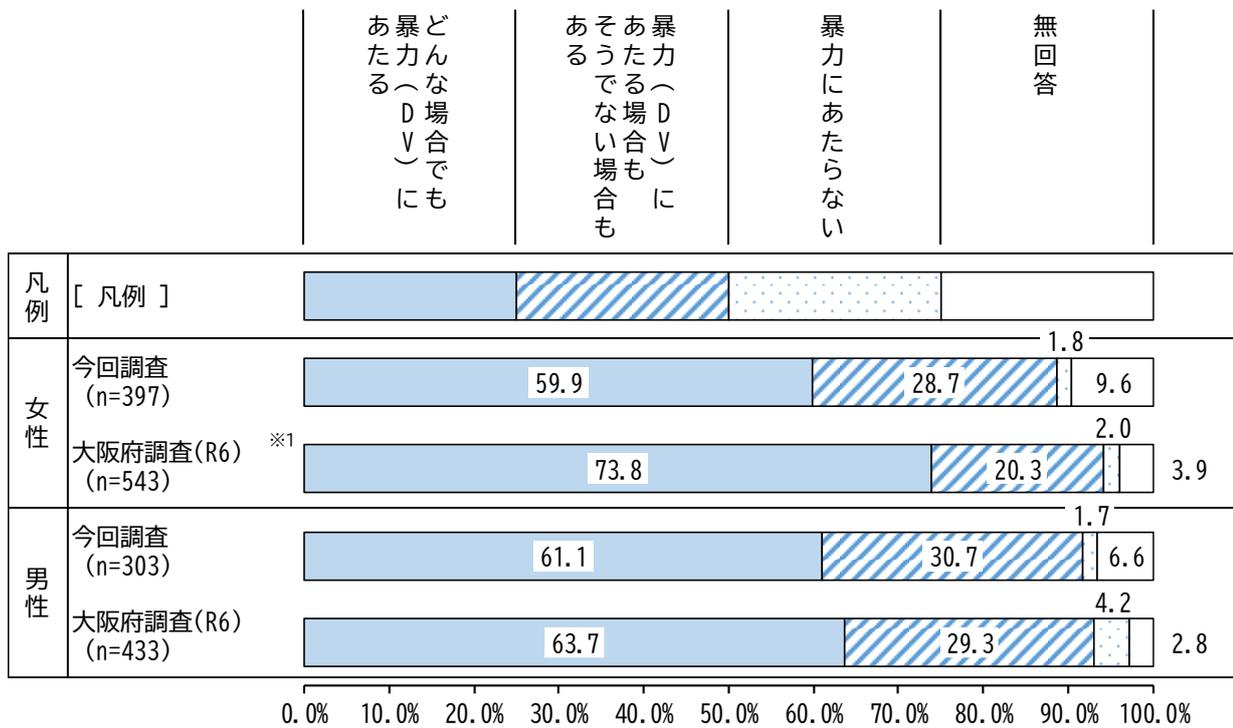




■大阪府調査との比較

【大阪府調査】

○ 大阪府調査（家具などの物にあたる、壊す）と比較すると、今回調査の女性は大阪府調査より「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なくなっています。

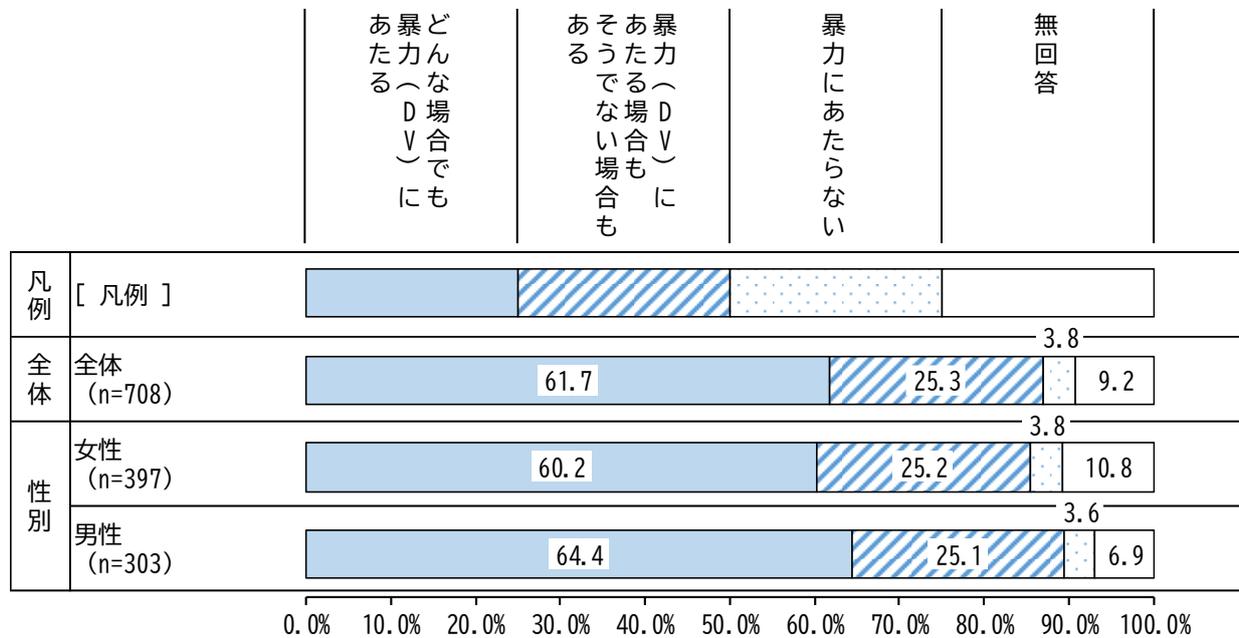


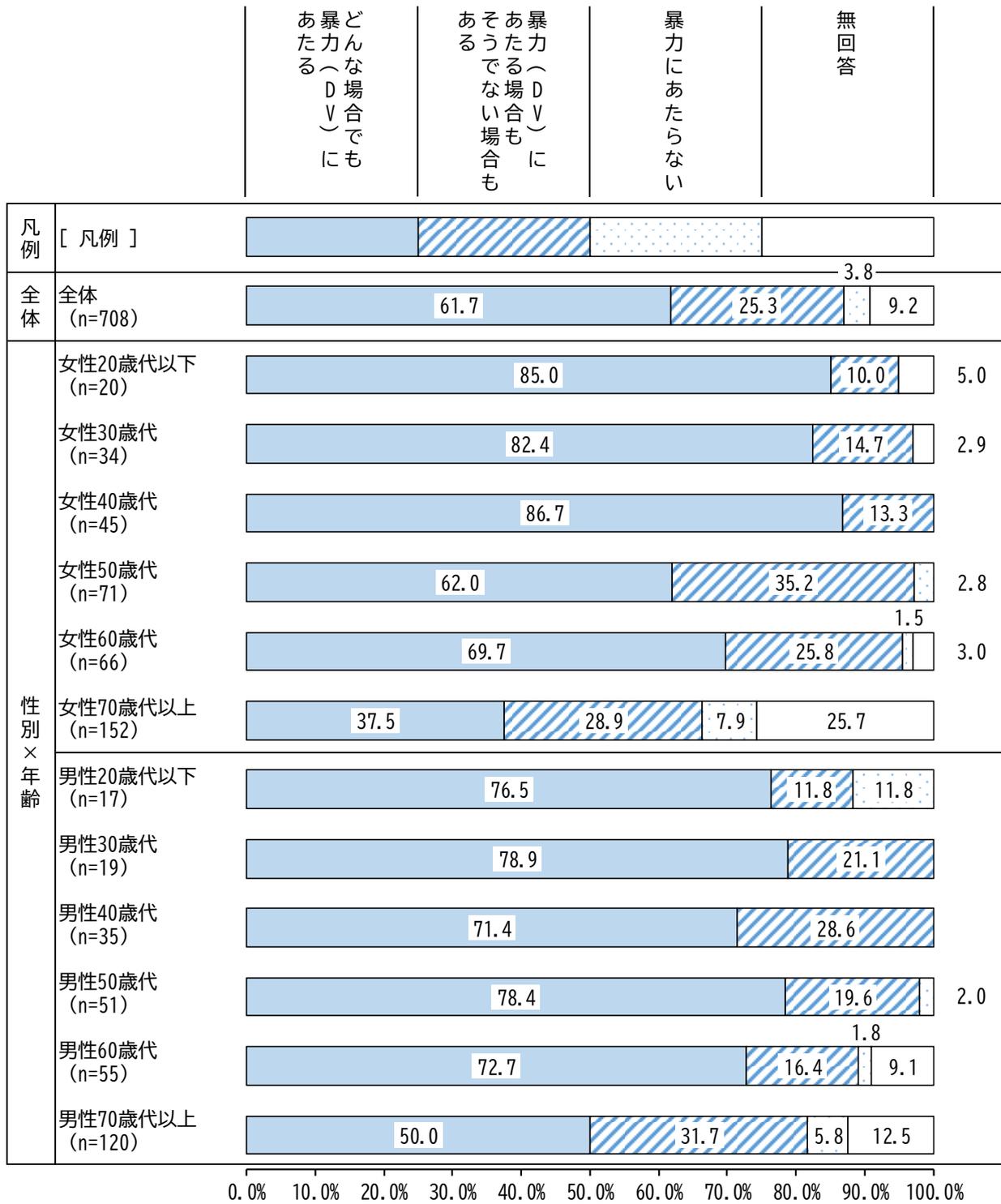
※1 大阪府調査の項目は「家具などの物にあたる、壊す」

②殴るふりをして、おどす

- 【全体】
 ○ 「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が61.7%で最も多く、次いで「暴力（DV）にあたる場合もそうでない場合もある」が25.3%、「暴力にあたらない」が3.8%となっています。
- 【性別】
 ○ 男女とも、「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が60%台となっています。

【②殴るふりをして、おどす】





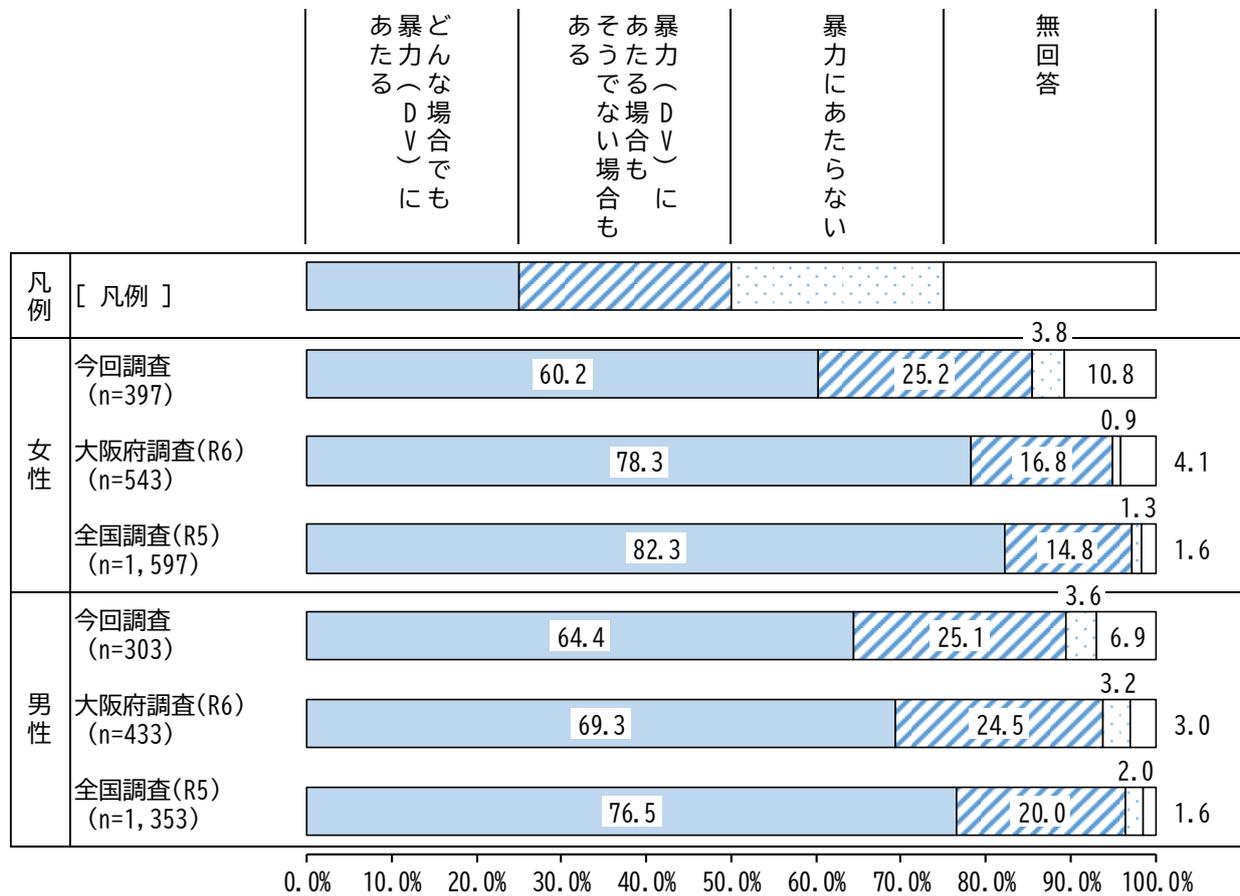
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、今回調査は男女とも「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なく、男性より女性でその違いが大きくなっています。

【全国調査】

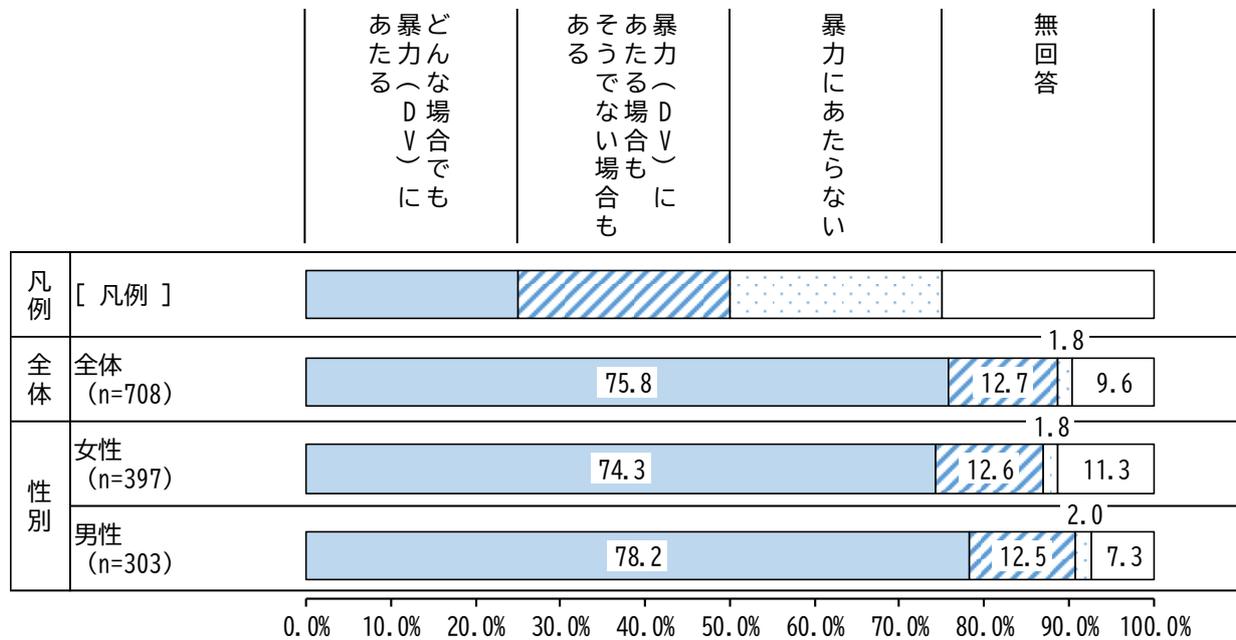
- 全国調査と比較すると、今回調査は男女とも「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なくなっています。

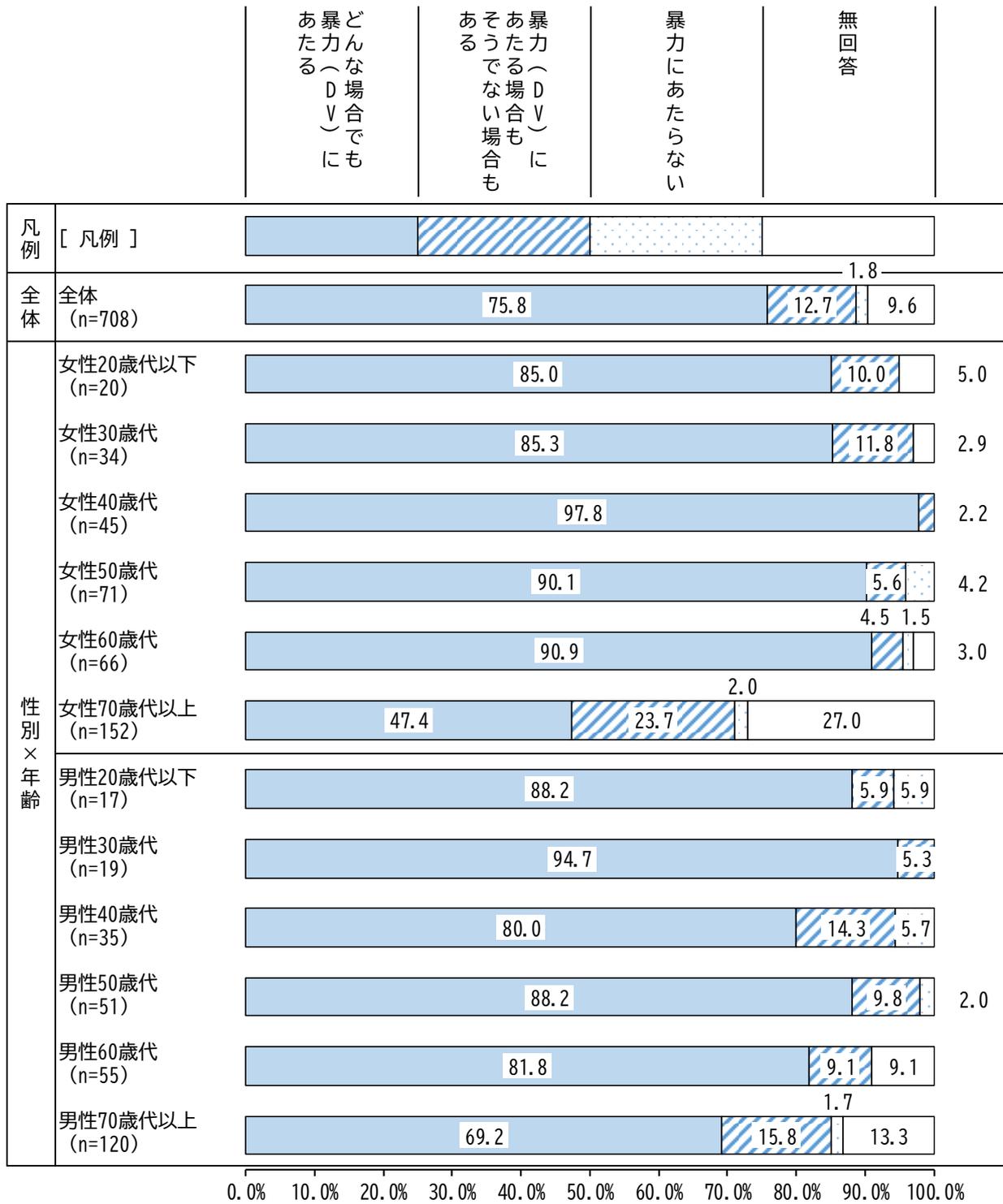


③望まないのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない

<p>【全体】</p> <p>○ 「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が75.8%で最も多く、次いで「暴力（DV）にあたる場合もそうでない場合もある」が12.7%、「暴力にあたらぬ」が1.8%となっています。</p> <p>【性別】</p> <p>○ 男女とも「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が70%台となっています。</p>

【③望まないのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない】





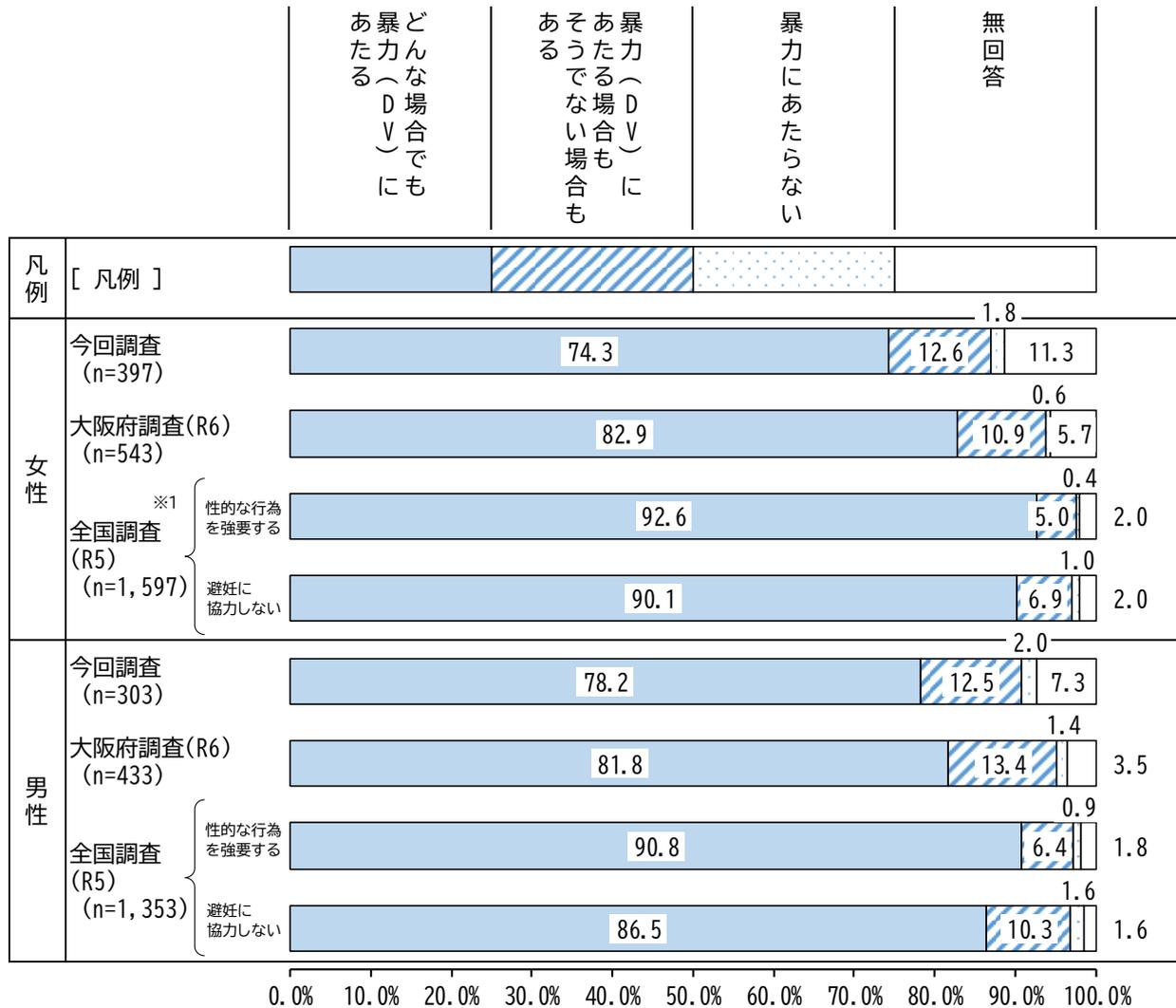
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、今回調査の女性は大阪府調査より「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なくなっています。

【全国調査】

- 全国調査（「嫌がっているのに性的な行為を強要する」「避妊に協力しない」）と比較すると、どちらの項目と比較しても、今回調査は「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なくなっています。



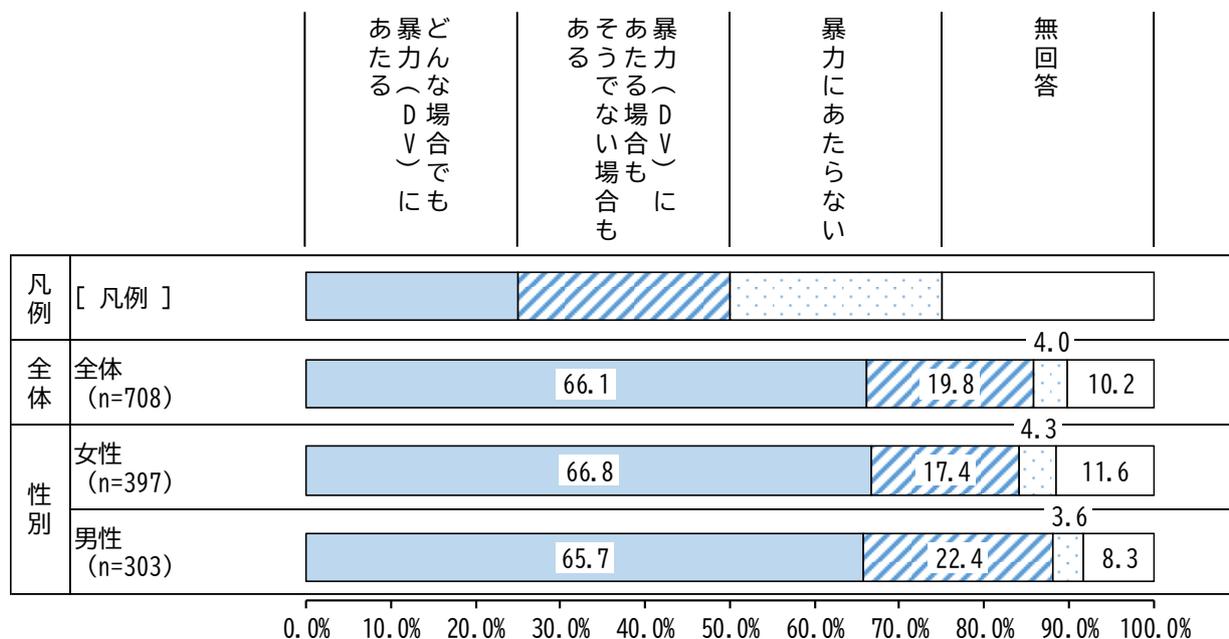
※1 全国調査の項目は「嫌がっているのに性的な行為を強要する」「避妊に協力しない」

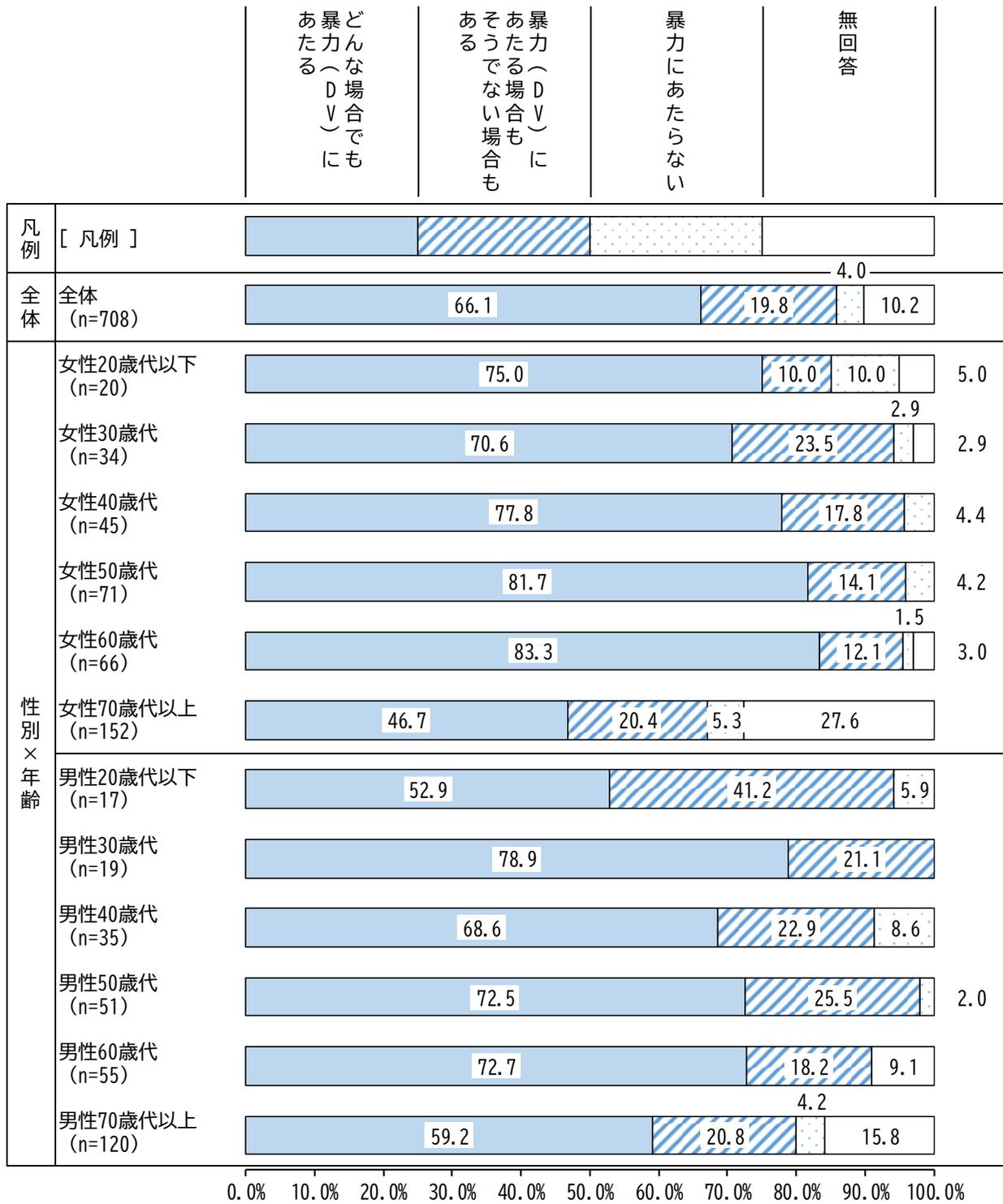
④無理やりポルノ画像などを見せる

【全体】
 ○ 「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が66.1%で最も多く、次いで「暴力（DV）にあたる場合もそうでない場合もある」が19.8%、「暴力にあたらない」が4.0%となっています。

【性別】
 ○ 男性では、「暴力（DV）にあたる場合もそうでない場合もある」が22.4%で、女性の17.4%より5.0ポイント多くなっています。

【④無理やりポルノ画像などを見せる】

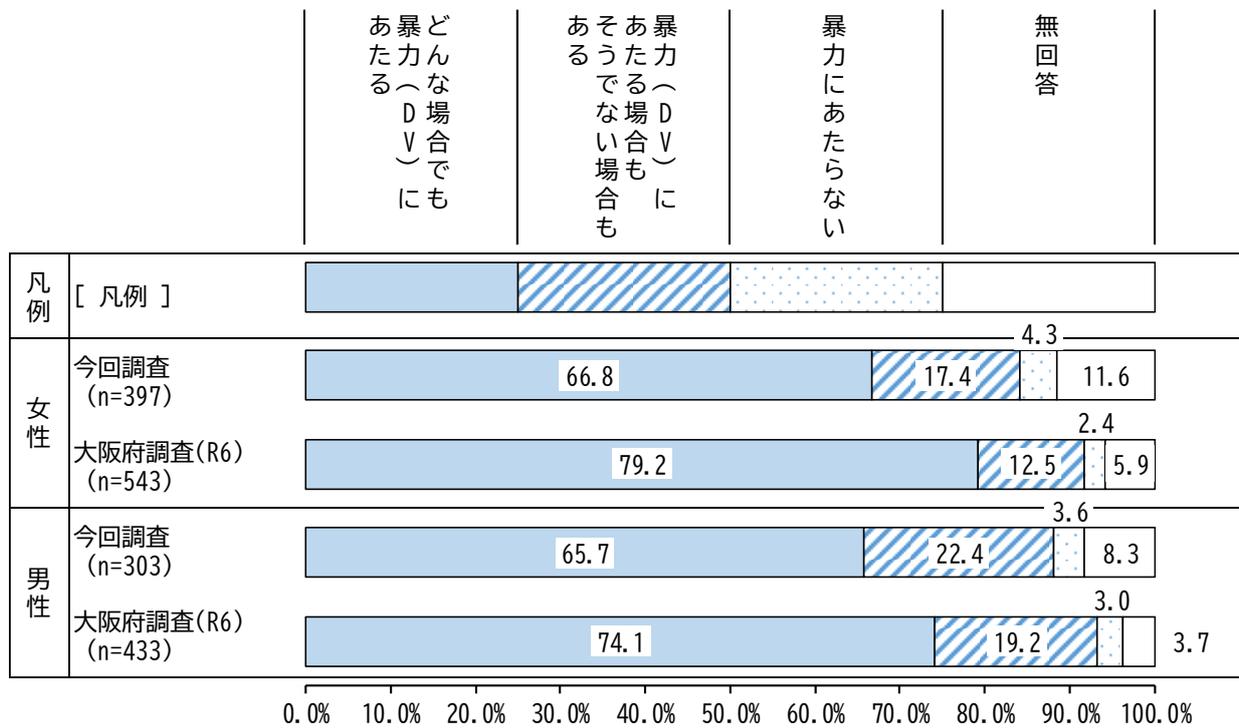




■大阪府調査との比較

【大阪府調査】

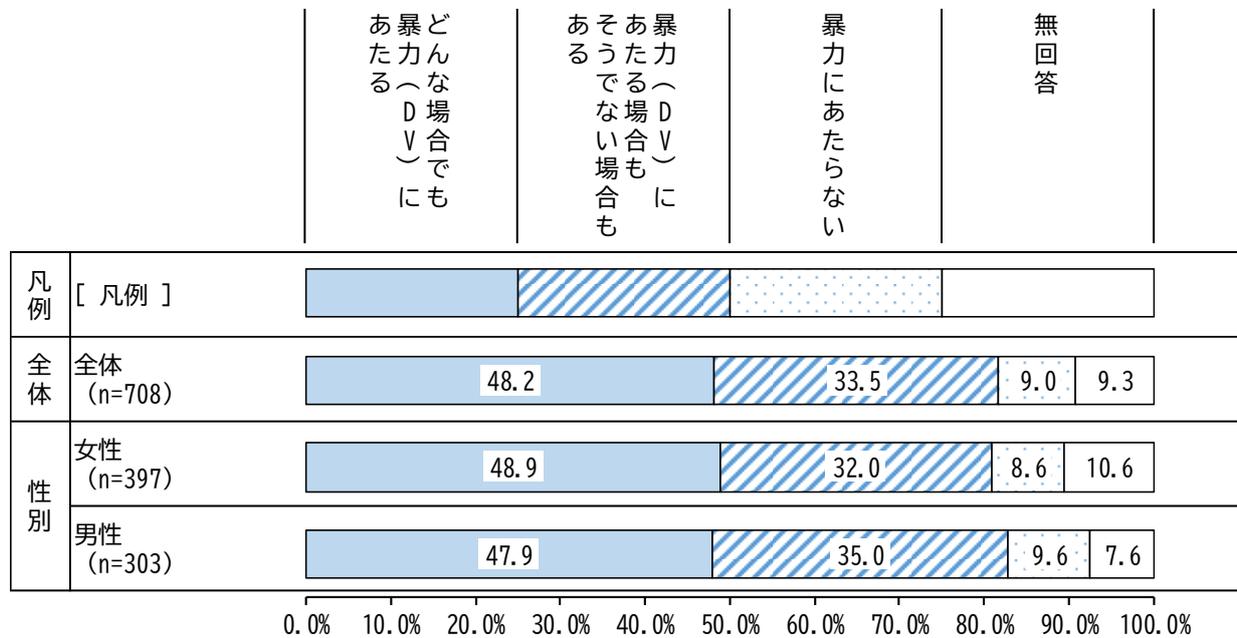
- 大阪府調査と比較すると、今回調査は男女とも「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なく、男性より女性でその違いが大きくなっています。

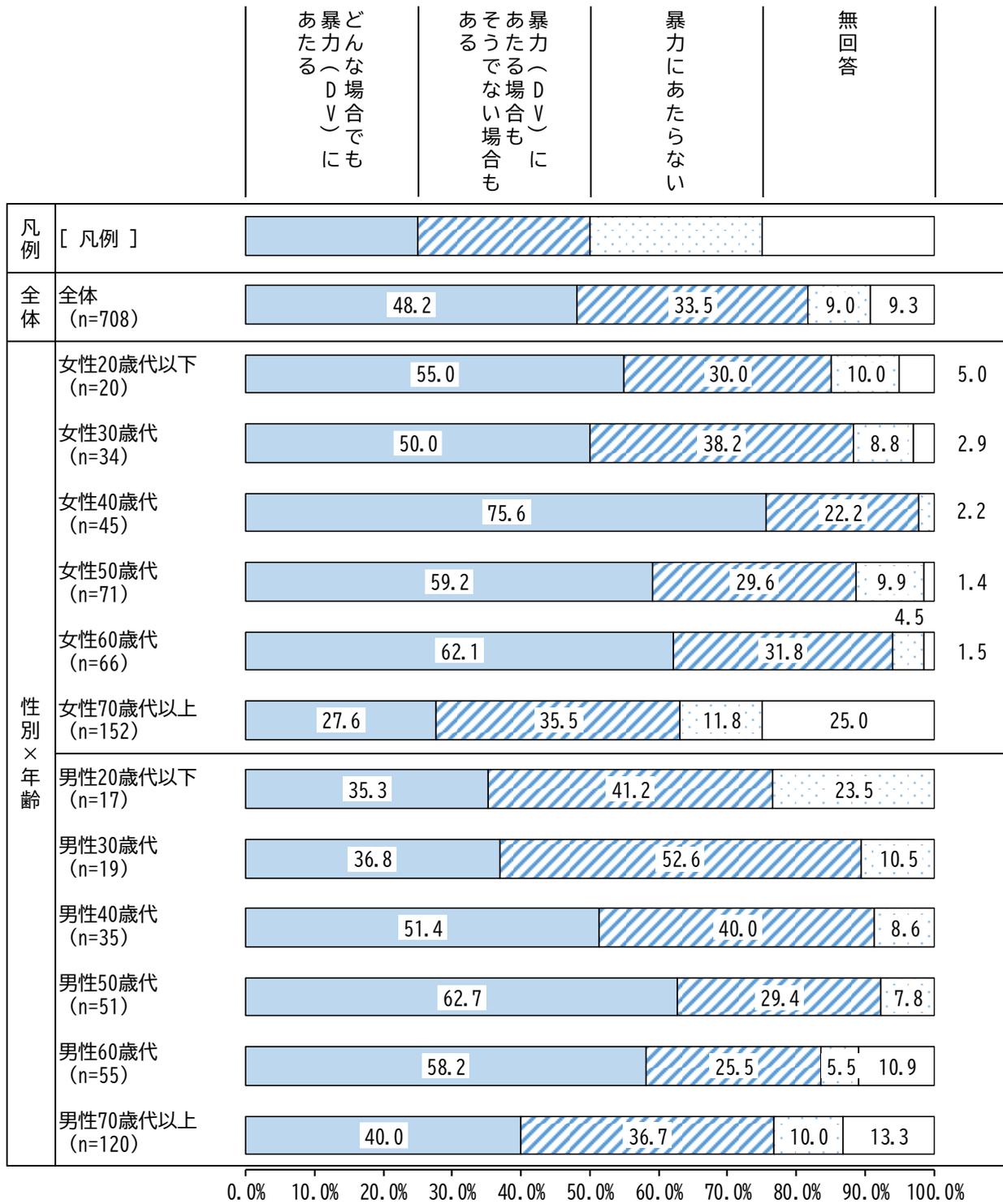


⑤なにを言っても無視し続ける

- 【全体】
- 「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が48.2%で最も多く、次いで「暴力（DV）にあたる場合もそうでない場合もある」が33.5%、「暴力にあたらない」が9.0%となっています。
- 【性別】
- 男女とも、「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が約50%となっています。

【⑤なにを言っても無視し続ける】





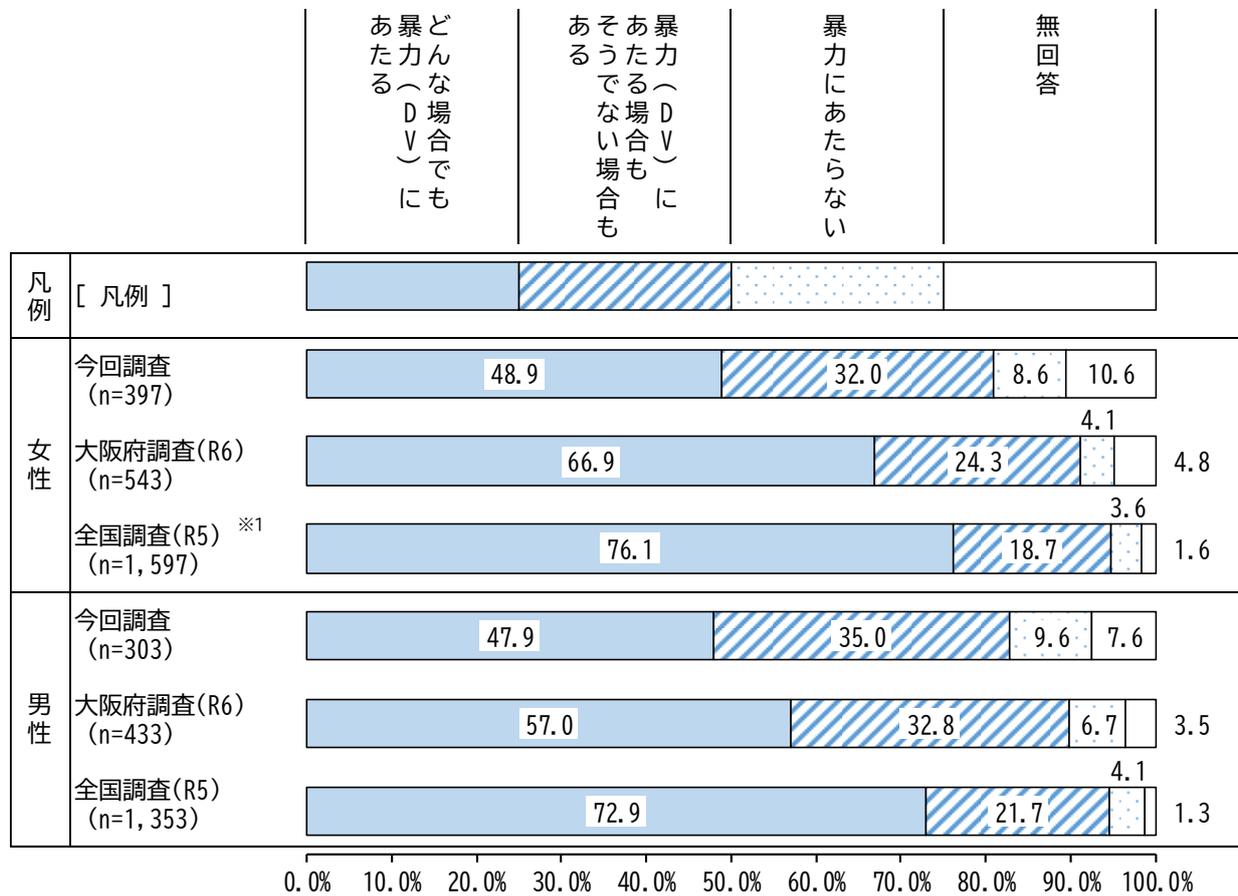
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、今回調査は男女とも「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なく、男性より女性でその違いが大きくなっています。

【全国調査】

- 全国調査（何を言っても長期間無視し続ける）と比較すると、今回調査は男女とも「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なくなっています。

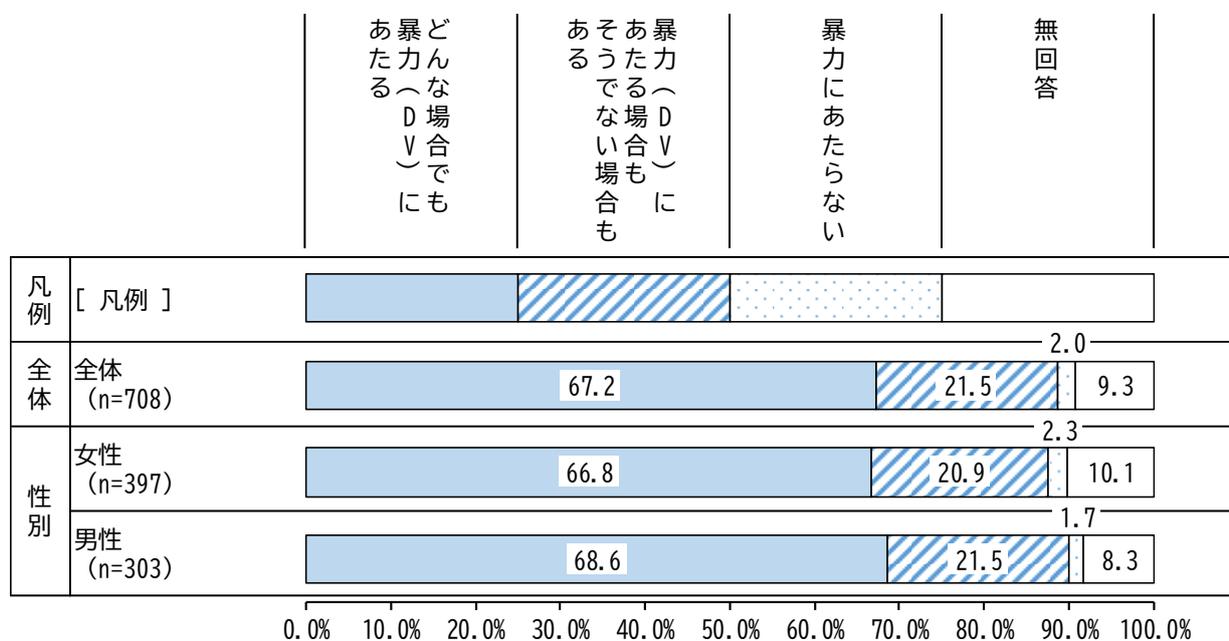


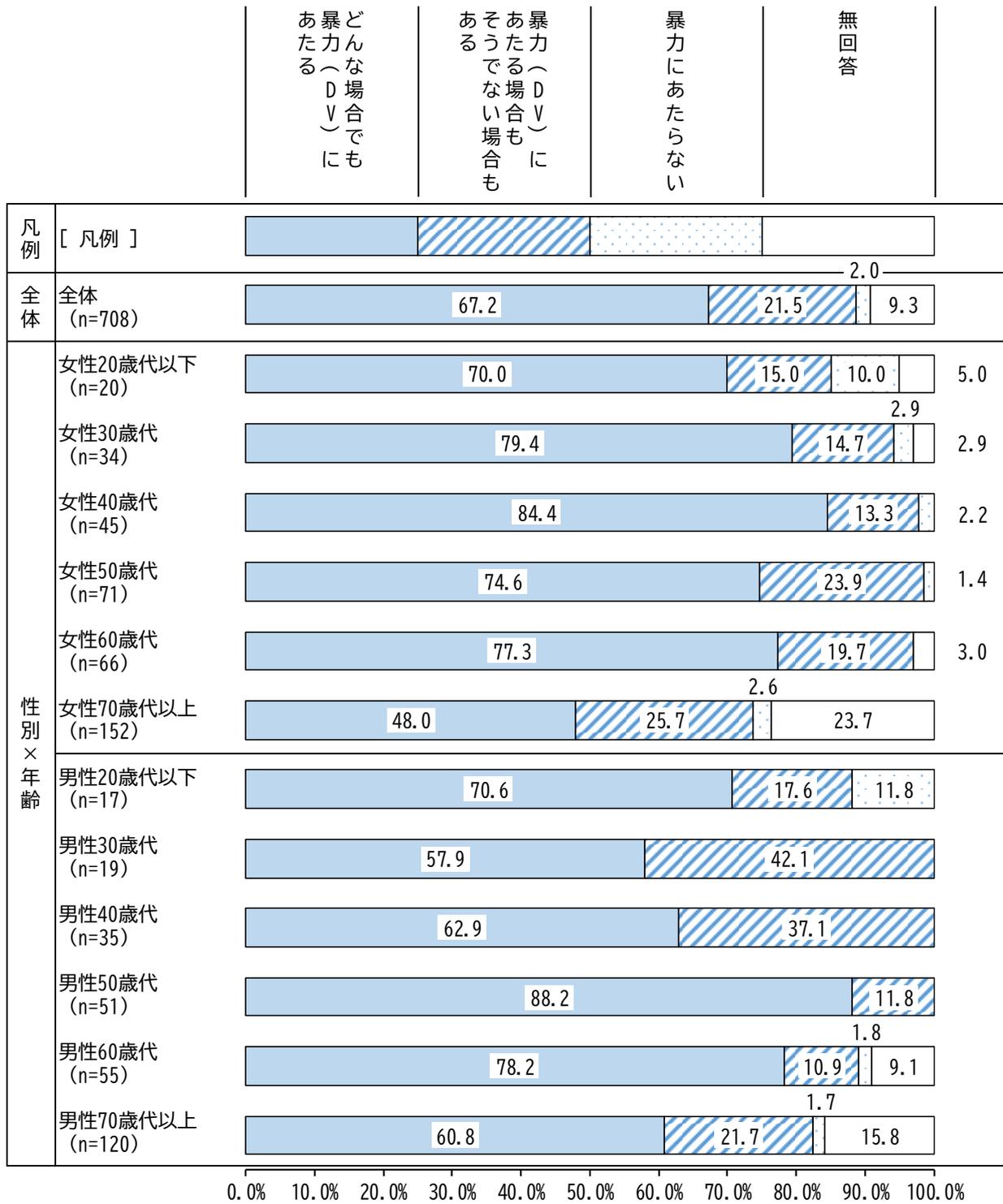
※1 全国調査の項目は「何を言っても長期間無視し続ける」

⑥暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする

- 【全体】
 ○ 「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が67.2%で最も多く、次いで「暴力（DV）にあたる場合もそうでない場合もある」が21.5%、「暴力にあたらない」が2.0%となっています。
- 【性別】
 ○ 男女とも、「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が60%台となっています。

【⑥暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする】





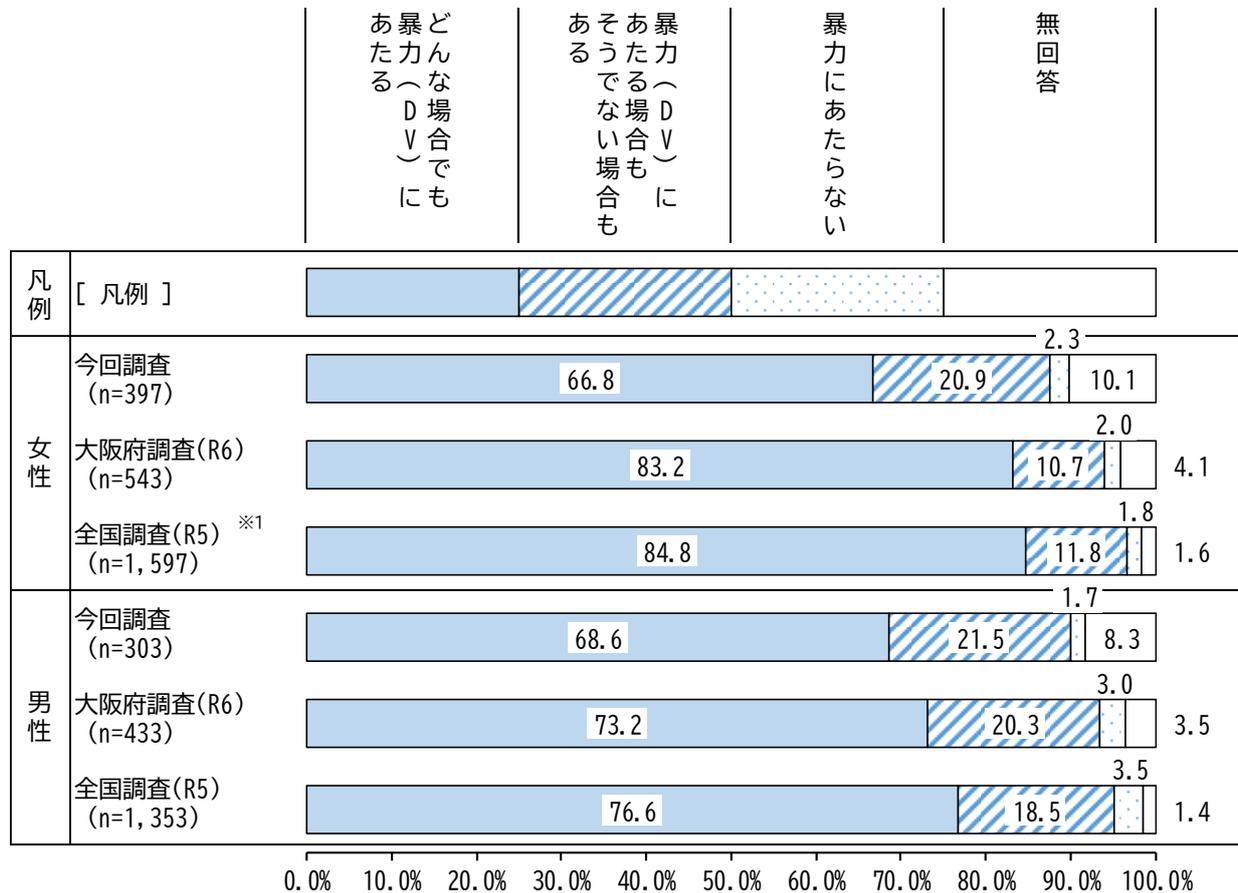
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、今回調査の女性は大阪府調査より「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なくなっています。

【全国調査】

- 全国調査（「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性なし」と言う）と比較すると、今回調査は男女とも「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なく、男性より女性でその違いが大きくなっています。

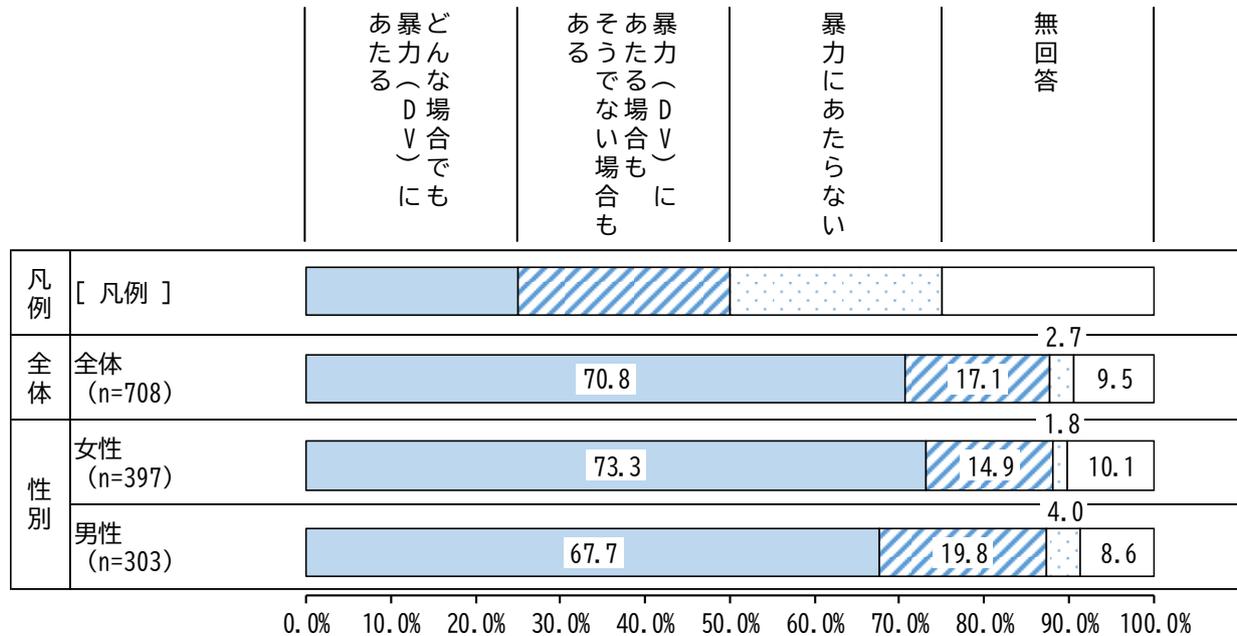


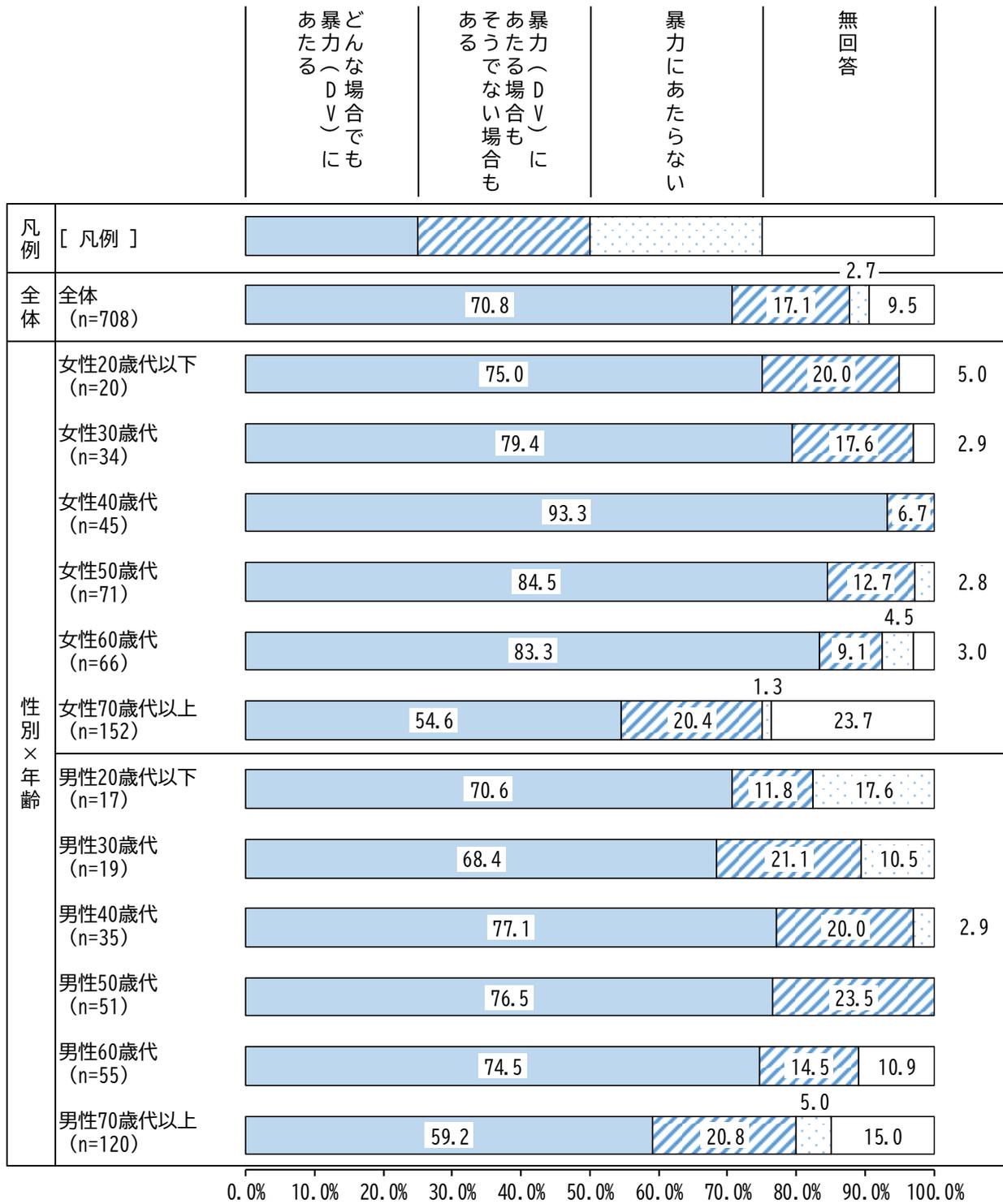
※1 全国調査の項目は「『誰のおかげで生活できるんだ』とか、『甲斐性なし』と言う」

⑦自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する

- 【全体】
- 「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が70.8%で最も多く、次いで「暴力（DV）にあたる場合もそうでない場合もある」が17.1%、「暴力にあたらぬ」が2.7%となっています。
- 【性別】
- 女性では、「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が73.3%で、男性の67.7%より5.6ポイント多くなっています。

【⑦自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する】





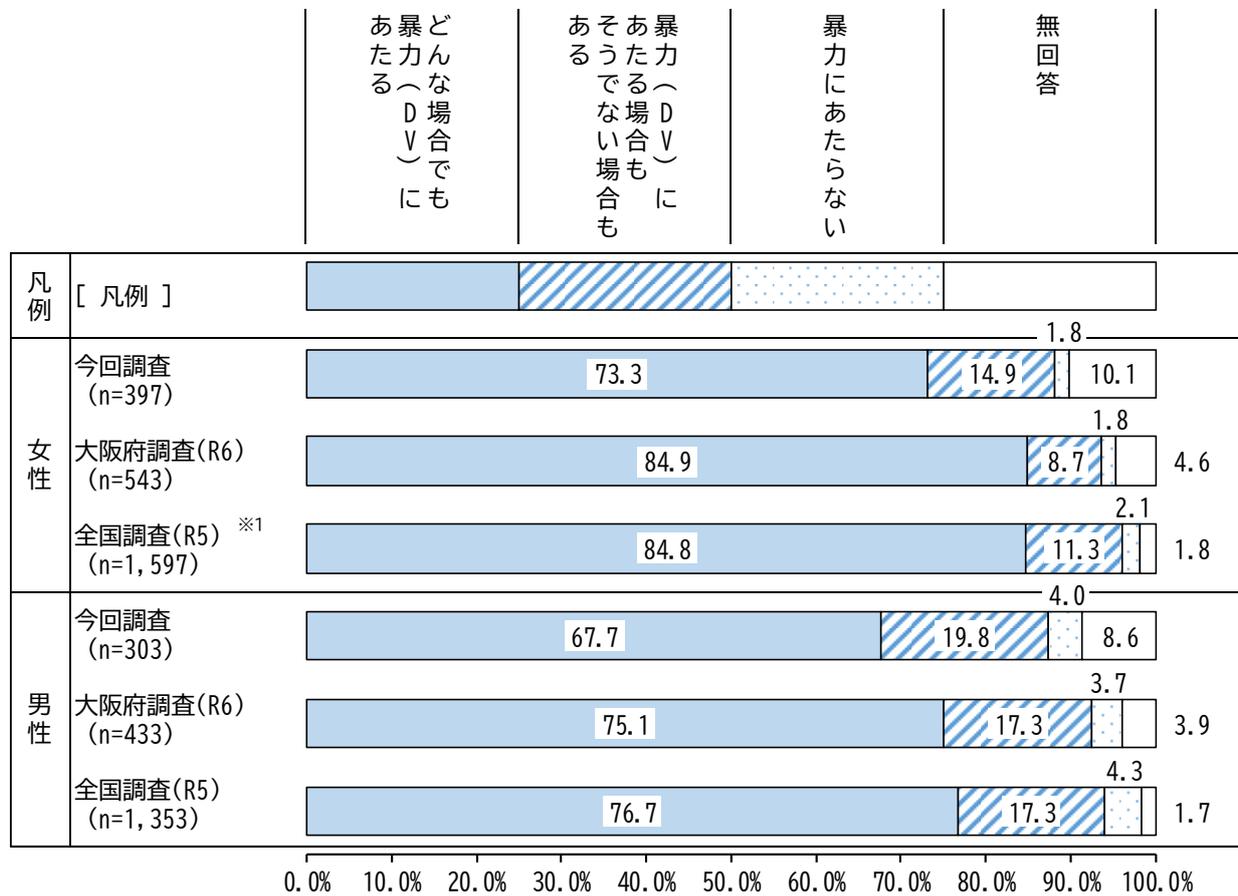
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、今回調査は男女とも「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なくなっています。

【全国調査】

- 全国調査（家計に必要な生活費を渡さない）と比較すると、今回調査は男女とも「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なくなっています。

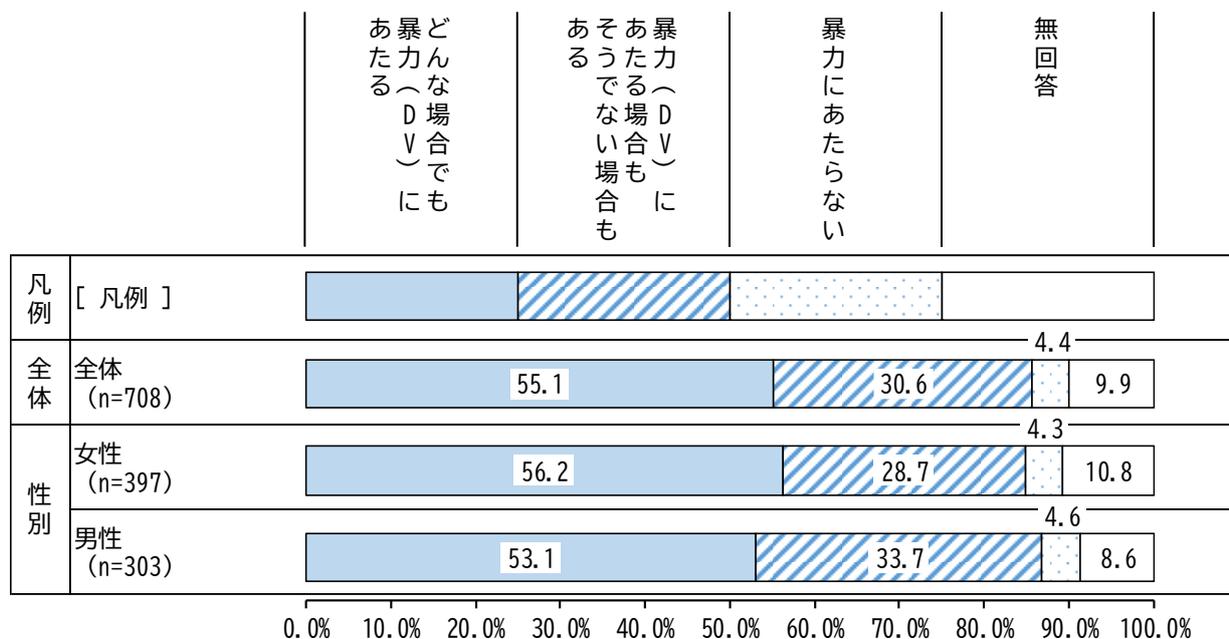


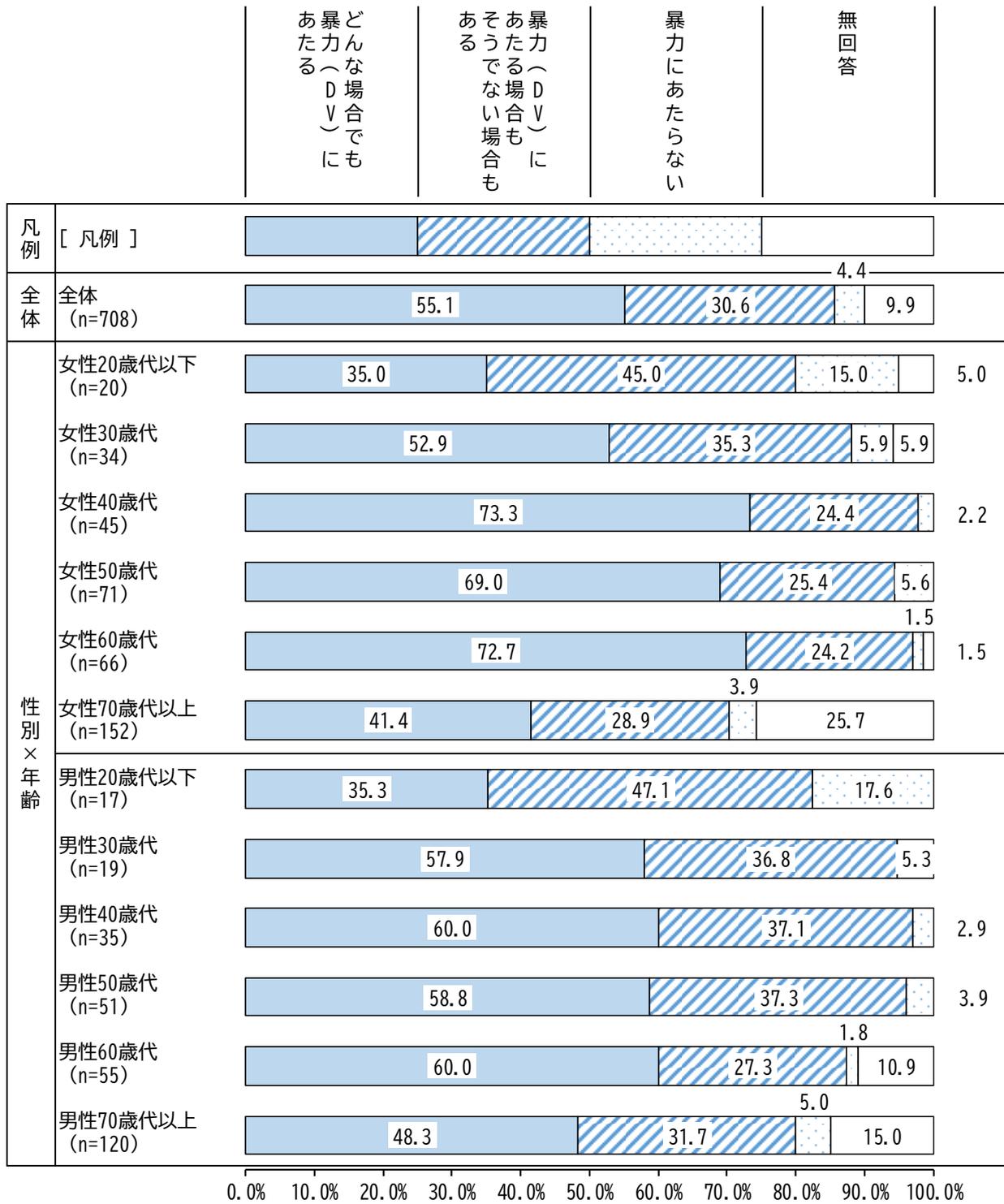
※1 全国調査の項目は「家計に必要な生活費を渡さない」

⑧友達や身内とのメールや電話のチェックや、つきあいを制限する

- 【全体】
- 「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が55.1%で最も多く、次いで「暴力（DV）にあたる場合もそうでない場合もある」が30.6%、「暴力にあたらない」が4.4%となっています。
- 【性別】
- 男性では、「暴力（DV）にあたる場合もそうでない場合もある」が33.7%で、女性の28.7%より5.0ポイント多くなっています。

【⑧友達や身内とのメールや電話のチェックや、つきあいを制限する】





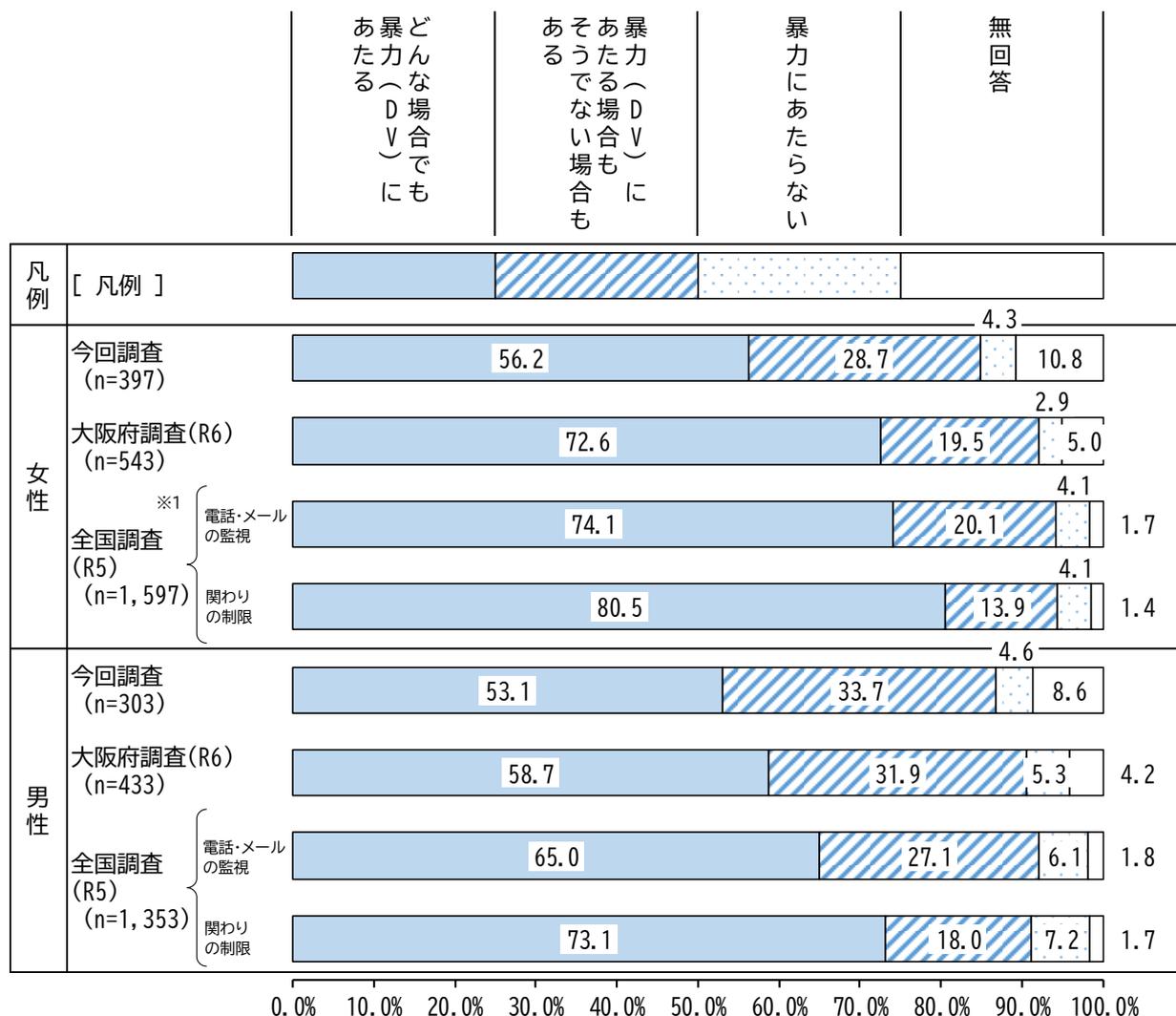
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、今回調査は男女とも「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なく、男性より女性でその違いが大きくなっています。

【全国調査】

- 全国調査（「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」「家族や友人との関わりを持たせない」）と比較すると、どちらの項目と比較しても、今回調査は「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が少なくなっています。

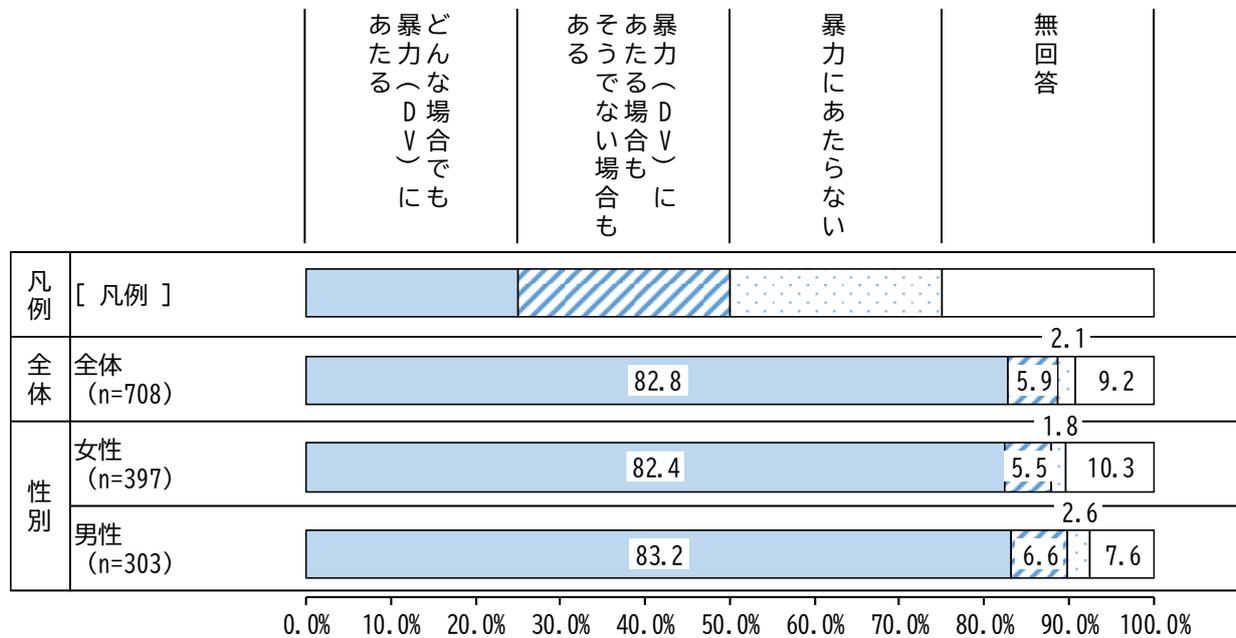


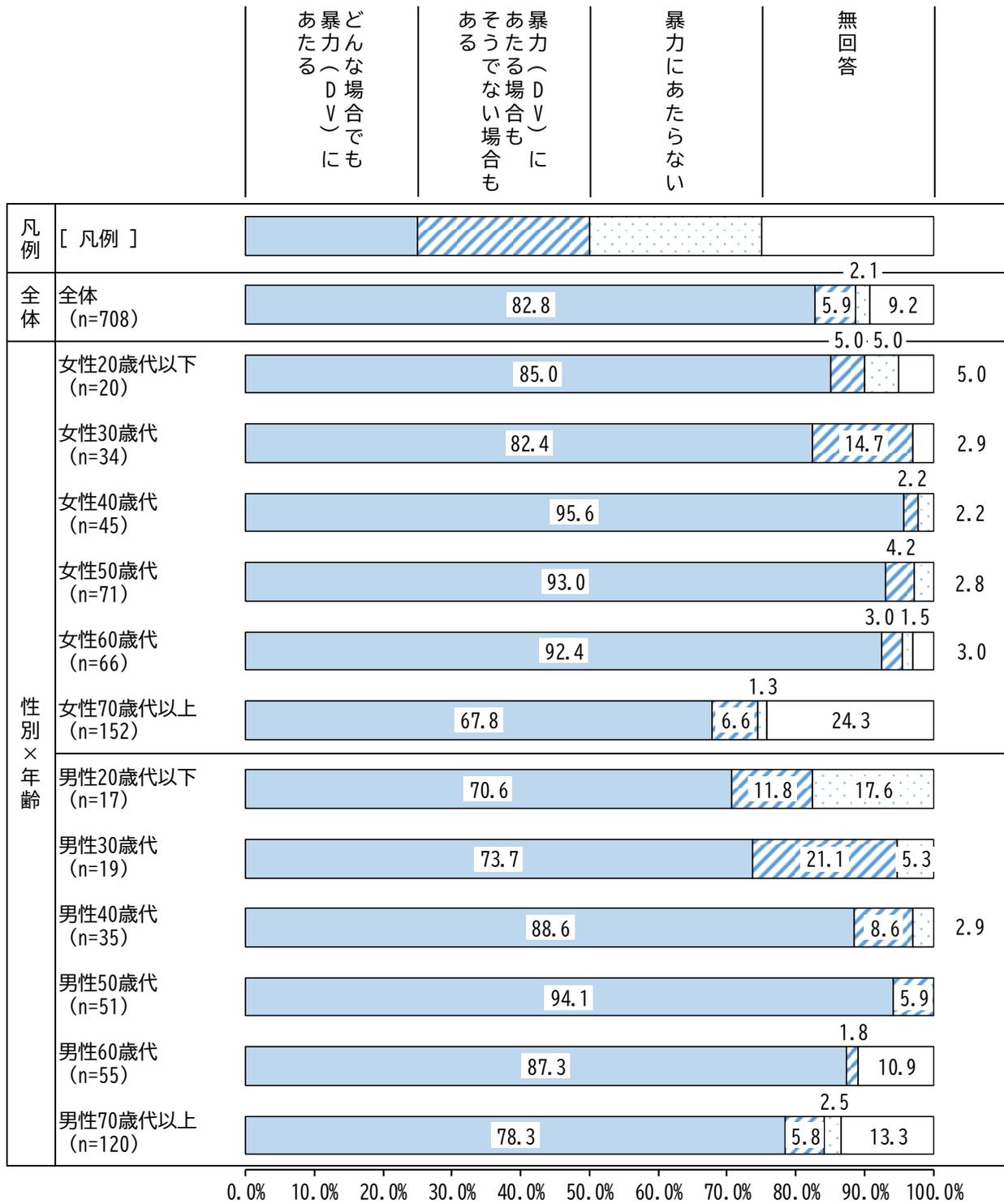
※1 全国調査の項目は「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」「家族や友人との関わりを持たせない」

⑨本人の許可なく性的な写真や動画をSNSなどに投稿する

- 【全体】
 ○ 「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が82.8%で最も多く、次いで「暴力（DV）にあたる場合もそうでない場合もある」が5.9%、「暴力にあたらぬ」が2.1%となっています。
- 【性別】
 ○ 男女とも、「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が約80%となっています。

【⑨本人の許可なく性的な写真や動画を SNS などに投稿する】

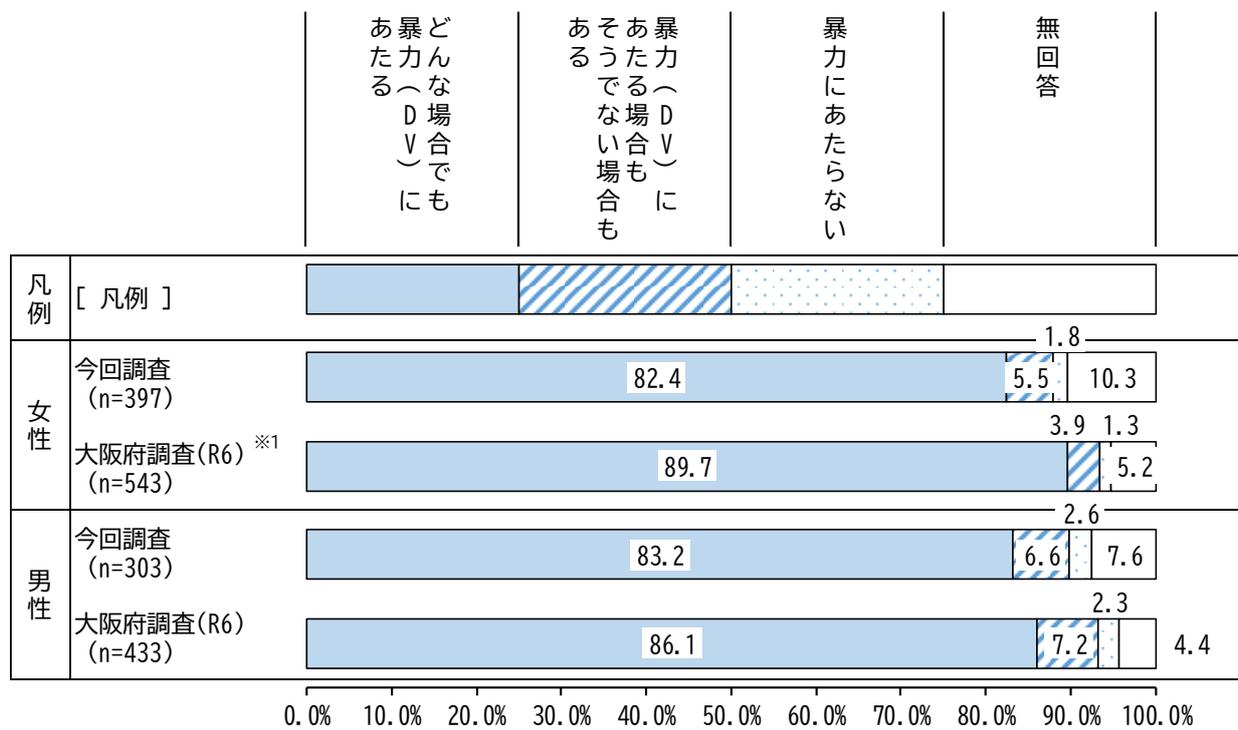




■大阪府調査との比較

【大阪府調査】

○ 大阪府調査（本人の許可なく性的な写真や動画などを一般に公開する）と比較すると、今回調査、大阪府調査ともに「どんな場合でも暴力（DV）にあたる」が80%以上を占めています。

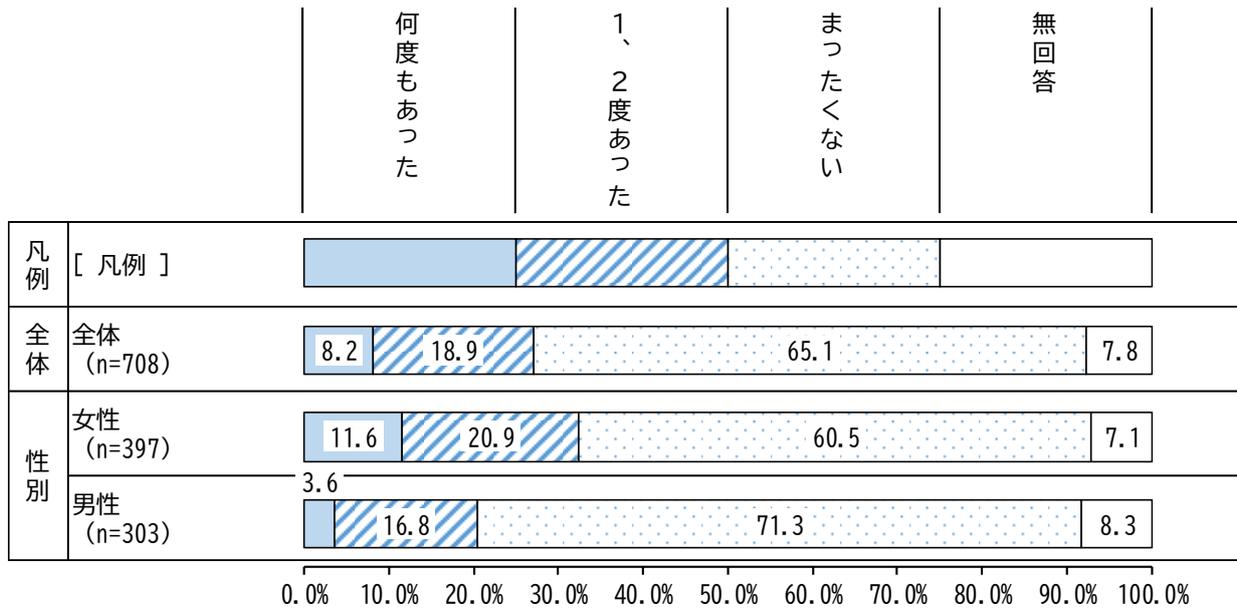


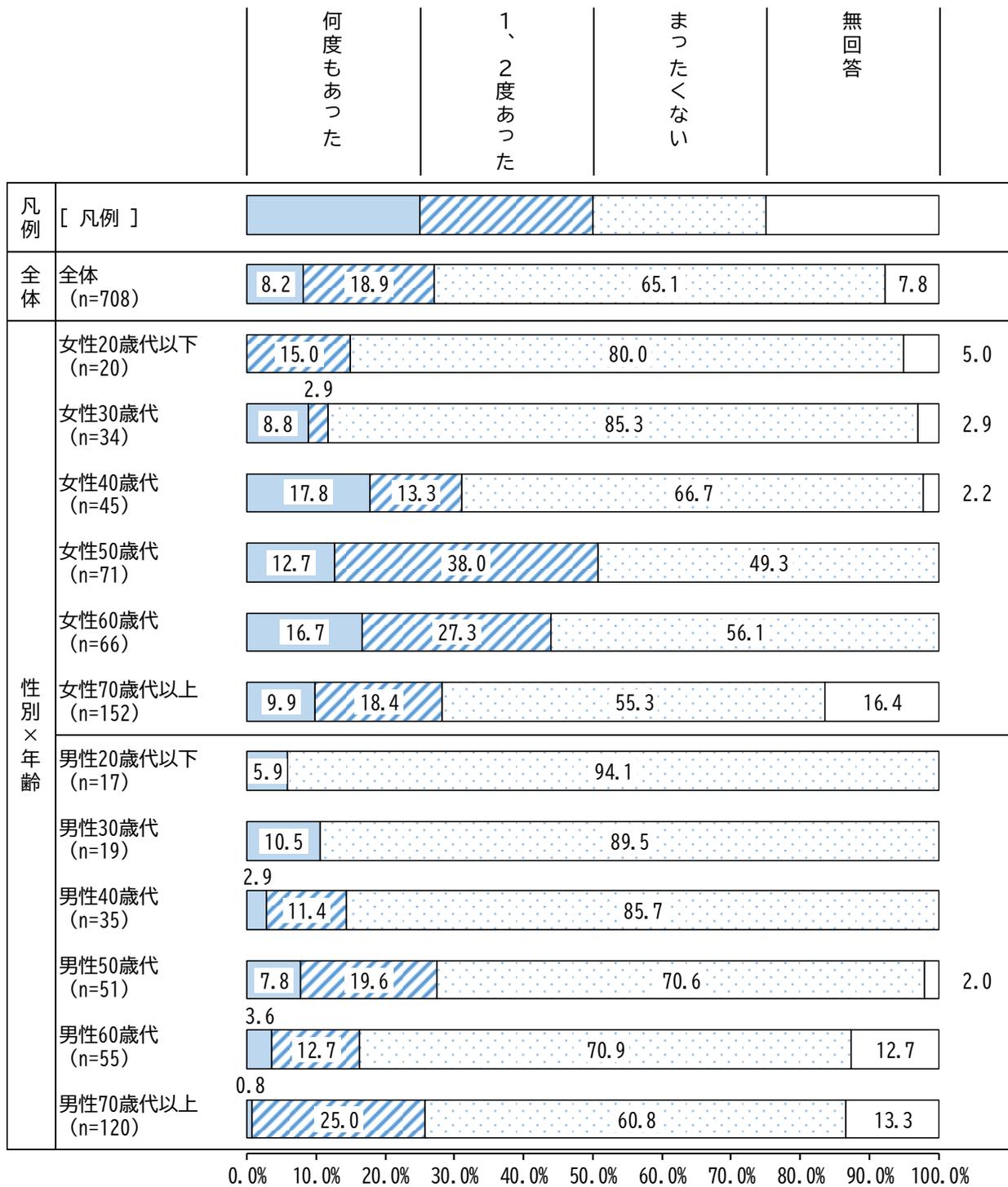
※1 大阪府調査の項目は「本人の許可なく性的な写真や動画などを一般に公開する」

問15 あなたは、配偶者・パートナー、恋人から、問14のようなことをされたことがありますか。(○は1つ)

- 【全体】**
 配偶者・パートナー、恋人から暴力（DV）を受けたことがあるかについて、「まったくない」が65.1%で最も多く、次いで「1、2度あった」が18.9%、「防止法」が8.2%となっています。
 「何度もあった」「1、2度あった」を合わせた“あった”は27.1%となっています。
- 【性別】**
 女性では、“あった”が32.5%で、男性の20.4%より12.1ポイント多くなっています。

【配偶者・パートナー、恋人から暴力（DV）を受けたことがあるか】





問15-1 問15で「何度もあった」「1、2度あった」と回答した人にお聞きします。

あなたは、そのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つ)

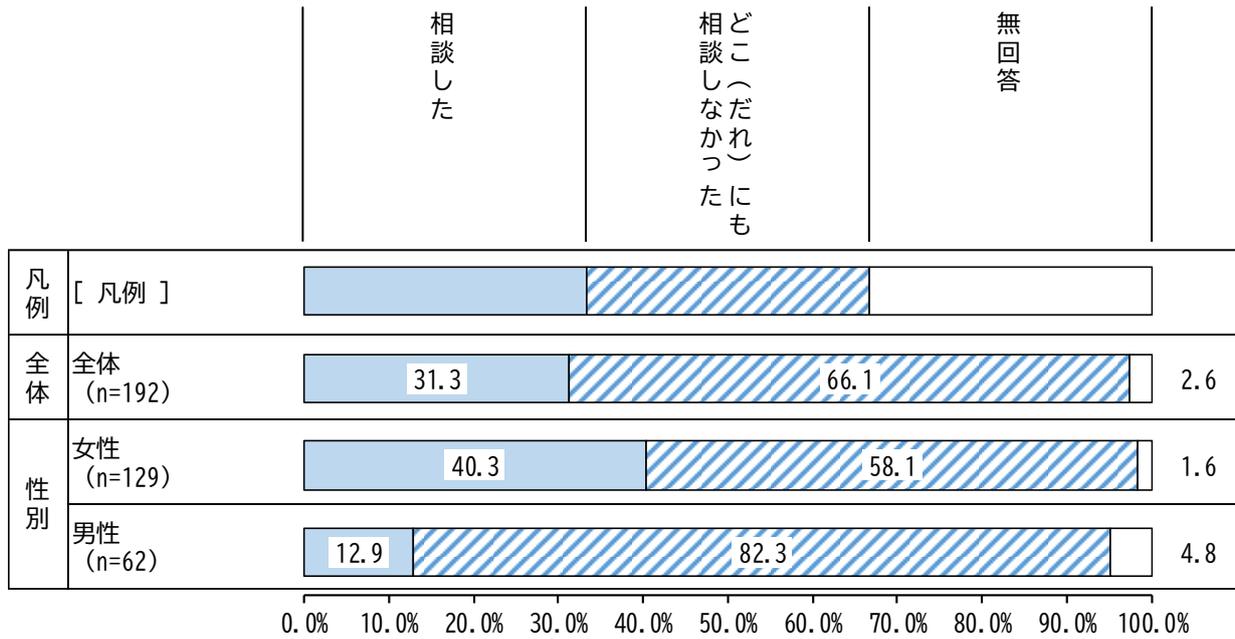
【全体】

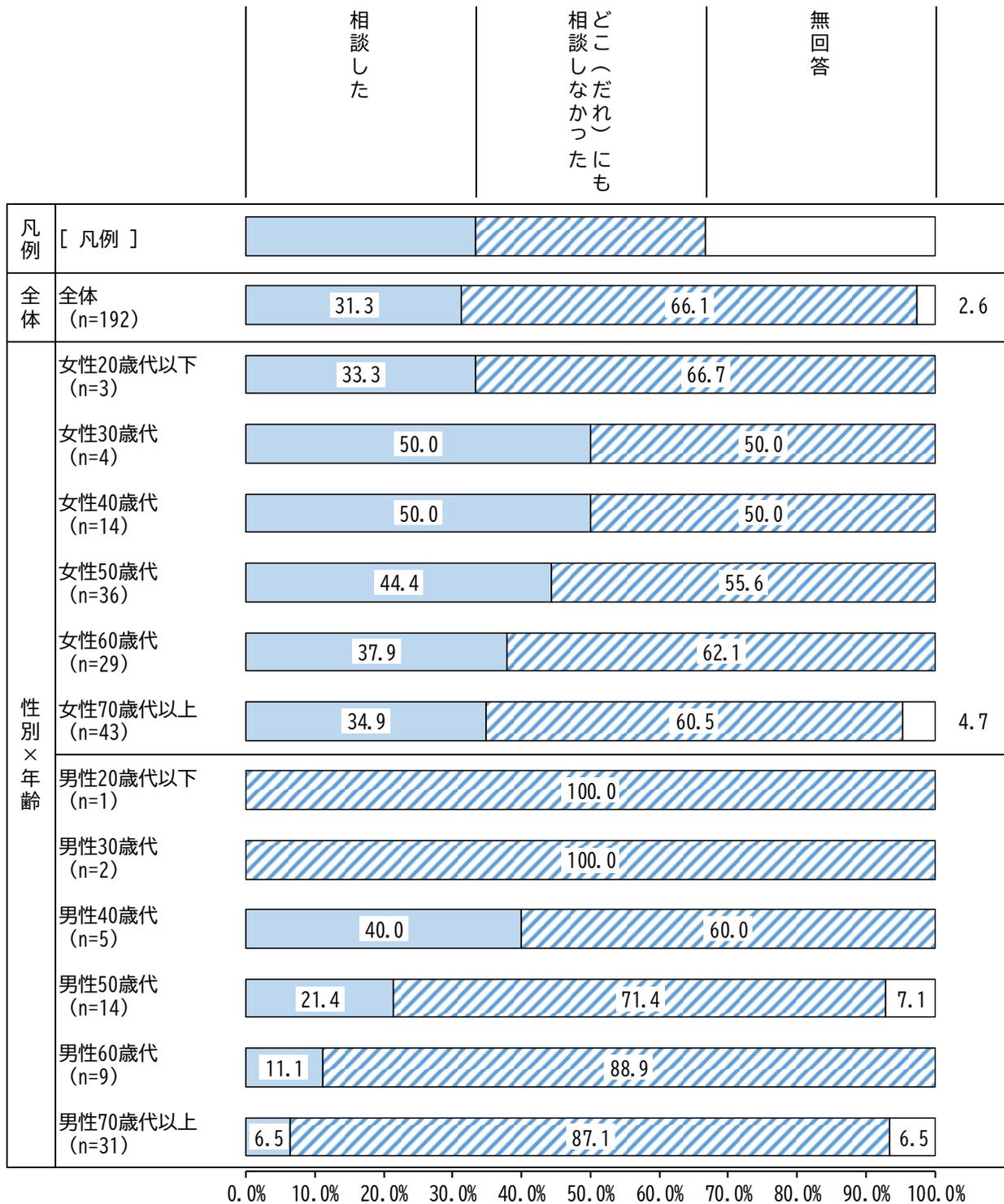
- だれかに打ち明けたり、相談したかについて、「相談した」が31.3%、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が66.1%となっています。

【性別】

- 男性では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が82.3%で、女性の58.1%より24.2ポイント多くなっています。

【だれかに打ち明けたり、相談したか】

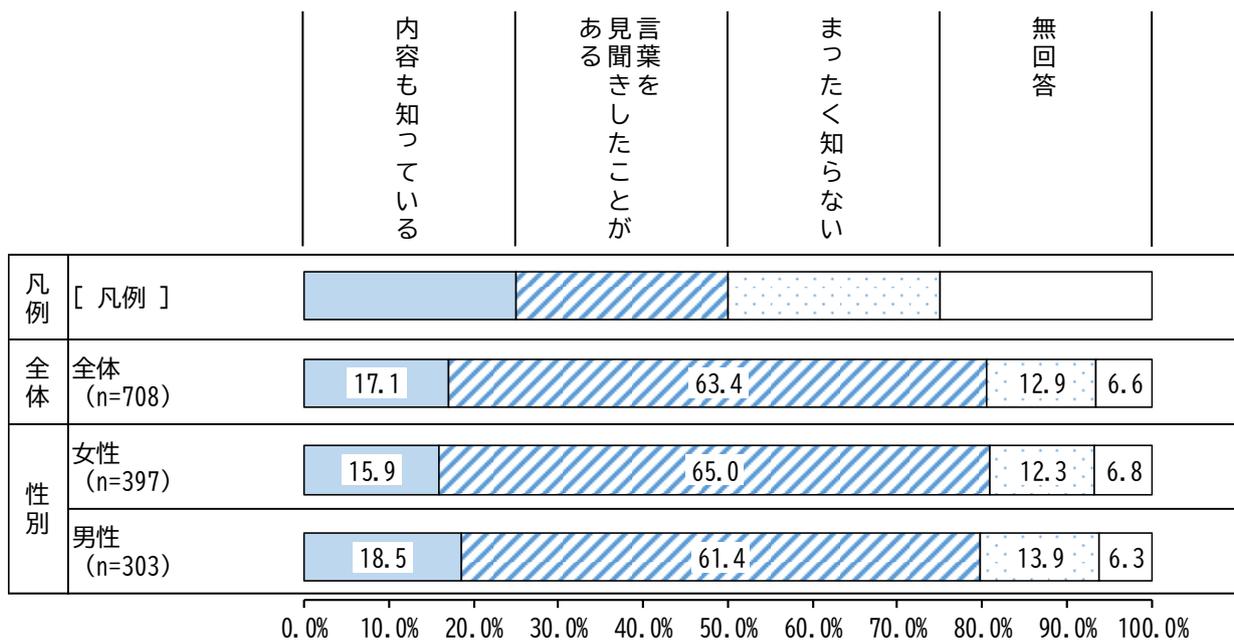


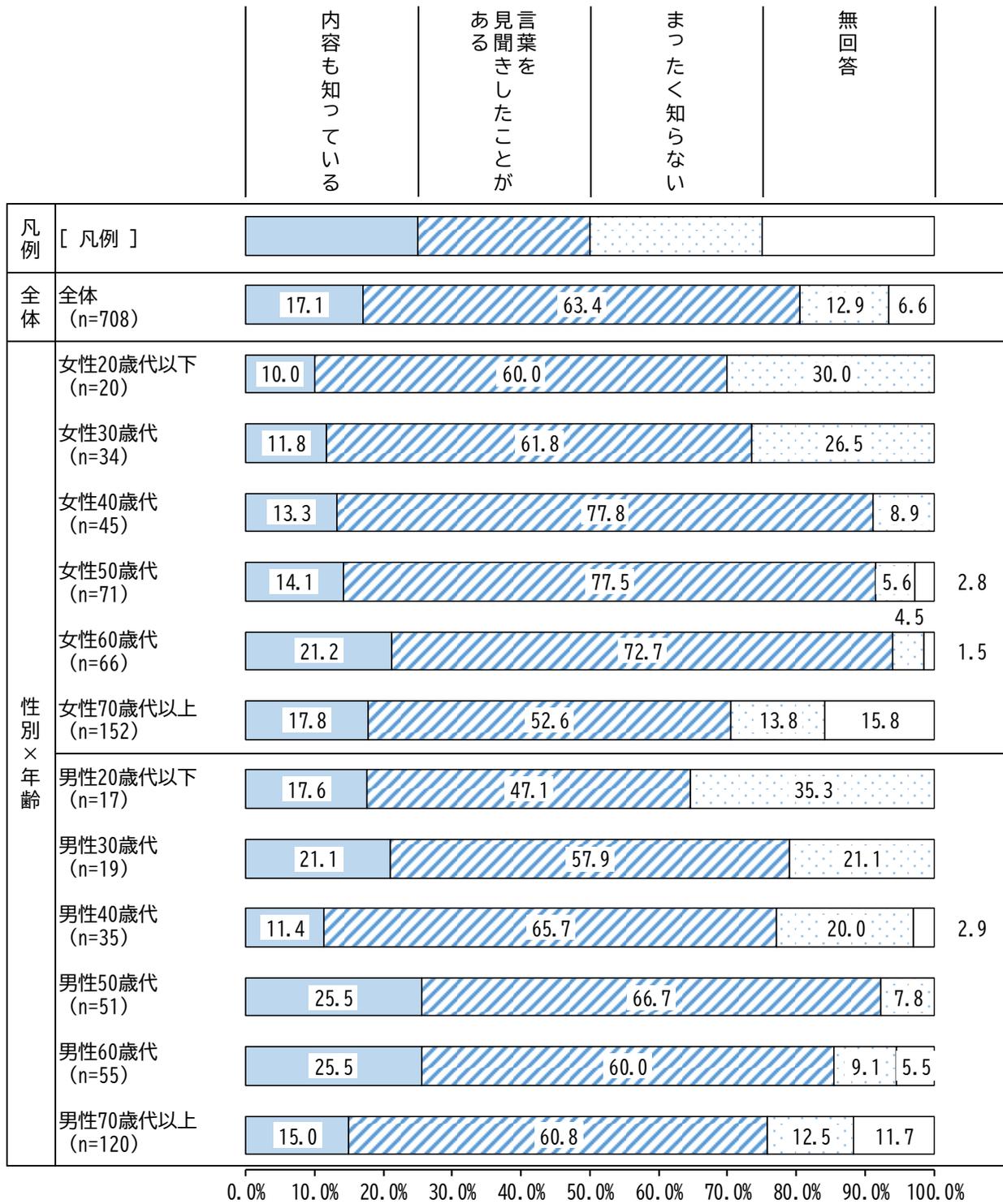


問16 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）防止法についてどの程度知っていますか。（○は1つ）

- 【全体】
- ドメスティック・バイオレンス（DV）防止法について、「言葉を見聞きしたことがある」が63.4%で最も多く、次いで「内容も知っている」が17.1%、「まったく知らない」が12.9%となっています。
 - 「内容も知っている」「言葉を見聞きしたことがある」を合わせた“認知度”は80.5%となっています。
- 【性別】
- 男女とも、“認知度”は約80%となっています。

【ドメスティック・バイオレンス（DV）防止法の認知度】





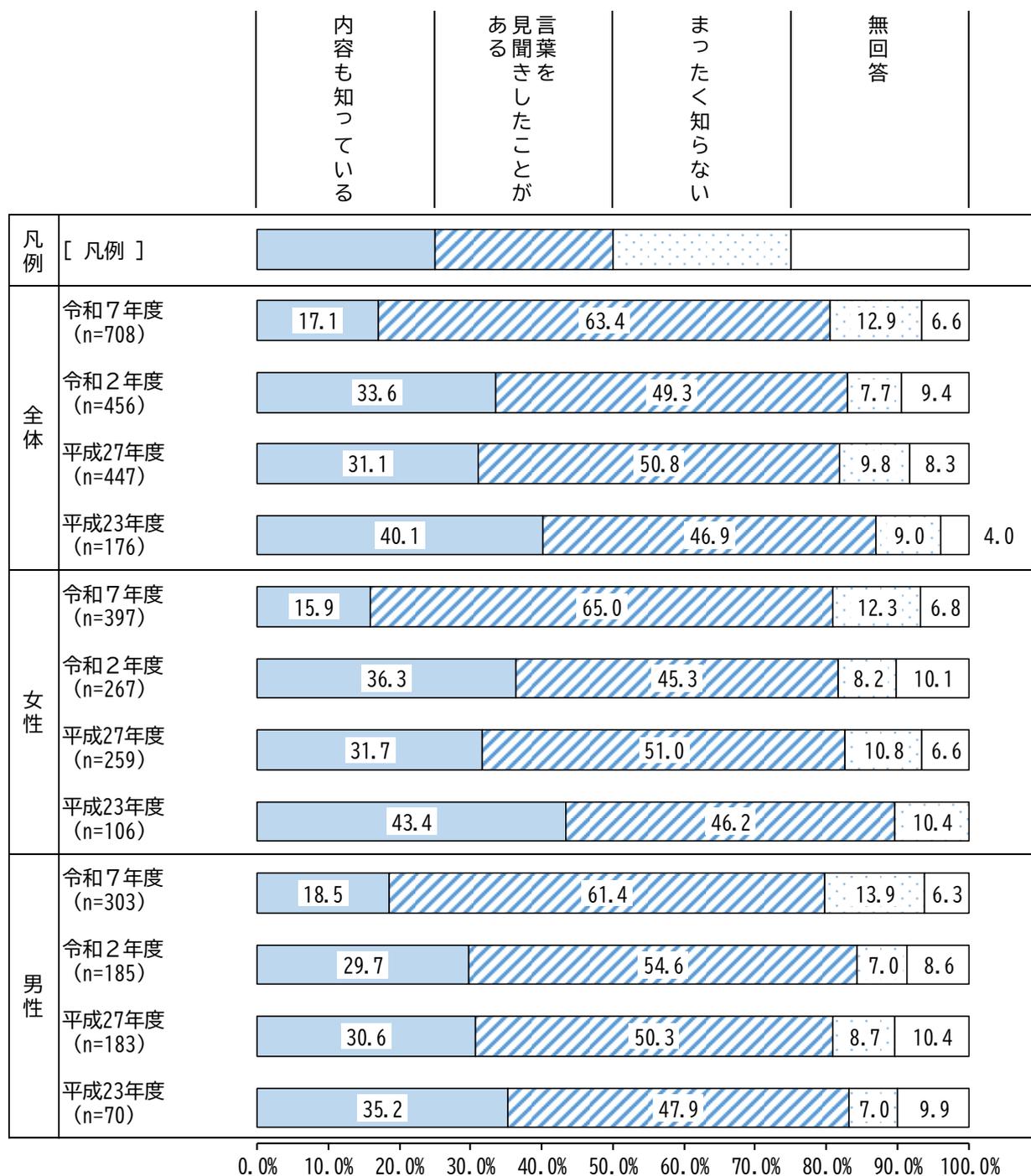
■過去調査との比較

【全体】

- 過去調査と比較すると、いずれの年度でも“認知度”は80%以上を占めていますが、「内容も知っている」が減少し、「言葉を見聞きしたことがある」が増加する傾向がみられます。

【性別】

- 男女とも、令和2年度までは「内容も知っている」が約30~40%となっていました。令和7年度の「内容も知っている」は女性15.9%・男性18.5%にとどまっています。



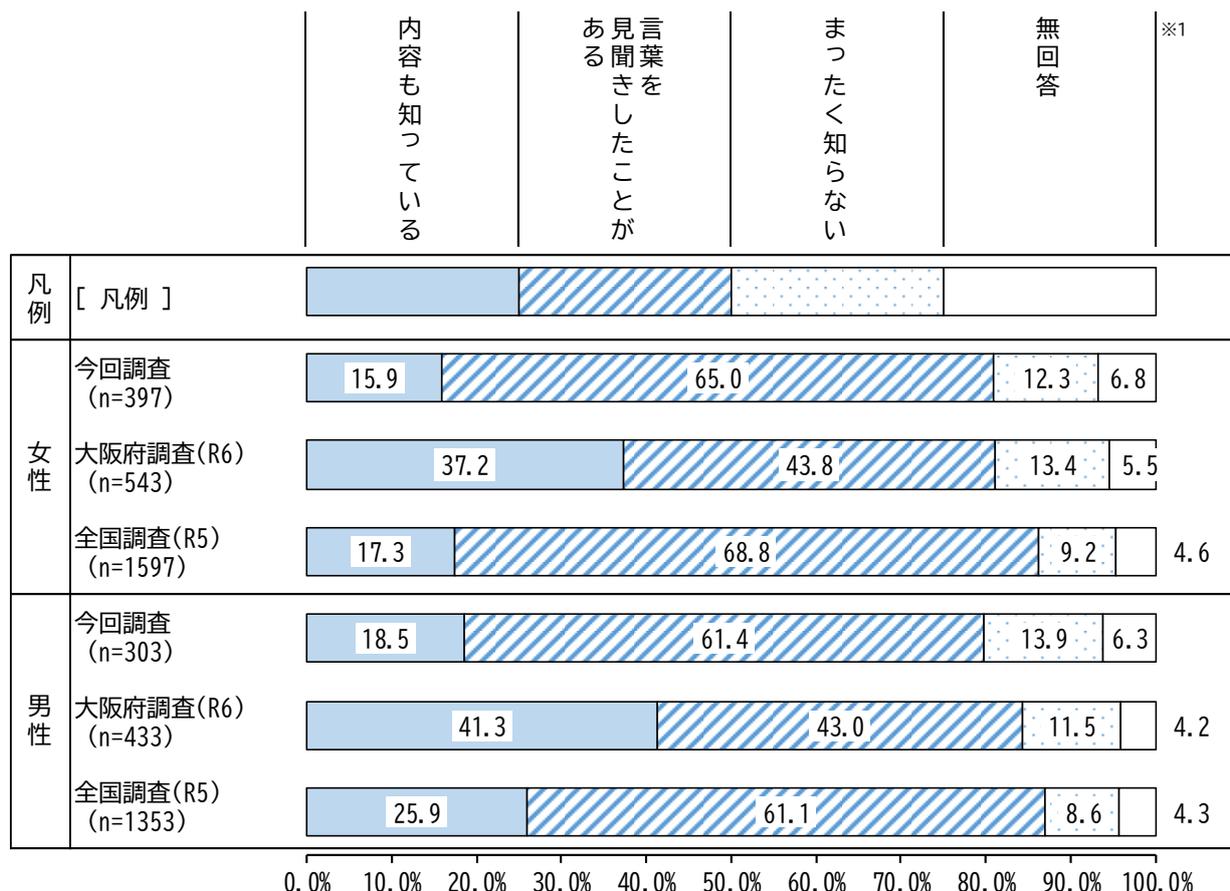
■大阪府調査・全国調査との比較

【大阪府調査】

- 大阪府調査と比較すると、女性では“認知度”に大阪府調査との違いはみられませんが、男性では大阪府調査よりやや“認知度”が低くなっています。
- 大阪府調査の「聞いたことはあるが内容は知らない」が女性 43.8%・男性 43.0%となっているのに対し、今回調査の「言葉を見聞きしたことがある」は女性 65.0%・男性 61.4%となっています。

【全国調査】

- 全国調査と比較すると、今回調査は男女とも“認知度”が低くなっています。全国調査の男性では「法律があることも、その内容も知っている」が25.9%となっていますが、今回調査の男性で「内容も知っている」は18.5%となっています。

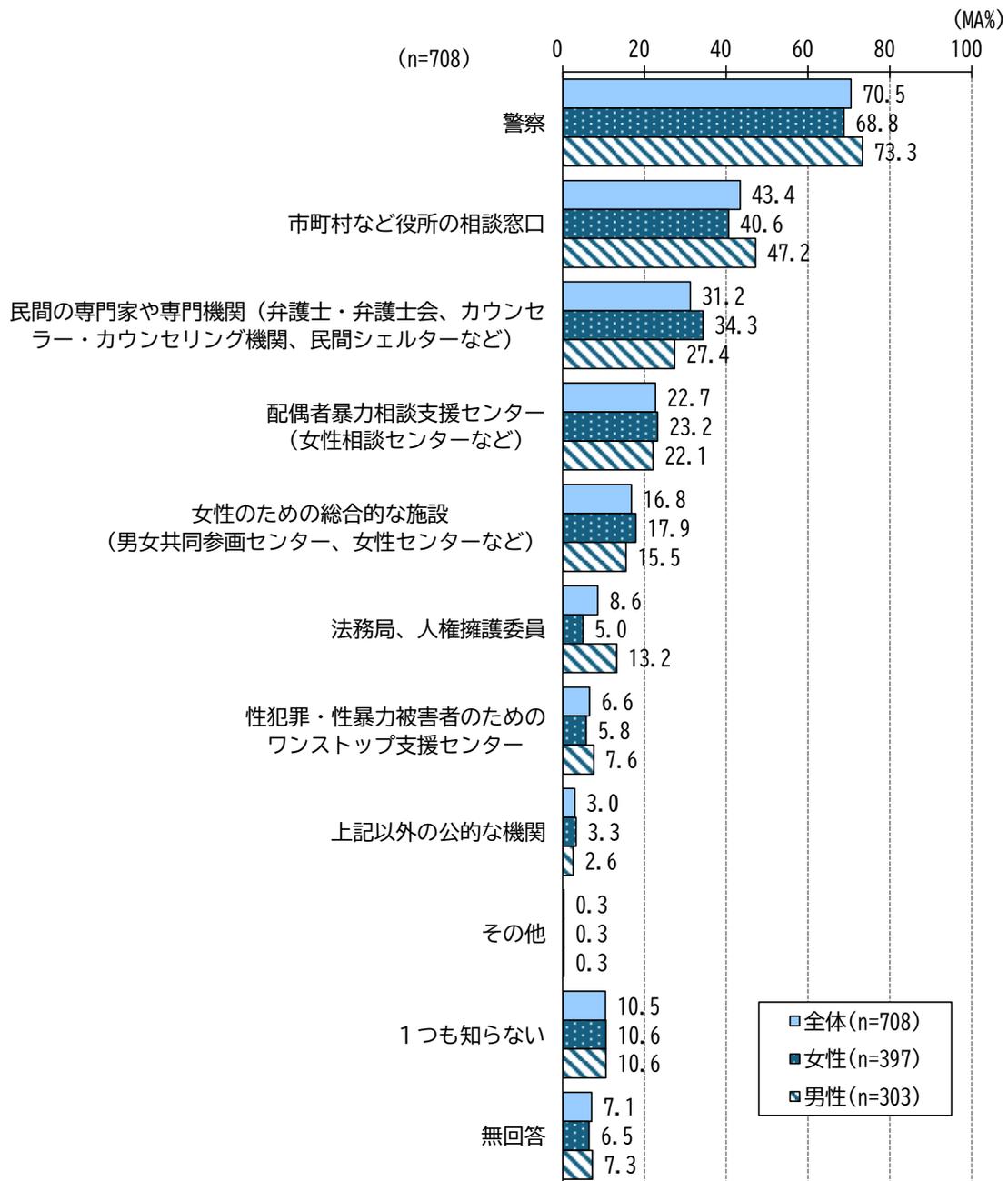


※1 大阪府調査の選択肢は「内容を知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」「聞いたことがなく内容を知らない」
 全国調査の選択肢は「法律があることも、その内容も知っている」「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」「法律があることを知らなかった」

問17 あなたは、DVや性暴力を受けた人や様々な困難を抱える女性が相談できる相談窓口としてどのようなものを知っていますか。(〇はいくつでも)

- 【全体】
- 相談窓口の認知度について、「警察」が70.5%で最も多く、次いで「市町村など役所の相談窓口」が43.4%、「民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）」が31.2%となっています。
- 【性別】
- 女性は男性と比べて、「民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）」が多くなっています。
 - 男性は女性と比べて、「市町村など役所の相談窓口」「法務局、人権擁護委員」が多くなっています。

【相談窓口の認知度(MA)】



	母数 (n)	相談窓口について(MA)											
		配偶者暴力相談支援センター (女性相談センターなど)	女性のための総合的な施設 (男女共同参画センター、 女性センターなど)	性犯罪・性暴力被害者のための ワンストップ支援センター	警察	法務局、 人権擁護委員	市町村など役所の相談窓口	上記以外の公的な機関	弁護士会、 弁護士・カウンセラー・ 民間シエルトターなど	民間の専門家や専門機関 (弁護士・カウンセラー・ 民間シエルトターなど)	その他	1つも知らない	無回答
全体	708	22.7	16.8	6.6	70.5	8.6	43.4	3.0	31.2	0.3	10.5	7.1	
性別×年齢	女性20歳代以下	20	20.0	15.0	5.0	△ 90.0	-	▼ 30.0	-	25.0	-	-	-
	女性30歳代	34	14.7	17.6	8.8	△ 85.3	2.9	41.2	-	32.4	-	2.9	-
	女性40歳代	45	△ 35.6	△ 31.1	11.1	△ 82.2	11.1	48.9	4.4	△ 42.2	2.2	4.4	-
	女性50歳代	71	16.9	14.1	2.8	78.9	2.8	47.9	2.8	△ 42.3	-	9.9	-
	女性60歳代	66	△ 33.3	18.2	6.1	71.2	4.5	45.5	4.5	△ 45.5	-	7.6	1.5
	女性70歳代以上	152	20.4	17.1	4.6	▼ 51.3	5.3	34.2	3.9	25.7	-	17.8	16.4
	男性20歳代以下	17	▼ 11.8	17.6	5.9	76.5	11.8	△ 64.7	△ 17.6	29.4	-	11.8	-
	男性30歳代	19	31.6	26.3	10.5	△ 84.2	10.5	47.4	-	▼ 21.1	-	5.3	-
	男性40歳代	35	△ 34.3	14.3	14.3	71.4	5.7	45.7	-	40.0	-	20.0	-
	男性50歳代	51	23.5	11.8	5.9	78.4	7.8	41.2	2.0	29.4	2.0	9.8	-
	男性60歳代	55	21.8	18.2	9.1	△ 83.6	△ 20.0	49.1	3.6	32.7	-	7.3	5.5
	男性70歳代以上	120	18.3	14.2	5.0	65.0	15.8	48.3	1.7	21.7	-	10.0	15.0

■過去調査との比較

【全体】

- 過去調査と比較すると、ほとんどの選択肢で増加傾向となっており、「警察」は平成 23 年度の 52.0%が令和 7 年度には 70.5%、「市町村など役所の相談窓口」は平成 23 年度の 26.0%が令和 7 年度には 43.4%などとなっています。

【性別】

- 「警察」「市町村など役所の相談窓口」は男性のほうが割合が多い傾向にありますが、令和 2 年度に比べるとその差は小さくなっています。

単位：%

		母数 (n)	相談窓口について(MA)										
			(配偶者暴力相談センターなど) 女性 センターなど)	(女性のための総合的な施設 男女共同参画センター、 女性セクターなど)	性犯罪・性暴力被害者のための ワンストップ支援センター※ ¹	警察	法務局、 人権擁護委員	市町村など役所の相談窓口	上記以外の公的な機関	弁護士会、 民間の専門家や専門機関 (弁護士・カウンセラー・ カウンセラー・民間シエ ルターなど)	その他	1つも知らない	無回答
全体	令和7年度	708	22.7	16.8	6.6	70.5	8.6	43.4	3.0	31.2	0.3	10.5	7.1
	令和2年度 ※2	456	20.6	15.8		67.1	9.9	39.9	2.4	28.5	0.4	10.3	12.7
	平成27年度	447	14.1	11.9		60.6	6.3	30.4	1.8	25.3	0.9	14.5	13.6
	平成23年度	177	18.6	12.4		52.0	6.2	26.0	1.1	18.6	-	15.8	15.8
女性	令和7年度	397	23.2	17.9	5.8	68.8	5.0	40.6	3.3	34.3	0.3	10.6	6.5
	令和2年度	267	19.5	16.5		63.3	6.0	35.6	1.5	29.2	0.4	12.7	13.1
	平成27年度	259	14.3	14.3		54.8	3.9	26.3	1.2	27.0	1.5	17.8	13.1
	平成23年度	106	19.8	16.0		47.2	3.8	26.4	-	18.9	-	16.0	15.1
男性	令和7年度	303	22.1	15.5	7.6	73.3	13.2	47.2	2.6	27.4	0.3	10.6	7.3
	令和2年度	185	21.1	14.6		73.5	15.1	46.5	3.8	27.0	0.5	7.0	12.4
	平成27年度	183	14.2	8.7		68.3	9.8	36.1	2.2	22.4	-	10.4	14.2
	平成23年度	71	16.9	7.0		59.2	9.9	25.4	2.8	18.3	-	15.5	16.9

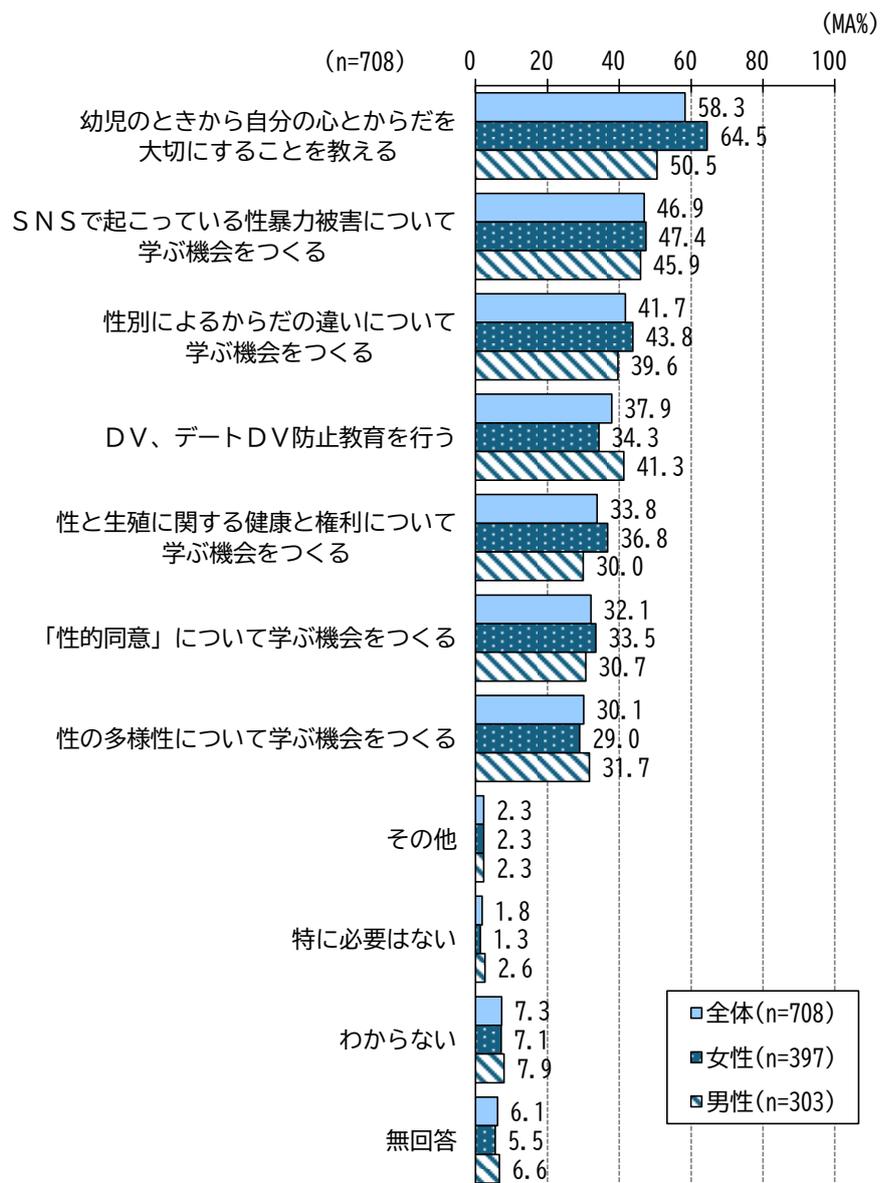
※1 今回調査のみの項目

※2 過去調査の設問は「あなたは、交際相手や配偶者等からの暴力について、相談窓口としてどのようなものを知っていますか」

問18 あなたは、暴力やハラスメントを未然に防ぐために、子どものときから学校や家庭でどのようなことを行うことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 【全体】
- 暴力やハラスメントを防ぐために必要なことについて、「幼児のときから自分の心とからだを大切にすることを教える」が58.3%で最も多く、次いで「SNSで起こっている性暴力被害について学ぶ機会をつくる」が46.9%、「性別によるからだの違いについて学ぶ機会をつくる」が41.7%となっています。
- 【性別】
- 女性は男性と比べて、「幼児のときから自分の心とからだを大切にすることを教える」「性と生殖に関する健康と権利について学ぶ機会をつくる」が多くなっています。
 - 男性は女性と比べて、「DV、デートDV防止教育を行う」が多くなっています。

【暴力やハラスメントを防ぐために必要なこと(MA)】



		母数 (n)	暴力やハラスメントを防ぐために必要なこと(MA)													
			大切な心のことを教える	幼児のときから	学ぶ機会をつくる	違いによるからだの	性別によるからだの	DV、デートDV防止教育を行う	「性的同意」について学ぶ機会をつくる	「権利について学ぶ機会をつくる	性と生殖に関する健康と権利について学ぶ機会をつくる	性の多様性について学ぶ機会をつくる	SNSで起こっている性暴力被害について学ぶ機会をつくる	その他	特に必要はない	わからない
全体		708	58.3	41.7	37.9	32.1	33.8	30.1	46.9	2.3	1.8	7.3	6.1			
性別×年齢	女性20歳代以下	20	△ 70.0	△ 60.0	40.0	△ 55.0	▼ 20.0	▼ 20.0	△ 60.0	-	-	-	-			
	女性30歳代	34	△ 73.5	41.2	35.3	△ 47.1	41.2	29.4	△ 58.8	-	-	2.9	-			
	女性40歳代	45	△ 75.6	△ 57.8	46.7	△ 53.3	40.0	△ 51.1	△ 64.4	4.4	2.2	-	-			
	女性50歳代	71	64.8	47.9	△ 49.3	39.4	40.8	35.2	△ 60.6	5.6	-	8.5	-			
	女性60歳代	66	66.7	33.3	37.9	25.8	34.8	25.8	50.0	3.0	-	7.6	-			
	女性70歳代以上	152	55.9	39.5	▼ 20.4	▼ 21.7	34.9	20.4	▼ 29.6	0.7	2.6	10.5	14.5			
	男性20歳代以下	17	△ 76.5	△ 70.6	41.2	△ 52.9	41.2	△ 41.2	△ 64.7	11.8	-	-	-			
	男性30歳代	19	△ 78.9	42.1	△ 52.6	△ 47.4	26.3	△ 42.1	△ 57.9	5.3	-	-	-			
	男性40歳代	35	▼ 42.9	▼ 28.6	42.9	37.1	▼ 22.9	28.6	54.3	5.7	2.9	8.6	-			
	男性50歳代	51	51.0	41.2	45.1	37.3	33.3	△ 41.2	54.9	-	3.9	9.8	-			
	男性60歳代	55	49.1	40.0	△ 49.1	29.1	27.3	36.4	43.6	1.8	1.8	9.1	5.5			
	男性70歳代以上	120	▼ 45.0	37.5	33.3	▼ 19.2	30.8	23.3	▼ 35.0	0.8	2.5	9.2	13.3			

問19 あなたは、DVや性暴力の被害や、様々な困難を抱える女性が悩みを相談できる窓口などで特に配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

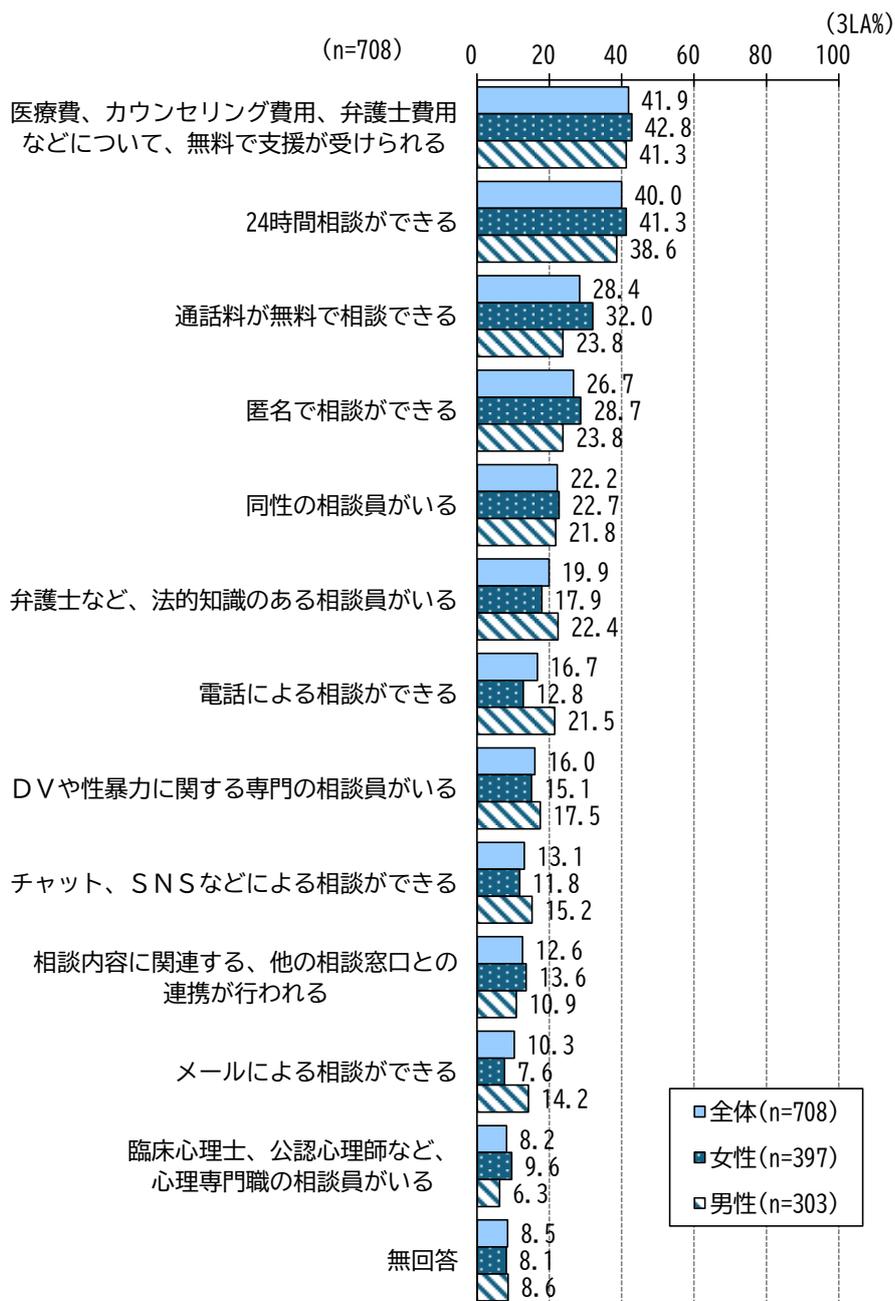
【全体】

- 窓口で特に配慮してほしいことについて、「医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる」が41.9%で最も多く、次いで「24時間相談ができる」が40.0%、「通話料が無料で相談できる」が28.4%となっています。

【性別】

- 女性は男性と比べて、「通話料が無料で相談できる」が多くなっています。
- 男性は女性と比べて、「電話による相談ができる」「メールによる相談ができる」が多くなっています。

【窓口で特に配慮してほしいこと(3LA)】



	母数 (n)	窓口で特に配慮してほしいこと(3LA)													
		メールによる相談ができる	チャット、SNSなどによる相談ができる	電話による相談ができる	通話料が無料で相談できる	24時間相談ができる	弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる	医療費、カウンセリング費用、連携が行われる	他の相談窓口との	相談内容に関連する、	同性の相談員がいる	匿名で相談ができる	弁護士など、法的知識のある相談員がいる	臨床心理士、公認心理師など、心理専門職の相談員がいる	DVや性暴力に関する専門の相談員がいる
全体	708	10.3	13.1	16.7	28.4	40.0	41.9	12.6	22.2	26.7	19.9	8.2	16.0	8.5	
性別×年齢	女性20歳代以下	20	10.0	△ 45.0	15.0	20.0	▼ 30.0	50.0	10.0	25.0	35.0	10.0	10.0	10.0	-
	女性30歳代	34	17.6	△ 32.4	8.8	29.4	41.2	38.2	2.9	29.4	29.4	23.5	11.8	▼ 5.9	2.9
	女性40歳代	45	6.7	△ 24.4	8.9	24.4	37.8	△ 53.3	△ 24.4	22.2	△ 44.4	22.2	11.1	13.3	-
	女性50歳代	71	8.5	12.7	12.7	29.6	△ 60.6	△ 52.1	14.1	21.1	29.6	23.9	1.4	14.1	2.8
	女性60歳代	66	15.2	6.1	▼ 4.5	36.4	△ 54.5	42.4	18.2	19.7	31.8	15.2	13.6	22.7	-
	女性70歳代以上	152	2.0	▼ 0.7	19.1	35.5	▼ 27.6	36.8	9.9	21.7	21.1	14.5	10.5	15.8	19.1
	男性20歳代以下	17	11.8	△ 29.4	△ 29.4	29.4	△ 52.9	41.2	5.9	△ 35.3	35.3	23.5	5.9	-	-
	男性30歳代	19	15.8	△ 26.3	26.3	31.6	△ 52.6	42.1	△ 26.3	15.8	△ 36.8	10.5	-	▼ 5.3	-
	男性40歳代	35	20.0	△ 25.7	8.6	37.1	45.7	▼ 31.4	2.9	25.7	34.3	20.0	8.6	8.6	5.7
	男性50歳代	51	15.7	△ 25.5	11.8	▼ 17.6	39.2	37.3	7.8	31.4	31.4	25.5	7.8	21.6	-
	男性60歳代	55	△ 21.8	20.0	18.2	21.8	32.7	50.9	14.5	12.7	▼ 14.5	23.6	7.3	20.0	10.9
男性70歳代以上	120	8.3	▼ 0.8	△ 29.2	21.7	34.2	42.5	10.8	20.0	17.5	22.5	5.8	22.5	14.2	

6 泉大津市の取組について

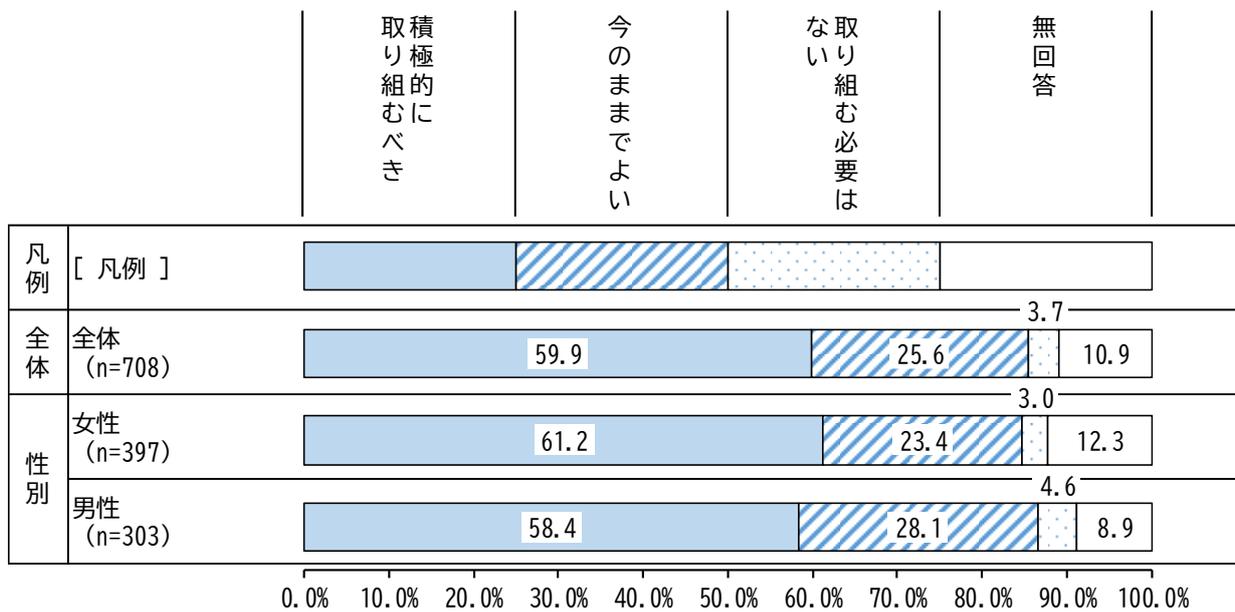
問20 あなたは次のような取組について、泉大津市にどのような期待をしていますか。

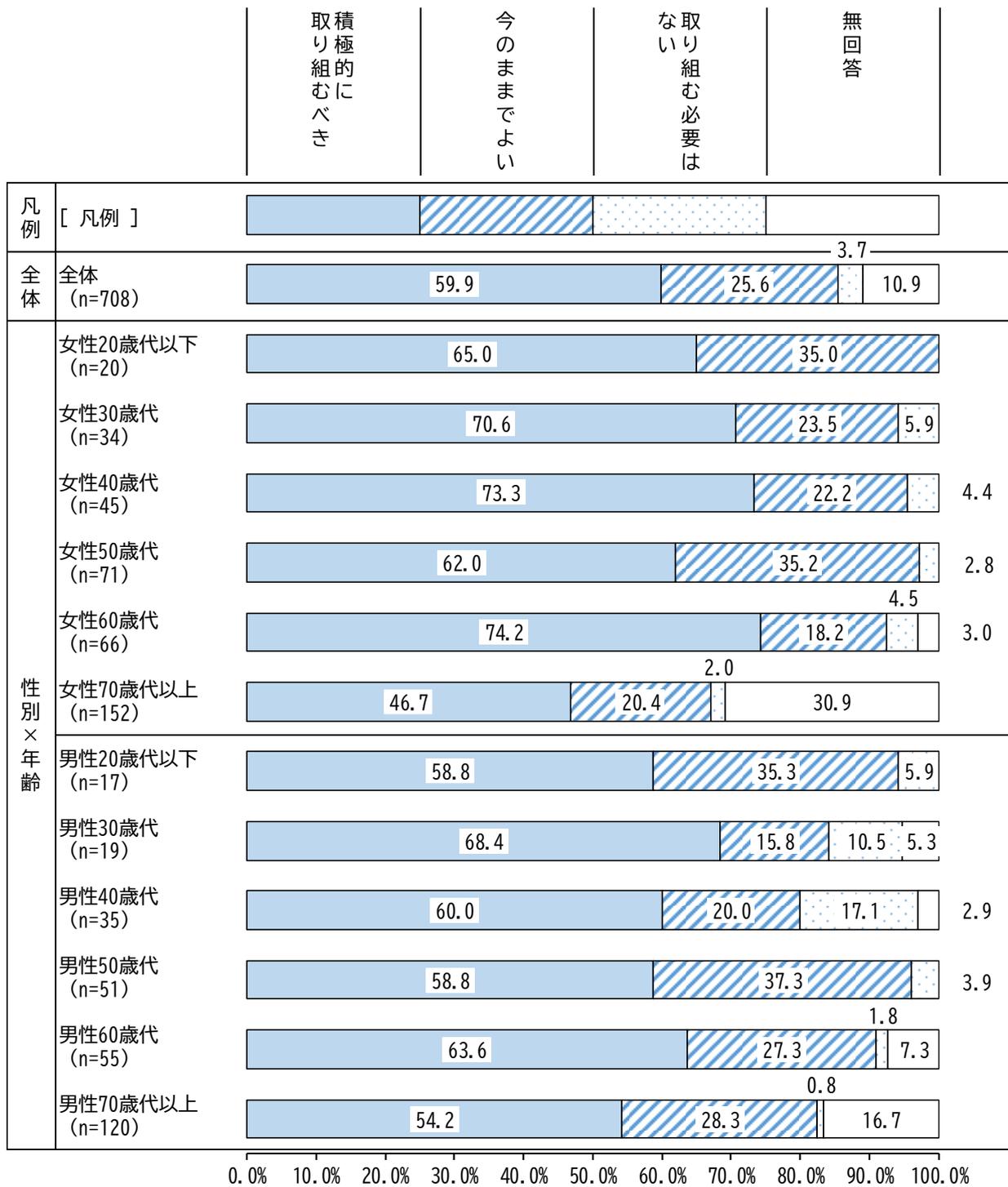
①～④までそれぞれについてお答えください。(各項目でそれぞれ○は1つ)

①性別に基づく無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に気づき、性別による不平等を解消するための取組

<p>【全体】 ○ 「積極的に取り組むべき」が 59.9%で最も多く、次いで「今のままでよい」が 25.6%、「取り組む必要はない」が 3.7%となっています。</p> <p>【性別】 ○ 男女とも「積極的に取り組むべき」が約 60%となっています。</p>

【①性別に基づく無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に気づき、性別による不平等を解消するための取組】



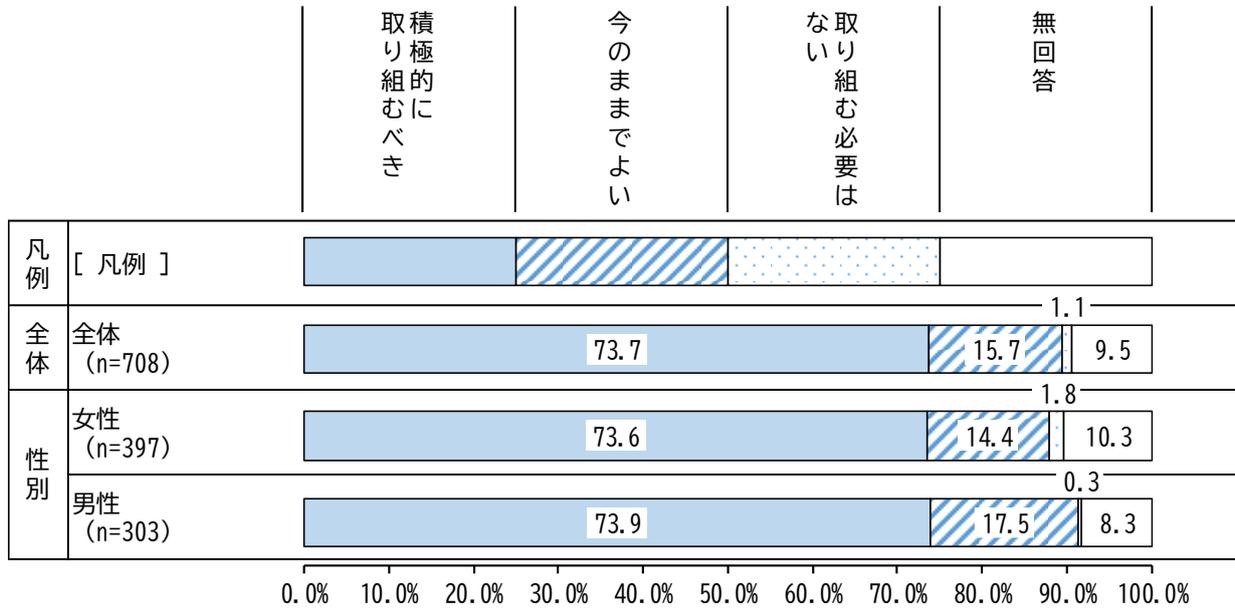


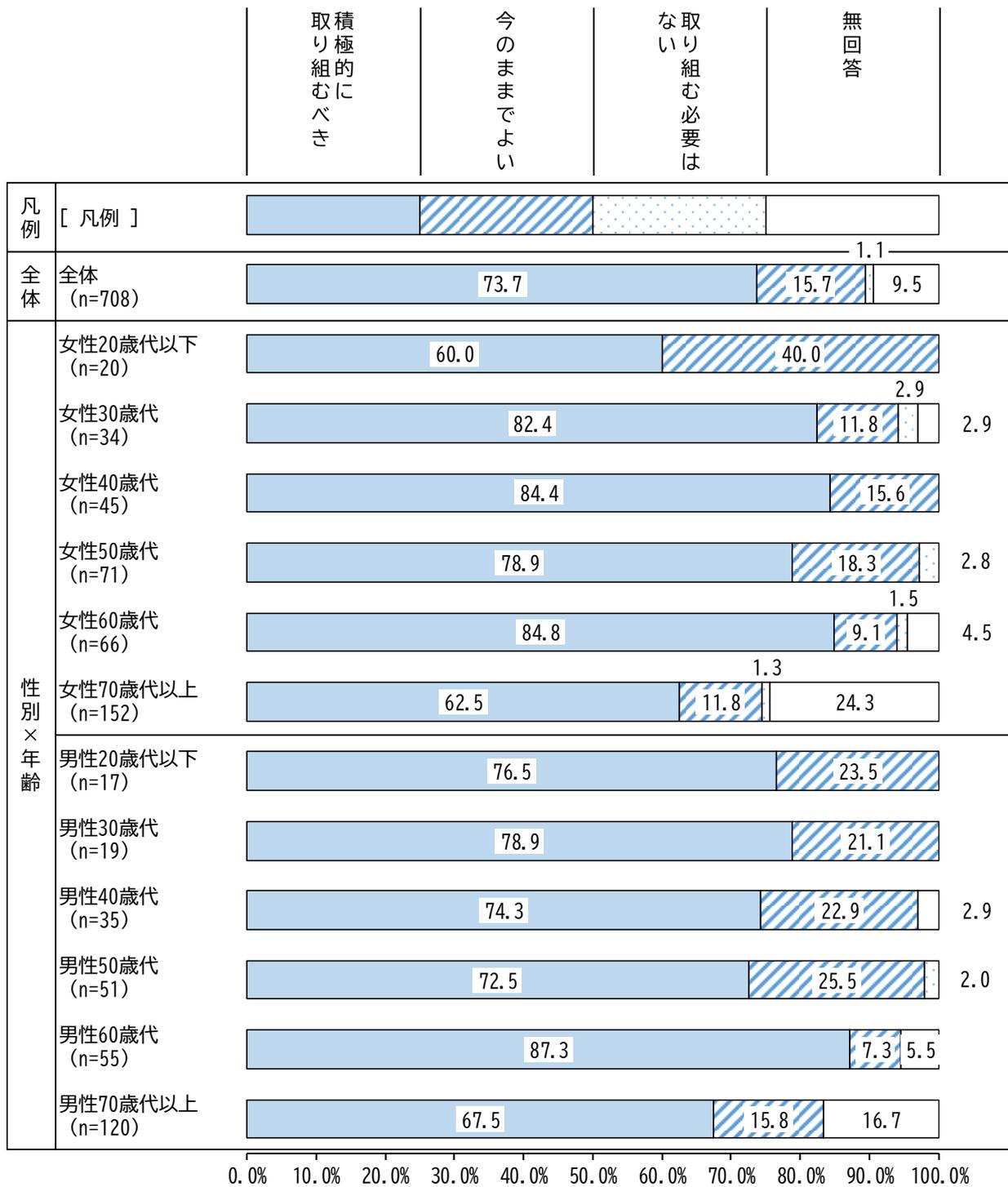
②ドメスティック・バイオレンス（DV）をなくし、被害を受けた人を支援する取組

【全体】
 ○ 「積極的に取り組むべき」が73.7%で最も多く、次いで「今のままでよい」が15.7%、「取り組む必要はない」が1.1%となっています。

【性別】
 ○ 男女とも「積極的に取り組むべき」が約70%となっています。

【②ドメスティック・バイオレンス（DV）をなくし、被害を受けた人を支援する取組】



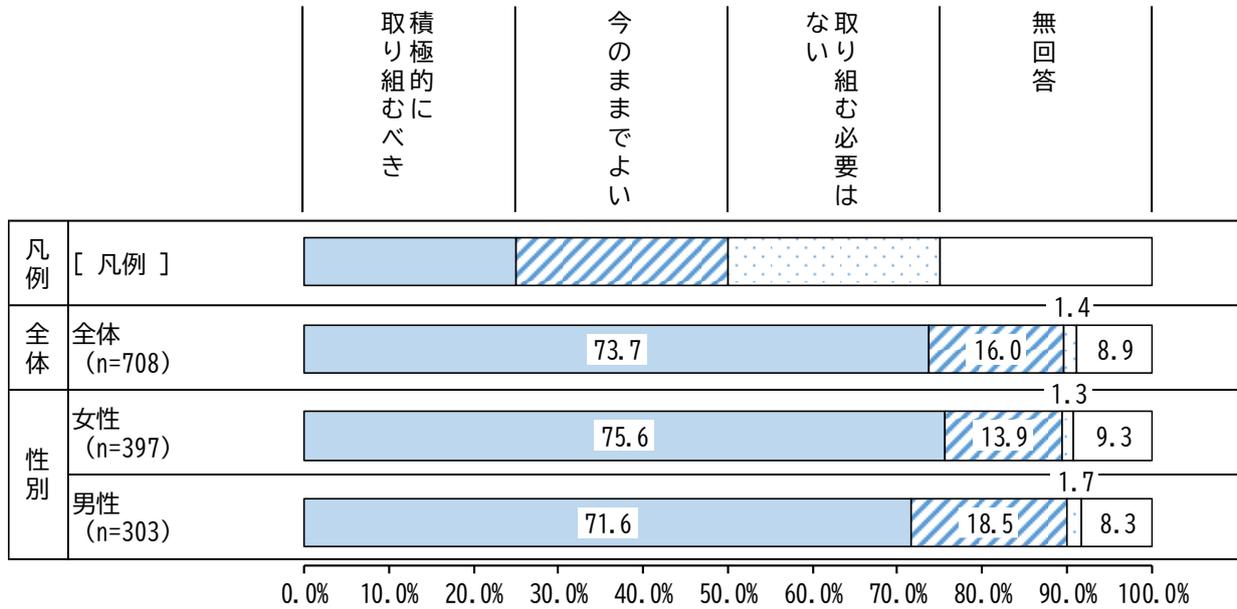


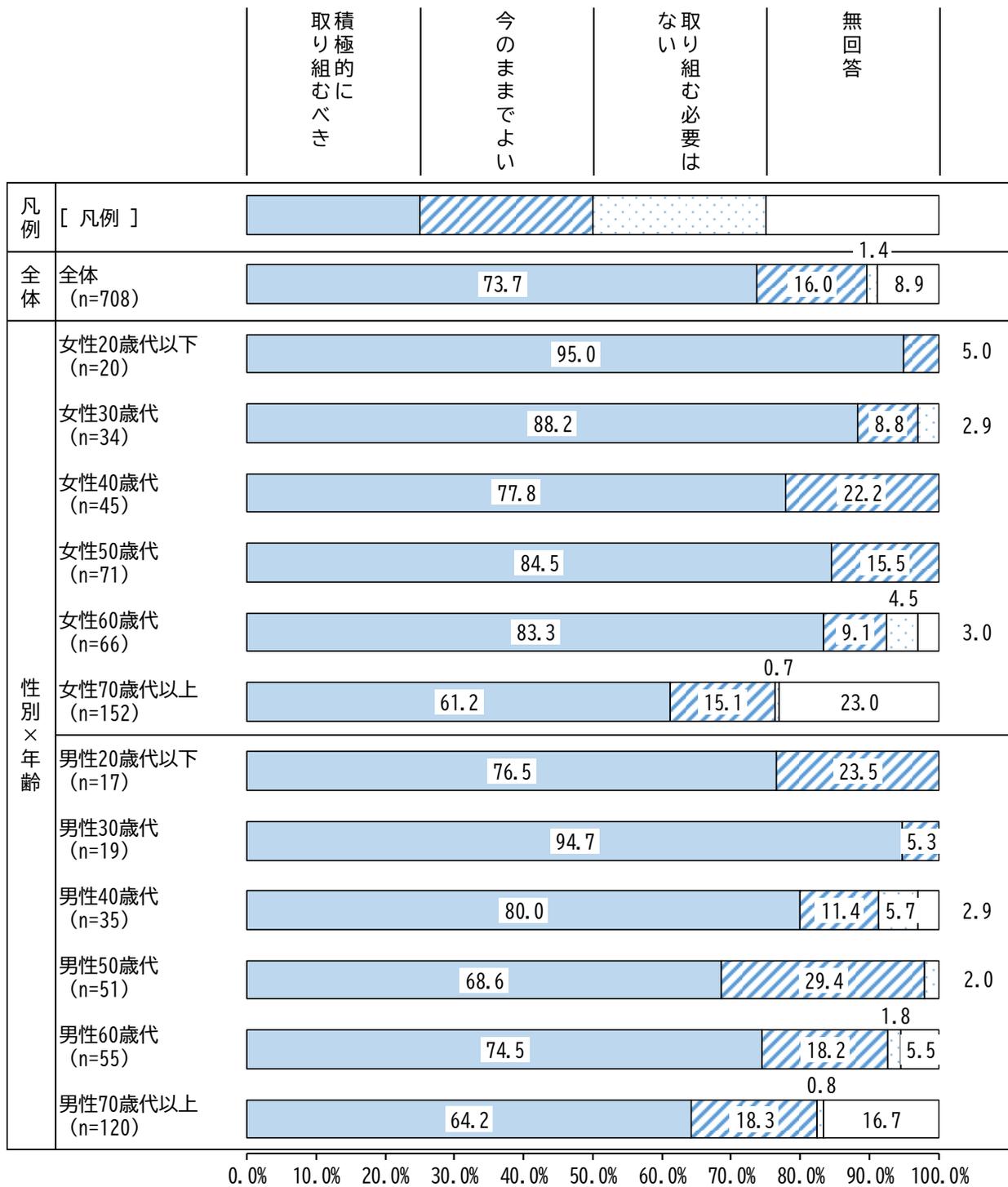
③だれもがワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現できるための取組

【全体】
 ○ 「積極的に取り組むべき」が73.7%で最も多く、次いで「今のままでよい」が16.0%、「取り組む必要はない」が1.4%となっています。

【性別】
 ○ 男女とも「積極的に取り組むべき」が70%台となっています。

【③だれもがワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現できるための取組】



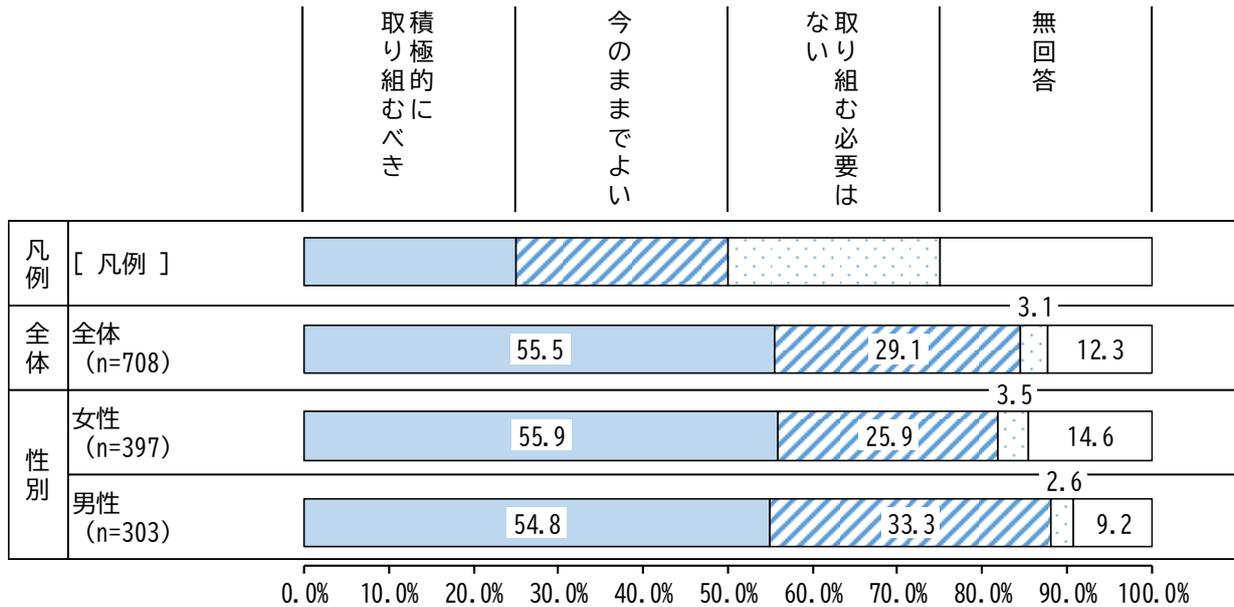


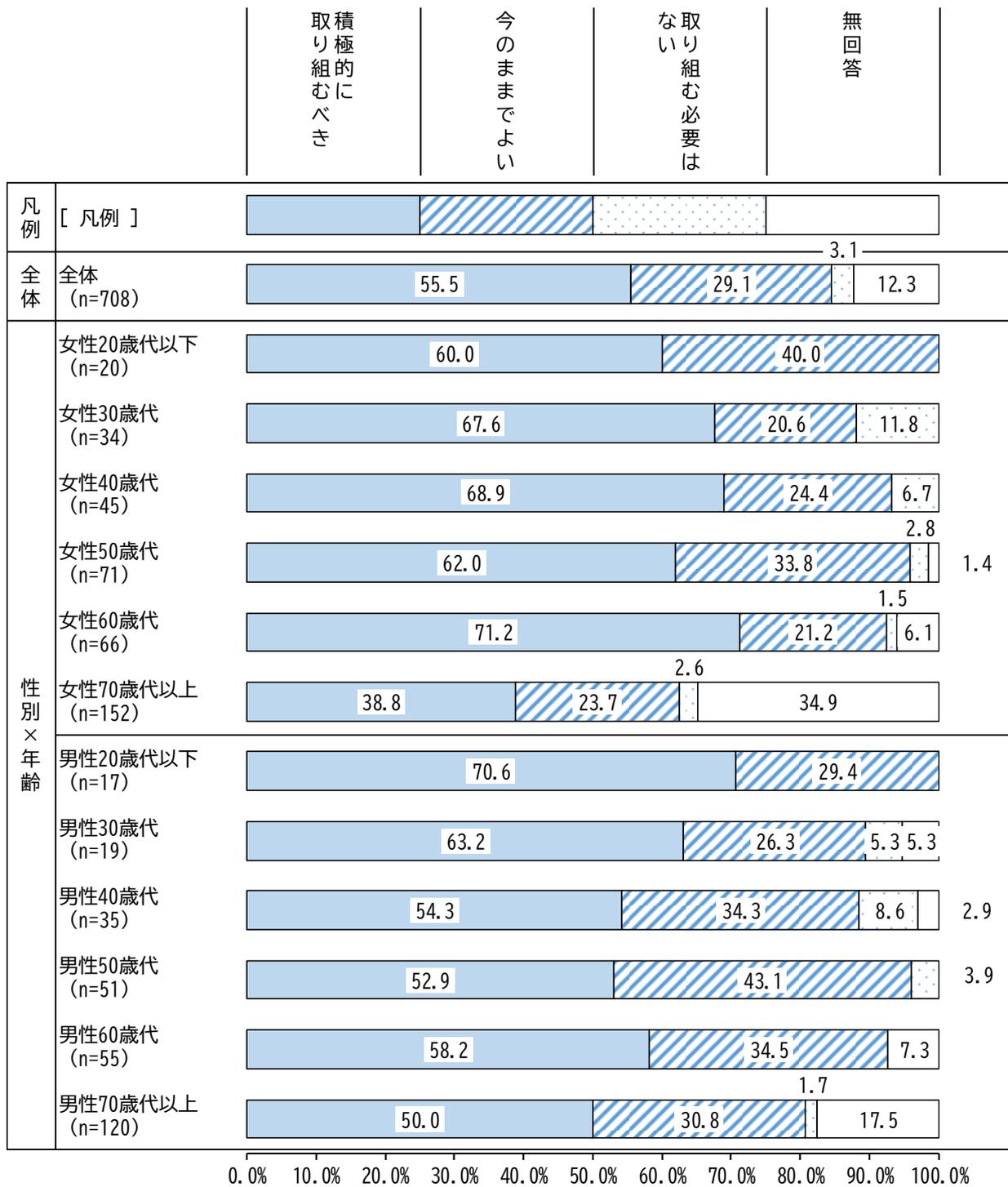
④セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の理解と浸透をうながす取組

【全体】
 ○ 「積極的に取り組むべき」が 55.5%で最も多く、次いで「今のままでよい」が 29.1%、「取り組む必要はない」が 3.1%となっています。

【性別】
 ○ 男性では、「今のままでよい」が 33.3%で、女性の 25.9%より 7.4 ポイント多くなっています。

【④セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の理解と浸透をうながす取組】





泉大津市が今後、男女共同参画をすすめる上で、ご意見ご希望がありましたら、ご自由にお書きください。

内容	件数
ジェンダー平等に関する知識・理解を深める機会を増やす、学校現場における教育を進める	8件
高齢者にもわかりやすくしてほしい	8件
職場での男女格差をなくす	6件
賃金を上げる、経済的支援を行うことで生活にゆとりができる	6件
相談窓口の周知、気軽に相談できる場を増やす	5件
女性や子どもへの過度な配慮をしない	4件
復職しやすい職場環境の整備	3件
就労支援	3件
リフレッシュできる場所をつくる	2件
アンケートに関するご意見	17件
泉大津市に対するご意見	36件
その他	6件
特になし	4件